全国中学校バドミントン大会

開催40周年記念誌

日本中学校体育連盟バドミントン競技部

全国中学校バドミントン大会　スナップ写真



81 年四條畷学園女子団体初優勝
新木貴子（女子最多の５回 V）



86 年宮村愛子優勝



86 年水井妃佐子３位



90 年香川第一優勝写真　吉川大介
（埼玉栄５回男子最多優勝に続く、４回 V）



88 年聖ウルスラ学院。団体初優勝　集合写真
（四条畷学園同様、女子最多の５回 V）

写真提供 /（C）バドミントン・マガジン



93 年舛田圭太シングルス３位
（その後、総合５回優勝で歴代連覇記録樹立）
（当時、優勝は大束忠司）



97 年佐藤翔治シングルス優勝



98 年潮田玲子シングルス優勝



06 年松友美佐紀シングルス優勝

写真提供 /（C）バドミントン・マガジン

目　次

40回大会を迎えて　財団法人日本中学校体育連盟バドミントン競技部　競技部長　小野　理 ……1
ご祝辞……財団法人日本中学校体育連盟　会長　新藤　久典 ……2
ご祝辞……財団法人日本バドミントン協会　会長　綿貫　民輔 ……3
「黎明期」を振り返って
… 初代　全国中体連バドミントン専門部委員長　(埼玉栄高等学校バドミントン部 監督)　加藤　勝 ……4
全国中体連専門部から日本中体連競技部へ ……前競技部長　佐伯　一之 ……7
40年の歩み …… 財団法人日本中学校体育連盟バドミントン競技部　競技部長　小野　理 ……8

北海道ブロック …… 13
北海道ブロックのあゆみ ……元北海道ブロック長　札幌市立栄町中学校　小林　純恵 … 14
さらなる発展と充実を ……元北海道ブロック長　西村　幸衛 … 16
「雑感」……元北海道ブロック長　杉田　茂良 … 17
夢を追い求めて ……中村　光生 … 18
全国中学校バドミントン大会を振り返って ……中山智香子 … 19

東北ブロック …… 21
東北ブロックバドミントン専門部の歩み ……東北ブロック長　小野寺浩二 … 22
県大会の歴史とバドミントン専門部の歩み
…… 青森県中学校体育連盟 バドミントン専門部委員長　弘前市立東中学校　丹代　嘉親 … 24
岩手県中体連バドミントン専門部の歩み ……専門委員長　小野寺浩二 … 26
宮城県中体連の歩み（2000 ～ 2010）……宮城県専門部委員長　三塚　千尋 … 28
秋田県バドミントン専門部の歩み ……秋田県中体連バドミントン専門部委員長　佐々木紀子 … 30
山形県中体連バドミントン専門部の歩み ……専門委員長　那須　勲 … 32
バドミントンとの出会い及び福島県の歴史
……福島県中体連バドミントン専門部委員長　高橋　哲郎 … 34
全国中学校バドミントン大会雑感 ……元東北ブロック専門委員長　荒井　恒明 … 36
ブロック長をつとめた四年間
……青森県中体連バドミントン専門部　弘前市立第一中学校　太田　英也 … 37
全国中学校大会を振り返って
……聖ウルスラ学院英智中学校　バドミントン部　監督　常田　貴裕 … 38
私の人生を変えてくれた大会、そして恩師 ……青森県　米谷真智子 … 39

関東ブロック …… 41
41回目の関東大会……関東中学校体育連盟バドミントン専門部　専門部委員長　小野　理 … 42
茨城県中体連バドミントン専門部のあゆみ ……委員長　小島　剛 … 44

栃木県中学校専門部の歩み～創設から現在～
……栃木県中体連バドミントン専門部競技委員長　横塚　一弘 … 46
群馬県中体連バドミントン部の31年
……平成21年度群馬県中体連バドミントン部委員長（伊勢崎市立第三中学校）　大塚　弘之 … 48
埼玉県中体連バドミントン専門部の歩み　埼玉県中学校体育連盟バドミントン専門部　成田　進 … 50
37回目の千葉県中学生大会
……千葉県小中学校体育連盟バドミントン専門部　専門部委員長　小野　理 … 52
都中体連バドミントン部のあゆみ ……東京都専門部委員長　島　朝樹 … 54
伝統！神奈川県中体連バドミントン専門部
……神奈川県中学校体育連盟バドミントン専門委員長　川崎市立西中原中学校　穂坂　久夫 … 56
山梨県小中体連バドミントン専門部のあゆみ
……山梨県小中学校体育連盟バドミントン専門部委員長　井田　正則 … 58
明野中学校7年間の想い出 ……つくば国際大学　小島　一夫 … 60
第25回全国大会開催の思い出
……神奈川県中学校体育連盟元専門部長　川崎市立渡田中学校　総括教諭　松尾　豊 … 61
全国中学校バドミントン大会の思い出 ……埼玉栄中学校バドミントン部監督　名倉　康弘 … 62
私を成長させてくれた全国中学校大会
……(株) ダイドードリンコ所属　(財) 日本バドミントン協会　ナショナル部コーチ　米倉加奈子 … 63

北信越ブロック …… 65

北信越中体連ブロックのあゆみと展望 ……北信越中体連ブロック長　前田　宏治 … 66
長野県中学校体育連盟バドミントン専門部の歩み
…長野県中学校体育連盟バドミントン専門部専門委員長　長野市立北部中学校　飯森　己由 … 68
新潟県中体連バドミントン競技専門部のあゆみ
……新潟県中体連バドミントン専門部部長　中沢　淳 … 70
富山県中体連バドミントン競技専門部のあゆみ
……富山県中体連バドミントン競技専門部　副部長　片山　幸男 … 72
石川県中体連バドミントン競技部のあゆみ
……石川県中体連バドミントン競技部　専門委員長　宮前　仁 … 74
福井県中体連バドミントン競技専門部のあゆみ
……福井県中体連バドミントン競技専門部　副部長　前田　宏治 … 76
専門委員長を振り返って
…… 平成15・16年度　北信越中学校体育連盟バドミントン競技部　専門委員長
平成14～20年度　石川県中学校体育連盟バドミントン競技部　専門委員長
石川県白山市立松任中学校　石田　浩幸 … 78
全　中　ベスト8 ……長野県　南木曽中学校　外部コーチ　田口　辰徳 … 79
第29回福井大会の思い出 ……福井県中学校体育連盟　理事長　小林　孝史 … 80
全中大会は、小・中・高一貫指導の登龍門 ……福井県　上田　健吾 … 81

東海ブロック …… 83

東海ブロックのあゆみ ……東海ブロック長　坂野　和久 … 84
静岡県中体連バドミントン競技の歴史 ……静岡県専門部委員長　深澤　　聡 … 86
岐阜のあゆみ40周年 ……岐阜県専門部委員長　白藤　逸利 … 88
愛知のあゆみ40周年 ……愛知県専門部委員長　坂野　和久 … 90
日頃のご指導と熱意に感謝を・・ ……三重県専門委員　福井　義淳 … 92
『生徒のエネルギーが感動のフィナーレへ！』……元東海ブロック長　飯村　順一 … 94
自分を変えた全国大会 ……富士宮市立富士宮第四中学校　河合　俊弥 … 95
バドミントンとの繋がり ……名古屋経済大学市邨高等学校　稲垣　翔吾 … 96
岐阜県開催全国中学校体育大会 ……岐阜市立岐北中学校　加納　張巨 … 97

近畿ブロック …… 99

近畿ブロックの歩み（近畿大会の記録） ……近畿ブロック長　水野　洋一 …100
近畿勢の活躍 ……元近畿ブロック長　今荘　　茂 …102
京都府中学校体育連盟バドミントン専門部 ……京都府専門部委員長　水野　洋一 …104
大阪中体連バドミントン部の歩み ……大阪中体連バドミントン部　専門委員長　東條　安彦 …106
兵庫県大会の歴史や中体連バドミントン専門部の歩み ……神戸市立楠中学校　中原　幸人 …108
奈良県中体連バドミントン部の歩み ……葛城市立白鳳中学校　山田　雅三 …110
和歌山県中学校体育連盟専門部の始まり
……和歌山県中学校体育連盟バドミントン競技部専門委員長
和歌山県有田郡湯浅町立湯浅中学校教諭　三原　清和 …112
全国大会に第1回から参加して
…… 元大阪府守口市、交野市等教員、校長　京都府宇治市バドミントン協会副会長　水井　良平 …114
一流選手は、プレー以外も当然一流
……京都府バドミントン協会強化委員　京都府職員　杉本　吉男 …115
全国2連覇を達成　中学生の皆さんへ　－夢を叶える為に、努力を惜しまないで－
…… 1977年世界選手権優勝、全英オープン優勝　1975年、76年全日本総合優勝
現在　ミズノ株式会社：所属　植野恵美子 …116

中国ブロック ……117

築き、受け継がれる伝統《中国ブロック》
……中国ブロック長　岡山県中体連バドミントン部理事長　中須賀祥雅 …118
鳥取県中体連バドミントン専門部のあゆみ
……鳥取県中学校体育連盟　バドミントン専門部委員長　福生中学校　田貝太樹也 …120
～全国大会への道のり～ ……島根県バドミントン専門委員長　野津　　弘 …122
専門部のあゆみ
……岡山県中学校体育連盟　バドミントン専門部理事長　岡山市立上道中学校　中須賀祥雅 …124
広島県中体連バドミントンのあゆみ ……広島県専門委員長　樽本　裕二 …126
専門部の歩み ……山口県中学校体育連盟　バドミントン専門部委員長　加藤　高広 …128

全国大会を振り返って ……倉敷市立連島中学校　畑　健二 …130
全中を目指して～多くの出会いに感謝～ ……山口県山口市立平川中学校　野村　義徳 …131
2001年（広島）全国中学校バドミントン大会を振り返って
……広島市中学校バドミントン専門委員会　川上　満彦 …132
全国中学校バドミントン大会の想い出 ……島根県松徳学院中学校　富山　敦司 …133

四国ブロック ……135

四国ブロックのあゆみ ……四国ブロック長　高知市立南海中学校　永原　潤一 …136
徳島県中学校体育連盟バドミントン専門部の歩み ……八万中学校教諭　大阪真智子 …138
香川県大会の歴史や中体連バドミントン専門部の歩み
……香川県中体連バドミントン専門部長　地下　雄二 …140
高知県中体連バドミントン専門部の歩み
……高知県中連盟バドミントン専門部長　高知市立南海中学校　永原　潤一 …142
『世界に翔ばたく選手の育成』を合言葉に！
……愛媛県中体連バドミントン専門部　委員長　坂本　利夫 …144
「夢求め！四国で輝く風となれ！」徳島大会
……元四国ブロック長　元徳島県専門部委員長　生田　泰之 …146
全中男子シングルス　優勝へのチャレンジ2002年早崎修平選手のピリオダイゼーション
……愛媛県新居浜市立中萩中学校　西原　隆 …147
第33回北海道旭川大会 ……高知県立高知南中学校　岡村　力 …148
団体女子初優勝男子準優勝アベック優勝逃す ……高松市立玉藻中学校　校長　鈴木　俊彦 …149

九州ブロック ……151

九州中学校体育連盟バドミントン競技の歩み
……九州中学校体育連盟バドミントン競技専門委員長　片岡　直茂 …152
福岡県中体連バドミントン競技部の歩み ……福岡県専門部委員長　坂本　哲 …154
祝　全国中学校バドミントン大会開催40周年
……佐賀県中体連バドミントン専門部委員長　中野　勝則 …156
熊本県大会の歴史・熊本県中体連の歩み … 熊本県中体連バドミントン競技専門部長　日野本　充 …158
長崎県中学校体育連盟バドミントン競技の歩み
……長崎県中学校体育連盟バドミントン競技専門委員長　片岡　直茂 …160
大分県中体連バドミントン専門部の歩み
……大分県中体連バドミントン競技専門部長　日田市立北部中学校　岩下　太郎 …162
宮崎県バドミントン競技専門部 ……バドミントン競技専門委員長　小野　将道 …164
鹿児島県中体連バドミントン専門部の歩み
……鹿児島県中体連バドミントン専門部委員長　榊　辰弘 …166
沖縄県中体連バドミントン専門部の歩み
……沖縄県中体連バドミントン専門部委員長　うるま市立　あげな中学校　比嘉　敏雅 …168

全国中学校バドミントン大会開催40周年に寄せて
……熊本県バドミントン協会中学部　部長　岡村　猛嗣　…170
全国中学校大会から学んだこと
…（前　九州ブロック長・佐賀県専門委員長）（前　佐賀市立大和中学校バドミントン部顧問）
佐賀県教育センター　鍋島　元春　…171
私のスタート……日本体育大学　大東　忠司　…172

栄光の記録……173

全国大会出場校一覧……185

編集後記……194

40回大会を迎えて



財団法人日本中学校体育連盟バドミントン競技部
競技部長　小野　理

本年８月、岡山県倉敷市で開催されます「全国中学校バドミントン大会」が第１回大会から数えて40回を迎えます。一口に40回といいますが、第１回大会を開催した年は昭和46年（1971年）でした。前年の昭和45年には大阪万博が開かれ、我が国は高度経済成長の頂点に達した時です。スポーツを楽しむことがごく一般の人々にも浸透し、さらには、中高校生の誰もが部活動に興じる時代の到来の頃でした。昭和30年（1955年）には全国中学校体育連盟が発足はしていたものの、全国大会の主催は財団法人日本バドミントン協会でした。昭和54年（1979年）に、全国中学校選抜競技大会開催基準制度「児童生徒の運動競技について」の基準に従い、学校教育活動内の大会として位置付けられ、全国中学校体育連盟との共催となり、昭和55年（1980年）、熊本市の第10回大会より現在のようなブロック大会を経た、学校対抗戦の全国中学校バドミントン大会となりました。私は平成３年（1991年）から競技部長を務めることとなり、この全国中学校バドミントン大会の半分に微力ながら携わることができましたことは感慨無量であります。また、私にとっても長年の懸案でありました「記念誌」を沢山の皆様のご協力とご支援をいただき、小冊子ではありますが、発刊できましたことは誠に喜ばしいことです。

今回の「40周年記念誌」の内容は、「全国中学校バドミントン大会」にとどまらず、我が国の中学生バドミントンに関連した内容になったことも特筆すべきことと思います。現在の中学生を取り巻くバドミントンが充実し、円熟期に入ってきている証でもあります。しかしながら、この「全国中学校バドミントン大会」が国内で最も歴史と伝統のある権威ある大会であることは今後も変わることはなく、「全国中学校バドミントン大会」で活躍した中学生が今後の我が国のバドミントン界を担っていくことは間違いないことです。また、第１回大会より財団法人日本バドミントン協会には、様々な面でご支援をいただき、深く感謝申し上げるとともに、今後も連携を深めるとともに、中学生バドミントン選手の育成にお力添えをいただきたくお願いします。

最後に、一昨年の北京オリンピックではバドミントンが過去にない話題を得ました。現在の中学生が多種多様なスポーツを選ぶ中、ある意味手軽に出来るバドミントンが大人気でもあります。また、先日の全英選手権大会での田児賢一選手の男子シングルス準優勝も夢ではない目標として、中学生に大きな励みともなっています。本当に注目度を大きくアップしているバドミントンです。これからのさらなる躍進を祈念し、発刊のご挨拶とさせていただきます。

ご祝辞



財団法人日本中学校体育連盟
会長　新藤　久典

本年８月に岡山県倉敷市で開催されます「全国中学校バドミントン大会」が40回を迎えることは大変喜ばしいことであり、ひとえに、諸先輩方をはじめ、数多くの関係諸団体の方々の熱意と、幾多のご協力とご支援によるものと深く感謝いたします。

昨年度から新しい学習指導要領の告示を受けて、平成24年度の全面実施のための移行措置が開始されました。言われるところの第三の教育改革はその制度的な枠組みはほぼ出来上がり、これからは学校の実践が期待される場面へと展開しております。その新学習指導要領の総則に「部活動」が明記されたことは非常に画期的なことであります。このことは、部活動が教育課程の関連事項である以上、予算や人的措置、指導する教員の服務等について行政は支援する義務が生じたことになると考えています。部活動のあり方については、社会教育への移行等、様々な議論がありますが、最善とはいえないまでも現行の部活動の実態を追認する現実的で明確な方向性が示されたと思います。そして、部活動の最頂点に立つ目標が全国中学校体育大会となります。この全国中学校体育大会に向けて、全国47都道府県で熱戦が繰り広げられ、さらには９ブロック大会を経て、全国大会が開催されています。

全国のバドミントン部の活動状況（21年度調査）をみますと、男子は2,358校、女子は3,496校に部が設置され、男女で128,642人の中学生が活動をしています。一昨年の北京オリンピックで、バドミントン競技は「オグシオ」、「スエマエ」に親しまれています日本人選手の大活躍により、国内で一躍注目され、人気スポーツに成長しているように思われます。中学校の部活動においても、手軽にできるスポーツとして、中学生の人気の部活動になっています。また、「生涯スポーツ」という意味でもバドミントンは益々、愛好者の増えるスポーツといえるでしょう。

開催40回を迎え、このような素晴らしい記念誌を発刊できましたことは大変意義深いことであります。そして、是非新たな視野に立ち、「全国中学校バドミントン大会」を眺める機会としていただき、さらなるステップアップをお願いしたいと考えます。全国から集まった中学生、そして、開催する地元中学生との心温まる触れ合い等、教育的な活動の中での「全国中学校バドミントン大会」を期待します。

最後に「40周年記念誌」の執筆ならびに編集にあたられました、すべての皆様方に御礼申し上げますとともに、40周年の節目として、全国中学校バドミントン大会、日本中学校体育連盟バドミントン競技部のさらなる躍進と発展を心よりご祈念申し上げて、ご祝辞とさせていただきます。

ご祝辞



財団法人日本バドミントン協会
会長　綿貫　民輔

本会が主催となり、1971年（昭和46年）より始まりました「全国中学校バドミントン大会」が40回をお迎えしたことを心よりお喜び申し上げます。

40年の間には財団法人日本中学校体育連盟との共催大会となり、競技方法が学校対抗戦に大きく変更した歴史もあります。しかしながら、この「全国中学校バドミントン大会」に出場し、活躍した選手の多くの者は我が国のバドミントン界を担っていく頼もしい選手に育っていったことは間違いのないことであり、改めて「全国中学校バドミントン大会」の意義と重要性を感じるところであります。

さて、今年2010年（平成22年）は、本会にとっては大変嬉しい話題に尽きません。まず、3月にはイギリス・バーミンガムで開かれた第100回全英選手権大会・男子シングルスにおいて、田児賢一選手が44年振りに日本選手として決勝へ進出し、準優勝という輝かしい戦績を収めました。さらに、5月にはマレーシア・クアラルンプールでの第26回世界男子バドミントン選手権（トマス杯）大会及び第23回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会では男女ともに第3位を果たし、銅メダルを持ち帰ることが出来ました。

一昨年の北京オリンピックでの日本選手の目覚ましい活躍が頻繁に報道されることにより、バドミントン愛好者やジュニアの選手達はもとより、一般の方たちにも深く浸透して、多くのバドミントン・ファンが生まれつつあります。これを機会に本協会ではこれまで以上に選手強化を図るとともに、目に見える形で結果を残し、バドミントンの人気をさらにアップしていくことを最大の目標としておりましたが、早期にこのような好成績を残すことができたことは強化指針が間違いのないものであると自負するものであります。全国各地でバドミントンを愛好する中学生が増え、日々の活動によりお互いが競い合い、ますますレベルが上がってくることを期待しております。本年の素晴らしい結果が今後も継続的に続き、再び、世界でバドミントン強国と呼ばれることを願っております。

最後になりましたが、40周年記念誌の発刊にあたり格別のご尽力を賜りました、関係各位に敬意を表するとともに、感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

「黎明期」を振り返って



初代 全国中体連バドミントン専門部委員長
（埼玉栄高等学校バドミントン部 監督）
加藤　勝

全国中学校バドミントン大会が、今年40周年を迎え、次代を担う選手諸君の登竜門として、（財）日本中学校体育連盟、（財）日本バドミントン協会の主催、文部科学省の後援により開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。本大会を、今日まで支え育んでくださいました多くの関係各位に厚く御礼申し上げます。また、40周年記念式典を開催してくださいます、現職の中体連関係各位に衷心より感謝申し上げます。

昭和42年、第22回埼玉国体の年に、開催地の越谷市立中央中学校の教員として、私は赴任しました。その頃、近隣どこの中学校にも、バドミントン部はなく「0（ゼロ）」からのスタートでした。幸運にも、国民体育大会会場で、その年の中学校市内新人大会を開催することができました。昭和44年、埼玉県の中学校総合体育大会を埼玉県バドミントン協会の主催により、8校で開催することができました。翌年、東京都の池田昌道先生や栃木県の遠井稔男先生などのご尽力により、第1回関東中学生バドミントン大会が栃木県立真岡女子高校体育館で開催されました。この頃、北海道、東北、北陸、近畿などでも中学生のブロック大会を開催しようという機運が高まっていました。同時に、東京、大阪を先頭に北海道、宮城、新潟、石川、熊本などの都道府県バドミントン協会から、日本バドミントン協会へ、全国中学生大会開催の要望が強く寄せられました。

昭和46年、日本バドミントン協会理事の方々のご配慮、並びに東京都バドミントン協会関係各位のご尽力により「第１回全国中学生バドミントン大会」が、1複2単、男女別都道府県対抗（団体）戦の形式で開催されました。全国に埋もれていたジュニア選手や指導者にとって、待ちに待った記念すべき大会でした。東京都の駒沢オリンピック公園体育館で開催され男女ともに31チームが出場、男子は滋賀県、女子は大阪府が優勝し、未来に繋がる輝かしい大会が始まりました。第2回の大会は名古屋市、第3回の大会は宇都宮市で開催されました。参加する側の気力も益々高まり、各都道府県バドミントン協会のご支援により、順調に参加チーム数を増加させることができました。第4回、第5回大会と、東京都で連続して開催されました。「主催：日本バドミントン協会」に「後援：全国中学校体育連盟」が加わり、男女ともに参加数が少しずつ増加し、35都道府県チームが参加し益々充実した大会に成長しました。

昭和51年、将来、中学生の部活動を教育内活動にするため「文部省試案」が出され、先取りの形で「関東中学校バドミントン大会」と改め、種目も学校対抗戦と個人戦（ダブルス、シングルス）の形に変更され、関東バドミントン連盟の主催で「関東ブロック中学校大会」を実施しました。他のブロックでも順次、学校対抗戦・個人戦（単・複）の形に移行し発展が見られました。その後、文部省や全国中学校体育連盟の指導を受けて、昭和54年の日本バドミントン協会理事会で、「全国中学校選抜バドミントン大会」実施に向け、ブロック定数が決定されました。昭和55年度より、「優秀な選手は、ブロック予選を経て、年1回に限り全国選抜大会に出場できる」、「開催期間は3日間（72時間以内）とする」「主催は全国中学校体育連盟、後援は文部省とする」ことが決定された。

これを受け、昭和55年度「第10回全国中学校選抜バドミントン大会」が、熊本市で開催されました。初めて教育内活動として認められ、先生方も監督として、「出張」できる大会

となり、協会大会から中体連大会に大きく変わりました。この熊本大会では、出場定数の枠が一部の監督から問題提起されました。前回までの都道府県対抗に比べて、全種目が定数16に縛られ、団体戦の出場数が前年までの都道府県対抗に比して少なくなったためです。個人戦が加えられたことが、評価されなかった。同じように、他の競技でも「全国中学校選抜大会」での問題点がいくつかあり、実施運営に関わる全国中学校体育連盟が競技部を設けました。昭和53年より、関東中体連のバドミントン専門委員長を引き受けていた関係で、私が全国中学校体育連盟バドミントン専門部委員長となりました。

全国中学校体育連盟が主催、ブロック中学校体育連盟が主管する大会が、第11回の奈良県奈良市大会　第12回の新潟県新潟市大会と順次開催されました。各ブロック責任者から、県大会・ブロック大会開催の問題点も出ましたが、年度が重なり大会を経るに従って主管する中学校の先生方が理解を深めていきました。第12回の新潟大会から参加選手数増員のため、団体戦を2複1単の形式に変えました。昭和58年第13回の山形県新庄市の大会から、出場定数枠が一部拡大されたり、全国中体連競技担当理事及び各ブロック代表による「各ブロック専門委員長会議」が開催され、全国規模の競技会として改善や拡充が図られました。現在、バドミントン競技部は、全国中体連種目の中で、大会の盛り上がりばかりではなく、「ブロック委員長会議」など、他に類を見ない充実発展ぶりである。これまでの成果は、第2代競技専門部長の佐伯一之先生、第3代競技専門部長の小野理先生のご尽力によるものが、大きいと感謝申し上げます。

更に、全種目開催についての統一・拡充を図る為に、全国中学校体育連盟の理事長だった黒木昊先生のご尽力により、全国中体連の「財団法人化」が昭和60年頃から進められ、現在に至っています。同様に、約15年遅れて全国小学生大会が開催されるようにまりました。今後は、小学生、中学生、高校生すべての選手が、心身ともに健康で、競技力の高い選手として育成できる大会を目指し、また、国際大会に繋がる強化を目論んだ選手育成並びに振興組織になるよう、ご尽力いただき益々の発展をお願い申し上げます。

終わりに、40年に亘り、「全国中学校バドミントン大会」開催に、ご支援とご協力を賜りました関係各位に感謝申し上げます。と共に、本大会の成功と今後益々のご発展を祈念し、御礼の言葉と致します。



第４回全国中学生大会（東京都、駒沢オリンピック公園体育館）



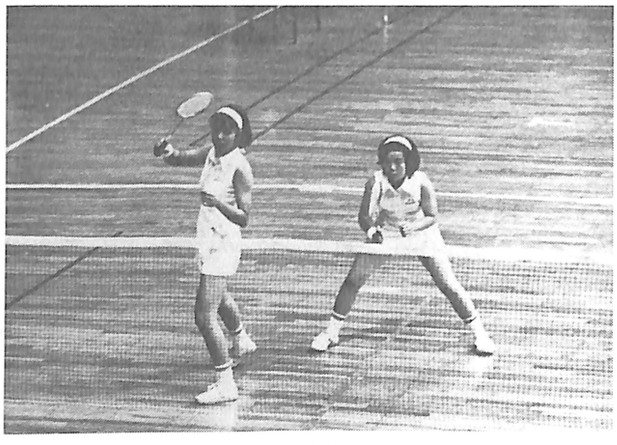
第４回全国中学生大会（女子団体戦）



第４回全国中学生大会（男子団体戦）



第５回全国中学生大会（東京　大田区体育館）



第６回全国中学生大会（宮城　仙台市体育館）



第７回全国中学生大会（三重　伊勢市体育館）

全国中体連専門部から
日本中体連競技部へ



前競技部長
佐伯　一之

昭和61年、地元栃木県真岡市での第16回全中大会を無事終了し、一息ついているところに、前任者の加藤先生（現埼玉栄高）から、専門部長への就任の要請がありました。お世話になったばかりでしたので、関係者と相談のうえ、お引き受けしたことを思い出します。

全中大会を開催したばかりでしたので、専門部長の動きについては、ある程度理解しているつもりでしたが、時を同じくして、全国中体連から（財）日本中体連へ移行の動きが始まり、部長としての仕事に財団化への仕事も加わり、岸記念体育会館へ通う回数も増えたことを思い出します。

さて、専門部運営で心に残るのは、大会使用球のことです。全中大会は陸鳥球使用でスタートしました。その後、第7回大会（昭51年）から水鳥球となりました。その後、中国の対外政策の影響を受け、水鳥羽の供給の問題が生じ、第12回大会（昭57年）から合成球を使用することとなりました。少しでも水鳥球の飛行に近付けるよう、各メーカーに研究を依頼し、第17回大会（昭62年）頃には、大きな飛びの違いの無い、5社5銘柄の使用球を選択しての大会ができるようになりました。その後、小野先生（現競技部長）のご尽力により、水鳥球に戻すことができました。（第30回大会・平12年）

しかし、この19年間の中学生には、水鳥球を使用した本来のバドミントン競技を味わわせることができなかったことを申し訳なく思っています。

次に大会運営について思い出すことがあります。

小さな大会を開催するのにも、大きなエネルギーを必要とするものです。ましてや、全国大会開催となると、その何倍もの力を要するものです。先ず、選手強化は大きな課題です。選手は各々の学校や郷土の期待を一身に受け、大会に参加します。とりわけ、開催地の期待は大きいものがあります。成績を残すことは、ある意味第一の目標と言っても過言ではありません。また、大会本番は、地元や協会、及び専門部の協力を得ながら運営がなされます。各係間の連携を保ちながら懸命な活動が展開されます。会場設営管理・競技進行・審判団編成・報道の充実・そして食事や宿泊輸送等々安全の確保を含め内容は多岐に渡ります。だからこそ、無事大会を終了した時は大きな達成感を味わうことができます。監督として、また、競技部長として数多くの全中大会に参加させて頂きましたが、各々の大会で素晴しい運営をして頂いたことにお礼申し上げます。

終わりになりますが、部長在任中にお世話になりました役員の皆様や、多くの大切な思い出を頂いた全国の仲間に、心から感謝申し上げますとともに、40回を迎えました全中大会の成功と、バドミントン球技部の増々のご繁栄をご祈念申し上げ、結びといたします。

40年の歩み



財団法人日本中学校体育連盟バドミントン競技部　競技部長
小野　理

第1回全国中学校バドミントン大会が開催されたのは昭和46年（1971年）。東京都の駒沢オリンピック公園体育館で開催されている。当時は現在のような9ブロック大会を経て、全国大会へ出場する形式ではなく、都道府県対抗男女団体戦形式であった。（第1回大会の詳細については、元全国中学校体育連盟バドミントン専門部委員長であられた加藤　勝先生の文面をご参照いただきたい。）財団法人日本バドミントン協会が主催するこの全国大会は昭和54年（1979年）の第9回神戸大会まで続いた。この間の大会入賞チームのメンバーをみると、後の日本ナショナルチーム代表選手となった方や今現在は監督という立場でご活躍の方もいらっしゃる。近年、TV出演されている陣内貴美子さんも第7回伊勢市大会（昭和52年、1977年）と第8回名古屋市大会（昭和53年、1978年）で連覇した熊本県チームのメンバーであった。

創成期といえる第1回大会より第9回大会までは、中体連組織がまだ脆弱であり、主たる開催運営団体は財団法人日本バドミントン協会であった。しかしながら、地区によっては、ブロック大会をこの全国大会より早く始めたところもある。関東ブロック大会は遠井稔男氏（元財団法人日本バドミントン協会副会長）等のご尽力により、全国大会に先んじて、第1回関東中学生バドミントン大会を昭和45年（1970年）に栃木県真岡市にて開催している。昭和50年代に入ると、全国各地で都道府県単位やブロック単位の中学生大会が開かれ始め、世間一般からも注目されるようになってくる。しかしながら、継続的な開催という意味では、会場地が定まらず、大会そのものの開催が危ぶまれることもあり、しばらくの間は紆余曲折の時代が続き、中学生大会に関わる方々のご苦労は相当なものだったと思われる。

昭和55年（1980年）の第10回熊本大会から、現在の競技形式ならびに、各ブロック大会を経て全国中学校バドミントン大会が開かれるというものなった。名実ともに中体連主導の大会運営が開始された。と同時に、シャトルコック（羽根）については、部活動経費の軽減のために、合成球（ナイロン・シャトルコック）を使用することとなった。この合成球（ナイロン・シャトルコック）については、普及という面では耐久性に優れ、中学校にバドミントン部を増やすという点では大きな貢献をしたと思われる。しかしながら、合成球（ナイロン・シャトルコック）では、バドミントン特有の技術習得が難しいことや国内のバドミントン界で、中学生だけが合成球（ナイロン・シャトルコック）を長年にわたり使用し続けていくという不都合が出始め、様々な論議を生むこととなる。この合成球（ナイロン・シャトルコック）は平成11年（1999年）の第29回福井大会まで20年余り使用された。前述した通り、中学校への競技普及という面では大きな貢献があったが、選手育成・強化という面では大きな障害となり、少しオーバーな言い方になるが、世界の中での日本のバドミントン競技力の低下にもつながった一つの要因ともなった。今振り返ると、平成の年代に入った頃に、水鳥球への使用球の変更を大いに進めるべきだったと考える。

昭和50年代後半になると、全国大会の開催とともに競技部会（ブロック代表者会議）も正式な位置付けがされ、開かれるようになり、

現在と同様に、日本の中学生バドミントンに関わる諸問題を検討し、全国の都道府県へ通達するような権威ある部会に発展、成長していった。全国大会へのブロック出場数や組合せ要領の基盤がこの頃に出来上がり、明文化されていった時代でもある。ここで、歴代の競技部長の方々をご紹介しておきたい。初代競技部長（S58～61）は加藤　勝氏（埼玉県）。第2代競技部長（S62～H2）は佐伯一之氏（栃木県）。第3代競技部長（H3～）は小野　理（千葉県）である。なお、昭和55年～57年は田中康二氏（千葉県）が全国大会の競技部代表としてご尽力された。また、昭和54年以前については、故・池田昌道氏（東京都）が財団法人日本バドミントン協会の中で、中学生大会の開催や運営に携われた。

昭和60年代に入ると、全国中学校バドミントン大会がメディアの話題に上がることが多くなってくる。昭和61年に栃木県真岡市で開催された第16回大会では、当時、大物中学生スター選手と騒がれた宮村愛子（熊本県京陵中）と水井妃佐子（大阪府四条畷学園中）の試合は名勝負として、今も語り継がれている。平成の時代に入ると、国内の中学生大会の充実や中学生選手の国際大会派遣や国際交流事業も活発に行われ始める。平成元年（1989年）からは、財団法人日本バドミントン協会が主催していた「JOCカップ全日本ジュニアバドミントン選手権大会」に中学生1、2年生のシングルスの部が加わり、中学生にとってはもう一つの全国大会という場が増えた。平成2年（1990年）からは、全国大会の出場数が24代表に増え、大会規模拡大が進められた。また、平成6年（1994年）からは、男女シングルスを36代表に増やし、現在の大会出場に至っている。なお、来年の平成23年度第41回全国中学校バドミントン大会（滋賀県大津市）からは、男女ダブルスの出場数がシングルスと同数の36となることを付記しておきたい。海外派遣については、財団法人日本バドミントン協会が、平成3年（1991年）から4ヶ年、イギリス、ロンドン市で開催された「U15ウィンブルドン・バドミントン大会」中学生男女4名ずつを派遣した。約2週間に及び長期遠征ではあったが、大会出場のみならず、最初の1週間はイギリス中部のヨークシャーにホームスティをしながら、地元イギリス人との交流を通し、国際感覚を養った。その後、しばらくの間はイギリスとの交流事業は行われなかったが、平成11年（1999年）にイギリスの中学生チームが来日し、2週間余り交流試合等を行った。翌年、平成12年（2000年）には日本チームがイギリスのミルトンケインズを訪れ、交流試合等を行った。また、韓国との交流会も平成13年（2001年）から行われ、平成13年12月に韓国チームが来日し、東京都八王子市にて第1回日韓中学生バドミントン大会を実施した。翌年の平成14年（2002年）には日本チームが訪韓し、ソウル市にて第2回目が開催された。それ以後、日韓中学生バドミントン大会は毎年行われ、本年は味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都）にて韓国チームをお迎えし、日韓中学生バドミントン大会が開催される運びとなっている。

平成13年（2001年）、21世紀の幕開けとともに、中学生バドミントンも新しい時代に入った。財団法人日本バドミントン協会が中学生の新たな全国大会を立ちあげたのだ。平成13年（2001年）3月26日～28日、千葉市（千葉ポートアリーナ）にて45都道府県を集めて「第1回全日本中学生バドミントン選手権大会」を開催した。都道府県対抗の男女混合戦（男女単・男女複・混合複）という画期的な競技方法であった。この大会は第2回大会（熊本県玉名市）にて全国すべての47都道府県が出場し、第4回大会（愛知県大府市）では、地元ですべての審判員を準備していただき、名実ともに第1種大会の仲間入りを果たした。しかしながら、このスディルマンカップ方式の競技方法は、国内（特にジュニア層）には抵抗のある

ものであった。すなわち、混合複を競技に入れることが一部の指導者の中から疑問視されたことであった。混合複を中学生の段階でやらせる意義・意味とは何なのか。仮に中学生が混合複を行っても、高校では混合複をやるような競技会はない。一般でも、やはり混合複は注目度が低い。国内事情が競技方法を変更させるようなこととなり、平成19年度第8回全日本中学生バドミントン選手権大会（福岡市）より、混合複に替わり、隔年で男子単と女子単を入れて競技を行うこととなった。この混合複の問題は、バドミントン界にも一石を投じた。海外のジュニア大会では必ず実施される混合複。国内事情だけで簡単に廃止していいものなのか。そして、オリンピックのバドミントン競技で唯一、日本人がメダル獲得の可能性の高い種目であること。さらに、そのオリンピックからバドミントンの混合複が競技削減の種目候補の一つになっているという国際的な関連性も浮上した。しばらくの間は隔年での男女単の競技方法が続くであろうが、是非とも、この混合複については日本全体で考えていただき、より良い種目普及と強化を希望するものである。この全日本中学生バドミントン選手権大会も本年3月に、京都府宇治市で第10回大会を開催するに至る。

さて、話をもう一度、全国中学校バドミントン大会に戻すことにするが、最近の全国中学校バドミントン大会は会場内にエアコンが入り、コートマットで競技するが一般的となっている。体育館設備の充実やバドミントン用器具の普及で可能となっていると言えよう。しかしながら、かつては、このような理想的な競技環境にはほど遠い、暗幕で外光を遮断した高温、多湿の体育館は過酷な劣悪な環境で試合を行った。また、かつてのサービスポイント制の試合は、中学生の試合といえども、1時間を超えることもあり、体力そして精神力のある選手が勝利をつかんだ。夏の全国中学校バドミントン大会で勝つことが如何に大変なことであり、また、その勝利はその後の人生を変えていったと言っても過言ではない。昭和時代の入賞者の方々が、その後バドミントン界で活躍し、貢献した方が多いと感じるのは私だけであろうか。

全国中学校バドミントン大会の素晴らしさは単なる競技会開催だけではなく、開催される地元の人々（特に中学生）が様々な面で関わり、大会そのものを盛り上げているところにある。最近は少なくなったが、開会式の後には、必ずアトラクションがあり、全国から集まって来られた中学生を歓迎する催し物があった。それは、地元の伝統芸能であったり、女子中学生のダンス披露であったり、創意工夫されたものであった。特に印象に残るものとしては、平成11年度第29回全国中学校バドミントン大会（福井市）であった。開会式後に地元の中学3年生全員（成和中）による合唱は開会式が行われた大ホールに響き渡り、終わった後には大拍手が巻き起ったのを覚えている。また、アトラクションではなかったが、平成6年度第24回全国中学校バドミントン大会（北海道旭川市）では、地元中学生が参加した選手・役員全員へ手作りの木彫りの記念品を作製し、好評を得た。

全国中学校バドミントン大会を開催するにあたり、開催地の中学校関係者が教育活動の一環としてとらえ、中学生へのきめ細かで丁寧なご指導を行っていただき、大会のサポート役として様々な仕事にあたらせた。会場の受付係や案内係、試合の際のプラカード係、そして、試合後のコート清掃等。なくてはならない仕事に地元中学生が一生懸命に打ち込んでいる姿があった。そして、何よりも、笑顔で爽やかな挨拶や好感の持てる態度には感銘を受けずにはいられなかった。大会運営を支えた中学生にとっても、全国中学校バドミントン大会での活動は生涯忘れられない一夏の思い出になったと思う。

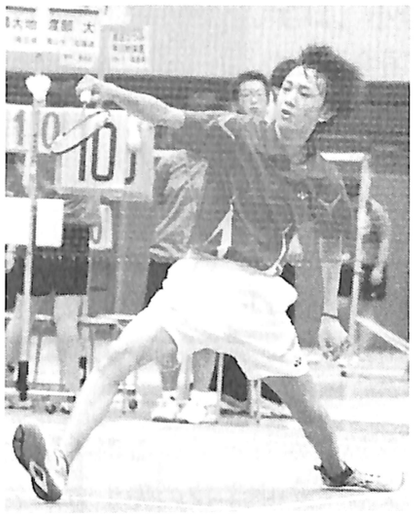
一昨年の平成20年（2008年）の北京オリン

ピックにて女子ダブルスで末綱・前田組が4強入りを果たし、日本国内でバドミントンが大きくメディアに取り上げられ、国内でのスポーツ人気度が格段に上昇した。また、「オグシオ」の愛称で親しまれた小椋・潮田組も全日本総合5連覇や国際大会で活躍し、バドミントン界に限らず、業界を問わぬ注目を集め、CMやテレビ番組にも出演する人気ぶりである。少し前のバドミントン選手では考えられない世間一般の関心・注目度である。バドミントンが確実に国内スポーツで脚光を浴びつつあるようである。その証として、中学校も近年の生徒数減少という中で、着実に部活動がある中学校数と生徒数が増加している。財団法人日本中学校体育連盟では、毎年、全国的な部活動調査を実施しているが、5年前の平成16年度の調査において、男子部設置校数は2,228校、女子部設置校数は3,445校、男子数は34,568名、女子数83,708名である。平成21年度の調査では男子部設置校数は2,358校、女子部設置校数は3,496校、男子数は36,510名、女子数92,132名という増加ぶりである。前述した北京オリンピックでの日本選手の活躍や「オグシオ」ブームも影響しているだろうが、最近のスポーツ愛好種目の多様化や手軽に誰にでも出来るスポーツという感覚でバドミントンを始める中学生が増えているのも要因であろう。

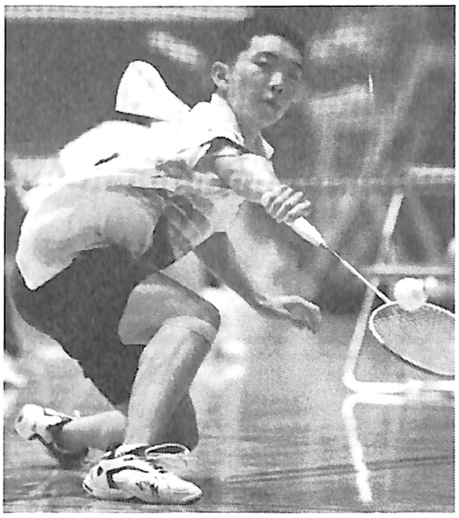
財団法人日本中学校体育連盟に加盟している19種目の中には、各中学校で行われている部活動より、社会体育活動や競技団体主導の活動の方が盛んな種目もあり、さらには、競技会も全く別々の形で実施している種目も少なくない。そういう中で、バドミントンは財団法人日本中学校体育連盟と財団法人日本バドミントン協会の双方がうまく調和・融合し合い、一つとなって今日に至っている。今日でも、創成期の全国中学校バドミントン大会開催に向かってご尽力された諸先輩方の気概が脈々と生き続けている。今後も中学校の部活動と社会体育活動が両輪となり、邁進してほしいものである。最後に、このような小冊子が40年という月日を経て、初めて発刊に至ったが、全国各地から貴重なる原稿や記録、写真が短期間に集まったことに大変驚くとともに、ご提供をいただいた皆様方の発刊への熱意を深く感じるものがあった。今後、このような記念誌が節目の年に発刊されることを願い、すべての関係者方へ御礼を申し上げたい。



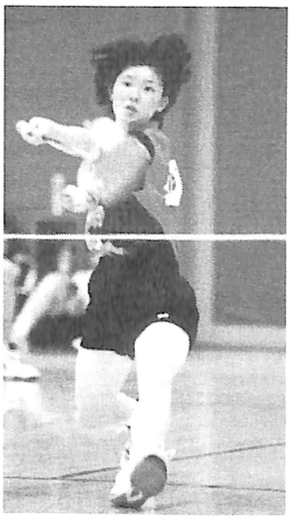
北海道ブロック



2008 年嵐山中渡部大選手



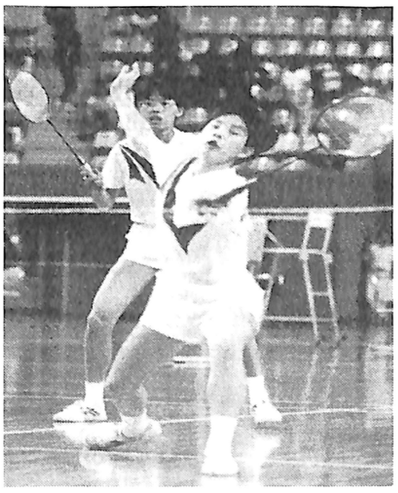
2006 年滝川明苑中木広大選手



2001 年札幌明園工藤亜紀選手



1991 年神居古潭一宮孝一選手



1990 年神居古潭
増茂孝枝選手中山智香子選手



1990 年登別札内井野嘉久選手



1985 年十勝陸別横山匠選手



1975、1977 準優勝上砂川中学校

写真提供 / 北海道新聞社

北海道ブロックのあゆみ



元北海道ブロック長　札幌市立栄町中学校　小林　純恵

第１回大会は、全国大会が開催される１年前の 1970 年８月 16、17 日に札幌商業高等学校体育館において行われた。男女各９チーム、そのうち札幌が４～５チームであった。第１回から第３回までは大会兼技術講習会として行われ、選手、指導者のための競技力・指導力向上の強化合宿的な一面を持っていた。この３回は北海道中体連の後援を受ける形であったが、４回大会からは北海道中体連共催という形に変わったため、各地の覇者がしのぎをけずる優勝戦に変わった。第１回全国大会が 1971 年に開催されるにあたり、男子は前年度優勝校の札幌琴似中学校を派遣することとなった。当時の北海道ブロック代表者である山住一史先生が、教育委員会・該当校・北海道協会と激論を交わし、ご苦労をされたことも記録に残っている。

競技に関わっては、第 18 回大会までは男女とも空知地区の学校が優勝争いの中心であった。男子は滝川江陵中学校の５連覇、女子は上砂川中学校の５連覇など、輝かしい成績を残している。第 19 回大会以降は旭川地区の躍進がめざましい。男子は空知地区ほどの連覇はないが、学校は変わりながらも旭川地区の学校が活躍した。女子も同様だが、特に小規模校である旭川神居古潭中学校が４連覇という成績を残している。個人戦でも全国大会の上位に入賞するなど、北海道の競技力向上に欠かせない存在となった。ここ最近の 10 年では、旭川地区の活躍もさることながら、空知地区、札幌地区、十勝地区、胆振地区も全道大会入賞常連校として、お互いに切磋琢磨しながら現在に至っている。各地区バドミントン協会が行っている選手強化事業の協力者として多くの中学校の先生方が名を連ね、自分の学校の生徒以外にも積極的に練習方法などを伝えたことで、その中から優秀な選手も数多く出ている。

大会運営に関わることでは、1976 年の第７回大会から個人戦の記録も残っている。

1990 年からは全国大会に出場できる団体戦の枠が１校から２校に増えた。1994 年からは個人戦シングルスの枠が２名から４名に増えた。これに伴って全道大会の規模も拡大した。また、1998 年からは、外部コーチの導入も実施され、社会体育との連携も必要となってきた。導入当初は個人戦では競技フロアに降りることすら認められなかったが、後にコーチ席がフロアに設置され、インターバル時のみ選手のところに行ってアドバイスできるようになった。2010 年大会からは、個人戦もベンチに入れるようになる予定である。また、2001 年からは、試合球をナイロンシャトルではなく水鳥球へと変更したことで、競技に係わることはもちろん、予算編成の面でも大きく変化した。2004 年から敗者校審判を取り入れたことにより、審判員に関わる経費削減とともに、指導力の向上、競技力の向上にもつながった。2007 年よりラリーポイント制となったことも大きな変化である。これも競技そのものへの影響が多大であるとともに、運営面でも試合時間が大きく遅れることがなくなった。北海道経済の低迷に伴って、今後も質素な中にも真心のこもった運営を強いられることになるだろう。

今後の課題としては、小学生の時から競技を始めた生徒でなければ全国大会には出場できない実態がある。それが一部に見られる勝利至上主義的な発想と相まって行き過ぎた活動となり、生徒のバーンアウトをもたらすことにもなろう。また、外部コーチや保護者の学校教育への理解と競技力向上の意識の温度差に苦労している学校が少なくない。その差を埋めるとともに、そのマナーの向上についても今後取り組んでいかなければならない。

ここまで北海道中体連バドミントン競技部の基礎を築かれた歴代の専門委員長である山住一史先生、西村幸衛先生、杉田茂良先生、石岡直樹先生、駒込幸則先生をはじめ、多くの先輩方や関係の皆様に感謝し、それを受け継いだ私たちがさらに努力を重ねて発展させて行きたい。

栄光の記録　（全国大会入賞者一覧）

	団体	個人		
1975	女子準優勝　空知上砂川中			
1977	女子準優勝　空知上砂川中			
1981	男子準優勝　滝川江陵中	女子単３位	空知上砂川中	徳永由美子
		女子複３位	空知上砂川中	高橋可奈　藤原利江
1983	女子３位　空知上砂川中	男子複準優勝	滝川江陵中	谷口久永　林　秀行
		男子単３位	旭川嵐山中	三船昌晴
1984	男子３位　滝川江陵中			
1985	男子３位　滝川江陵中	男子単準優勝	十勝陸別中	横山　匠
		女子単３位	室蘭東明中	三上直子
		女子複３位	十勝陸別中	岩崎絵理子　田中範子
1986		男子単３位	旭川広陵中	古川英樹
		男子複３位	滝川江陵中	末村利彦　佐藤嘉伸
1987		男子単３位	旭川神居古潭中	馬木貴之
1989		女子複優勝	旭川神居古潭中	増茂孝枝　中山智香子
1990		女子複優勝	旭川神居古潭中	増茂孝枝　中山智香子
		男子単３位	登別札内中	井野嘉久
1991		男子単優勝	旭川神居古潭中	一宮孝一
1992		男子単優勝	旭川神居古潭中	馬木智一
1994	女子準優勝　旭川広陵中	男子単３位	苫小牧第四中	三上裕司
		男子単３位	旭川豊里中	上田大輔
		女子複３位	旭川忠和中	山重直美　塩崎真弓
1996	男子３位　旭川広陵中	男子単３位	旭川広陵中	橋本暁人
1997	男子準優勝　旭川広陵中	男子単準優勝	渡島上磯中	佐々木翔
		男子複準優勝	旭川広陵中	早坂幸平　川島健一
1998		男子単３位	旭川豊里中	長原克博
2001		女子単３位	札幌石山中	永野陽子
2003		女子複３位	旭川東明中	上田維子　布宮ゆり恵
2004		女子複３位	旭川忠和中	松本弓枝　鈴木絵笛
2005		男子複優勝	豊浦大岸中	駒井亜星　平池淳希
		男子複３位	岩見沢緑中	柿崎　渉　中川雄介
2006	男子３位　滝川明苑中	男子単３位	苫小牧緑凌中	尾野拓郎
		男子複３位	滝川明苑中	中木広大　島谷航平
		女子複３位	岩見沢緑中	鐙　沙姫　松尾薫乃
2008		男子単３位	旭川嵐山中	渡部　大
2009		女子単準優勝	十勝芽室中	島田きらら
		男子複３位	胆振豊浦中	駒井砂竜　羅津勝太
		女子複３位	十勝芽室中	藤田璃子　大塚　葵

さらなる発展と充実を



元北海道ブロック長　西村　幸衛

1970年（昭和45年）に第1回北海道中学生大会が開催されました。翌年、第1回全国中学生バドミントン大会が東京で行われています。1985年（昭和60年）北海道登別市で中学生大会初のコートマットを使用して行われた全国大会以降、北海道ブロック長としてその任につくことになりました。当時、私は日バ評議員、北海道協会選手強化、指導普及、及び中学を担当していましたので、各種の大会や会議を通して日本バドミントン協会の方々との交流で得たノウハウがバド全中大会の運営面に活かせたことが多々ありました。時には、当時、日バ専務理事でありました、故　小飼　栄一氏にバド全中大会、諸会議への参加をご依頼申し上げたところ、快くご引き受け頂き、いろいろ貴重な助言を賜りました。又、現競技部長を含め3人の歴代の部長の皆様方と会議や大会競技運営を通して意見交換の場をもてたことは非常に有益なことでありました。

当時、大会使用シャトルは合成球で行っていました。メーカーによって飛び方にそれぞれの特性があり、選手、監督も神経を使ったものです。ちなみに当該試合に使うシャトルはトスによって決められました。水鳥球に慣れた世代の選手、指導者達が、中学生が試合で示す合成シャトルの特性を活かした各ストローク、フライトの正確性に驚嘆したことが思い起こされます。

大会運営面では、私の資料を基に、選抜された各ブロックの代表選手、監督の9割以上が大会前日に開催地入りしている実態から競技開始前日に試合会場を使っての公式練習、ブロック長会議、監督会議、そして開会式を16時から行い、翌日から競技開始ということを提案、可決されました。同様に、背面表示も都道府県の独自性に一任されていましたが、審判、観客、報道等の観点から問題提起と提案をし、現在のスタイルに統一されました。

私の後継としては、現北海道協会副会長　杉田茂良氏、現札幌協会副会長　石岡直樹氏、現あやめ野中教諭　駒込幸則氏、元札幌栄町中、現札幌開成高校教諭　小林純恵氏、そして現在の日本中学校体育連盟バドミントン北海道ブロック長兼道中体連バドミントン専門委員長へと引き継がれ今日に至っています。

40回目の大会を抑えるにあたり益々の充実と発展を期待する中で今後への要望としては、大きな目標達成を目指して活動に励んでいる中学生や指導者が希望と意欲の持てるよう、バドミントン競技だけではなく、日本中学校体育連盟主催の大会開催要項の各項の見直しと検討を行っていただきたいのです。そして問題点、課題をバドミントン競技部から日本中学校体育連盟へ発信して下さい。期待しています。

「雑感」



元ブロック長（北海道） 杉田　茂良

全国中学校バドミントン大会開催40周年記念誌の発刊、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

全国大会の開催も、数えて40回を迎えた長い歴史の中で、私自身としては、ほんの数回、北海道のブロック長として、微力ながらお手伝いをさせていただきました。

全国大会開催期間中に、並行して競技部会が開催されますが、年に一度だけの会議のため、山積する課題を抱えながらも、途中ブロック長の交替などもあり、全国9ブロックが同一の見解で、歩調を合わせることの難しさを痛感させられました。当時、大会使用球について、「合成シャトルか、水鳥シャトルか」ということが大きな話題になっており、全国各ブロックの実情の違いに驚かされた事がありました。競技部会の意向を地元に持ち帰り、説明を加え、意見を集約できるのは、次年度のブロック大会であり、それも広い道内の全地域を漏れなくクリアできるのは至難の業であり、意見をまとめるのは無理でした。

又、平成6年度は、全国大会が地元旭川市で開催されることで、前年度は視察員を大挙して派遣し、競技部会げのオブザーバー参加や、開催地実行委員会と細部にわたっての、綿密な打ち合わせや実施計画や資料の引き継ぎ等、旭川市実行委員会スタッフの最大限の努力に支えられ、新設なった大雪アリーナを会場に、大成功で大会を開催できた事が大変嬉しい思い出であり、関係者への心からお礼の気持でいっぱいである。

その後、後任者に任を託して現在に至っているが、競技部会を中心に、時間をかけて多くの課題が検討されてきた事と思う。中でも中学生の日本バドミントン協会への登録の件、競技規則の改正に伴うラリーポイント制採用等、数々の変革がなされてきた。特にラリーポイント制採用により、ゲームの流れが攻撃的且つスピードアップされた事は、大会運営上にも大きな成果を生んだものと思う。

全国大会は今後も回を重ねていくであろうが、開催要項の根幹に関わる諸課題を検討、改善の役割を担う競技部会を、かれこれ20年に亘って方向づけ、数多くの成果を積み上げてきた先頭に立って活躍されてきた、現競技部長さんの永年の努力の功績と益々盛んな意欲に対し、心から敬意を表するとともに、今後のさらなる活躍にエールを送りたい。

施設や用具が更に改良され、練習方法の改善により、選手の技倆やゲーム力が一層レベルアップされるであろう近い将来に、大きな夢の実現されることを期待し、競技部会の更なる発展と先を見つめて、大きな指導力を発揮されることを心より願っています。

夢を追い求めて



中村　光生

私と全国中学校バドミントン大会の出会いは、第15回大会（登別市）でした。ジュニアで指導した古川英樹（のちNTT北海道）の出場でした。初の全国大会。技術の高さは勿論、気力、体力、応援、マナー……すべてに感動し、私の学校から全国一の選手を育てたいと夢を持ちました。

それから2年、北海道中体連専門委員長の石岡直樹先生などの指導を受け、第17回大会（春日井市）に初出場することができました。大会アナウンスが「神居古潭中学校、馬木貴之選手……」北海道のどこの街、どんな学校か話題になったようです。

忘れられないのは第19回大会(山口市)です。北海道中学校バドミントン強化委員会の指導のおかげで中山・増茂組が2年生で全国優勝することができました。5年目にして、私の夢が実現しました。

このことにより「神居古潭中学校」と読んでいただけるようになりました。当時、専門委員長だった佐伯一之先生には、全校生徒14名の神居古潭中学校から地域と学校が一体となっての部活動ということで大変なご理解、ご指導、ご支援を頂きました。



私と生徒の夢はさらに大きくなっていました。団体でも全国優勝したい。香川県、熊本県、青森県の学校に勝ちたい。四条畷学園、ウルスラ学院、日吉中、連島中、阿見中……の選手に勝ちたい。オリンピック選手を育てたい……。

これらは、ほとんど夢で終わろうとしていますが、ただひとつ中山智香子（神居古潭中、三洋電機）が三洋電機をはじめ多くの方々のご指導のおかげでアテネオリンピックに出場することができました。

私は第17回大会から現在まで17回、全国大会に選手を送り大変お世話になり、出場のたびに感動と新たな課題を持ち、生徒と夢を追い続けています。特に第24回、第33回大会では、旭川市での開催で、小野理専門委員長の適切なご指導により、出場した選手一人一人が想い出に残る大会を終えたばかりでなく、地元の選手に適切なアドバイスまで頂き、選手も感動していました。

私は、今も外部コーチとして忠和中学校で指導しています。

「全国の強豪校に勝ちたい、技術は劣っていても気力・体力・マナー……は負けたくない」という気持ちで夢を追い続けています。

バドミントンで培った力が将来、必ず選手の『宝』になることを信じて。

全国中学校バドミントン大会を振り返って



中山　智香子

全国中学校バドミントン大会開催40周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。ここに至るまでの間、中学校体育連盟をはじめ、バドミントン協会、大会開催地区の皆様、関係者の皆様には計り知れないご苦労があったと思います。皆様方のご尽力により試合に集中出来る場を用意していただきましたこと、大変感謝申し上げます。

中学生にとって全中は憧れと目標であり、そして誰もが手にしたい頂点を目指していたうちの１人として当時を振り返ってみたいと思います。

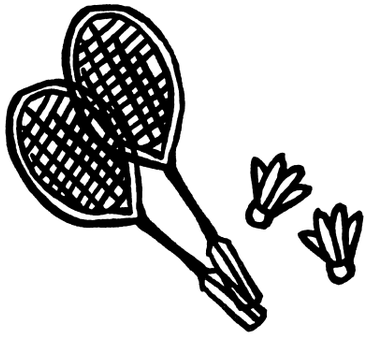
中２で出場した全中は山口県、翌年は香川県での開催でした。『北海道の選手は暑さに弱い』と言われていることから暑さ対策の為、全道大会が終わった翌日から体育館にジェットヒーターを置いて気温を上げ、ウィンドブレーカーを着用してのハードな練習でした。

そして本番を迎え、初めての全中は周りを見渡せば名門校の選手ばかり。技術や体格でも圧倒され弱気にもなりましたが、コートに入ればただひたすらシャトルを追って１点１点積み重ねていくだけでした。気がつけばダブルスは決勝まで進出、北海道から応援に駆けつけてくれた母達も『まさか』決勝まで残るとは思わず、フェリーの時間に間に合わないからと決勝を観戦せずに帰ってしまったこともありました。決勝は団体２回戦で負けていた四条畷学園の選手が対戦相手で、団体ではパートナーが増茂さんではありませんでしたが、負けたままで終わりたくはなく、決勝もよく覚えていないくらい必死でした。終わってみれば優勝という形で締めくくる事が出来、その中でも１番嬉しかったのは退場する前に、いつもは厳しい恩師の中村先生から鷲掴みされるような形でしたが、頭を撫でてもらえたことです。こちらも最初で最後の『まさか』の出来事でした。

そして、勝因の１つとしてシャトルにもありました。当時はまだ、ナイロン球を採用しており、シャトルのメーカーはヨネックス、ゴーセン、カールトンのうちから選択することになっていました。中村先生の作戦として「ほとんどの学校がヨネックスを使って練習しているから、じゃんけんで勝ってヨネックス以外を選べ」と。シャトルを選ぶじゃんけんにはめっぽう強く、対戦相手が嫌な顔をしていたことも思い出されます。

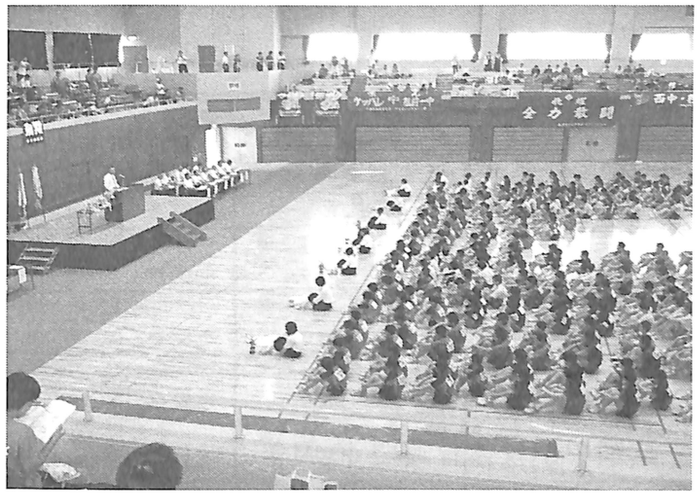
翌年もダブルスでは連覇を達成出来ましたが、負けられないというプレッシャーがあったので、優勝出来てホッとしたという気持ちでした。２度の全中を通じて様々なことを学び、大きな夢を持つきっかけを与えていただきました。とても思い出深い大会であり、貴重な経験が出来きたことに感謝しております。

最後になりましたが、開催40周年の記念大会となる今大会のご成功と今後も長く深い歴史が刻まれますよう、心からお祈り申し上げます。

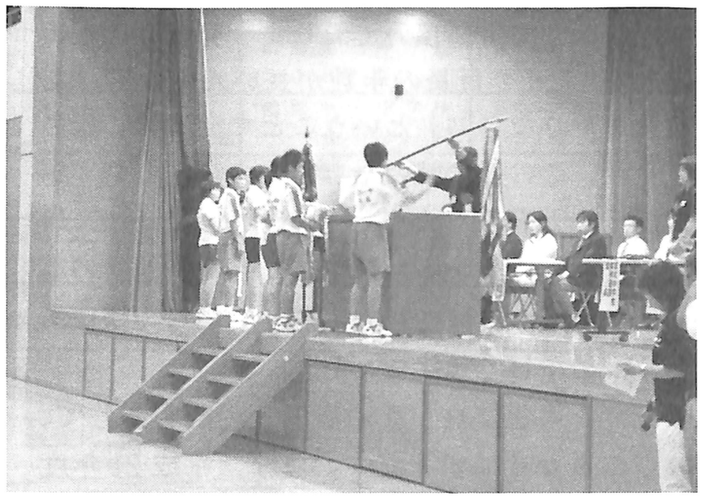


東北ブロック


第27回 東北中学校バドミントン大会兼全国大会予選会
西中・新発
飛翔








第29回東北中学校



東北ブロックバドミントン専門部の歩み



東北ブロック長　小野寺　浩二

全国中学校体育連盟40周年、誠におめでとうございます。

現在、ブロック長を仰せつかっております、岩手県中学校体育連盟バドミントン専門部委員長の小野寺浩二と申します。私がこの任に就きまして三年目となりました。今回東北ブロックの代表として寄稿頂いております青森県の太田先生から、「委員長の年数が長いんだから、あなたがやりなさい」ということで突然のご指名を受け、この任に就いたものの、全国という場をほとんど経験したことのない私にとっては、何をしたらいいかわからず、ただただ他県の委員長さん方や、諸先輩方に頼りながら業務にあたり、こなして参りました。

さて、東北ブロックの歩みといたしまして、数点の書かせて頂きます。まず、平成21年度の宮城県利府町で行われた東北中学校総合体育大会におきましても、ちょうど区切りのよい30回を迎えました。特別なことは行わないでしまいましたが、全国の専門部の40周年と重なったこともあり、振り返るのにはよい機会となりました。

非常に小さな図になったかもしれませんが、次ページの表が東北ブロック大会の歴代団体優勝校です。男子団体の弘前第一中学校、女子団体の聖ウルスラ学院英智中学校の連覇が目立っております。特に女子の聖ウルスラ学院英智中学校は30回中22回の優勝、現在13連覇中であり、どんどん記録を伸ばしております。聖ウルスラ学院英智中学校は全国大会も制覇するなど、多くの活躍を見せております。また、紙面の都合で載せることはできませんでしたが、個人戦においても、今回原稿をお願いしております、青森県の米谷さんをはじめ、中学校卒業後も全国で活躍した、たくさんの選手の方々が名を連ねております。そういった全国での活躍についてはさらに、今年度、女子団体では東北ブロック大会では準優勝でしたが、全国大会では見事優勝した富岡第一中学校の活躍もあります。男子においても桃田賢斗君のシングルスでの優勝など、全国でも有名な学校となっております。東北ブロック内の学校は、全国レベルの学校に追いつき追い越せということを目標に、日々練習を重ねることとなり、その成果が全体のレベルアップにつながっているようです。そのような中で、歴代のブロック長の先生方が筆頭となって開催された東北研修会や、東北バドミントン連盟のご理解を得て、2年前より行っている、東北選抜大会など、県という枠を越えて、互いに切磋卓磨する場がこれまで作り上げられてきました。これまで全国という場で活躍してきた。

このような事業が実現してきたのは、これまでの東北中学校バドミントンに携わってこられた諸先輩方のご尽力と、現在も続いておりますが、各県委員長をはじめとした「東北専門部」として、情報交流等を行ってきた成果だと思われます。このようなつながりを今後も大切にし、東北ブロックの中学校バドミントン界を盛り上げて行ければと思います。

	男子団体優勝	女子団体優勝		男子団体優勝	女子団体優勝
第1回大会 秋田県横手市	金沢中学校 （秋田）	大鰐中学校 （青森）	第16回大会 宮城県塩竈市	弘前東中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第2回大会 山形県新庄市	大鰐中学校 （青森）	日新中学校 （山形）	第17回大会 福島県富岡町	白河中央中学校 （福島）	塩竈第一中学校 （宮城）
第3回大会 秋田県秋田市	弘前第一中学校 （青森）	弘前第一中学校 （青森）	第18回大会 山形県鶴岡市	松陵中学校 （宮城）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第4回大会 青森県弘前市	浪岡中学校 （青森）	弘前第一中学校 （青森）	第19回大会 岩手県盛岡市	袋原中学校 （宮城）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第5回大会 岩手県盛岡市	弘前第一中学校 （青森）	弘前第一中学校 （青森）	第20回大会 青森県黒石市	東和中学校 （宮城）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第6回大会 宮城県仙台市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第21回大会 宮城県塩竈市	東和中学校 （福島）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第7回大会 福島県郡山市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第22回大会 福島県福島市	鶴岡第一中学校 （山形）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第8回大会 山形県鶴岡市	弘前第一中学校 （青森）	弘前第一中学校 （青森）	第23回大会 山形県山形市	矢巾中学校 （岩手）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第9回大会 青森県弘前市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第24回大会 岩手県水沢市	鶴岡第一中学校 （山形）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第10回大会 岩手県盛岡市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第25回大会 青森県弘前市	明徳中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第11回大会 山形県新庄市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第26回大会 宮城県仙台市	山形第三中学校 （山形）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第12回大会 宮城県塩竈市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第27回大会 福島県会津若松市	鶴岡第三中学校 （山形）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）
第13回大会 福島県原町市	弘前第一中学校 （青森）	弘前第一中学校 （青森）	第28回大会 岩手県一関市	富岡第一中学校 （福島）	聖ウルスラ学院英智中学校 （宮城）
第14回大会 青森県弘前市	弘前第一中学校 （青森）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第29回大会 青森県黒石市	富岡第一中学校 （福島）	聖ウルスラ学院英智中学校 （宮城）
第15回大会 岩手県盛岡市	多賀城第二中学校 （宮城）	聖ウルスラ学院中学校 （宮城）	第30回大会 宮城県利府町	富岡第一中学校 （福島）	聖ウルスラ学院英智中学校 （宮城）

県大会の歴史とバドミントン専門部の歩み

（弘前市立東中学校）
青森県中学校体育連盟 バドミントン専門部委員長　丹代　嘉親



青森県の中学校でバドミントンが始まったのは昭和26年6月からで、この年度から青森県バドミントン協会主催の秋季選手権大会に中学校の部をオープン種目として新設したそうです。この大会で活躍した選手が高校の東北大会、全国大会で活躍したことから、青森県バドミントン協会でも中学校のバドミントンの普及活動に力を入れ始めました。青森県中学校体育大会夏季大会の正式種目とならなかったこともあり、いったん活動が停止しましたが、昭和46年に青森県バドミントン協会主催の第1回青森県中学校バドミントン選手権大会兼全国中学校大会青森県予選会が開催され、青森県中学校体育大会夏季大会でのバドミントン競技開催に向けて機運が高まりました。

昭和49年の第25回大会から、青森県中学校体育大会夏季大会のオープン種目としてバドミントン競技が開催されました。長内忠道先生を始めとする先輩先生方のご尽力と情熱が実り、昭和51年の第27回大会から青森県中学校体育大会夏季大会の正式種目となりました。第27回大会のエントリー数は、男子団体6、女子団体6、男子シングルス27、女子シングルス28、男子ダブルス24、女子ダブルス24。6面の体育館で、2日間日程で行われました。

平成21年度の、青森県内でバドミントン部のある学校は47校（男子部35校、女子部45校）。部員数は、男子572名、女子949名、合計1521名です。平成21年度の第60回青森県中学校体育大会夏季大会のエントリー数は、男子団体6、女子団体6、男子シングルス27、女子シングルス28、男子ダブルス24、女子ダブルス24。12面の体育館で、2日間日程で行われました。

青森県中学校体育大会夏季大会で、

第35回大会から第43回大会まで、弘前一中が男子団体で9年連続優勝。監督は高屋仁先生。

第33回大会から第43回大会まで、弘前一中が女子団体で11年連続優勝。監督は高屋仁先生。

第30回大会の男子シングルスで優勝した柳谷辰哉（浪岡中－弘前南高）と第35回大会の女子シングルスで優勝した乳井智秋（弘前一中－千葉学園高）はインターハイシングルスで優勝しています。

東北大会での本県チーム、選手の成績は、

男子団体、優勝15回。男子シングルス、優勝12回。男子ダブルス、優勝12回。

女子団体、優勝6回。女子シングルス、優勝7回。女子ダブルス、優勝9回。

男子団体で、弘前一中は、第5回～第14回まで、10年連続優勝。

女子団体で、弘前一中は、第3回～第5回まで、3年連続優勝。

男子シングルスで、山口将治（弘前一中）は、第11回～第12回まで、2年連続優勝。

男子ダブルスで、蒔苗淳・加藤弘幸（弘前一中）は、第11回～第12回まで、2年連続優勝。

女子シングルスで、米谷真智子（弘前一中）は、第8回～第10回まで、3年連続優勝。

全国大会での本県チーム、選手の成績は、

男子団体、優勝2回、3位3回。第19回

大会優勝、弘前一中。第21回大会優勝、弘前一中。

男子シングルス、優勝1回。2位2回、3位4回。第19回大会優勝、戸祭潤（弘前一中）。

男子ダブルス、優勝2回、2位3回、3位2回。

第15回大会優勝、加藤正嗣・今宣仁（弘前一中）。

第21会大会優勝、蒔苗淳・加藤弘幸（弘前一中）。

女子団体、2位2回。

女子シングルス、優勝2回、2位2回、3位1回。

第18会大会・第19会大会、2年連続優勝、米谷真智子（弘前一中）。

女子ダブルス、3位1回。

全国大会の本県の入賞はほとんど弘前一中によるもので、高屋仁先生の監督としての指導・手腕は、全国のバドミントン界に青森県のバドミントン部の名を強く印象づけてくれました。輝かしい戦績を残している本県中学校バドミントン部ですが、最近では全国大会出場も難しい状況となっています。それは、全国的な競技レベルの向上と各県のジュニア育成が確実に根付いていることによります。小学生のジュニア育成があまり進んでいない本県は全国に大きく遅れをとってしまいました。バドミントンを通して「いい生徒」を育てるとともに、競技力の向上にも努めたいと思っています。現在、県強化練習会は年に4回、県外遠征を年1回行っていますが、今後も続けたいと思っています。

青森県の中学校のバドミントン県大会は青森県中学校体育大会夏季大会の他に、青森県中学校春季バドミントン選手権大会、青森県中学校秋季バドミントン大会、青森県中学校冬季バドミントン選手権大会があります。いずれも青森県バドミントン協会が主催で、青森県中体連バドミントン専門部が主管しています。この他に青森県中体連バドミントン専門部は、東北バドミントン連盟が主催、青森県バドミントン協会が主管し、平成20年から始まった東北中学校バドミントン選手権大会の運営を手伝っています。全国トップレベルの選手の試合を間近に見ることで、青森県の競技レベルが向上していくのではないかと期待しています

青森県中学校体育連盟バドミントン専門部の歴代の委員長は、

長内忠道先生（昭和46年～昭和50年、5年間）、小島和彦先生（昭和51年～昭和56年、6年間）、高屋　仁先生（昭和57年～昭和63年、7年間）、牧野俊一先生（平成元年～平成9年、9年間）、太田英也先生（平成10年～平成17年、8年間）、丹代嘉親（平成18年～）。

歴代の専門部委員長の先生方のご尽力と情熱に、この場をかりて感謝申し上げます。

岩手県中体連バドミントン専門部の歩み



専門委員長　小野寺　浩二

この度は、日本中体連バドミントン専門部40周年、誠におめでとうございます。

私事ではありますが、岩手県中学校体育連盟バドミントン専門部の専門委員長を務め、8年目になります。専門部の一番の事業である岩手県中学校総合体育大会を見ると、本年度で第56回目となり、専門部としての活動にも長い歴史があったことを感じさせます。

専門部運営を切り盛りしてきたのは、歴代の委員長さん方であると思います。樋口先生、志村先生、加藤先生、高田先生、再任で加藤先生、と続き、現在私が委員長の任を務めております。部長・副部長の先生方のご指導はもちろん、副委員長や地区委員長を始め、各校顧問の先生のご協力のもと、大会運営や様々な事業が展開されてきました。その中で、岩手県バドミントン専門部の歴史の中で特筆すべきことを挙げたいと思います。

まず、1988年（昭和63年）志村正義先生が委員長を務められていた時代に、第18回全国中学校総合体育大会を開催したことが挙げられます。岩手県盛岡市の岩手県営体育館で行われたこの大会には、たくさんの観客が訪れ、成功裏に終えることができました。私自身が志村先生の教え子であり、自宅近くで行われた大会であったため、この大会を観戦しにいったことを覚えております。その中で「男子開催地代表」となったのが玉山村立外山中学校バドミントン部でした。現在は藪川中学校と統合し、玉山村自体も盛岡市と合併したため、大会でこの学校名を見ることはできなくなっております。この学校の合った地域「藪川」は本州でもっとも寒い地域といわれ、冬期間は氷点下20度以下まで気温が下がります。当時から生徒数は少なく、全国大会出場の際も全校生徒が10数名で全員がバドミントン部員という状況でした。この学校は見事岩手県大会で優勝し、開催地代表としての権利を得た背景には、顧問の先生が休日に他校に生徒を精力的に連れて行き、とにかく練習試合をこなすという強化方法があったようです。全国大会では惜しくも２－１での敗退となりましたが、開催地代表の名に恥じないがんばりが見られたそうです。

二点目として、1999年の岩手インターハイに向けての強化事業が挙げられます。1999年の岩手インターハイは滝沢村の産業文化センターを主会場として行われ、猛暑の中、すばらしい戦いが繰り広げられました。この大会では、佐々木翔選手や佐藤翔治選手などの有名選手が活躍し、地元代表である前沢高等学校も団体戦ベスト8という活躍を見せました。この大会での上位進出を目指し、中学校段階からの雫石町においての強化合宿、宮城県への遠征などの事業を行いました。インターハイで活躍した県勢はこのような事業において強化され、インターハイへの意識づけがされたようです。これらの事業は、インターハイ後も継続し、「センチュリー21」という名前に変わりながらも、県内合宿か県外遠征をすることができています。そのような強化を継続していったことで、2002年大津市での全国大会においては、現在、早稲田大学で活躍する松浦君の所属していた男子団体矢巾町立矢巾中学校のベスト４入り、個人戦においてもダブルスでのベスト8、また、現在、

中央大学で活躍している村上君もシングルスでベスト８入りを果たしました。村上君の所属していた盛岡市立飯岡中学校は優勝候補であった四条畷学園を初戦で破るなど、岩手の中学生が全国で大活躍する年となりました。また、この強化事業が立ち上がった時期と同時に、岩手県協会が主催する様々な中学生大会も立ち上げられました。JOCの県予選会、中学校１年生大会、ダブルス大会などが新たに企画された他、インターハイ後は記念大会として、滝沢村協会の主催する「滝沢オープン」と呼ばれる大会もできました。大会が増えたことによって、それらの大会を目標に選手達が力をつけていくことができました。2016年には岩手国体の開催が決定しており、専門部としても、国体の上位入賞を目指し、中学生の強化に励んでいこうと考えております。

三点目としては、やはり中体連主催の県中学校総合体育大会、県新人大会についてです。県中学校総合体育大会は今年度で第56回、県新人大会は第30回という回数を重ねております。県中総体は全国中学校総合体育大会に向けて、または３年生にとって最後の大会といういみで、多くの中学生にとってとても意味深い大会になっていますが、その大会につながる、前年度の県新人大会にも専門部としての配慮がなされております。もともと県新人大会は県協会の主催大会であったそうですが、県中体連の働きかけで、主催を中体連に変え現在の形になっていったそうです。団体戦のみを行っていた大会も、全国中学校総合体育大会を迎える辺りから個人戦を導入していきました。また、「競技普及」という名目で団体戦の参加枠をなくし、フリー参加という形で運営をしてきました。しかし、徐々に競技人口も増えていき、出場校が女子だけで80校近くになるようになり、平成14年より県内各地区予選参加校数の半分という制限を設けるようになりました。面積の大きい岩手県ですが、県内のほとんどの地域にバドミントン部が設置されており、中学生の部員数は二千数百名となりました。各地域の指導者の方々のご尽力などもあり、県内の中学生バドミントンは年々盛り上がりを増しているように感じます。しかし、まだ、「強化」という面では他県にまだまだ及ばず、全国大会でも上位に入賞することは難しくなっております。この事柄を専門部の課題として今後取り組んでいこうと思います。

今後専門部の発展させていくため、たくさんの人の手お借りする必要があるように思います。県内各校の顧問の先生やコーチの方々、そして日本全国のバドミントン関係者の皆様からのご協力やご指導を頂きながら、頑張っていければと思います。そして、全国で一人でも多くの選手を活躍させられるよう、様々な事業に取り組んでいこうと思います。今後とも何卒よろしくお願い致します。

宮城県中体連の歩み (2000 ~ 2010)

宮城県専門部委員長　三塚　千尋



平成10年度全中宮城県大会以降の10年間も、宮城県は数多くの全国大会入賞者を輩出してきた。

聖ウルスラ学院英智中学校が、平成12年度、15年度、17年度、19年度と4度の全中女子団体優勝を果たした。個人戦においても、平成15年度女子複伊藤・村山組、平成16年度女子複工藤・北組、平成17年度女子複菅野・岡田組、女子単玉木絵里子、平成19年度女子複脇野・今野組、平成21年度女子単鳥居彩乃と、計6度の全国制覇を成し遂げた。特に平成17年度は、団体戦、シングルス、ダブルスで三冠を獲得するという、めざましい活躍を見せた。

公立中学校の選手たちの活躍も目立った。佐藤黎、木戸道治（仙台二中）の活躍は記憶に新しい。また、今現在全日本ナショナルチームの一員として活躍している佐藤冴香（仙台一中）も、公立中の出身である。

さらに、日本リーガーの平山優（ウルスラ）、平山愛（ウルスラ）、金上路子（ウルスラ）、寺本悦子（ウルスラ）、高橋礼華（ウルスラ）、鈴木知道（塩釜二中）、菊田健一（袋原中）、伊深裕貴（沖野中）、鈴木直人（多賀城二中）らも、宮城県出身または、中学時代を宮城県で過ごした選手である。

ここに列記した選手たちを筆頭とした宮城県選手の活躍が、宮城県のバドミントン競技レベルを維持・発展させる原動力となってきた。これは、選手たちの努力の賜物であることはもちろんのこと、指導に携わってきた諸先生方や、選手たちを支えてきた家族の方々のバックアップがあったからこそのものである。この場を借りて、多くの方々の努力に対し敬意を表したい。

宮城県のバドミントン競技レベルを向上させている要因には、次の2つが考えられる。

まず第1に、多くの大会を観戦する機会に恵まれたことだ。ここ10年の宮城県は、多くの全国・世界規模の大会を開催してきた。平成13年の宮城国体、平成18年に開催されたトマス・ユーバー杯仙台大会。平成18年度より、10年間にわたる全日本ジュニアグランプリの開催や、毎年開催される日本リーグもあわせると、宮城県はハイレベルなプレーを観戦する機会に恵まれているといえる。試合を観戦した選手たちのモチベーションが、より積極的に練習に励む力となり、次世代の名プレイヤーを輩出する力となっている。

第2に、各連盟の枠を超えた選手強化が日常的に行われていることにある。小学校連盟と中体連、中体連と高体連、中体連と社会人連盟や実業団連盟との間で、定期的、あるいは必要に応じて練習会や大会を開催し、相互交流と選手強化を図っている。このことは、どの連盟にとってもメリットのあることであり、各連盟の枠を超えた結びつきが、宮城県全体の競技力向上に一役買っている。

さて、宮城県中体連バドミントン専門部では、年間に3～4回の選手強化事業を行っている。

1つ目は、7月上旬に開催している強化練習会である。4月に開催される宮城県バドミントン選手権大会の結果をもとに、各種目ベスト8以上の選手48名を選出して行われる合同練習

会である。県中総体を間近に控えた選手たちの表情は真剣そのもので、スパーリングパートナーを務める高体連や社会人連盟の選手たちの胸を借りて､必死でシャトルを追いかけている。

２つ目は、７月下旬から８月上旬にかけて、東北大会に出場した選手を対象として開催する強化練習会である。東北大会を勝ち抜き、全中で活躍できるよう、高体連や社会人連盟、そして実業団連盟からも選手の派遣を依頼し、試合中心のメニューを行うものである。

３つ目として、１月上旬に、県新人戦の結果をもとにして選手を選抜し、県内での強化練習会または県外遠征を行っている。近年は岩手県への遠征が恒例化している。各種目ベスト８以上の選手48名を選出し、専門部が引率をしてバスで移動をする日帰り遠征であるが、岩手県の中学生、高校生選抜との交流試合は得るものが多く、今後も継続していきたい事業である。

他にも、県内バドミントン部顧問を対象とした指導者講習会を開催したこともある。塩釜ジュニアの佐々木監督などの実績のある指導者から、指導方法や指導者としての心得を学ぶこの講習会は、好評を博している。また、審判講習会を開催した年度もある。

今後、当部における課題として考えられていることは、次の３つである。

まず第１に、男子選手の低レベル化である。総選手数自体が減少している今、全国に通用する選手が現れにくいのは自然な流れかもしれない。しかし、女高男低の構造を打ち破らない限り、宮城県全体としてのレベルアップは難しいものと思われる。

第２に、聖ウルスラ学院英智以外の中学校の底上げである。平成16年にウルスラにも男子バドミントン部が創設され、年々力をつけている印象がある。男女ともウルスラに負けまいと努力をしているはずであるが、どこかに諦めムードがあることも否めない。「強豪校に追いつき追い越せ」という気概をもち、切磋琢磨してもらいたい。

第３に、次代を担う専門委員の育成である。教員採用の減少に伴い、競技経験や指導経験のある教員の採用も減少し、専門委員の高年齢化が進んでいる。バドミントン競技に興味をもち、熱心に指導したいという思いをもつ教員を育成していくことも、当部にとって必要なことである。

最後に、当部の発展のために並々ならぬご協力をいただきました先輩諸氏に感謝いたしますとともに、これからを支えていただく現役員の皆様の活躍に期待したいと思います。



秋田県
バドミントン専門部の歩み

秋田県中体連バドミントン専門部委員長　佐々木　紀子



秋田県の中体連の各種バドミントン大会は、長く美郷町で開催されていた。県南地区にバドミントンの競技人口が多いことや国体のバドミントン大会が開催された体育館リリオスか建築されたことにもよるものである。ただ、全県規模で見てみると中学校での競技人口は決して多くはなく、部活動として学校内で活動している学校も少ない。どちらかというと各地域のサークルや社会教育の一環として活動している生徒が多く、個人で活動している生徒の方が多いというのが実情である。そのため、近年では、中体連の大会でも、個人戦で活躍する生徒が増えてきている。

これまでの成績を見てみると、団体優勝した学校は男子は西仙北東中学校、仙南中学校が女子は八郎潟中学校、西仙北東中学校、仙南中学校が優勝回数を重ねてきている。その中でも近年では、八郎潟中学校の女子団体が部員数が少ない中で県総合体育大会で五連覇を達成している。部員数の関係で団体を組める学校が限られているため、少ない団体数の中で各校とも大会に向けて練習を重ねてきている。個人戦では、秋田県の実情として、個人で活動している生徒が多いため、個人戦に出場する生徒が増えてきており、男女のシングルス・ダブルスともに県内各校で優勝者が出ている。



平成15年と16年には、東北で毎年行われている研修大会が2年連続で秋田県で開催されている。参加した生徒たちは大変多くの収穫を得ていたようであった。このように生徒が他県の学校の選手と一緒に練習し、多くの試合をしながら交流するということは大変貴重な機会であった。このような経験をしたことも刺激となり、女子団体と男子個人での東北大会上位入賞という大きな成果になったのではないかと考える。具体的な成績としては、女子団体が平成16年度に西仙北町立東中学校、17年度は八郎潟中学校が県大会で優勝、ともに東北大会で第3位になっている。そして、2年連続秋田県の女子団体が全国大会に進むことができた。個人では菅澤伸哉さん（五城目第一中学校）が男子シングルスで県大会で優勝、東北大会で第2位になり、全国大会出場を果たしている。

このように、中体連主催の総合体育大会で上位の成績を残し、東北大会、全国大会に参加することが選手たちの大きな目標になっている。また、その他にも東北各地で行われる大会がいくつかある。秋季大会は、3年生が引退し、1・2年生が参加する大会であるが、その秋季大会の成績上位者が出場する大会が、この大会終了後冬から春にかけて行われる。東北各県で行われる東北研修大会、青森県弘前市で行われる東北中学校バドミントン選手権大会などがそれに

あたるわけであるが、この大会があることで、秋季大会に参加する選手もより意欲をもって向かうことができるのではないだろうか。秋季大会後、冬から春にかけて、各種大会への参加という目標をもって練習に取り組めることやその大会で試合経験を積み試合感覚を磨くことができることなどが、夏の県大会に向けて力をつけることにつながってきていると思われる。

また、秋田県のバドミントンの活動は、地域と密着した活動や地域の指導者と連携が欠かせないものであると考える。保護者の方々、地域の指導者の方々、バドミントン協会やバドミントン連盟の方々との協力を得ることでより、スムーズな活動ができていると思われる。このように普段の練習でも協力をいただいているが、中体連主催の各種大会でもバドミントン協会の方々などから運営面でも多大な協力をいただいている。また、1年を通して強化指定選手を中心とした強化練習会を定期的に開催してもらっている。生徒は、その練習会でより専門的な指導を受けている。それに、高校生など普段一緒に練習できないような選手たちと交流試合をすることもあり、学ぶことの多い会となっている。この他にも、協会主催の各種大会に多くの生徒が参加している。試合経験を積み、実践力を身に付けることのできる貴重な機会となっており、生徒の活躍する姿が見られる。

平成19年には秋田わか杉国体が開催された。ここでは、中体連主催大会等で活躍した選手がバドミントンの少年男女の部に出場して活躍していた。また、成年男子が優勝、成年女子は準優勝というすばらしい成績を収めることができた。バドミントンの試合を観戦しに出かけたり、大会ボランティアとして運営面を手伝ったりした生徒たちも多く見られた。生徒たちは実際の迫力ある試合を身近に見ることができ、大変感動したようであった。国体の場で、少年の部では、自分にとって身近な先輩たちが活躍している姿を見ること、青年の部では、秋田県選手の華やかな成績を目の当たりにすることは、生徒にとって今後、バドミントン競技を続ける上での目標の一つになったのではないだろうか。

運営面では、部活動として活動している学校数が少ないこと、バドミントンを指導できる教員が少ないため、難儀しているのが実情である。バドミントン協会との連携を密にすること、各校で連絡を取り合うこと、役割を分担することなどでより効率的で、そして生徒のためになる運営の仕方を今後も考えていきたい。



山形県中体連
バドミントン専門部の歩み

専門委員長　那須　勲



この度は、全国中学校バドミントン大会開催40周年にあたりまして、誠におめでとうございます。

私事になりますが、山形県中学校体育連盟バドミントン専門部の専門委員長を務め、3年目となります。昭和32年に県総体にバドミントン種目が新設されてから本年度で第50回大会を迎えます。これまで関わってこられた歴代部長・各顧問の先生方には感謝しております。またその間、専門部としての運営・活動を支えてこられた歴代の委員長さん方、森先生、岡崎先生、杉山先生、佐藤実先生、小関先生、小林先生、佐藤健治先生、我孫子先生、滝田先生、安達先生、佐竹先生に続き、ちょうど中頃（昭和56）にラケットを握っていた私が、歩みについて書かせて頂いている巡り合わせに、感慨深いものを感じています。専門部としての長い歴史を執筆するにあたり、あらためて読ませて頂いた山形県中体連50周年記念誌の中から幾つか振り返らせていただきたいと思います。

まず、専門部創設の前年の昭和45年に全国中学校選手権大会の第1回大会が東京で開催され、男子は山形三中、女子は明倫中が出場し、その後昭和50年の全国大会で女子の日新中が団体ベスト8に入りました。この頃の県大会は男子山形三中・女子日新中が50年代後半まで連覇連勝を続けていました。特に昭和56年、全国大会が学校対抗になったことに伴い、予選を兼ねて行われた第2回東北中学校大会が本県新庄市で行われ、地元日新中女子が団体優勝に輝きました。昭和58年には全国大会が本県新庄市で開催され、男子は鶴岡一中、女子は日新中が出場し、女子個人シングルスで、大山中の秋葉奈美選手がベスト8入りを果たしています。昭和63年頃より、平成4年べにばな国体に向けた強化が始まり、この間委員長を務められた小関徳雄・小林昭一両先生の献身的なご苦労ぶりは想像に容易いものです。その間平成2年に本県で行われた第11回東北中学校大会で、米沢三中の山口美羽子選手がシングルスで優勝し、沼台中の佐藤義行選手が準優勝しています。山口選手は全国大会でベスト8と、本県7年ぶりの入賞を果たしています。平成に入り、平成8年山形五中女子、平成9年鶴三中女子、平成10年山形五中女子、平成11年山形一中男子（ベスト16）・天童二中女子、平成12年天童二中女子、平成13年鶴岡一中男子・舟形中女子・天童二中女子、平成14年米沢二中女子・天童二中女子、平成15年鶴岡一中男女・長井南中男子、平成16年山形三中男子、平成17年山形三中男子（ベスト8）、平成18年鶴岡三中男女、平成19年山形三中男子、平成20年天童二中女子、昨年平成21年は山形三中男子・天童二中女子が団体で全国大会に駒を進め、天童二中は女子で久々となるベスト8入りを果たしました。この間、東北大会常連校ともいえる学校の中で、小学校からの経験者がほとんどいない山形一中の県大会四連覇や、鶴岡一中・三中のようにスポ少・中学・高校の良い連携がとれた中での上位大会進出など、いずれのスタイルでも全国と戦う姿が他の中学校にとって、「自分たちもやれる」という励みになってきたと思われます。個人戦では上記中学校の選手たちが激戦を繰り広げる中、全国大会での一勝がなかなか

越えられずにいましたが、近年では平成16年長井南中の安部・佐藤組が男子ダブルスベスト8、平成18年鶴岡三中の三浦貴大選手が男子シングルス、佐藤・渡部組が男子ダブルスでそれぞれベスト16、平成19年山形三中の大山琢也選手が男子シングルスベスト8、平成21年鶴岡四中の五十嵐優選手がベスト16と確実に上位入賞を収めております。尚、五十嵐選手はジュニアナショナルチームU16に選抜され、今後の活躍が大いに期待されるところです。

本県のバドミントンの競技普及や強化面を考えた時、中学校においては、お家芸や王国とも呼ぶべき非常に盛んな地区がある半面、全県的にはまだまだ偏りがみられる実情がありました。若い世代の強化のため、諸先輩方はそこからスタートし、新庄市スポーツ教室の中で始まった県新人大会も、平成3年からは山形と新庄で隔年開催という形で全県大会として定着するまでになりました。宿泊を伴わない大会開催という県中体連の方針に沿いながらも、競技普及面で、団体戦は自由参加として裾野を広げる努力をされてこられました。しかし近年では参加校が増加し、一日での開催が難しくなったことで、地区大会結果による参加制限を設けざるを得なくなってきています。県専門部主体の強化としては、田川地区協力で行われる東北・全国大会に向けた夏の強化合宿と、県新人結果による優秀指定選手事業による秋の強化練習会があります。夏の暑さの中、体育館での練習を終えた後、宿舎である湯田川温泉まで長い距離を走って帰る選手の姿は、この合宿の定番となっています。またこれまでは秋の強化練習会は、都道府県大会の選手選考を兼ねて、県内選手のみで行ってきました。しかし、東北大会の決勝が全国大会の決勝と言われるほど東北を勝ち上がることが大きな壁となる中、選手育成や強化のノウハウを監督やチーム各個のものだけにしていては県全体の向上はありません。そのため、他県選手に学ぶ機会をと、他県との交流試合を全県規模で行えるようにシフトを図りました。現時点では福島県専門部の多大なるご協力を頂いて実施していますが、今後も交流を広げる事ができればと考えます

最後になりますが、私が中学生だった頃と比べて大会や練習の機会は格段に増え、望めば掴めるチャンスは数多くあると感じられるようになりました。これはひとえに中学生を思い、熱い情熱で接していただいた歴代の諸先生方と、思いを実現するために惜しみない協力と尽力して頂いた県・地区協会及び関連各店のおかげであると、あらためて感謝いたします。限られた紙面故、記録等足りないところがありますことお許しください。今後もご指導とご協力をいただき、県選手がより広い場所で活躍してくれるよう多くの機会をつくっていければと思います。県勢を語る時に「昔は～」で始まるのではなく、「今の～」で語ってもらえるよう微力でも頑張って取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

バドミントンとの出会い及び福島県の歴史

福島県中体連バドミントン専門部委員長　高橋　哲郎



全国中学校バドミントン大会開催40周年おめでとうございます。記念誌の発行にあたり、専門部を代表して執筆させていただきます。

まず、私とバドミントンとのつながりについて述べさせていただきたいと思います。

出会いは、小学校6年生にさかのぼります。当時、時間割の中に週1時間あった「クラブ活動」で「バドミントンクラブ」に入ったことでスタートしました。中学校でもバドミントン部に入部しました。部長という大役を任され、今となってはあのときの経験が今の自分の礎となっていると思っています。その影響で、教員を目指し、子どもたちにバドミントンを通して成長していってもらいたいと思うようになりました。自分なりに指導をしていましたが、荒井先生をはじめ県内外の多数のすばらしい先生方に指導方法などを教えていただき、指導者としてたくさん勉強することができました。

バドミントン部の顧問年数は8年目です。技術面、メンタル面、体力面、指導の仕方などまだ手探り状態です。たくさんの諸先輩方からご指導いただきながら子どもたちの指導に携わっていきたいと考えています。そして、縁がありまして、平成21年度より福島県中体連バドミントン専門部委員長を務めさせていただいております。

次に、中体連福島県大会のあゆみについて述べさせていただきます。福島県中学校体育大会は、昭和33年以来52回を数える歴史と伝統のある大会であります。平成13年から種目別の開催となり、県内各地において各競技が開催され今に至っております。バドミントン競技は1年遅れて昭和34年以来51回を数え、平成21年度は会津若松市において開催されました。

バドミントン競技の歴史を振り返ってみますと、第1回（昭和34年）大会の男子団体は高田中学校、女子団体は若松第一中学校が優勝いたしました。その後会津地区の学校を中心に、相双地区、県中地区の学校の優勝が続きました。特に、若松五中男子が昭和59年から平成7年まで12連覇の偉業を成し遂げました。その一時代を築いたのが先にも述べた荒井恒明先生です。その大記録は今でも破られていません。その後、男子は白河中央中、東和中、立子山中、女子は、若松二中、東和中、白河中央中などが優勝校に名前を連ねるようになりました。そして平成18年からは、平成21年度全国大会で女子団体優勝を飾り、現在全国大会上位常連校となっている富岡一中が、男女とも連覇しているところです。詳しくは、別表をご覧ください。

最後になりますが、福島県中体連バドミントン専門部として、体力・競技力の向上、心身両面にわたる健康の保持増進、そして活力ある健全な社会の形成を目指すとともに、全国中学校体育大会のこれからの益々の発展をご祈念申し上げます。

別表　　福島県中学校体育大会バドミントン競技団体戦優勝校

	男子	女子
昭和34年	高田中	若松一中
昭和35年	ザベリオ中	若松一中
昭和36年	若松一中	若松一中
昭和37年	若松一中	若松一中
昭和38年	若松一中	門田中
昭和39年	若松一中	門田中
昭和40年	原町三中	白岩中
昭和41年	若松四中	広野中
昭和42年	若松二中	広野中
昭和43年	若松二中	喜多方二中
昭和44年	原町一中	広野中
昭和45年	若松二中	広野中
昭和46年	西山中	広野中
昭和47年	若松四中	広野中
昭和48年	白岩中	裏磐梯中
昭和49年	裏磐梯中	天栄中
昭和50年	裏磐梯中	鹿島中
昭和51年	若松四中	鹿島中
昭和52年	若松四中	裏磐梯中
昭和53年	若松二中	河内中
昭和54年	裏磐梯中	新鶴中
昭和55年	裏磐梯中	川俣中
昭和56年	裏磐梯中	楢葉中
昭和57年	裏磐梯中	川俣中
昭和58年	鹿島中	ザベリオ中
昭和59年	若松五中	ザベリオ中

	男子	女子
昭和60年	若松五中	東和中
昭和61年	若松五中	ザベリオ中
昭和62年	若松五中	若松五中
昭和63年	若松五中	若松五中
平成元年	若松五中	若松五中
平成２年	若松五中	若松五中
平成３年	若松五中	湯本三中
平成４年	若松五中	湯本三中
平成５年	若松五中	湯本三中
平成６年	若松五中	若松五中
平成７年	若松五中	石川中
平成８年	白河中央中	白河中央中
平成９年	立子山中	若松二中
平成10年	白河中央中	白河中央中
平成11年	白河中央中	若松二中
平成12年	東和中	若松三中
平成13年	白河中央中	小白井中
平成14年	立子山中	東和中
平成15年	東和中	若松二中
平成16年	東和中	東和中
平成17年	東和中	若松二中
平成18年	富岡一中	富岡一中
平成19年	富岡一中	富岡一中
平成20年	富岡一中	富岡一中
平成21年	富岡一中	富岡一中

全国中学校バドミントン大会雑感

元東北ブロック専門委員長　荒井　恒明



全国中学校バドミントン大会開催四十周年誠におめでとうございます。

この記念すべき節目の年に原稿作成の依頼を受けましたこと関係者の一人として感謝申し上げます。

現役を退ぞいて七年になりますが、長年この道に携わってきたおかげで、今でも地元(会津)、県協会の役員としてバドミントン界で楽しく、生き甲斐をもって生活しております。

さて中体連の全国大会に出場するということは、現役中はまさに指導者の夢であり、命と言っても過言ではないかと思います。

昭和末期から平成にかけての本県のバドミントンレベルはジュニアの指導育成が遅れ、県では勝てても東北ブロックにて常に３～４位に甘んじていた時代が続いておりました。

それだけに、団体、個人にかかわらず、全国大会に出場が決まった瞬間の喜びは、関係者一同大いに盛り上がったものです。

教師として指導者として「やって来て良かった」と充実感、成就感に浸れる瞬間でもあります。

また生徒が最高の笑みを見せ、輝く時でもあります。

全国大会に何度か出場する中で印象深かった二つのゲームを紹介します。

一つは、平成元年の山口県山口市の大会です。

対戦相手は近畿ブロック一位のＵ中学校、ジュニア育成の進んでいるチームで、とても中学生からバドミントンを始めた我校（会津若松五中）に勝ち目はありませんでした。

オーダー提出の作戦に相手は溺れたのでしょう？相手校はトップダブルスを残したまま我校に敗れてしまったのです。

勿論、個人単に登録なかった我校のシングルスが自力を発揮したのは言うに及ばずであります。

準々決勝の相手は四国ブロックのＫ学校、全国制覇が何度かある強豪チームです。

ラケット握って２年半余りの我選手達はここでも大奮闘、単の試合では相手にマッチポイントを先に取り追い詰めたものです。

でも流石全国の伝統校、結局、大魚をのがした結果で終わりました。

それでも選手達の満足の顔･顔･顔……でした。

ご褒美に当地の有名な秋吉台のカルスト地形（鐘乳洞）の見学を実施し、思い出作りが出来たものでした。

ところで私は東北ブロック長を平成五年より九年までの五年間勤めました。

ブロック長として東北地区を上手にまとめ上げたとは申しませんが、本当にいい経験が出来たと今でも思っています。

何といっても一番の宝は東北、全国にたくさんの友人が作れました。

退職して七年経っても事あるたびに電話や手紙、メールが入り、後輩のバドミントンコーチのために、役立っているようです。

そしてそれが私の大きな支えともなっています。

現在小さなクラブの顧問として、地区の会長としてこの世界にいることを誇りとして小さな幸福を感じています。

全中バドミントン部の益々の発展を祈願しつつペンを置きます。おめでとうございます。

ブロック長をつとめた四年間



青森県中体連バドミントン専門部　弘前市立第一中学校　太田　英也

ブロック長を宮城県の黒澤栄志先生から受け継いだのが15年でした。東北ブロックで一番古株だったことで、おはちがまわってきました。以来、15年から18年まで四年間ブロック長をさせていただきました。

一番の思い出は、全中の組み合わせ会議に2回立ち会ったことでしょう。16年の旭川と17年の茨城の際に隣接ブロック長として同席させていただきました。小野先生はじめ、全中事務局の先生方の手際の良さと全中の組み合わせの難しさを実感しました。

全国のブロック長の先生方と知り合いになったことは、一番の財産になったと思います。

ブロック会議では3月の全国中学生大会の混合ダブルスを隔年で男女のシングルスに換える案が出され、数年後に実施されました。また、ブロック長として全国大会を本部席中央で見せていただき、大変勉強になりました。当時中学生だった選手が、現在日本のトップクラスの選手になっているのは感慨深いです。

さて、18年に弘前市（青森県武道館）・黒石市（スポカルイン黒石）にて全日本中学生バドミントン選手権大会を開催しました。

全日本中学生バドミントン選手権大会は日本バドミントン協会の一種大会ですが、勤務に対する軽減措置が無く、しかも3月に大会ということで、多忙を極めました。さらに、私事で1月に日本中体連研究大会の発表もあったので、個人的には人生で一番忙しかったのではないかと思います。

3会場で行う予定を2会場に変更するなど、手直しが多く、必携や文書作成に深夜まで追われる毎日でした。また、大会結果をホームページにのせるということで、大会結果はすべて入力処理して、ペーパーレスで進めるようにしました。

大会そのものは式典から競技まで大変スムースにすすみ、交流試合も喜んでいただけたようで、安心しました。そのなかでも青森Aチーム。Bチームともに決勝トーナメントに進むことができたのは、強化策の成果だと思います。全国大会開催にあたって、お手伝いしていただいた皆様にこの場を借りて感謝したいと思います。

全国大会を実施したことで、青森県内の顧問の先生方の中に「全国大会ができた」という自信が芽生えたのは大きな収穫でした。

全国大会ができたのだから東北大会はできるだろうということで、19年から東北中学校バドミントン選手権大会（東北の新人戦）を12月の下旬に青森県で開催しています。今年で3年たちましたが、各県とも団体戦・個人戦ともフルエントリーで、本当の意味で東北のナンバーワンを決める大会になりました。

これまで、小野先生はじめたくさんの先生方にアドバイスいただき、また、尽力いただきありがとうございました。バドミントン専門部のさらなる発展を期待しています。

全国中学校大会を振り返って



聖ウルスラ学院英智中学校　バドミントン部　監督　常田　貴裕

全国中学校バドミントン大会、40周年、誠におめでとうございます。今回、全国大会40周年記念誌作成にあたり、このような機会を与えて頂き、誠に感謝しております。

私が本校のバドミントン部監督に就任したのが平成7年です。それから、一心不乱に頑張り、現在に至り16年目になります。

多くの関係者、または諸先輩方の尽力や援助があり、この期間に団体優勝を4回もすることが出来ました。どの優勝も思い出があるのですが、監督就任後の初優勝について振り返ってみたいと思います。

この時の全中は、平成12年度第30回熊本大会でした。そして、この大会よりシャトルが、ナイロン球より水鳥球に変わった、歴史的に大きな変化の年でもありました。

この年の本校のチーム構成は、現在日本ユニシスで活躍している平山優を絶対的なエースとしていました。その平山のシングルスを中心に望んだ熊本大会。私の思惑通りに試合が運び、順調に準決勝まで駒を進める事が出来ました。準決勝の相手は、今大会優勝候補筆頭、地元の鏡中学校でした。私も初めて経験しましが、会場の半分以上が地元応援団そして地元テレビ局や報道関係者がコートを取り囲み、完全アウェーだったのです。試合はエースダブルス、エースシングルス同士が戦う2面同時展開で始まりました。ラリーが終わるごとに大歓声が上がり、会場が地鳴りのように震えていました。選手も最初はその様な状況に戸惑いを感じていましたが、徐々に自分達のプレーが出来るようになっていきました。シングルスの平山は、無難に相手をストレートで押さえて、貴重な1ポイント上げて帰ってきました。その流れに乗りたいところでしたが、第1ダブルスは、上手く1ゲーム目は先取したものの、相手の地元応援の力が、2ゲームになると強くなっていき、取り返されてしまい、ファイナルゲームに持ち込まれてしまいました。第2ダブルスは、すでに鏡中に持っていかれてしまい、俄然勢いは鏡中有利という状況。ファイナルゲームは一進一退の攻防が続き、結局最後の14対14のセッティングまでもつれ込みました。さらに、16対16。最後は7回のサービスオーバーがあり、鏡中がスマッシュをバックアウトして、激闘に決着が着きました。時間にして約1時間40分。非常に長く、苦しい時間でした。

私も少し興奮状態でしたので、決勝の内容は正直、よく覚えていませんが、最後ダブルスの古山がプッシュを打って、一緒にガッツポーズをして座席を立ったのは覚えています。

最後に、全国中学校バドミントン大会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

私の人生を変えてくれた大会、そして恩師

青森県　米谷　真智子



青森県の田舎町に住む、特に勉強が優れていた訳でもなく、運動がずば抜けて得意だった訳でもない少女だった私の人生を変えてくれたのが、この「全国中学校バドミントン大会」と「恩師」の存在です。

ダイエットの一環として、羽打ち感覚で始めた私にバドミントンはあまりにもハードでありながら、楽しいスポーツでした。

当時、弘前市では「弘前一中」がとても強く、全国でも強豪チームとしていつも新聞に

載っていましたが、偶然にもその強豪チームで練習することになりました。が私はそんなつもりは全然無く、「太らなければ」と「冬休みだけ」の気持ちで行っていましたが、そこで全国でも超一流の指導者「高屋　仁先生」と運命の出会い。

高屋先生は私の人生を最高の人生に変えてくれ、しかも夢や勇気を与えてくださった恩師です。自分に自信がなく、何をやればいいかも分からなかった私に、進むべき道を示してくださった人です。

今私は青森県で中学校の教諭をやっています。中学校の保健体育の教員になりたいと考えたきっかけは「高屋先生」です。高屋先生のように、生徒へ自分を誇りに思えるような自信と失敗を恐れず取り組む勇気を与えられるような人になりたい。中学一年生時にそう思いました。

初めての全国大会は緊張の連続で…今思い出しても心臓がバクバクします。団体戦は仲間と一緒に戦っているので、苦しくはなかったのですが、個人戦になった途端、１人になった感じがして…コートチェンジしながら体育館のドアから逃げだそうと思ったくらいです。そんな気持ちの小さい私がシングルスで三位になりました。一番嬉しかったのは両親が喜んでくれたこと。「この私が中学生の中で３位なんて」信じられない気持ちでいっぱいでした。そして２年、３年と連続で優勝。私にしかない才能を発見できた大会なのです。

この全国大会があって、出場できて、そして優勝、入賞して私はたくさんのことを学び、素敵な仲間を得ることができました。

そして高屋先生は勝つバドミントンだけでなく、生きていく上で必要なことも教えてくださいました。

「挨拶・返事」「周りに感謝する心」そして「一つのことを最後までやり遂げる気持ち」

この３つは、私自身の軸になっています。

これからも中学校でバドミントンを指導していく私。一度全国大会に監督として出場できましたが、団体戦が２回戦、個人戦は一回戦敗退という結果でした。なかなかこの大会で勝利することは難しいですが、この大会に出場することを目標に、生徒達と一緒にコートを走り回っています。生徒の可能性は無限大。その可能性や才能を見つけるお手伝いをこれからもやっていきたいと思っています。



関東ブロック



4 回関東オープン（上尾市）



29 回関東大会（甲府市）



30 回関東大会（前橋市）



30 回関東大会（前橋市）



31 回関東大会（上尾市）



39 回関東大会（伊勢崎市）

41回目の関東大会



関東中学校体育連盟バドミントン専門部　専門部委員長　小野　理

本年8月7日～9日の会期で、茨城県鹿嶋市において41回目の関東中学校バドミントン大会が開催される。全国中学校バドミントン大会より開催回数が1回多い。関東ブロックでは、全国大会に先んじて、昭和45年、第1回関東中学生バドミントン大会が栃木県真岡市にある栃木県立真岡女子高等学校にて、5都県を集めて開催された。この大会の発起者は遠井稔男先生（元財団法人日本バドミントン協会副会長・当時、全国高体連競技部長）、故・池田昌道先生（元財団法人日本バドミントン協会理事）であった。その後、第6回大会までは主催者も定まらず、紆余曲折の中、関東バドミントン連盟、関東教職員連盟等のご支援をいただきながら、どうにか大会を開催することができた。昭和51年、第7回大会が茨城県石岡市で、初めて学校対抗戦として1複2単で開催された。このことは、関東甲信越地区（隣接都県）内を教育活動として認めた大会であった。同時に関東ブロックでは、個人戦を取り入れ各都県2校2複2単出場方式を実施し、現在の礎を作り上げた。第7回～第10回まで、参加各都県間の交流、強化も図られ充実期を迎えた。特に、各都県委員長会議等が開かれ、中体連組織が形作られていった。昭和55年、第11回大会が栃木県真岡市で開催された。この年より全国中学校選抜バドミントン大会のブロック予選会として、関東大会が位置づけられた。現在と同様の関東大会を経て全国大会という出場形式となった。競技のみならず、開会式、歓迎レセプションや閉会式（表彰式）についても、全国大会と遜色のない形と規模で行われた。平成元年には、関東中学校バドミントン大会開催20周年を記念し、記念式典及び功労者表彰・学校表彰を千葉市（千葉県総合運動場体育館）にて実施するとともに、「20周年記念誌」を発刊した。その後、専門部表彰については継続的に行われ、大会の開会式後に実施していたが、長時間にわたる開会式の後にさらなる表彰時間がかかり、選手の健康や安全面を考慮し、昨年（平成21年）の第40回関東中学校バドミントン大会（神奈川県川崎市）より、監督会議後に変更した。また、全国大会入賞監督賞については今の時代にそぐわない理由から廃止し、学校表彰（5年連続出場校又は通算7回出場校）と功労者の表彰の二つの表彰とした。この表彰に関わる経費については、関東中学校体育連盟バドミントン専門部から拠出しており、都県委員長の他に、事務局長を置いて、長年にわたり専門部の活動を進めてきた。近年のインターネットの普及により、関東中学校体育連盟バドミントン専門部のホームページも設立し、事務局長が主にサイト運営にあたっている。全国的にもこのような事務局長をおいての組織運営は他ブロックにはないと自負するものである。平成11年の群馬県前橋市での第30回関東中学校バドミントン大会では、開催30回を記念し、待望の男女団体戦の優勝旗を新調した。近年、関東中学校バドミン



第20回　関東中学校バドミントン大会
平成元年8月8日～10日　千葉県総合運動場・体育館

トン大会は体育館施設・設備の拡充により、体育館内にエアコンを入れて、全国大会並みの競技環境で大会実施をすることが増えてきた。各都県委員長も持ち回りの大会ではあるが、体育館施設・設備を一番に考えて、体育館の選定と準備にあたっている。また、大会記念品をすべての選手、役員にも贈呈しており、大会プログラムもその都度、工夫された内容で、全国大会に匹敵するようなプログラムでもある。

関東では早い時期から多くの指導者が都県の枠を超え、日々の指導に努力され、数多くの全国優勝校、チャンピオンを生み出すことができた。特に、昭和59年から、関東中学校指導者講習会並びに選手強化会を12月下旬（又は1月初旬）に実施し、各都県の選手強化はもとより、指導者の研修・育成の場とした。第1回目は昭和59年12月25日～27日の会期で、茨城県筑波大学にて、筑波大学バドミントン部の全面的な協力により開催している。その後は、開催都県にて企画・運営され、指導者講習会の講師には当時のナショナルチームの監督や元日本代表選手等を招聘したこともあった。この会は各都県の専門部や若手の指導者に大きな影響を与え、各都県で積極的な強化練習会や合宿を開催する切っ掛けとなる。平成6年1月6日には開催10回（茨城県石岡市）を記念し、記念誌を発刊するとともに、祝賀会と10回連続参加指導者の表彰を実施した。しかしながら、強化練習会の内容がマンネリ化し、各都県での新規教員の採用が激減する傾向から、若手の指導者の参加が少なくなり、指導者講習会も行き詰まりを感じるものになった。そこで、新たな強化施策として、各都県選抜選手による団体戦（1複2単）による大会に移行することになる。より高いレベルを目指し、全国の強豪チームを招き、さらには将来を見通して大会使用シャトルは水鳥球を使うことになる。平成9年1月4日に千葉県野田市にて「第1回関東中学生オープンバドミントン大会」が開催される。関東ブロック以外からは、熊本県、滋賀県、岡山県、長野県が参加した。この大会も本年1月に、茨城県鹿嶋市にて第14回を数えるに至った。

関東ブロックでは、全国に先んじて、関東ブロック大会が開催されたり、様々な面で全国をリードしてきた。中体連以外でも中学生に関わる方々が「阿見オープン（現在は未開催）」や埼玉県協会主催で「埼玉オープン」が行われ、全国各地から選手が出場している。関東ブロックにはこのような言葉があり、指導者間の合言葉ともなっている。「関東を制するは全国を制する。」関東ブロックは前述した通り、数々の全国優勝校やチャンピオンを生み出してきた。また、高校生や大学生、一般で日本一の頂点に立った選手も数多い。そして、世界選手権やオリンピックに出場した選手もいる。40年間の趨勢をみると、昭和、平成時代の初期は公立中学校バドミントン部の活躍が顕著であった。が、平成も二桁になる頃から、私立中学校の活躍が各都県で目立ち始める。そして、関東以外から進学する者も珍しくはなくなってきている。公立中学校でも、外部指導者との連携で日々の練習から大会時のコーチ役等で、新たな部活動の時代に入ってきている。本記念誌が発刊される平成22年度は第11回全日本中学生バドミントン選手権大会が平成23年3月に埼玉県熊谷市において開催される。この大会の準備も埼玉県だけではなく、関東全体で協力して準備していこうという動きがある。このような風潮は以前からあり、関東地区にはそれを象徴するもう一つの合言葉がある。「関東は一つ。」今後も国内の地理的な要因も加わり、関東が全国をリードしていくであろう。しかしながら、関東ブロックの中体連関係者や指導者は将来を見通した先見の明を持たなければならない。そのためにも、先人の志を大切にするとともに、常に己のバドミントン指導を切磋琢磨していくことを忘れてはならない。

最後に本文を執筆するために、「20周年記念誌」に掲載されております元専門部委員長　加藤　勝先生、並びに前専門部委員長　佐伯一之先生の文面をご参照するとともに、文章の一部をお借り致しました。また、各都県委員長の皆様方からは貴重なる記録写真等をいただき、深く御礼を申し上げます。

茨城県中体連
バドミントン専門部のあゆみ



委員長　小島　剛

1　はじめに

全国中学校バドミントン大会40周年を迎え、私たちバドミントン専門部のあゆみを本誌に掲載できることは誠に光栄であり、かつ、過去の実績を振り返るすばらしい機会である。

伝統を築きあげてきた関係諸兄の努力に感謝をしつつ、これからのバドミントン専門部の更なる発展を祈念し、専門部のあゆみを振り返ってみようと思う。

2　あゆみと活動状況

＜平成11年度＞　阿見中男子と国府中女子が関東大会、全国大会で大活躍

関東大会男子団体で阿見中が優勝、女子団体で国府中が準優勝を果たした。個人戦の男子ダブルスでは青山・黒田組と糸井・宗形組の阿見中同士の決勝となり、青山・黒田組が優勝を飾った。また、女子ダブルスでも清水・綿引組と森・清水組の国府中同士の決勝になり清水・綿引組が優勝を飾った。茨城勢のダブルスの活躍が光る大会だった。

全国大会では、男子団体で阿見中が2年連続3位入賞、女子団体で国府中が2年連続準優勝であった。個人戦では清水・綿引組（国府中）が見事優勝を果たし茨城勢のレベルの高さを全国でも示した。

＜平成12年度＞　阿見中男子ダブルス初の全国制覇

関東大会では、男子団体で阿見中が見事2連覇を達成した。個人戦では、男子ダブルスで高島・黒田組（阿見中）が安定した力で勝ち抜き、見事優勝を果たした。黒田は男子ダブルス2連覇となった。

全国大会では、男子団体で、阿見中が決勝まで勝ち進み、惜しくも優勝は逃したが、準優勝に輝いた。個人戦では関東同様、高島・黒田組（阿見中）が力を十分に発揮し、見事優勝を果たした。

＜平成13年度＞　阿見中男子ダブルス全国大会連続制覇

関東大会は本県開催となり、石岡市運動公園体育館を会場に行われた。男子団体で阿見中が3位に入賞し開催地での成果をあげた。個人戦では男子ダブルスの糸井・木村組（阿見中）が粘り強く準決勝まで勝ち上がり、3位入賞を果たした。

全国大会では団体戦では勝ち上がることはできなかったが男子ダブルスでは関東3位だった糸井・木村組が安定した力で見事優勝を果たした。阿見中男子ダブルスは2年連続全国制覇を成し遂げた。

＜平成14年度＞　関東大会で阿見中男子団体・ダブルス3位入賞

関東大会では男子団体で阿見中が3位に入賞した。また、男子ダブルスでは小松崎・青山組（阿見中）が巧みなコンビネーションで勝ち上がり、見事3位に入賞した。

全国大会では、男子団体で阿見中が、男子ダブルスで小松崎・青山組（阿見中）出場するが、1回戦は勝つものの2回戦で惜しくも敗退した。

＜平成15年度＞　阿見中・石岡城南中が関東大会、全国大会で活躍

関東大会では男子団体で石岡城南中が見事準優勝に輝いた。阿見中も3位と健闘を見せた。個人戦では男子ダブルスで野口・高島（阿見中）が2年生ながら順当に勝ち上がり見事3位に入賞した。

全国大会は男子団体では阿見中が準決勝まで勝ち上がり、見事3位に入賞した。また、石岡城南中も勢いに乗り、ベスト8まで勝ち上がった。男子シングルスで篠崎（阿見中）が粘り強いプレーで勝ち進みベスト8に残った。個人戦も団体戦も男子の活躍が光る大会であった。

＜平成16年度＞　全国大会地元茨城県開催　阿見中　男子団体準優勝　男子ダブルス　3位入賞

関東大会は、地元茨城県開催の全国大会をひかえ、強化を図ってきた成果が現れた大会であった。男子団体では阿見中が準優勝、茗溪学園中が3位入賞とベスト4に2チームが入る活躍を見せた。個人戦では、男子ダブルスで高島・野口（阿見中）が順当に決勝まで勝ち上がり、準優勝を果たした。

全国大会は地元茨城県開催となり土浦市、霞ヶ浦文化体育会館で行われ盛大な盛り上がりを見せた。男子団体では阿見中が関東大会同様決勝まで勝ち上がり、見事準優勝に輝いた。男子ダブルスに出場した高島・野口組（阿見中）は危なげなく勝ち上がったが、準決勝で埼玉栄中と対戦し、惜しくも敗れ3位入賞となった。専門部一同協力して大会運営にあたり、記念に残る盛大な全国大会が実施できた。

＜平成17年度＞　全国大会　阿見中男子ダブルス　3位入賞

関東大会では、女子団体で石岡城南中が3位に入賞し、女子団体では久しぶりの全国大会出場を決めた。個人戦では、男子ダブルスで木村・岡本（阿見中）が優勝、篠崎・野口（阿見中）が3位入賞と阿見中のダブルスの活躍が光った。女子ダブルスでも原田・金指が3位に入賞し、全国大会出場を決めた。

全国大会では男子ダブルスで篠崎・野口（阿見中）が安定した力を発揮し、堂々3位に入賞した。　木村・岡本（阿見中）も粘り強くプレーし、ベスト8に入った

＜平成18年度＞　関東大会　阿見中男子シングルス　優勝

関東大会では男子シングルスで岡本（阿見中）が順調に勝ち進み、見事優勝を果たした。男子ダブルスでは山本・浅野（石岡城南中）が接戦をものにしながら勝ち上がり、3位入賞を果たした。

全国大会では、男子シングルスで岡本（阿見中）、男子ダブルスで山本・浅野（石岡城南中）が参加したが、健闘むなしく入賞することはできなかった。

＜平成19年度＞　全国大会　石岡城南中女子ダブルス　準優勝

関東大会は、男子団体で阿見中が見事準優勝を成し遂げた。個人戦では、男子ダブルスで高島・櫻井（阿見中）が準優勝、浅野・森（石岡城南中）が3位に入賞した。女子ダブルスでは七谷・高栖（石岡城南中）が接戦の決勝を制して念願の優勝を飾った。男女とも茨城県勢のダブルスの強さが光った。

全国大会では女子ダブルスで七谷・高栖（石岡城南）が勢いに乗って決勝まで勝ち上がり、準優勝という快挙を成し遂げた。

＜平成20年度＞　関東大会　阿見中学校　男子シングルス　優勝

関東大会では、男子団体で阿見中が準優勝、石岡中が3位入賞を果たし、ベスト4に茨城県勢が2チーム入る快挙を見せた。個人戦では男子シングルスで櫻井（阿見中）が見事優勝を果たした。男子ダブルスでは大森・森田（石岡中）が準優勝、女子ダブルスでは、山本・岡田（石岡城南中）の2年生ペアが3位に入賞し、全国大会出場を決めた。

全国大会では、男子団体で阿見中と石岡中が、個人戦では男子シングルスで櫻井（阿見中）、ダブルスで大森・森田（石岡中）、女子ダブルスで山本・岡田（石岡城南中）が参加したが、入賞はできなかった。

3　おわりに

この10年を振り返ると、毎年関東大会全国大会で活躍できる選手を茨城県から排出している。これも一重に日頃から指導に当たっている部活動顧問の先生方、関係各者の努力のたまものである。近年はジュニアの育成が各県において盛んであり、すでにバドミントン経験者として中学校に入ってくる生徒が多い。また、その反面、少子化の影響もあり、バドミントン部が廃部となる学校が出てきている。バドミントンというスポーツを一般的に広め、盛んにしていくために、我々バドミントン専門部の更なる努力が望まれる。これまで築き上げてきた茨城県中体連バドミントンの伝統を引き継ぎ、さらに選手たちの技術の向上を望みながら専門部一同で指導に当たっていきたいと考える。

（文責　小島　剛）

栃木県中学校専門部の歩み
～創設から現在～



栃木県中体連バドミントン専門部競技委員長　横塚　一弘

全国中学校バドミントン大会も開催40周年の節目を迎えられ、記念誌が発行される運びとなったことは誠にうれしい限りです。また、この記念誌に寄稿させていただけることに対し、光栄に存じております。栃木県中体連バドミントン専門部の略歴についてまとめさせていただきたいと思います。この略歴をまとめるにあたって関係各位から貴重なる資料を拝見させていただいたことにもまた、深く感謝したいと思います。

Ⅰ　創設期

中体連バドミントン専門部の発足は、S28年（1953）にさかのぼる。この年に、県のバドミントン協会の指導と、作新学院の川又先生のお力添えにより発足する運びとなったようだ。専門部は発足したものの、この年には出場校が無く大会開催は実現できなかった。

第1回の県下大会は、翌年29年に作新学院の円形ドーム体育館を会場に開催され、出場校は、作新学院中等部、本郷中、上三川中の3校で優勝が争われ、作新学院中等部が栄えある第1回優勝に輝いた。第2回大会では、清原中が加わり4校になり、清原中の連続5回の優勝となり、その後、上三川中の連続11回優勝の記録が作られた。そのうちに指導者も定着し始めて、下都賀、那須、芳賀、上都賀の各地区で盛んに行われるようになったようである。

Ⅱ　黄金期

全国大会の開催当初は、「栃木の黄金時代」ともいえる時期が継続した。優勝こそ逃すものの、常に全国でもトップクラスのレベルを維持してきた。それを支えてきたのは、現場顧問のバドミントンに対する熱意である。本県は、関東の中でも早い時期からバドミントンの普及強化に着手した県である。関東大会の流れを見ても、初期の頃は、上三川中と東京代表の交換試合に始まり、1年ごとに会場を上三川中と東京で交代しながら開催していたようである。その関東大会も、S45年に第1回関東中学生都県対抗選手権大会が、本県の真岡女子高校の体育館で開催され男女とも準優勝を果たした。このときの主力は、男子が上三川、本郷、女子は、上三川、本郷、中村であった。この第1回の関東大会は、全国大会に先駆けて行われるような形となった。

翌46年の第1回全国中学生大会では、男子が準優勝した福井と1回戦であたり、接戦の末敗北、女子も入賞できなかった。47年も目標のベスト8には届かず、当時の顧問一同、意を決して指導に当たり、翌48年、第3回大会が地元栃木県体育館で開催されたときに成果が花開き、男子は準優勝の栄冠を得て、女子もベスト8に入った。さらに、翌49年第4回大会では、男女ともベスト8に入り、常に全国トップレベルを維持するようになった。その後も51年には、男子が、関東大会団体、個人完全制覇を成し遂げ、全国大会も準優勝、翌52年も全国準優勝、さらに53、54年には、第3位と常にトップに君臨した.55年からは関東大会が全国大会の予選となり、団体戦・個人戦すべてが学校対抗制に移行したが、この年も女子のダブルスで須藤・細井（今市中）が3位入賞を果たしている。56年にも男子Dで柴田・石川（今市中）が第3位に、57年は低迷し、全国入賞は果た

せなかったが、58年に男子Sで大堀（今市中）が準優勝、59年には男子団体で小山二中が準優勝を果たし、個人戦で男子Dの秋津・斉藤（小山二中）が、栃木県中学生で初の全国優勝に輝いた。この頃の強い栃木を支えるものは、優秀な指導者が県を牽引してくださったことはもちろん、合宿や強化練習会など県内顧問が一丸となって指導する体制が整ってきたことに起因すると思われる。また、この頃から中学生のバドミントン技術のめざましい進歩の声や、底辺拡大（競技人口の確保）、小学校からの訓練、小中高の連携の必要性が現場からで始めてきたようである。そして、これまでの強豪栃木を支えてくださった、斉藤佶先生（当時今市中）、塚原紀子先生（当時上三川中・真岡中）、佐伯一之先生（当時小山二中）をはじめとする諸先生方の異動によって、以降、県内有力校の勢力地図に変化が見られ始めたようである。

Ⅲ　成熟期

第16回大会（S61）に男子シングルスで磯部（旭中）、女子団体・女子ダブルスで鬼怒中・小松・鈴木（鬼怒中）が全国準優勝の栄光に輝いてから、強豪栃木の中心が宇河地区に移る形となる。この頃から、その背景には、学校の部活動とタイアップした強豪のクラブチームの存在が大きく関係するようになってきた。それを裏付けるかのように本県中体連40周年記念誌にも「立派な社会体育の指導者の業績に負うところが多い」という記述が見られる。17回大会で、男子旭中が団体3位、18回大会で女子鬼怒中が準優勝、女子Dで大久保・斉藤（鬼怒中）が3位、20回大会で女子D桝田・鈴木（鬼怒中）が3位、21回大会では、男子Dで下鳥・高嶋（小山城南中）が3位、女子Sで普津沢（陽北中）が3位、22回大会では、男子団体で旭中が準優勝、男子Dで青木・山田（旭中）が準優勝、女子Sで関本（旭中）が3位と常に、全国上位の成績が続いていく。そして、4年のブランク後、27回大会（H9）において、県専門部念願の団体優勝を、旭中男子が成し遂げた。この大会では、男子Dで会沢・関野も優勝の2冠に輝いている。その後も30回大会において、男子Dで福井・斎藤（旭中）が3位、31回大会において男子Sで黄倉（鬼怒中）が準優勝、男子Dで増渕・中里（旭中）が3位、32回大会において男子Dで羽石・山口（星が丘中）が3位、女子団体で河内中が3位、34回大会において女子Dで矢野・石井（星が丘中）が準優勝とジュニア時代からの強化、社会体育との連携が功を奏し、まさに栃木は、全国でもトップレベルの選手を常に輩出し続けるシステムが整い成熟期に入った。

Ⅳ　最近の状況

近年でも、入賞までは届かないが団体や個人で全国8の力をキープしていたが、最近やや低迷期に入っている。今後も、県協会等関係団体とタイアップをはかり、県中体連専門部として練習環境のさらなる充実を図り、全国でも通用する選手の育成に、襟を正して取り組んでいく必要があると思う。これからも、よき伝統を引き継げるよう専門部一同、一意専心努力していきたいと考えている。

群馬県中体連
バドミントン部の31年

平成21年度群馬県中体連バドミントン部委員長（伊勢崎市立第三中学校）　大塚　弘之



1. はじめに

群馬県内で一般の登録者が2000名を越えた昭和54年。本県中体連にバドミントン部の設置が認められた。そして初代委員長小池裕氏が就任。当初の設置校は男子7校、女子9校という10校にも満たない数。このような状況の中で加盟1年目の各大会が実施された。以来、数多くの障害を乗り越え、関係者の努力と県バドミントン協会の協力を得て、今日の群馬県中体連バドミントン部が築かれた。最初の5年間は関東大会で結果を残すことも少なく、その後も長い努力を積み重ねることになった。「関東・全国に通用する群馬」を合言葉に紆余曲折しながら一歩づつ進んできた31年間。このバドミントン部も現在では男子38校、女子49校、部員数も1800人を超えるまでになった。ここに、全国中体連40周年を記念し、本県バドミントン部の全国･関東大会の足跡を簡単に振り返る。

2. 主な沿革をおって

〈昭和59年度　関東初入賞・全国初勝利〉

設置6年目にして関東大会で女子単八木（前橋・箱田中）が第3位に初入賞し、念願の全国大会出場、そして競り合いの中、初勝利を挙げる。この年を境に全中出場者が出るようになる。

〈昭和61年度〉関東大会女子単で加藤（桐生･相生中）が第3位入賞し、全国でも1勝を挙げる。

〈昭和62年度〉女子単の技術レベルが向上。今回も関東大会女子単で長谷川（伊勢崎･三中）が第3位。全国でベスト16へ進出。

〈昭和63年度　男子初の関東入賞・全国出場〉

門脇・佐藤（新田・木崎中）が関東で3位入賞。女子に後れを取っていた男子が初の全国出場。しかし、初戦で敗れ、全国初勝利はならず。

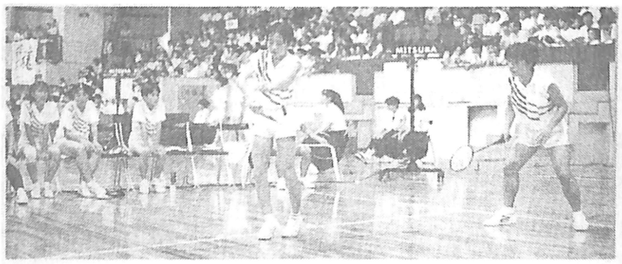
〈平成元年度　男子単 全国ベスト8〉

関東大会男子単で高橋（伊勢崎・三中）が準優勝。全国でも強豪相手に健闘。ベスト8へ進出。

〈平成2年度〉関東大会で女子が活躍。2年生の亀山（桐生・北中）が準優勝、松村・清水組（高崎・大類中）が3位入賞を果たすが、全国では共に初戦で惜敗。

〈平成3年度 関東大会地元開催　女子団体初の全中へ〉

関東大会を初めて地元（桐生市民体育館）で開催。スタッフが少ない中、協力して運営にあたった。大会では今年も女子が活躍。中でも勢いに乗った前橋一中が準優勝、団体では初の全国大会出場を決める。全国では熊本代表に対し念願の全国1勝を挙げる。関東大会個人戦でも地元の亀山（桐生・北中）が決勝進出、また団体戦で活躍した前橋一中の渡辺も3位入賞し、地元大会を盛り上げた。しかし両名とも全国大会では惜しくも初戦敗退。



団体2位前橋一中 全国大会へ初出場
〈活躍した　中・稲村組〉

〈平成4年度〉稲村（前橋・一中）の単が関東大会を勝ち抜き第3位。稲村は全国で愛知県代表に対し1勝を挙げた。

〈平成5年度〉関東大会女子団体戦で本県期待の桐生相生中は全国大会への出場権をかけた準々決勝戦で、全国常連校を伸び伸びしたプレーで退け、全国大会に出場。

〈平成7年度〉堀（桐生・菱中）が関東大会男子単で準優勝。男子単6年ぶりの全国大会となったが三重代表に惜敗。

〈平成9年度〉関東大会個人戦、男子単の本

田（桐生･相生中）が３位入賞。全国大会出場。

〈平成 11 年度 2 回目の関東地元開催　男子全種目入賞〉

ぐんまアリーナにて２度目の関東大会地元開催。強化が実り、関東大会で本県選手が素晴らしい活躍（男子が全種目入賞）。男子団体の昭和中（桐生）は第３位で本県男子団体初の全国大会出場。全国でも熊本代表から１勝を挙げた。また小林・横山組（桐生・昭和中）が複３位入賞、さらに全国でも２勝を挙げた。さらに男子単で江泉（桐生・相生中）が５位入賞したが全国では初戦惜敗。

〈平成 12 年度　男子単ベスト 8〉

関東大会で男子団体の昭和中（桐生）が優勝した茨城代表に準決勝で１－２で惜敗したが３位入賞し、２年連続の全国大会出場。全国でも岩手代表を破り２回戦に進出。岡山代表に１－２で競り負けたものの今年も全国１勝を挙げた。また男子複でも横山・横山組（桐生・昭和中）が準々決勝で滋賀代表に１－２で惜敗するも全国ベスト８。

〈平成 13 年度〉関東大会で女子が活躍、特に女子団体で菱中（桐生）が決勝で埼玉代表に１－２で惜敗したが準優勝。全国では１回戦で山形代表を破り、２回戦に進出。個人戦でも下山・小川組（桐生・菱中）が３位入賞。全国では１回戦、石川県代表に惜敗。

〈平成 14 年度〉関東大会で男子単の福田（桐生・相生中）が準決勝まで進み、全国出場。全国でも滋賀代表を下し、２回戦に進出。福岡代表に１－２で競り負けたものの全国大会で活躍。

〈平成 16 年度〉関東大会の女子単で宮（桐生･相生中）が全国決定戦で勝利。全国大会では１回戦の愛知代表に１－２で惜敗。

〈平成 17 年度　女子団体・単全国ベスト 8〉

関東大会で相生中（桐生）が団体戦で第３位入賞。宮（桐生･相生中）、丸尾（高崎･佐野中）はベスト８ながら代表戦で勝ち抜き全国出場。この大会では相生中女子が入賞を逃したものの大活躍。1、２回戦を連破してベスト８に進出。準々決勝でも優勝した宮城県代表に大健闘。また女子単の宮は団体戦の勢いを生かし1、２回戦に勝利しベスト８に進出。準々決勝は敗れたものの県勢、久々の快挙。男子単の丸尾は１回戦惜敗。

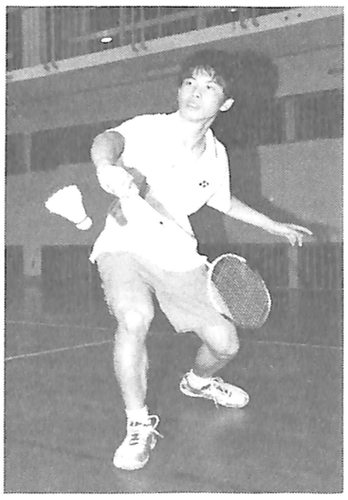
〈平成 18 年度　女子複関東準優勝〉

関東女子複では篠田・安野組（太田・強戸中）が初の関東制覇は逃したものの県勢初の準優勝。男子単の丸尾（高崎･佐野中）は準決勝で１ゲーム先取するものの逆転され惜しくも３位。全国男子単の丸尾（佐野中）は２回戦で福島代表に競り勝つが、３回戦で北海道代表に敗れベスト16。また全国での活躍を期待された女子複の篠田・安野組は１回戦で長崎代表に１－２で惜敗。

〈平成 19 年度〉関東大会では女子復の篠田・安野組（太田・強戸中）が大活躍。決勝では接戦を落とすが準優勝。全国準々決勝でも優勝ペアと大接戦を演じたが惜敗。団体も強戸中（太田）が関東３位で全国出場。２回戦、惜しくも優勝チームに惜敗。

〈平成 20 年度　3 度目関東大会開催〉

関東大会３度目の地元開催（伊勢崎市民体育館）。全国を決めたのは男子単３位となった２年生高田（桐生・川内中）。高田は全国でも３勝したが準々決勝の接戦を落としベスト８。



全中男子単　３位入賞
高田 晃（桐生市立川内中）

〈平成 21 年度　男子単念願の全国入賞〉

本県期待の高田（桐生・川内中）が大活躍。全国大会でも関東大会準決勝で同じ相手にファイナルゲームで敗れてしまったものの、本県初の全国入賞（3 位）。

3. まとめと今後の課題

県中体連バドミントン部も今年で創立 31 年。平成 20 年には３度目の関東大会開催にあたり、多くの人たちに支えられながら無事に終了できたことに感謝したい。また近年、全国３位や関東準優勝などの成果見ても分かるように県全体として確実にレベルアップしている。今後の課題としては県協会などとさらに連携を深め、ジュニアからの一貫した指導体制の強化を図っていきたい。

埼玉県中体連
バドミントン専門部の歩み



埼玉県中学校体育連盟バドミントン専門部　成田　進

○　中学バドミントンの誕生から中体連加盟まで　　埼玉県の中学バドミントンの発祥の地は、越谷市である。昭和42年、第22回国民体育大会が当地で開催されたことを契機に、加藤勝先生（越谷中央中・現埼玉栄高校）が中心になり市内にバドミントン部が設けられ、越谷市内中学校大会がその秋に開催されました。第1回埼玉県中学校バドミントン大会が昭和45年8月に越谷市立北中学校で開かれ、市内の中央中・北中・南中と八潮中・鳩ヶ谷中の5校が参加しました。種目が男子単に40人、複に19組、女子単に56人、複に24組の中学生が参加し、初めての大会としては盛大であったことが伺われます。また、この大会は同時に、この年の10月に栃木県真岡市で開催された第1回関東中学校都県対抗バドミントン選手権の代表選考を兼ねており、その後そのための強化練習会が続けられました。昭和46年の1月には第1回の新人戦が大宮県営体育館で行われ、4月には指導者講習会が開催されました。この講習会には、新たに加須・行田・羽生・宮代・岩槻・三郷・松伏より15人の先生方が参加していました。県内外の大会ができる頃から、より強い選手の育成、地区を越えてのレベルアップを目指し練習会場探しと指導者の仲間作りが始まりました。加藤先生を中心に、瀬田桂一先生（越谷北中）、彦田勇先生（八潮中）、阿武博子先生（鳩ヶ谷中）、石川静先生（入間金子中）などの協力で、全県一致の選手作りができました。ここまでできたのも埼玉県バドミントン協会に助けて頂いたおかげでした。「ジュニア強化のために」という一言で、市川十郎会長（当時）名を借り、協会の大会が作られました。大須田良作元会長には、賞状を手書きで書いて頂きました。先輩たちの努力と県協会のご協力により、昭和48年埼玉県中学校体育連盟に加盟することができました。

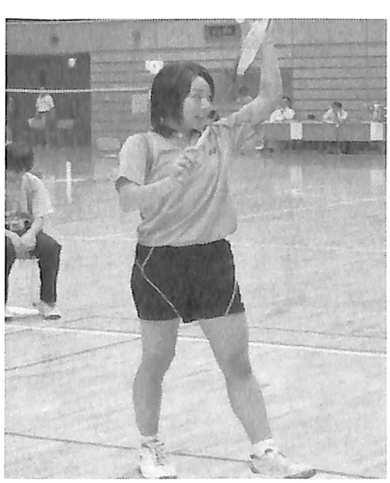
○　念願の全中初優勝　　昭和48年県中体連に加盟。だが県大会とはいえ、予選のないオープン参加、全県下で10校に満たない状態でした。（学徒・新人大会においては、昭和54年まで個人戦のみであった。）その後急速に参加校が増え、昭和53年より県下を7ブロックに分け予選会を実施することができるようになりました。昭和49年、男子団体戦（埼玉県チームとして）で関東大会初優勝。昭和56年、女子複で今野・佐々木（鳩ヶ谷里中）が念願の全国大会初優勝に輝くことができました。翌年は、男子単で石橋（栄進中）、男子複で生井沢・立本（戸田中）のアベック優勝、昭和59年には越谷栄進中が団体戦初制覇、女子単でも捧（栄進中）が優勝と、埼玉県の強さの原点となりました。加藤先生、阿武先生（八幡木中・里中）、坂本先生（新座二中・四中）が選手育成の中心になった初期の頃から、昭和50年代後半になると、戸田中（永田先生）里中（峰岸先生）川口芝中（中村先生）が加わり、越谷・県南・川口地区が凌ぎを削るようになりました。昭和60年代から平成にかけて川口北中（原先生）、松伏・武里中（秋山先生）川島・川島西中（名倉先生）東浦和中（大久保先生）蓮田南中（加藤先生）里中が関東・全国大会の常連になり、好成績を残しました。

○　埼玉栄中男子三冠制覇　　一時全国大会で優勝できない苦しい時期が続きましたが、平成7年女子複で大熊・八木田（八幡木中）、平

成10・11年の川島西中女子の連覇、女子単岩田（川島西中）、平成14年男子団体埼玉栄中・男子複本田･大嶋(埼玉栄中)､そして平成15年･20年には埼玉栄中男子が三冠制覇の快挙を成し遂げました。名倉先生が埼玉栄中へと移られたことも一つの転機になりました。中高連携の指導と豊富な練習量、私立中学校なので全国から有望な選手が集まってくるということが大きな強みになりました。併せて小学生ではシャトラーズ・出羽バドミンタン・蓮田サウス等の全国大会での活躍が追い風となり、ライバル心がさらに相乗効果をもたらし、埼玉県全体の力量を高めたと言えます。現在女子は、埼玉栄・富士・武里・蓮田南の四強の感があります。

○　今後の課題　　昨今の厳しい経済情勢と授業数確保を反映し、中体連も大きな転換期を迎えています。平成15年度より関東大会予選会が廃止され、平成16年度より県内三大会が7月と11月の二大会に縮小されました。関東予選会、強化合宿、講習会など他県ではできないことが、埼玉県では中体連の主催でできたことが埼玉県の強さの秘訣でもあったと考えると非常に残念です。次に少子高齢化に伴う男子部員の激減と顧問の高齢化です。平成21年度の加盟校数で言えば女子161校に対して男子86校であり、部員数はおよそ女子の1／3にしかなりません。男子のレベルの低下が近年顕著になってきています。顧問の高齢化は組織の活性化を阻害しています。近年の3回の関東大会開催のメンバーに大きな変化が見られないことからも分かるように、教員採用数の減少により20代はもちろんのこと、30代の顧問を探すのも至難の業になっており､憂慮すべき状況です。強化の面では全県のレベルアップを図ることが大きな課題になっています。中学校からバドミントンを始めた生徒をいかに強化していくか、日々努力されている顧問の先生方のモチベーションをどのように高め持続させていくか、組織を発展させられるかどうかの鍵でもあると思います。また、保護者引率の増加と大会運営など新しい課題もあります。

○　県協会主催の各種大会　　【ダブルス大会】　最も歴史のあるもので、11月の新人戦から5月の学徒（学校総合）大会までの公式戦のない冬の時期に、試合の機会を与えるために作られたものである。オープン参加とし、県大会に出場できない中学生にも、他の中学生と試合ができることにより、向上心や意欲が高められるようにしている。親子ダブルスの部が設け、保護者の方にもバドミントンを楽しんでもらっている。（第29回、男子146組女子450組親子11組が参加）【シングルス大会】　毎年3月に実施している。ダブルス大会と同じ趣旨で設けられ、中学生の使用球が合成球に変わった時であったので、バドミントン本来の姿である水鳥球の楽しさを体得してもらうために作られた。（第23回　男子295人女子859人が参加）【埼玉中学オープン】　団体戦形式の大会を作ってほしいという要望からできた大会である。その際、県内だけでなく広く関東各県の上位の学校に参加を呼びかけ、冬の関東大会（2月実施）を目指して始められた。最初の数年はトーナメント方式の1日開催であったが、せっかく各県の上位が集まってくるのだからということで、土・日の2日間（リーグ・トーナメント）に変更した。（第21回、男子40校女子36校、関東･北信越の全県と宮城・愛知・岐阜・滋賀県が参加し全国規模に）



関東中学春日部大会　中村梨沙（埼玉栄中）

37回目の千葉県中学生大会



千葉県小中学校体育連盟バドミントン専門部　専門部委員長　小野　理

千葉県中学校バドミントン大会の発祥ともいえる記念すべき「第1回千葉県中学生バドミントン選手権大会兼第4回全日本中学生バドミントン選手権大会千葉県予選会」は、昭和49年6月30日（日）に千葉県総合運動場体育館にて開催された。その大会の詳細については後述するとして、第1回大会を開催までの経緯について、まず記述したい。

「第1回千葉県中学生バドミントン選手権大会」が開催される年の昭和49年1月に、大会開催に向けての諸準備が始まっている。当時、松戸市立常盤平中学校に勤務されていた故・山本　旭先生（昭和57年～60年、県専門部委員長）が全県規模での「活動状況アンケート」を実施している。アンケートの依頼校は128校、回答校は55校であった。アンケートの目的は、千葉県内の中学校にて、どの程度バドミントンが普及し活動されているかを知り、今後の普及活動や県大会の開催への働きかけの資料にするためであった。そして、アンケートの表紙には、このような文面が載せられている。「（中略）全国的には、全国大会も昨年で3回目という普及ぶりです。千葉県でもそれに負けず劣らず、立派なスポーツとして普及することを念じております。」当時の大会開催への熱き思いが伝わってくる文章である。アンケートの回答結果については紙面の関係で載せることができないが、当時、県内で13校の中学校で部活動や同好会で活動が始まっていたことには驚かせる。また、県大会開催を要望する声が大きかったことと何よりも県小中体連へ加盟することが必要であるという意見もあった。さらに、スポーツというよりはレクレーション的な認識が強い、大会がないという弱点から、活動場所（体育館）を他部に譲らなくてはならないという記述もある。

アンケートの実施後に「千葉県中学生大会」開催が急速に進みだす。故・山本　旭先生を中心に、故・高橋重夫先生（元千葉県バドミントン協会会長、当時：千葉県バドミントン協会理事長）、故・牧野建夫先生（元昭和学院高校学校バドミントン部、当時：千葉県バドミントン協会理事）のご支援をいただきながら、千葉県バドミントン協会が主催団体となり、開催に至ることになる。大会事務局には、当時、千葉市を中心に中学生大会の開催にご尽力されていた田中康二先生（現千葉県バドミントン協会会長、当時：千葉市立葛城中学校）が務めることになる。当時、田中康二先生は県小中体連への専門部設置にご努力されていたが、まずは県小中体連事務局が置かれている千葉市立葛城中学校に転勤し、専門部設置に向けて積極的かつ広範囲な活動をされていたことを付記しておきたい。

第1回千葉県中学生バドミントン大会要項はガリ版刷りで、期日と会場は前述した通りである。種目は男女の個人戦単式のみであった。使用球は日本バドミントン協会審査合格合成シャトル「ヨネックス　メイビス」を使用している。大会は第4回全日本中学生バドミントン選手権大会の千葉県予選会も兼ねており、男女上位4名は千葉県代表の参加資格を得た。男子は7校より24名が参加、女子は10校より38名が参加し、トーナメント戦が行われている。記念すべき第1回大会の男子単優勝者は三好　聡（常盤平中）、女子単優勝者は森田佳子（常盤平中）であった。大会結果は翌日の朝日新聞、千葉日報にも掲載されている。昭和49年の第4回全日本中学生バドミントン選手権大会は8月17日、18日に東京都駒場オリンピック公園体育館にて行われた。学校対抗戦、ブロック選抜

という現在の方式をとっていないため、都道府県対抗戦（1複2単・団体戦）であった。男子は愛知県と対戦1－2で惜敗。女子は大阪府と対戦し、0－3の完敗であった。また、8月23日、24日には栃木県宇都宮市で開催された第5回関東中学生バドミントン大会にも出場している。ところで、県中学生大会開催は昭和49年であるが、それ以前に学校単位で関東、全国大会に出場している。昭和45年に栃木県真岡市にて行われた第1回関東大会には昭和学院中学校が出場していることを特記しておきたい。全国的にみても、千葉県は中学生バドミントンがかなり早期に始まっていたという証と言えるだろう。

県選手権大会、県新人大会は順調に回を重ね始めたが、県小中体連への正式加盟は昭和52年からであった。前年の昭和51年12月に、次年度の正式種目としてハンドボールとともに認可された。昭和48年から4年がかりの働きかけにより、県小中体連専門部設置が実現した。初の県小中体連バドミントン専門部部会は昭和52年4月30日に千葉市立千草台中学校にて行われている。初代専門部委員長には、故　中山正子先生（当時：千葉市立千草台中学校）が就任している。また、同年8月には第8回関東中学校バドミントン大会を千葉市にて開催している。昭和50年代の後半になると、県内中学校バドミントン部も急速に普及し始める。県内14支部にて専門部が置かれ、県専門部も組織が拡充していく。三つの県大会も運営全般にわたって他競技に引けを取らないものとなり、試合レベルも徐々に高いものとなってくる。千葉県教育委員会主催のジュニアスポーツ育成事業（スポーツ教室）が開催され、選手強化も図られた。昭和62年からはバドミントン専門部が中心となり、強化練習会も開始した。その成果もあり、昭和63年の第18回全国大会（岩手県盛岡市）と翌年の平成元年の第19回全国大会（山口市）では、2年続けで男子シングルスで入賞を果たしている。この強化練習会も継続的に行われ、132回を数えるに至った。また、昭和64年1月4日～7日には千葉県総合運動場体育館にて、関東バドミントン連盟主催の第5回関東中学校バドミントン指導者講習会・選手強化会も開催している。この会期中に昭和天皇が崩御されるという歴史的な出来事があったことも付記しておきたい。

平成5年10月2日には、千葉県中学生バドミントン大会開催20周年を記念し、「20周年記念誌」の発刊と式典・祝賀会を千葉市内のホテルで開催した。平成9年1月4日～7日には、これまで関東中学校バドミントン指導者講習会・選手強化会として開催していた事業が大会形式に移行され、第1回関東中学生オープンバドミントン大会が野田市総合公園体育館にて開催された。また、21世紀の幕開けとなった平成13年3月27日～29日には、第1回の全日本中学生バドミントン選手権大会が千葉ポートアリーナで開催され、我が国の中学生バドミントンに新たな歴史が刻まれた。平成11年7月には、イギリスからイングランドの選抜チームが来日し、野田市、四街道市にて交流競技会（主催：日本バドミントン協会）が催された。国際交流会としては、平成18年12月にも野田市にて第5回日韓ジュニアバドミントン競技会（主催：日本バドミントン協会）が開かれ、千葉県中学生選手も地元チームとして参加している。

平成18年、平成20年は嬉しいニュースがあった。第36回全国大会（徳島市）にて、木村瞳・青木優子（松戸六中）が女子ダブルスにて優勝を成し遂げ、日本一となり、第38回全国大会（福井市）では、西武台中が女子団体戦にて第3位という千葉県初の入賞があった。そして、そのメンバーが今年の千葉国体に挑戦する。昭和49年から始まった「千葉県中学生バドミントン選手権大会」も37回を迎えた。近年の輝かしい栄光には、中学生選手の努力はもちろん、日夜指導に携わった諸先生方の涙ぐましい取り組みがあり、県大会、関東・全国大会開催のためにご尽力された諸先生方の尊敬すべきボランティア精神があったことを忘れてはならない。平成24年8月には、船橋アリーナにて第42回全国中学校バドミントン大会が開催される運びとなっており、益々の千葉県小中学校体育連盟バドミントン専門部の組織拡充と千葉県中学生選手の活躍が期待されている。

都中体連バドミントン部のあゆみ



東京都専門部委員長　島　朝樹

1　あゆみと現状

公立、私立等合わせて828校が東京都中体連に加盟している。そのうちバドミントン部に加盟しているのは527校である。最大の時と比べて50校近く、また2年前より20校減少している。都としては春季大会、選手権大会、新人大会と年間3回の大会を主管している。平成21年度でそれぞれ第26回、第56回、第52回と数えるに至っている。

部としての組織は次のようになっている。顧問（1名）部長（1名）副部長（3名）の下に総務、競技、強化普及、審判、会計と5つの実務委員会がある。部長は強化普及委員会を統括し、副部長は総務、競技、審判に対して指導・助言を行っている。顧問は中学校でバドミントン部の指導歴のある校長があたっている。顧問をおくまでは部長には校長が就任しており、部の実質的な運営は副部長が担っていたが、組織的な運営を図るために昭和59年に中体連バドミントン部としての規約を作った。途中で競技力向上委員会と普及委員会をまとめて強化普及委員会とした。

都大会への出場は7つのブロック（島嶼を含む）から選出された代表校（選手）が出場できる形をとっている。ブロックの下には地区がある。地区の加盟校数の差が大きかったこともあり、何度かブロック割を改訂してきたが、現在では平成12年度に都の校長会のブロックと同じブロック割にしたことでブロック大会の責任者をブロックの校長が務めることとなった。

2　今後の課題

他の競技と同様にバドミントンにおいても私立中学校の力が台頭してきている。顧問の異動が必定の公立中学校で前任校では顧問をしていた手腕を発揮していたが、異動後の学校では顧問になることができないまたは部を作ることができないケースも多々ある。また、初任者が顧問になることも多く、顧問の指導力を高めていくための方策を講じていく必要がある。

また、現在の部長が就任してから20年近くの歳月が経っている。部長の強力なリーダーシップで組織は活性化し、それぞれの委員会においても支障なく仕事を進めており、大会運営や会務運営も順調である。しかし、学校と同様にここ2、3年のうちに部長を含めベテランの教員の退職を迎える。その中でいかに順調に引き継ぎを行い、組織として停滞することなく活性化に向けての努力が求められる。幸い、平成23年度に関東大会を東京都で行うことになっているので、これを契機として円滑な引き継ぎを行うとともに組織固めをしていきたい。

過去20年の全国大会出場校（者）一覧

（網掛けはベスト４以上）

	男子団体	女子団体	男子単	男子複	女子単	女子複
H21			小野寺 （小平２）	中村･宮崎 （小平２）		
H20			栗俣 （淑徳巣鴨）			市川・遠山 （小平第二）
H19		日本橋女学館	小野寺 （小平２）			
H18	淑徳巣鴨	日本橋女学館	奥墨 （淑徳巣鴨）			
H17	江東深川第三					神田・鈴木 （国分寺第一）
H16	江東深川第三		角田 （昭島清泉）		柳亭 （淑徳巣鴨）	前田・石橋 （淑徳巣鴨）
H15	昭島清泉	淑徳巣鴨	平野 （昭島清泉） 小林 （国分寺第一）		原 （国分寺第一） 柳亭 （淑徳巣鴨）	綿貫・佐藤 （日本橋女学館）
H14	国分寺第一	日本橋女学館		竹内・鈴木 （国分寺第一）	西山 （淑徳巣鴨）	
H13	国分寺第一 昭島清泉			竹内・鈴木 （国分寺第一）	永山 （青梅第一）	
H12	国分寺第一		青山 （日野三沢） 藤田 （国分寺第一）	後藤・落合 （国分寺第四） 小樽・河野 （東大和第四）	加澤 （日本橋女学館） 神 （淑徳巣鴨）	
H11	東大和第四		土田 （小平第三）			
H10	東大和第四	国分寺第四	石井 （八王子打越）	堤・比留間 （東大和第四） 齋藤・加澤 （小平上水）	佐々木 （国分寺第四）	小坂・五十峯 （国分寺第四）
H9	東大和第四	小平上水	佐藤 （小平上水）	山中・比留間 （東大和第四）		島崎・山崎 （小平上水）
H8		小平上水	下川 （文京文林） 佐藤 （小平上水） 成毛 （稲城第二）	近藤・小林 （国分寺第二）		吉野・町 （町田成瀬台） 土田・依田 （日本橋女学館） 柳下・大野 小畑・船越 （小平上水）
H7		日本橋女学館	平山 （深川第三） 樅木 （昭島昭和） 下川 （文京文林）		山田 （日本橋女学館）	小畑・船越 （小平上水） 田辺・依田 (日本橋女学館)
H6		国分寺第四	黒川 （国分寺第四）	佐々木・田端 （国分寺第四） 島崎・白鳥 （調布第六）	久家 （立川第八） 高田 （立川第八）	常世・須々木 （日本橋女学館） 斉藤・茂木 （府中第八） 木村・本多 （国分寺第四）
H5	立川第四 東大和第四	日本橋女学館	吉川 （立川第四）		星野 （国分寺第四）	三沢・福永 （小平上水）
H4		日本橋女学館 武蔵野第四	池内 （立川第四）	佐々木・酒井 （立川第四）		宮崎・川田 （日本橋女学館）
H3	東大和第四	立川第八	中村 （文京文林）		米倉 （立川第八）	
H2		立川第八			米倉 （立川第八）	

伝統！神奈川県中体連バドミントン専門部

神奈川県中学校体育連盟バドミントン専門委員長　川崎市立西中原中学校　穂坂　久夫



神奈川県中体連は８つのブロック（横浜・川崎・横須賀・湘南・県央・相模原・中・県西）にわかれています。県総体はこの８ブロックの持ち回りでおこなわれます。またさらに20の地区に中体連の専門部（横浜・川崎・横須賀・三浦・逗子葉山・藤沢・鎌倉・茅ヶ崎寒川・平塚・秦野・伊勢原・中郡・相模原・大和・厚木愛川・座間・海老名・綾瀬・足柄上郡・足柄下郡）をおき、ブロック大会・地区大会の運営にあたってます。

バドミントン専門部は部長（委員長）１名・副部長２名、書記２名、会計２名、ブロック長８名、競技審判部長１名、強化部長１名、強化委員８名、顧問２名で本部を構成し、運営しています。主な年間予定は、３月～５月：強化リーグ（団体戦）、6月：神奈川オープン（他都県招待：団体）、７・８月県総体（地区・ブロック・県）・全日本ジュニア予選会（個人）、11月：県選抜ジュニア強化大会（団体）、１月：県中学校バドミントン大会（個人）、強化練習会・強化合宿（８月・12月・３月）となっています。

県内でバドミントン部が設置されている中学校は約300校、部員は約12,000人にのぼります。

神奈川県中学校総合体育大会バドミントン大会は、平成22年度で第42回を迎えます。全国の都道府県の中でも、長い歴史をもつ大会の１つです。

現在、神奈川県は大阪府をぬき、人口（約890万人）が全国第２位となりました。県内に33の市町村があります。横浜市（人口360万人）・川崎市（人口130万人）は政令指定都市となっています。鎌倉の鶴岡八幡宮や鎌倉大仏などの史跡、箱根周辺の温泉、開港150周年を迎え「みなとみらい21計画」の進む横浜、海水浴客でにぎわう湘南海岸など、県外からもたくさんの人々が観光や仕事で訪れます。

神奈川県中学校総合体育大会バドミントン大会の記録

回	年・月・日	会場	男子優勝校（ﾌﾞﾛｯｸ）	女子優勝校（ﾌﾞﾛｯｸ）
1	昭和４４・２・８	横浜公園体育館	大鳥（横浜）	金沢（横浜）
2	４５・８・１２	横浜公園体育館	渡田（川崎）	金沢（横浜）
3	４６・８・１３	平沼記念体育館	港南（横浜）	渡田（川崎）
4	４７・８・１０	秩父宮記念体育館	渡田（川崎）	渡田（川崎）
5	４８・８・９	平塚市見附台体育館	渡田（川崎）	渡田（川崎）
6	４９・８・９	川崎市体育館	渡田（川崎）	鶴ヶ峯（横浜）
7	５０・８・５	平塚市見附台体育館	渡田（川崎）	鶴ヶ峯（横浜）
8	５１・８・５	平塚市見附台体育館	渡田（川崎）	渡田（川崎）
9	５２・８・４	平塚市見附台体育館	渡田（川崎）	鶴ヶ峯（横浜）
１０	５３・７・２７	県立体育センター	日本大学（横浜）	万騎が原（横浜）
１１	５４・８・１	秩父宮記念体育館	戸塚（横浜）	戸塚（横浜）
１２	５５・８・５	平塚市見附台体育館	菅生（川崎）	秋葉台（湘南）
１３	５６・７・３０	神奈川大学体育館	戸塚（横浜）	市場（横浜）
１４	５７・７・３１	西湘地区体育センター	戸塚（横浜）	戸塚（横浜）
１５	５８・７・３１	秩父宮記念体育館	大道（横浜）	秋葉台（湘南）
１６	５９・８・１	相模原市総合体育館	大道（横浜）	秋葉台（湘南）
１７	６０・７・２８	横須賀市久里浜体育館	大道（横浜）	秋葉台（湘南）
１８	６１・７・３１	神奈川大学体育館	金沢（横浜）	秋葉台（湘南）
１９	６２・７・３０	平塚市見附台体育館	金沢（横浜）	秋葉台（湘南）
２０	６３・７・２７	川崎市体育館	大綱（横浜）	大綱（横浜）
２１	平成　１・７・２７	南足柄体育センター	金沢（横浜）	秋葉台（湘南）
２２	２・７・２７	秋葉台文化体育館	矢向（横浜）	秋葉台（湘南）
２３	３・７・２７	相模原市立総合体育館	矢向（横浜）	大綱（横浜）
２４	４・７・２７	海老名運動公園総合体育館	金沢（横浜）	南大師（川崎）
２５	５・７・２７	横須賀市久里浜体育館	旭陵（中）	善行（湘南）
２６	６・７・２７	緑・磯子スポーツセンター	南加瀬（川崎）	善行（湘南）
２７	７・７・２７	平塚市見附台体育館	南加瀬（川崎）	善行（湘南）
２８	８・７・２７	川崎とどろきアリーナ	串川（相模原）	善行（湘南）
２９	９・７・２７	小田原アリーナ	串川（相模原）	中川（横浜）
３０	１０・７・２７	秋葉台文化体育館	大道（横浜）	寒川（湘南）
３１	１１・７・２７	相模原市北総合体育館	大道（横浜）	大清水（湘南）
３２	１２・７・２７	荻野運動公園体育館	末吉（横浜）	串川（相模原）
３３	１３・７・２７	横須賀市南体育会館	秋葉台（湘南）	串川（相模原）
３４	１４・７・２７	横浜市立大学体育館	大道（横浜）	善行（湘南）
３５	１５・７・２７	秦野市総合体育館	横浜西（横浜）	高倉（湘南）
３６	１６・７・２７	川崎市とどろきアリーナ	大道（横浜）	柿生（川崎）
３７	１７・７・２７	小田原アリーナ	大道（横浜）	大庭（湘南）
３８	１８・７・２７	秋葉台文化体育館	もえぎ野（横浜）	柿生（川崎）
３９	１９・７・２８	綾瀬市民スポーツセンター	松本（横浜）	柿生（川崎）
４０	２０・７・２７	大和スポーツセンター	大道（横浜）	大庭（湘南）
４１	２１・７・２７	横須賀市南体育会館	大道（横浜）	柿生（川崎）

山梨県小中体連 バドミントン専門部のあゆみ

山梨県小中学校体育連盟バドミントン専門部委員長　井田　正則



全国中学校バドミントン大会開催が40周年を迎えますことを心からお慶び申し上げます。記念誌刊行のための寄稿にあたり、我が山梨県小中学校体育連盟バドミントン専門部の歴史を、毎年刊行されている本県小中体連会誌や山梨県バドミントン協会の記録をひもときながら振り返ってみました。

山梨県のバドミントンの歴史

昭和22年の春、競技普及のために山梨県でバドミントンが紹介され、翌年の春に山梨県バドミントン協会が設立されたのが、県内でのバドミントンの始まりであります。次第に、高校や社会人でクラブが結成されて競技が発展していき、全国・関東レベルの大会でも上位入賞を果たしていきました。

特に、秋山真男選手はインカレ・全日本選手権を制し、昭和41年に全英選手権大会で準優勝する輝かしい成績を収めています。その秋山選手を中心として、昭和43年から国体成年男子では3連覇も成し遂げています。

また、現在NTT東日本総監督の松野修二さんは日川高校時代の昭和56年、全国高校選抜大会シングルス・ダブルス（宮健次選手と組んで）ともに制し、全国高校総体では団体・ダブルス優勝・シングルス準優勝を収め、その後、学生・社会人でも活躍し、ソウルオリンピック（エキシビジョンとして開催）のダブルスで銅メダルを獲得しています。

昭和61年に山梨県で開催したかいじ国体では、選手強化の成果で成年男子の優勝を筆頭に、成年女子3位・少年男子2位・少年女子4位と各種別とも上位入賞を果たし、種目別優勝を果たしました。

専門部の発足

山梨県小中体連バドミントン専門部は1974年（昭和49年）に発足してから36年が経ちます。発足当時の山梨県一般男子は、全国でも活躍するほどレベルが高かったにもかかわらず、県内中学校では全校クラブ活動の一環として活動している学校が数校あるだけでした。県バドミントン協会の指導・協力を受けながら、男子2チーム、女子4チームが参加しての初の県総体を開催しました。専門部として初めての大会運営ということもあり、シングルスだけで決勝戦のみ3ゲームとした試合形式でした。

県小中体連主催の大会

山梨県で行う、県小中体連が主催し専門部で運営する大会は、県総合体育大会・県選手権大会・県新人大会の3つがあります。

5月末に山梨県中学校バドミントン選手権大会を開催しています。今年度で第28回大会となり、個人戦のシングルスとダブルスを行っていて、夏の県総体に向けての実力を占う重要な大会となっています。

7月には山梨県夏季総合体育大会バドミントンの部を開催しています。県総体は第61回を迎えますが、バドミントンの部としては専門部が発足した昭和49年からの開催になるので、今年度で36回目の大会となります。団体戦・個人戦を行っていて8月の関東大会出場を目指して、白熱した熱戦が繰り広げられます。また、勝沼中女子は団体戦で平成10年から9連覇を果たしました。

10月末には、山梨県中学校新人バドミントン大会を開催し、今年度で20回目を迎えます。3年生引退後、1・2年生を主体とするチームでの初めての県大会で、第17回大会からは団体戦も行うようになりました。今後に向けて勢力図を確認する上での参考となる大会でもあります。

全国中学校バドミントン大会参加の歴史

会誌の記録では、1978年（昭和53年）の第8回全国中学校バドミントン大会に勝沼中男子が推薦を受けて出場したとありますが、結果の詳細は不明です。

また、翌年の第9回全国中学校バドミントン大会には勝沼中・甲府南西中・甲府北東中の3校による合同チームで出場したものの、強豪チームと対戦し1回戦で敗退しました。

全国中学校バドミントン大会が学校対抗となった1980年（昭和55年）の第10回大会には、勝沼中の宮康二選手が男子シングルスで県勢初の関東大会優勝を果たしての出場となりました。

1983年（昭和58年）には、勝沼中の武井・笠原組が第13回全国中学校バドミントン大会に出場しています。

1985年（昭和60年）には、甲府北東中の日原恵美里選手が女子シングルスで関東大会優勝を果たし、ダブルスでも同校の佐野・日原組が3位、団体戦でも同校が3位に入賞する健闘をしました。そして、第15回全国中学校バドミントン大会でも、女子シングルスで日原選手が3位に入賞する好成績を収めました。

1987年（昭和62年）には、甲府北東中の日原由美子選手が女子シングルスで関東大会優勝を果たし、第17回全国中学校バドミントン大会に出場しました。

しかし、その後は全国中学校大会出場の機会に恵まれず、長い間、縁がないものとなっていました。

そして、昨年度の第39回全国中学校バドミントン大会で県勢としては22年ぶりに勝沼中の輿石涼選手が出場しました。久しぶりの出場ながら、1回戦を突破し、2回戦もファイナルまでもつれる接戦を繰り広げたものの惜しくも敗戦。あと一歩という悔しい思いもしましたが、全国中学校大会に参加できる喜びを味わうことができました。

関東中学校大会の開催と専門部の課題

1982年（昭和57年）には、関東中学校バドミントン大会を本県で初開催しました。

部活動として活動している中学校は、当時10数校しかない中での大会運営であり、微力ながら精一杯の努力をしたものの、様々な問題が生じ、改めて専門部組織の強化が必要であることを痛感しました。しかし、昭和61年かいじ国体に向けての選手強化や大会成功に向けて力を入れていた県協会の協力も得ながら何とか大会を終えることができました。

その後も、1990年（平成2年）、1998年（平成10年）、2006年（平成18年）と関東大会を開催してきていますが、毎回状況が変わらないのが本県専門部の悩みの種であります。県全体の加盟校数が少なく、また顧問の中にバドミントン経験者も少ないため、なかなか顧問が定着しないことが課題となっています。また、そのことが選手強化を継続して行うための妨げにもなってしまい、県専門部として効果的な強化策がとれてきていなかった過去がありました。

現在・これからの専門部

現在はジュニアからの強化で選手育成をしてもらい、またジュニアの指導者にも関わってもらう中で、中体連専門部としての県外遠征の回数を増やし、高体連専門部とも連携を図りながらの強化を進めてきています。また、多くの顧問の先生方に関わってもらい、継続した強化になるよう努めています。その成果で、一時停滞していた選手レベルも上がってきて、県外選手とも対等に試合ができる選手が育ってきています。

また、わずかながらバドミントン部がある学校数も増え始めていて、現在は20校を超える学校で常設の部活動としての活動が行われています。

専門部の活動も、多くの顧問の先生方に関わってもらいながら組織の強化を図っていくよう検討を進めています。

これから、山梨県からも多くの選手が全国中学校バドミントン大会に参加できるよう、さらなる選手強化に努めて参ります。

そして、全国中学校バドミントン大会で選手が力を発揮し、また、大会に参加した選手の中から全国・世界で活躍する選手が育ちますようお祈り申し上げます。

明野中学校７年間の想い出



つくば国際大学　小島　一夫

小生が中体連に関わったのは昭和53年４月～昭和60年３月（1978～1985年）までの７年間でした。その間の経験は、その後の人生を変えた７年間であったと自負しています。それは、たくさんの素晴らしい先輩や仲間、そして生徒たちに出会い、全国制覇という夢を追いかけたかけがえのない日々でした。バドミントンの「バ」に字も知らない新米教師が暗中模索をしている時、榎戸美佐子先生（当時明野中学校の前任顧問）・斉藤佶先生（当時今市中）・塚原紀子先生（当時真岡中）・加藤勝先生（当時栄進中）・神立嘉文先生（当時石岡中）・田村豊氏（阿見中）たち諸先輩の温かい指導があったからこそ、２度の全中優勝（昭和57・58年）を成し遂げることができたと思っています。また、厳しい練習に耐えてシャトルに食らいつき勝利をもぎ取った選手たちにはたくさんの勇気をもらいました。

新採として赴任した明野中学校の１年目は予期せぬことの連続でした。全く経験がなく、「西洋羽子板」くらいの認識しかなかったバドミントン部の顧問を仰せつかり、生徒との信頼関係をつくるのに悩みました。この年は、前任の榎戸先生の「財産」で全中の出場権（当時は都道府県対抗戦）を得、名古屋市に乗り込みました。そこで圧倒的強さを誇っていたのは熊本県でした。野々口、葦原両氏が監督コーチをつとめる熊本チームには陣内貴美子選手がいました。

２年目は子どもの部活動に「無関心」と「過干渉」の親に悩みました。この年は神戸市で、99.9％優勝すると宣言していた熊本県が連覇を達成しました。

３年目は「技術指導」に悩み、上記の先生のところへ教えを請うため東奔西走の年になりました。この年からブロック予選を経ての学校対抗戦になりました。この年は熊本市での開催で、関東ブロックを通過したダブルスの個人戦だけの出場となりました。この年も熊本の強さが際立っていました。

４年目は同僚と上司との「人間関係」に苦慮した一年になりました。この年は、奈良市の開催で、シングルスでベスト４に入ることができました。

５年目は「慣れ」と「ダレ」に対して、自分自身との戦いであったように思います。そしてこの５年目の年（昭和57年）、新潟市で熊本県の菊池南中との決勝戦に勝ち、初全国優勝をすることができました。その際、当時の四条畷学園の片岡輝明先生と杉田忠邦先生からのアドバイスは、その後の小生の生き方に大きな示唆を与えて頂きました。

６年目は弘前一中（高屋仁先生）をはじめ、全国からやってくる強豪校との練習試合が多く、実戦的な練習が中心となりました。この年は山形県新庄市で女子団体２連覇、創部３年目の男子が準優勝することができました。女子団体の決勝戦は遠藤英治氏の率いる京陵中でした。対戦後、遠藤氏とは現在でも連絡を取り合う関係になりました。

７年目は３連覇への「重圧」との戦いでした。この年は大阪市での開催で、地元四条畷学園が猛烈な巻き返しをしてきました。男女とも早い回で負けてしまいました。この時は、悔しさより「ほっとした」気持ちになったことを今でも忘れません。

その後常総学院高等学校、つくば国際大学と30年間にわたる指導に携わってきました。その指導の原点にあるのは「中体連」という土俵での７年間であったことは紛れもない事実です。

最後にジュニア強化が叫ばれる昨今、全国中体連の益々の発展を祈念します。

第25回全国大会開催の思い出



神奈川県中学校体育連盟元専門部長　川崎市立渡田中学校　総括教諭　松尾　豊

いまから15年前の夏、平成7年8月20日～24日の日程で新築の「川崎市とどろきアリーナ」で第25回全国中学校バドミントン大会開催が開催されました。とても暑い夏でした。平成5年に第24回関東中学校バドミントン大会を神奈川県で開催していたので、幸いにも専門部組織に恵まれ、県内のバドミントン部顧問の総力をあげ、さらに開催地川崎市の全面的なバックアップをいただき、開催することができました。あらためてここに感謝の意を表します。ありがとうございました。

さて、この大会ではさまざまな点で前年度の大会から変化がありました。まず、開催された「とどろきアリーナ」はこの年の8月にオープンしたばかりの体育館で、天井も高く、空調も制御でき、夏のバドミントンの大会を快適に行うことができる体育館でした。さらに、体育館側のご厚意で「コートマット」の使用がメインアリーナ9面と練習会場になったサブアリーナにも6面分設置することができました。いまでこそ、中学生の大会でコートマットを使用する大会が増えましたが、当時では画期的なことでした。県内の他の体育館や大学にお願いし15面分の設置が可能になりました。自分も大学からバドミントンを始めましたが、コートマットでの競技経験はなく、他県との練習試合などにヨネックス（株）のご厚意でコートマットを借用し、実際に自分も競技してみて、使用に踏み切りました。さらに、小野委員長からの依頼もあり、プログラムにこの大会から過去の全国大会出場校の記載を始めました。各ブロックの委員長の先生には多大なご苦労をおかけしたことと思います。それが現在も脈々と続いていることはすばらしいことだと思います。

開催された平成7年の4月から自分は中体連専従となり、横浜の三ツ沢にある神奈川県中体連事務局へ通うことになりました。その年に神奈川開催となった体操専門部の先生と一緒になって、当時理事長の根本恒夫先生の的確な指示を得て開催までの準備をしていました。しかし、自分にも男女のチームがあり神奈川県で決勝を争うまでに成長していました。8時半から4時半まで激務に追われ、横浜駅までたどり着き、私鉄の東横線に乗れば自宅に着きますが、足は勝手に学校へ行く横須賀線へのホームと自然に向かっていました。自分が開催に携わっている大会に、自校の生徒を参加させたいと思う気持ちが強く働きました。保護者の方にクラブチームを運営していただき、夜遅くまで練習したことを覚えています。

幸い、県大会を男子団体・ダブルスで優勝でき、関東大会こそ抜けられませんでしたが開催地枠での個人戦全国大会出場を果たしました。他の神奈川県のチームも関東大会ベスト4に入る学校もあり、何校もの地元神奈川の選手が全国大会のコートに立つことができました。強化策が実り、とても嬉しく感じました。

全国大会を開催したことはとても苦労が多かったことでしたが、自分のとってその後の教員生活において様々な所で、それが役にたっていると感じています。本大会の益々のご発展を祈念し、日本のバドミントン界を担う選手がこの大会から生まれることを望みます。

全国中学校バドミントン大会の思い出



埼玉栄中学校バドミントン部監督　名倉　康弘

この度、全国中学校バドミントン大会開催40周年を迎えられ、記念誌を発行されますことに、心からお祝い申し上げます。各代々の競技部長の方々をはじめとする、多くの方々のご苦労により今日があることと思います。改めて敬意を表したいと思います。また、その記念誌に寄稿させて頂くことに感謝申し上げます。

私自身の教員生活を振り返りますと、今年で31年目に入りましたが、つくづくバドミントンに育てられたなと、今、改めて思います。そして、バドミントンを通じての出会いが今の私の財産になっていると思います。節目節目で多くの人と出会い、助けられ育てられ現在にいたっていると感じています。教員2年目に松山中学校にバドミントン部を創設し、町田文彦君（その後全日本総合単3連覇、現NTT東日本）と出会い、バドミントンの世界にのめり込むきかっけとなりました。そのころから、全国大会を意識するようになりましたが、松山中時代は夢かなわず川島中学校に移動となりました。そこでも、バドミントン部を創設することとなりましたが、すばらしい生徒、保護者との出会いがあり、初めて平成元年に念願の全国大会に出場することができました。その時、レセプションの場で当時の四條畷学園の杉田先生に言われた「勝てるようになるためには、何回も出ることだよ」との言葉を今でもはっきりと覚えています。その言葉を励みに、現在までやってきたように思います。その後、監督として現在まで21年間連続（平成21年度現在）で出場できるとは、当時の私には想像すらできませんでした。そして、川島中の分離に伴い、私も川島西中学校に移動となりました。当時、全くの初心者から始めていましたが、全国大会を何度か経験するようになった私は、小学生から継続して指導したいとの思いが強くなり、川島Jrバドミントンクラブを立ち上げました。その時の教え子、広岡まり香（NTT東日本）達が、後の全国大会2連覇のメンバーとなりました。全国優勝した当時の私の記録ノートにこんなことが記されていました。『大会中、選手たちは、とてものびのびと試合をし、ゲームを楽しんでいるようにさえ見えました。まさに自分たちの力を信じ、明るく、強気に、粘り強い挑戦を繰り広げてくれました。・・・中略、しかしながら、明るく元気なプレーとは逆に内面は相当なプレッシャーと戦っていたようです。優勝を決めた瞬間の選手たちの姿にそのことがよく表れていました。大変な緊張感から解放され、泣きじゃくる選手たちの姿に、本当に大変な思いで戦ったんだなと目頭が熱くなりました。そして、同時に大会を通して、立派に成長した子どもたちに頼もしさを感じました。』また、その時決勝戦を応援席から一生懸命応援していただいた高屋先生（当時弘前一中）と選手には大変ありがたく、胸が熱くなったのを今でも覚えています。

その後、縁があり、現在の埼玉栄中・高等学校にお世話になることなりました。ここでも多くのすばらしい選手と出会い、おかげさまで団体優勝6回（通算8回）、個人優勝7回（通算8回）と良い結果を残せて本当に運が良いと思っています。また最近、本校卒業の田児賢一君（全中団体3連覇のメンバーであり、全中個人2連覇）が、記念すべき第100回の全英オープンにおいて、男子単44年ぶり準優勝のニュースを聞き、本当にうれしく、誇りに思います。

最後に、微力ではありますが日本のジュニア指導に少しでもお役に立てるよう、残された期間を全力で取り組みたいと思います。また、日本中体連バドミントン競技部並びに全国中学校バドミントン大会のますますの発展を祈念いたします。

私を成長させてくれた全国中学校大会



（株）ダイドードリンコ所属
（財）日本バドミントン協会 ナショナル部コーチ　米倉　加奈子

「あなたたちは前代未聞です！！」。中学生時代に顧問の先生からよく言われた言葉です。準備が遅かったり、練習後まっすぐ家に帰らず遊んでいたり、練習が終わっていないのに帰ったり･･･。いわゆるよい子ではありませんでした。だから、額にシワを寄せて怒っている先生の顔ばかり思い出しますが、全国中学校大会という目標を自然と持たせてくれたのも先生で、視点を変えてくれたことに感謝しています。

まだまだ実力の足りない中１の私を89年の山口市大会に連れて行ってくれたことがきっかけでした。雲の上の存在だと思っていた先輩が、全国大会では勝ち進めない様子を見て、「あの強い先輩が負けるなんて・・」と強く衝撃を受けました。上には上がいることを知り、実際に目で見ることの大切さを感じました。それ以来、「この舞台に私も出場する！」と目標を持つようになったのです。

目標が定まると練習も頑張れるもの。90年坂出市大会では、団体戦で準優勝することができました。私自身も貢献できたので、満足感もあり、嬉しい瞬間を味わいました。

でも、その直後、「前代未聞です！！」とまた、叱られることになりました。決勝戦が終わった私たちは、応援に来てくれたそれぞれの家族と「お祝いだ！　パフェを食べに行こう」と盛り上がっていたからです。その数時間後に個人戦一回戦が始まり、私はあっさり負けてしまいました。準優勝がなかったことになってしまったように親子ともに反省をしながら帰ったことは忘れられません。「勝って兜の緒を締めよ」。一瞬でも気を抜いたら足元をすくわれる、厳しい勝負の世界では当たり前のことを教わった大会でもありました。

91年の熊本市大会は、中学最後の年ということもあり、優勝を目標に臨んだ大会でしたが、団体戦では入賞に終わってしまいました。私が負けたから、チームも負け。涙が止まらず、会場の隅で長いこと丸くなっていました。あまりにも泣きやまない私を、励ましてくれたのが先生と仲間でした。

何を言われたかは覚えていませんが、「せめて個人戦だけでも・・・」と気持ちを入れ替えました。とはいっても簡単にはいかず、全て大接戦。紙一重の試合が続き、やっとの思いで決勝戦へ進みました。ここで、運命の出会いというのでしょうか、この先ずっとライバルとして戦うことになった田中美保さんとの対戦が待っていました。最後まで勝負の行方が分からない大接戦でしたが、観客席にいた親同士もまた、熱い戦いだったそうです。「相手の応援が凄かったのよ！」と、今でも声のトーンが上がる母親の姿に、負けずと声を張り上げて応援してくれていたのだろうと思います。

必死にシャトルを追いかけるわが子に、声を張り上げ、拍手を送る。一緒に追いかける夢がある。また、同じラケットを振る仲間でもあるライバルに全国大会でベストを尽くし挑む。「一生懸命になれる素敵な時間を過ごせていたんだな」と改めて思います。また、目標を持つことの大切さ、その目標を達成するまでの過程の大切さを、この大会を通じて感じました。だからこそ、教える側としてバドミントンに携わるようになった今、40年間もの間、大会運営をしてくださった方々、審判団の方々、ボランティアの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

とらえ方を変えることで、見える世界が変わること。自分が納得できる試合、納得できる一打を打つ為に努力することの大切さ。一生懸命さが伝われば、人の心を動かせること。好きなことをできる幸せ。私が学んだことは、たくさんあります。

みなさんにとっても成長できる場であってほしいし、親子共通の目標、夢の場所であって欲しいと考えています。これからも『人が育つ場』として、この全国中学校大会が益々、発展されることを願っています。



北信越ブロック



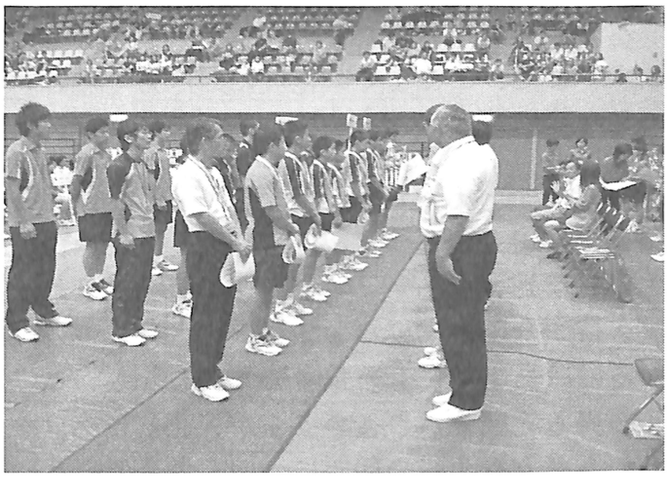
福井全中



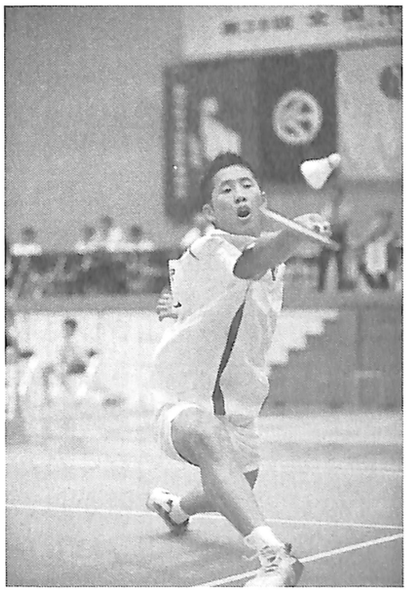
福井全中



福井全中



福井全中



福井全中



福井全中



福井全中

北信越中体連ブロックのあゆみと展望



北信越中体連ブロック長　前田　宏治

全国中学校バドミントン大会開催40周年おめでとうございます。平素より深くお世話になっている一人として心からお喜び申し上げます。また、ここまでの発展にご尽力くださいました諸先輩方に、深甚なる敬意を表する次第です。

さて、この原稿の依頼をいただきましたが、私はバドミントン部の顧問となって今年で10年目を迎えたものの、この40年の歴史と伝統を持つ全国中学校バドミントン大会について語るにはあまりにも若輩者です。しかし、私の知り得る範囲ではございますが、北信越ブロックのあゆみや今後の展望について考えてみたいと思います。

北信越各県のバドミントンのレベルは、全国的に見てもかなり高いところにあります。北信越中体連が創立される以前から福井・石川・富山の各県を中心に全国大会（都道府県対抗の団体戦のみ）で上位に名前を連ねてきました。北信越中体連が創立された昭和55年（1980年）以降…この年から全国大会は学校対抗の団体戦と個人戦を行うようになった…この30年間で毎年のように北信越ブロックの代表チーム・個人が全国大会で上位入賞を果たしてきました。このような結果から、全国的にも一目置かれる存在ともなってきました。当然のことながら、北信越各県の出身で、国内のトッププレーヤーとして活躍されている選手も多いです。石川県出身で現トナミ運輸所属の舛田圭太選手、福井県出身で現ユニシス所属の廣部好輝選手など、オリンピックでのメダルを目標に世界に挑戦している選手や、現在小学生で無敵の女王として君臨する福井県の勝山南部ジュニア所属、山口茜選手のようにこれからの日本を背負っていくであろう選手も少なくありません。

このようなレベルの高さを維持してきた背景には、各県同士で激しくしのぎの削り合いがあるからこそです。それは北信越大会の結果にも表れています。北信越ブロック内では、福井県が早い時期からバドミントン競技の強化に取り組み、第1回北信越大会を福井県で開催したこともあって、第4回大会頃までは優勝を手にしてきました。その後、石川県や富山県がジュニアの育成に取りかかり、北信越大会で上位を占めるようになりました。それからしばらくは、石川・富山両県のトップ争いが続きました。その壁を破ろうと、福井・新潟でもジュニアからの選手強化に力を入れ、長野もこれに続こうと頑張ってきました。また、各県の強化事業の一環として外国人コーチの指導を仰ぎ、選手だけでなく指導者のレベルアップにも力を注いできました。それに加え、全国中学校バドミントン大会を平成4年度に富山県高岡市で、平成11年度と平成20年度に福井県福井市で開催したことも、各県の急激なレベルアップにつながっていると思います。

こうして「全国に北信越あり」と、その存在を示してきましたが、近年、全国的にジュニアと中学校が連携して、場合によっては高校や一般とも連携しながら選手育成に取り組むということが当たり前になってきました。また、日本バドミントン協会がオリンピックでのメダル獲得を目標として掲げていることから、各地方の有力選手はジュニアの段階から、有力校に集まることが自然の流れのようにもなってきました。実際に、ジュニア時代を北信越ブロックで過ごし、中学生になったら他県の有力校に籍を置くという選手の数は増えてきています。

そのような動きを否定するわけではありませんが、中学生とは言えまだまだ子どもですから、

せめて中学卒業までは地元の学校で頑張って欲しいと私は思います。そのためにも今後は北信越各県の中体連単独ではなく、各県、各地域の競技団体と相談をしながら、より良い連携の仕方を模索していかなくてはならないと感じています。また、各県の先生方には、これからも全国をリードするブロックの一員であるという自負を持ち続けていただきたいと思います。私自身も、一学校のバドミントン部の顧問であり、一指導者でありますから、指導している選手が全国の舞台で活躍することができるよう、日々頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、全国中学校バドミントン大会がこれからもますますの発展を続け、選手諸君のより一層の活躍をお祈り申し上げます。

北信越ブロック大会記録

回	開催県	男子				女子			
(年度)	開催市町	団体		個人		団体		個人	
第1回	福井	成和中	複	森下・加藤	(成和・福井)	成和中	複	上山・前多	(高松・石川)
(S55)	福井市	(福井)	単	吉田	(吉田・新潟)	(福井)	単	佐藤	(関屋・新潟)
第2回	富山	光陽中	複	芦井・坂田	(成和・福井)	光陽中	複	川端・岡山	(高松・石川)
(S56)	高岡市	(福井)	単	平井	(上市・富山)	(福井)	単	藤井	(真野・新潟)
第3回	長野	光陽中	複	堤・田中	(成和・福井)	進明中	複	小池・藤井	(関屋・新潟)
(S57)	長野市	(福井)	単	佐藤	(光陽・福井)	(福井)	単	一木	(高松・石川)
第4回	石川	燕中	複	河戸・岡本	(光陽・福井)	光陽中	複	土橋・谷口	(光陽・福井)
(S58)	金沢市	(新潟)	単	石田	(医王山・石川)	(福井)	単	江村	(燕・新潟)
第5回	新潟	上市中	複	大塚・田丸	(河北台・石川)	上市中	複	前川・沢山	(進明・福井)
(S59)	上越市	(富山)	単	小池田	(宇ノ気・石川)	(富山)	単	山口	(河北台・石川)
第6回	福井	上市中	複	種・長原	(上市・富山)	上市中	複	田中・栗川	(宮浦・新潟)
(S60)	福井市	(富山)	単	油井	(宇ノ気・石川)	(富山)	単	松田	(陽明・福井)
第7回	富山	河北台中	複	藤島・藤森	(宇ノ気・石川)	宇ノ気中	複	松本・油野	(宇ノ気・石川)
(S61)	富山市	(石川)	単	北井	(河北台・石川)	(石川)	単	中橋	(高松・石川)
第8回	長野	高松中	複	渡辺・広田	(上市・富山)	高松中	複	柴田・小川	(高松・石川)
(S62)	長野市	(石川)	単	金津	(高松・石川)	(石川)	単	多田	(宇ノ気・石川)
第9回	石川	宇ノ気中	複	石本・本田	(美川・石川)	芝園中	複	河口・下村	(芝園・富山)
(S63)	美川町	(石川)	単	松下	(泉・石川)	(富山)	単	宮城	(附属・石川)
第10回	新潟	高松中	複	岡田・羽田	(高松・石川)	河北台中	複	森・一花	(高松・石川)
(H1)	新潟市	(石川)	単	加藤	(野田・石川)	(石川)	単	寺尾	(犀川・石川)
第11回	福井	明道中	複	斉藤・藤田	(医王山・石川)	河北台中	複	松本・笠嶋	(河北台・石川)
(H2)	福井市	(福井)	単	鶴見	(高岡・石川)	(石川)	単	櫻井	(河北台・石川)
第12回	富山	上市中	複	松喜・宮本	(上市・富山)	奥田中	複	加藤・山田	(奥田・富山)
(H3)	高岡市	(富山)	単	神谷	(志貴野・富山)	(富山)	単	山田	(奥田・富山)
第13回	長野	高松中	複	酒井・久保	(上市・)	奥田中	複	加藤・山田	(奥田・富山)
(H4)	上田市	(石川)	単	徳坂	(医王山・石川)	(富山)	単	中村	(鳴和・石川)
第14回	石川	速星中	複	山崎・川岸	(伏木・富山)	美川中	複	沢田・南	(美川・石川)
(H5)	美川町	(富山)	単	舛田	(犀生・石川)	(石川)	単	堀	(美川・石川)
第15回	新潟	高松中	複	石黒・藤井	(呉羽・石川)	美川中	複	今村・明福	(美川・石川)
(H6)	新発田市	(石川)	単	茶谷	(北鳴・石川)	(石川)	単	岩脇	(西南部・石川)
第16回	福井	田鶴浜中	複	大畠・山下	(田鶴浜・石川)	美川中	複	沢・坂本	(高松・石川)
(H7)	大野市	(石川)	単	茶谷	(北鳴・石川)	(石川)	単	田村	(美川・石川)
第17回	富山	田鶴浜中	複	廣瀬・長尾	(田鶴浜・石川)	南星中	複	泉・桂下	(南星・富山)
(H8)	滑川市	(石川)	単	山下	(田鶴浜・石川)	(富山)	単	大下	(堀川・富山)
第18回	長野	田鶴浜中	複	川口・山田	(南星・富山)	南星中	複	吉岡・小川	(南星・富山)
(H9)	松本市	(石川)	単	横山	(鹿島・石川)	(富山)	単	田村	(南星・富山)
第19回	石川	田鶴浜中	複	岩内・梅田	(高岡・石川)	南星中	複	今井・江本	(南星・富山)
(H10)	美川町	(石川)	単	中野	(河北台・石川)	(富山)	単	本出	(美川・石川)
第20回	新潟	田鶴浜中	複	小川・黒瀬	(速星・富山)	美川中	複	寺山・木村	(布水・石川)
(H11)	三条市	(石川)	単	村上	(城南・石川)	(石川)	単	通次	(板津・石川)
第21回	福井	明倫中	複	長尾・山本	(田鶴浜・石川)	美川中	複	梨木・御前	(美川・石川)
(H12)	大野市	(福井)	単	大岡	(明倫・福井)	(石川)	単	伊東	(金石・石川)
第22回	富山	明倫中	複	斉藤・斉藤	(明倫・福井)	和合中	複	水口・南出	(御幸・石川)
(H13)	高岡市	(福井)	単	小町谷	(赤穂・長野)	(富山)	単	伊東	(金石・石川)
第23回	長野	明倫中	複	斉藤・斉藤	(明倫・福井)	御幸中	複	水口・南出	(御幸・石川)
(H14)	大町市	(福井)	単	安藤	(大徳・石川)	(石川)	単	金山	(和合・富山)
第24回	石川	勝山中部中	複	愛宕・竹内	(勝山中部・福井)	和合中	複	木村・桜井	(美川・石川)
(H15)	美川町	(福井)	単	松川	(勝山北部・福井)	(富山)	単	南出	(御幸・石川)
第25回	新潟	勝山南部中	複	松浦・山口	(勝山南部・福井)	和合中	複	森・布村	(和合・富山)
(H16)	五泉市	(福井)	単	千京	(勝山南部・福井)	(富山)	単	片山	(和合・富山)
第26回	福井	勝山南部中	複	山口・川西	(勝山南部・福井)	美川中	複	金山・布村	(和合・富山)
(H17)	大野市	(福井)	単	千京	(勝山南部・福井)	(石川)	単	土谷	(武生第一・福井)
第27回	富山	上市中	複	砂井・米田	(小須戸・新潟)	和合中	複	平野・中谷	(山室・富山)
(H18)	高岡市	(富山)	単	星野	(上市・富山)	(富山)	単	高橋	(和合・富山)
第28回	長野	勝山北部中	複	吉森・星	(松任・石川)	和合中	複	平野・中谷	(山室・富山)
(H19)	松本市	(福井)	単	南	(城南・石川)	(富山)	単	高橋	(和合・富山)
第29回	石川	勝山北部中	複	宮田・荒井	(犀生・石川)	和合中	複	遠藤・山口	(和合・富山)
(H20)	白山市	(福井)	単	勝見	(勝山北部・福井)	(富山)	単	奥原	(仁科台・長野)
第30回	新潟	光陽中	複	丸山・牧畠	(高岡・石川)	和合中	複	山口・齋藤	(和合・富山)
(H21)	五泉市	(福井)	単	荒井	(犀生・石川)	(富山)	単	奥原	(仁科台・長野)

長野県中学校体育連盟 バドミントン専門部の歩み

長野県中学校体育連盟バドミントン専門部専門委員長　長野市立北部中学校　飯森　己由

全国中学校バドミントン大会開催40周年おめでとうございます。

この40周年の大会の開催にあたり記念誌の発行のために長野県の中学生の歩みについて書いて欲しいとの依頼があり、この十年間位についての歩みをたどってみたいと思います。私がこの職を引き受けて12年になります。この間に長野県の中学生のバドミントンが大きく変化しました。最初はまだ、試合ではナイロン球を使用していました。どちらかというと、細かな技術もありますが、夏場の暑い時期を勝ち上がっていくためには、やはり上から打つというタフさがないとだめだったように感じます。そこからもう十年たちました。年代を区切って長野県の中学生のバドミントンについて振り返ってみたいと思います。

(1) 平成12年（2000）

この年は長野市の更北中の女子が5人揃っていて団体で優勝。男子の団体は赤穂中が優勝し北信越大会へ出場。この頃より小学生からプレーしていた選手が中学の中でも活躍が目立ち出した。男子では、赤穂中の松下、小町谷。小町谷は現NTT東北に所属しプレーしていて、今期一部に昇格した。また、女子では同じく赤穂中で谷坂がシングルスではトップであった。谷坂は本年度、長野県の成年女子で北信越国体を勝ち抜き、本国体に出場する原動力となる選手。

この年に男子ダブルスで松下・小町谷が北信越大会で2位となり、熊本全中に出場。勢いにのってベスト8になる。

(2) 平成13年（2001）

男子の団体では小町谷をエースとする赤穂中が2年連続優勝し、女子は南木曾中が初優勝した。個人戦の男子シングルスでは昨年度男子ダブルスで全中ベスト8になった小町谷が県大会を制し、北信越大会に出場。二回戦の石川代表の安藤をセッティングの末勝利し、その勢いで決勝戦へ。決勝では新潟代表の堀川と対戦し見事接戦を制し優勝した。全中では、堅実なプレーでベスト8に進む。

(3) 平成14年（2002）

この年の男子団体では、戸倉上山田中が優勝し、女子団体では南木曾中が連覇をする。個人戦の有望選手は男子ダブルスで戸倉上山田中の小平・中島がいい動きを見せていた。しかし、北信越大会では力及ばずであった。

(4) 平成15年（2003）

この年の団体戦は男子、女子ともに長野北部が初優勝した。チームの中心である田崎がチームを引っ張った。男子のダブルスでは田崎・山田が優勝し北信越大会でベスト8になる。

(5) 平成16年（2004）

この年男子の団体戦は戸倉上山田中が優勝し、女子では南木曾中が優勝した。優勝した戸倉上山田中の小山・松下がいい動きを見せていた。女子は南木曾中の上田を中心としたチーム力が良かった。

(6) 平成17年 (2005)

男子・女子団体は南木曾中がアベック優勝した。また、男子の2位になった仁科台中も力をつけていた。この年の前後より、長野県でも小学校で力をつけてきた選手が県大会を勝ち抜き、力を見せていた。個人戦の男子ダブルスでは南宮中の小林・柳沢が県大会を優勝し、北信越大会で接戦の末ベスト4であった。

(7) 平成18年 (2006)

南木曾中が男女ともに優勝し連覇した。この時の南木曾中は左利きの3年上田と小柄ではあるが良く動く2年田口の二枚看板で県大会を制した。女子も田口・鈴木・永田・八橋が中心となり活躍した。また、個人戦の男子シングルスでは仁科台中の藤巻が圧倒的な力で優勝した。北信越大会では、南木曾中が相手の裏をかいたオーダーも的中し暑い富山大会ではあったが、激戦の末、決勝戦まで上り詰め、全国大会への切符を手にした。また、男子シングルスの藤巻も決勝までは安定した力で勝ち上がり、決勝戦では上市中の星野と戦いファイナルの末破れ第2位になり全国大会に出場した。男子団体の南木曾中は全国大会でも活躍しベスト8。男子シングルスの藤巻もベスト8まで進出した。

(8) 平成19年 (2007)

この年は男子団体は南木曾中が3連覇し、女子の団体戦では奥原希望を要する仁科台中が初優勝する。女子シングルスでは、奥原希望が絶対的な強さで優勝し、北信越大会でベスト8になる。シングルスの女子奥原はこの年のU－15のナショナルメンバーに選ばれる。

(9) 平成20年 (2008)

男子の団体戦は長野北部中が2回目の優勝で、女子の団体は仁科台中が連覇をする。

男子シングルスでは茅野東部中の高田が優勝し、女子のシングルスでは仁科台中の奥原が連覇をする。北信越大会の女子シングルスでは仁科台中の奥原が優勝し、南木曾中の鈴木が第三代表決定戦に勝ち、女子の二人が全中への切符を手にした。全国大会では奥原が2回戦、鈴木が初戦で力尽きた。

(10) 平成21年 (2009)

男子の団体は南木曾中が優勝し、女子の団体は仁科台中が制した。また、個人戦の男子シングルスでは、南木曾中の太田が緩急を上手く使って相手を崩し優勝した。女子のシングルスでは仁科台中の奥原が圧倒的な強さで優勝した。また、北信越大会では、女子団体では仁科台中と南宮中がベスト8になり、個人戦の女子のシングルスでは奥原希望が優勝し全国大会へ駒を進めた。全国中学校バドミントン大会では、ベスト8止まりとなってしまった。9月に行われた、全日本ジュニアのジュニアの部女子シングルスで奥原が準優勝となる。

◇この10年間を振り返って

この十年間にめまぐるしく長野県の中学生のバドミントンの力が上がった。男子では赤穂中の松下・小町谷、仁科台中の藤巻そして団体では南木曾中が全中に出場し、女子では奥原が全国トップクラスの力になった。他県では当たり前のことかもしれませんが、長野県ではここ10年の中で、小学生のレベルが上がりひいては中学生も上がってきた。もちろん中学校から始めた選手も頑張ってはいるが、ジュニア層の活躍と指導者レベルの向上もあった。また、元トナミ運輸コーチの朴氏による指導も長野県のレベルを上げていく大きな足かがりともなった。

新潟県中体連バドミントン競技専門部のあゆみ



新潟県中体連バドミントン専門部部長　中沢　淳

全国中学校バドミントン大会開催40周年おめでとうございます。平素よりお世話になっている者として心からお慶び申し上げます。また、これまで中体連事業にご尽力くださいました諸先輩方に、深く感謝し敬意を表します。

私自身、中学校のバドミントン部の顧問として16年目を迎えましたが、県中体連の部員として活動してからは10年目となりました。長い歴史の中体連事業の一部しか理解しておりませんが、知り得た範囲で振り返ってみたいと思います。

第1回大会は1971年（S46年）に都道府県対抗の団体戦が東京都で開催されました。当初は県選抜（混成）としての参加が可能で、この記念すべき第1回大会で新潟県の女子チームは2位、さらに第3回大会で3位に入賞するなど新潟県のレベルの高さを知りました。その後、個人戦も開催されるようになり1982年（S57年）の第12回大会は新潟県で開催されました。地元開催に向け取り組んでいた選手強化活動が実を結び、女子ダブルスで関屋中学校の小池・藤井組が3位入賞を果たしました。続いて、翌年には男子ダブルスで燕中学校の梅田・田中組が3位に入賞しました。その後、第16回大会から第26回大会まで、残念ながらブロック大会を突破できずに全国大会への出場が果たせませんでした。しかし、ジュニア強化活動の成果が出始め、第27回大会から再び個人戦において、ブロック大会を突破して全国大会へ出場する選手が出てきました。さらに、平成18年以降は、今年新潟県で開催された「トキめき　新潟国体」の少年の部の選手育成事業で、県協会が中心となり強化活動をスタートした成果として、男子ダブルスの小須戸中学校の米田・砂井組がブロック大会で優勝し全国大会でもベスト8に入りました。さらに今年度は、団体戦で越路中学校の男子が26年ぶりに全国大会への出場を果たしました。個人戦においても男子は全種別に出場し近年にない活躍ぶりで、関係者の大きな励みとなりました。

現在、新潟県では部活動として学校で活動している地域と、社会体育が中心となって選手の育成を行っている地域があります。以前と比較して部活動の設置数が減少しているものの、ジュニアクラブの設置は各地区で多くなっています。選手の層も少しずつではありますが厚くなってきています。かつては日本を代表する選手が多くいた新潟県の復活を目指し、ジュニア育成は欠かせないものとなっています。協会関係者や指導者・顧問等の協力で北信越ブロックを突破して、1人でも多くの選手が全国大会に出場できるように努力していきたいと思います。

最後になりましたが、「全国大会出場」や「全国大会優勝」を目標とする中学生の大会として、ますます発展するとともに、選手と関係者のより一層のご活躍をお祈りいたします。

新潟県総合体育大会バドミントン競技結果（団体戦のみ）

	Ｓ４６年	Ｓ４７年	Ｓ４８年	Ｓ４９年	Ｓ５０年	Ｓ５１年	Ｓ５２年	Ｓ５３年
男　子	吉　田	吉　田	吉　田	燕	燕	大　形	燕	燕
女　子	舟　栄	曽野木	高　千	高　千	関　屋	関　屋	関　屋	寄　居
	Ｓ５４年	Ｓ５５年	Ｓ５６年	Ｓ５７年	Ｓ５８年	Ｓ５９年	Ｓ６０年	Ｓ６１年
男　子	燕	吉　田	燕	燕	燕	吉　田	燕	燕
女　子	関　屋	関　屋	白根第一	関　屋	燕	宮　浦	宮　浦	鳥屋野
	Ｓ６２年	Ｓ６３年	Ｈ　元年	Ｈ　２年	Ｈ　３年	Ｈ　４年	Ｈ　５年	Ｈ　６年
男　子	大　形	坂井輪	燕	燕	吉　田	吉　田	葛　塚	燕
女　子	宮　浦	吉　田	白根第一	吉　田	吉　田	大　形	吉　田	新津第二
	Ｈ　７年	Ｈ　８年	Ｈ　９年	Ｈ１０年	Ｈ１１年	Ｈ１２年	Ｈ１３年	Ｈ１４年
男　子	燕	吉　田	燕	笹　神	笹　神	越　路	塚　山	塚　山
女　子	吉　田	新津第二	新津第二	燕	坂井輪	金　井	藤　見	東新潟
	Ｈ１５年	Ｈ１６年	Ｈ１７年	Ｈ１８年	Ｈ１９年	Ｈ２０年	Ｈ２１年	
男　子	塚　山	塚　山	燕	越　路	笹　神	吉　田	越　路	
女　子	笹　神	笹　神	金　井	笹　神	笹　神	柏崎　東	越　路	

富山県中体連バドミントン競技専門部のあゆみ



富山県中体連バドミントン競技専門部 副部長　片山　幸男

全国中学校バドミントン大会開催40周年、おめでとうございます。平素より深くお世話になっている一人として心からお慶び申し上げます。また、これまでの発展にご尽力くださいました諸先輩方に、深甚なる敬意を表する次第です。

さて、平成19年度より副部長の任を仰せつかった私ですが、長い歴史をもつ全国中学校バドミントン大会と富山県中体連バドミントン競技専門部とのかかわりを語るには、私はあまりに若輩者であります。しかし、私の知り得る範囲ではございますが、富山県中体連バドミントン競技専門部のあゆみについて振り返ってみたいと思います。

富山県中体連を振り返ってみますと、平成4年に地元高岡で開催された第22回全国中学生バドミントン大会において、男子ダブルスで酒井・久保組（上市中）、女子ダブルスで加藤・山田組（奥田中）が富山県選手で全国大会初優勝という栄光に輝きました。また、女子団体でも、奥田中学校、南星中学校が3位という好成績を収めました。さらに、平成9年に開催された第27回全国中学生バドミントン大会において、南星中学校が女子団体優勝を果たしました。その後、平成18年、第36回全国中学生バドミントン大会では、男子シングルスで星野（上市中）、平成19年、第37回全国中学生バドミントン大会では、女子シングルスで、高橋（和合中）、平成20年、第38回全国中学生バドミントン大会では、女子団体で和合中学校が優勝を果たすことができました。また、これ以外にも多くの富山県内選手が全国大会で上位入賞を果たすことができたなど、着実に力を伸ばしてきたものと考えられます。

このように、着実にレベルアップがみられ、好成績が収めることができた背景には、次のようなことが考えられます。

学校や各地区そして中体連による計画的な練習会の開催、富山県教育委員会や富山県バドミントン協会の温かいご支援のもと、実施された県外遠征や合宿等を積み重ねてきたことが挙げられます。さらに練習会では実業団や高体連の選手の指導を受けるなどし、技術面はもちろん精神面の向上においても大きな自信をつけることができました。また、ジュニアクラブの指導者と各学校顧問の献身的な指導と連携が今まで以上に深まったからこそだと考えられます。これらのことが、中学生によい刺激と、高い目標を常にもち続けさせられたことが競技力の向上につながり優秀な成績が残せたものと思われます。今後も選手育成のために関係団体と連携をとり、富山県中体連専門部一同が一丸となりさらなる努力をしていきたいと思います。

最後になりましたが、全国中学校バドミントン大会がこれからもますますの発展を続け、選手諸君のより一層の活躍をお祈り申し上げます。

富山県中学生総合競技大会バドミントン競技結果（団体の部のみ）

	Ｓ５６	Ｓ５７	Ｓ５８	Ｓ５９	Ｓ６０	Ｓ６１	Ｓ６２	Ｓ６３	Ｈ１
男子	上市	上市	上市	志貴野	上市	上市	上市	志貴野	志貴野
女子	上市	上市	上市	上市	上市	上市	上市	奥田	芝園
	Ｈ２	Ｈ３	Ｈ４	Ｈ５	Ｈ６	Ｈ７	Ｈ８	Ｈ９	Ｈ１０
男子	上市	上市	上市	上市	伏木	南星	伏木	雄山	雄山
女子	奥田	奥田	奥田	奥田	南星	庄西	芝園	南星	南星
	Ｈ１１	Ｈ１２	Ｈ１３	Ｈ１４	Ｈ１５	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９
男子	速星	山室	山室	志貴野	上市	上市	上市	上市	南星
女子	南星	十三	和合	和合	和合	和合	和合	和合	和合

	Ｈ２０	Ｈ２１
男子	上市	和合
女子	和合	和合

富山県選抜選手権大会バドミントン競技結果（団体の部のみ）

	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１
男子	南星	雄山	上市	上市
女子	和合	和合	和合	和合

石川県中体連バドミントン競技部のあゆみ



石川県中体連バドミントン競技部 専門委員長　宮前　仁

石川県は『バドミントン王国』と言われ、バドミントンの競技水準が高いことで知られている。その証として、これまでに11名の全日本総合選手権優勝者を輩出しいる〔登悦子・澁谷弘利・小島信・山崎紀久子・沢田力・竹中（栂野尾）悦子・銭谷欽治・宮森庄吉・気谷篤人・竹鼻拓也・舛田圭太（敬称略）〕。また、老若男女を問わず大勢の人が生涯スポーツとしてもバドミントンに親しんでいる。そんなバドミントンの盛んな石川県と中体連バドミントン競技部との関わりを述べたいと思う。

○創成期（昭和26年～46年）

石川県のバドミントン競技の県体は、昭和26年の男子大会に始まる。そして翌27年には女子団体戦も加わり、平成22年度で60回を数える伝統ある大会として知られている。当時は、石川県の中央部に位置する河北地区の活躍がめざましく、前述した竹中悦子選手も高松中学校で優勝選手の一人として活躍した。

また、参加校は昭和37～39年は男子13校、女子14校とほぼ同数であるが、昭和46年には男子9校、女子17校と女子の部活動数が多くなってきた。さらに昭和46年の大会から個人戦が加わることとなる。また、昭和46年から全日本中学校体育大会（全中大会）が開催され、選手や監督は「全国制覇」を合い言葉に日々の練習に取り組んだ。

○発展期（昭和47年～63年）

この時期は、指導者や関係者の努力が徐々に成果を実らせることになる。昭和47年には、第2回全中大会で、男子高松中学校が団体準優勝を遂げ、石川県のレベルの高さを実証することとなる。当時の高松中学校の選手は、金沢市立工業高等学校へ進学しインターハイ団体優勝の原動力となった。

また、この時期の特徴としては、県体も30回を越え、規模の拡大・選手のレベルアップがあり実力の接近で大変盛り上がる試合内容となった。

この頃は小学校からバドミントンを始めた選手は少なく、中学校の部活動の中で心身を鍛え高い技術を身に付けた選手が多い。高い目標に向け選手と指導者、そしてそれを周囲で支える方々が一体となって取り組んでいた。特にその結果が顕著に表れたのが河北地区の中学校である。昭和61年には全中大会で河北台中学校が男子団体優勝、宇ノ気中学校の藤島・藤森ペアが男子ダブルスで優勝、翌62年には高松中学校が男子団体優勝するなど「河北を制すれば全国を制す」と当時言われた。

○充実期（平成元年～14年）

この時期になると小学校からバドミントンを始める選手も多くなっており、中学・高校でもトップ選手として活躍するようになってくる。もちろん、中学1年の部活動加入から始める選手も少なくない。小学校で経験している者と初心者として始める者とを同じ部活動の中で指導するには、ジュニア指導者との連携が大変重要となってきた。

また、この時期は能登地区の田鶴浜中学校男子の活躍が目覚ましい。平成7年～11年まで5年連続で北信越大会団体優勝（全中大会出場）し、そのうち全中大会団体優勝1回、3位2回を数える。また、田鶴浜中学校が優勝した平

成８年の決勝戦の相手は、同じ石川県の高松中学校であった。さらに、女子美川中学校も団体戦３位になり石川女子勢として初入賞を果たした。

また、金沢地区や美川、小松地区など河北以外の地区から個人戦でも活躍する選手が多数出るようになった。

当時の石川県の中学生の活躍が目立つ要因を、田鶴浜中学校を指導していた観田健治監督は、「石川県のバドミントン界が、学校単位の小さなセクト主義に陥らずに、学校という枠を越え、常に声をかけ県全体で選手を育成しようという雰囲気が浸透していたためである。」と言っている。また、ジュニア層の育成の成果である。各ジュニアが切磋琢磨し県全体のレベルアップが中学校の成績にも影響を及ぼしたと考えられる。

○模索期（平成15年～）

ここ近年では平成19年の吉森・星ペア（松任中）の男子ダブルス２位入賞しているものの、他では活躍が乏しい。

県大会の運営では各郡市で行っていた予選会を、県全体を４つのブロックに分け（南加賀・金沢・河北・能登）て行うようになった。

また、技術的にはナイロンシャトルから水鳥シャトルに変更したことにより、技術水準が著しく高くなった。中学校で結果を出すためには、これまで以上にジュニアクラブと部活動の連携が必要不可欠となってきた。ジュニアクラブと部活動でのやるべき事の棲み分けを行い、効率的な指導が求められるようになっている。

石川県の中学生がこのように活躍できたのも、選手に関わった中学校の指導者はもとより、小学生から育成に当たられている指導者や各競技団体の関係者の力添えがあった事は言うまでもない。中学生の育成に関わった方々に深く敬意を表すると共に労をねぎらい中体連として感謝する次第である。

また、毎年５月に行われる石川ジュニアオープンバドミントン大会も今年で15回目を迎えることとなった。最近では北海道や中国地方からの参加もあり、全国規模の大会に発展してきた。北信越を中心に関東、東海、近畿、東北の強豪選手を招き県下選手のレベルアップにつながっている。中体連としても、全県下を統一する機関として今後もその役割を果たしていきたい。

最後になりますが、全国中学校バドミントン大会がこれからもますます発展を遂げ、選手諸君の一層の活躍をお祈り申し上げます。

《石川県選手の全国大会入賞者》

全国中学校体育大会　バドミントン競技			
年度	種目	成績	選手名（学校名）
昭47	男子団体	２位	高松中学校
59	男子ダブルス	３位	大塚・田丸（河北台中）
	男子シングルス	３位	小池田基（宇ノ気中）
61	男子団体	優勝	河北台中学校
	男子ダブルス	優勝	藤島・藤森（宇ノ気中）
62	男子団体	優勝	高松中学校
63	男子ダブルス	２位	石本・本田（美川中）
平２	女子シングルス	３位	櫻井宏子（河北台中）
４	男子シングルス	３位	徳坂　渉（医王山中）
５	男子シングルス	３位	舛田圭太（犀生中）
６	男子団体	３位	高松中学校
	女子シングルス	２位	岩脇　史（西南部中）
７	男子団体	３位	田鶴浜中学校
	男子シングルス	優勝	酒井忠相（田鶴浜中）
		３位	茶谷徳靖（北鳴中）
８	男子団体	優勝	田鶴浜中学校
		２位	高松中学校
	男子ダブルス	優勝	広瀬・長尾（田鶴浜中）
		３位	堀田・金田（高松中）
	女子団体	３位	美川中学校
９	男子団体	３位	鹿島中学校
10	男子団体	３位	田鶴浜中学校
	男子ダブルス	３位	岩内・梅田（高岡中）
11	男子ダブルス	３位	宮村・山田（犀生中）
	女子ダブルス	２位	青山・木村（布水中）
12	男子シングルス	３位	宮村順也（犀生中）
	女子団体	２位	美川中学校
	女子シングルス	３位	伊東可奈（金石中）
14	女子ダブルス	優勝	水口・南出（御幸中）
19	男子ダブルス	２位	吉森・星（松任中）

全日本中学生バドミントン選手権大会		
年度	成績	選　手
平12	３位	山口、和田、安藤、西村、水口、南出な
13	優勝	安藤、堂谷内、廣田、南出な、水口、興津、南出さ
14	３位	紙田、山森、鈴木、石立、南出さ、村上、炬、安達

福井県中体連バドミントン競技専門部のあゆみ



福井県中体連バドミントン競技専門部 副部長　前田　宏治

全国中学校バドミントン大会開催40周年、おめでとうございます。平素より深くお世話になっている一人として心からお慶び申し上げます。また、ここまでの発展にご尽力くださいました諸先輩方に、深甚なる敬意を表する次第です。

さて、中学校でバドミントン部の顧問となり今年で10年目を迎え、平成21年度より、副部長の任を仰せつかった私ですが、長い歴史を持つ全国中学校バドミントン大会と福井県中体連バドミントン競技専門部との関わりを語るには、私はあまりに若輩者であります。しかし、私の知り得る範囲ではございますが、福井県中体連バドミントン競技専門部のあゆみについて振り返ってみたいと思います。

第1回全国大会は1971年に東京都で開催されました。その当時は都道府県対抗の団体戦のみが行われていました。その記念すべき第1回大会で、福井県の男子チームは準優勝という輝かしい結果を残しました。その後も男女とも優勝は逃すものの、常に好成績を残していました。しかし、全国的なバドミントン競技の普及や、指導技術の向上による競技力のめざましい進歩により、福井県のチームが結果を残すことが難しくなっていきました。その間、福井県でもジュニア層の強化や強化体制の見直し、優秀指導者招聘事業による指導者の育成など、様々な方法で選手育成に努めてきました。また、第29回大会と第38回大会を本県福井市で開催し、その大会に向けてより一層の強化を図ってきたことも特筆に当たると思います。その結果、広島市で行われた第31回大会で、明倫中学校の齋藤・齋藤ペアが個人ダブルスで準優勝、至民中学校の佐々木・野村ペアが3位入賞し、福井県復活の烽火を上げました。その後は団体、個人を問わず、毎年のように上位入賞チーム、入賞者が福井県から輩出されています。その中でも、岐阜市で行われました第35回大会での、勝山南部中学校の団体の部での優勝は、記憶に新しく最も輝かしい成績です。

大都市から離れ、競技人口もそれほど多くはない福井県ですが、このようにすばらしい結果を残すことができているのは、ジュニア連盟、中体連、高体連、県協会など、それぞれの組織が互いに連携し、協力し合うことができているからだと思います。練習環境や練習相手など決して恵まれているとはいえませんが、指導者同士が連絡を密にしアイディアを出し合って選手強化に取り組んでいます。今後もこのような努力を続けていき、全国、世界で羽ばたく選手の育成に尽力していきたいと思います。

最後になりましたが、全国中学校バドミントン大会がこれからもますますの発展を続け、選手諸君のより一層の活躍をお祈り申し上げます。

福井県夏季総合競技大会バドミントン競技結果（団体の部のみ）

	Ｓ５６	Ｓ５７	Ｓ５８	Ｓ５９	Ｓ６０	Ｓ６１	Ｓ６２	Ｓ６３	Ｈ１
男子	光　陽	光　陽	光　陽	光　陽	進　明	勝山南部	光　陽	勝山南部	明　倫
女子	光　陽	光　陽	光　陽	光　陽	陽　明	光　陽	勝山中部	明　道	明　道
	Ｈ２	Ｈ３	Ｈ４	Ｈ５	Ｈ６	Ｈ７	Ｈ８	Ｈ９	Ｈ１０
男子	明　倫	光　陽	明　道	芦　原	明　道	勝山中部	勝山中部	進　明	勝山北部
女子	成　和	勝山南部	陽　明	武生第三	武生第三	武生第四	至　民	至　民	至　民
	Ｈ１１	Ｈ１２	Ｈ１３	Ｈ１４	Ｈ１５	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９
男子	明　倫	明　倫	勝山南部	明　倫	勝山中部	勝山南部	勝山南部	勝山南部	勝山北部
女子	武生第一	勝山北部	至　民	丸　岡	勝山北部	武生第一	勝山中部	武生第三	武生第一
	Ｈ２０	Ｈ２１							
男子	勝山北部	光　陽							
女子	陽　明	勝山南部							

福井県秋季新人競技大会バドミントン競技結果（団体の部のみ）

	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１
男子	勝山北部	丸　岡	光　陽	光　陽
女子	武生第一	勝山南部	勝山南部	勝山南部

※Ｈ１７年度以前は，県協会主催大会として行われていた。

専門委員長を振り返って



平成15・16年度　北信越中学校体育連盟バドミントン競技部　専門委員長
平成14～20年度　石川県中学校体育連盟バドミントン競技部　専門委員長
石川県白山市立松任中学校　石田　浩幸

指導者として

指導者としては、美川中学校初代監督の水内浩先生から平成6年より顧問を引き継ぎ、そこから指導歴が始まった。当時初の北信越大会女子団体3連覇や、全国大会女子団体2位、男女団体アベック出場などの好成績を収めることができ、選手にはとてもいい思いをさせてもらった。このように美川中学校時代があった。しかし、これは地域の指導者と協力して、お互いを尊重し合い生徒の指導にあたることが出来たためであろう。その後、松任中学校にて指導をすることになったのだが、私はすぐに地元のバドミントン協会の中田吉昭会長と連絡を取り合い、中学生を伸ばす指導の在り方を相談した。そこでは中学生が部活動だけでなく、地域の指導者にも教わりながら、地元の大人と試合練習できる場を設けて欲しいとお願いをした。これを快く引き受けていただき、部活動と地域活動の2本立てのバドミントン指導が始まった。最初の数年は北信越大会に出場するのが精一杯であったが、その後は全国大会で男子ダブルス2位に入賞することも出来た。また、地域の小学生も活躍するようになり、良い流れも出来てきた。このように、指導者としてよりも地域の調整役としてバドミントンの指導に係わってきたことが、良い結果につながったように思う。10年、20年後に、選手が指導者として地域に戻って来てくれることが、私の何よりもの楽しみである。

専門委員長として

このように、地域の方々にもお世話になりながら指導していたので、気持ちに余裕もあったのだろう。そこで私は、バドミントン競技に対して役立つことが出来ないものかと考え、県の専門委員長を引き受けた。その頃、本県出身の舛田圭太選手がトップ選手として活躍しており、本県選手の頑張りの励みになっていた。と、同時に、選手強化に対する期待も大きくプレッシャーもあったことを覚えている。また、ナイロン球から水鳥球に変わり、指導方法も大きく変わっていった頃であった。他に一貫指導などの新たな指導の視点も出てきたため、その組織作りとその運営など、やらなくてはならない課題がたくさんあり、多くの時間を費やすこととなったが、やりがいもあり、充実した日々であった。

また、その内、2年間という短い期間ではあったが、北信越ブロックの専門委員長も引き受けることになった。全国大会にて多くのブロック長と親交を持てたことは、今でも私の財産である。本当にさせてもらって良かったと思う。大会運営は大変だが、選手のためにも、是非出場したいと思える大会づくりを今後も続けていって欲しいし、私自身も微力ながら助力していきたい。

全　中　ベスト８

長野県　南木曽中学校　外部コーチ　田口　辰徳

2006年(平成18年)8月奇跡が起こった。「全中出場」そして、「全中ベスト8」。

平成10年からスタートした南木曽中のバドミントン。平成12年から女子団体等北信越大会に連続出場はしていたが、北信越の壁は高く厚く、その向こうにある「全国中学校総合体育大会」は、まさに「夢のまた夢」の世界だった。さらに男子は団体が組めない少人数。団体戦は前年(平成17年)1年生2人が加わり6人でやっと初参加。だが、北信越大会出場、全国トップとなった勝山南部中に2回戦で敗れた。今思えば、全国トップとその時試合ができたことが翌年の奇跡のスタートだったのかと思う。

その後1年間同じメンバーで練習を重ね「全中出場」はみんなの合言葉となっていた。実は、この年代は女子のほうが小学生の時から全国大会を経験している子供ばかりで全中に近いのは女子とも思われていた。奇跡を起こしたメンバーは、おっとりした性格、コートでは頭から湯気をあげるキャプテン「加藤」･サウスポーから強烈なカウンター「上田」・独特のレシーブが持ち味の「松瀬」・人が良すぎて相手の引き立て役になることが多い「齋藤」・上がったら打つ、上がってなくても打つ「岩田」・小柄な身体を気合いでカバーの愚息「田口」性格もプレーも全く違う6人で、ダブルスの組み方にはとにかく悩んだ。その結果、県大会・北信越大会・全国大会を通して同じオーダーは1回もなかった。

北信越大会は初戦からオーダー次第の相手ばかり。全中の懸かった準決勝。相手は強豪石川の松任中。トップダブルスは松瀬・岩田。相手のエースダブルスと互角の戦いを演じファイナルで敗れたもののチームは「緊張」から「勝てるぞ」へとムードが変わった。同時に行なわれていたシングルスは、それまでシングルスに本当の自信というものを持っていなかった上田がプレッシャーの中で力を出し切り勝利。いよいよ勝負の懸かったセカンドダブルス。攻撃力はほぼ女子レベルの加藤・田口だったが、コートで、いやコートの外まで転げ周りながらのミラクルレシーブ。ファイナルゲームをまさに粘り勝った。「全中」を勝ち取った瞬間だ。その勢いで「全中」は2回も勝たせていただいた。「全国ベスト8」だ。準々決勝は王者、埼玉栄と戦うことができた。

1学年50人足らずの、田舎の小さな学校でも「やればできる」ということを証明し、また、仲間や応援していただいた方にすばらしい感動を与えてくれた彼等は私の宝だ。

長野県専門委員長の飯森先生はじめ、県の各方面の方々、学校・地域・家庭のみなさまに大変お世話になり、ご協力をいただいたことに対し心より感謝申し上げ終わりとします。

第 29 回福井大会の思い出



福井県中学校体育連盟 理事長　小林　孝史

このたびは、全国中学校バドミントン大会開催 40 周年おめでとうございます。全国大会開催に携わった者の一人として心からお喜びとお祝いを申し上げます。また、今日までこの大会を築き上げてこられた諸先輩方および関係者の方々に、深く敬意を表するとともに、この記念すべき節目に発刊されます記念誌に言葉を寄せる機会をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。

さて私は、平成 11 年度第 29 回全国中学校バドミントン大会福井県実行委員会事務局長として、大会運営全般の責任者を務めさせていただきました。県協会から「強化のためにも福井で全中をやろう」と言われ、あれよという間に福井開催が決まり、私が事務局を引き受けることになってしまいました。全国大会など見たこともなかったので、川崎、大府、新居浜、仙台へと視察に行き、諸先輩方にいろいろ教えていただきました。また、全国各ブロックのブロック長の先生方や日本中体連バドミントン競技部長の小野先生にもいろいろとお世話になりました。覚えたての電子メールで小野先生とやりとりさせていただいたことが懐かしく思い出されます。

もう一つ印象に残っているのは、開会式での歓迎行事です。現在では行われなくなりましたが、当時は地元の郷土芸能などを取り入れることが多かったようです。福井県では、いろいろと考えた末に、私の当時の勤務校（成和中学校）の 3 年生全員による歓迎合唱を披露しました。多くの方から「福井の中学生ってすごいね。」という言葉をいただき、これをやってよかったという思いと、夏休みの暑いなか練習をしてこの日に臨んでくれた 3 年生の生徒たちへの感謝の気持ちでいっぱいでした。



成和中学校 3 年生全員による歓迎合唱の様子

一方、競技力の面からもこの大会は、福井県のバドミントン界にとって大きな節目となる大会でした。数年前からジュニアと連携して強化に取り組み、この年こそベスト 8 にとどまりましたが、翌年から現在に至るまで数多く上位入賞を果たしています。この大会をきっかけにジュニアや中学生の強化体制が充実し、高校生の活躍につながるようになりました。

私個人にとっても、この大会で得た多くの出会いや経験は、今でも大きな財産となっています。平成 20 年度には北信越ブロックで全国大会が開催され、今度は福井県中体連の理事長として、福井県開催 3 競技（バドミントン・ハンドボール・卓球）を統括する福井県実行委員会の事務局長をさせていただきました。もちろん平成 11 年度の経験が活きたのは言うまでもありません。再び小野先生にもお世話になりました。

最後に、現在では全国大会開催に関して様々な課題があることは私も承知していますが、子どもたちの大きな目標であり、日本のバドミントン界を背負うアスリートの登竜門でもあるこの大会が、多くの人たちの知恵と努力と心意気で今後ますます価値あるものとして発展していくことを心から願っています。

全中大会は、小・中・高一貫指導の登龍門

福井県　上田　健吾

2002年から県での小・中・高一貫指導を考え、特に指導体制が不十分だった中学校をメインに置き、県のトップ選手を週に1度集めて練習し、全国各地に遠征に出かけ強化に努めました。自分たちの時代とは異なり、今は小学生の低学年からバドミントンを始め、型を作ります。それを将来に結びつけるには、中学校が強化ポイントだと考えていました。その結果、各地域から県へ、そして、小・中・高とピラミッド型の一貫強化体制ができ、練習の質及び選手の意識が格段に上がりました。特に全中大会は中学校の最終目標と位置づけ、練習スケジュールを指導者同士で常に意思疎通を図りました。その強化体制が整ってから、2003年に勝山中部中が3位、2005年に勝山南部中が1位、2007年に勝山北部中が3位、2008年に勝山北部中が2位、2009年に光陽中が3位、また3月に開催されている全日本中学生大会でも2009年に県勢としては初の3位に輝くことができました。またその結果、高校でもインターハイや選抜大会、国体でメダルを獲得できるようになりました。

この一貫強化体制は、全中大会2回、全日本中学生大会1回、高校選抜1回の福井県での開催が基点となって強化体制が整ったのも大きな要因です。指導者同士で意見を出し合い、よりよい環境を選手にと常に考えていました。また強化練習は指導者だけでなく、たくさんの人に支えられて運営されており、それだけに選手には常に「感謝の気持ち」を忘れないようにして欲しいと考えています。

全中を目標に大きく福井県は変貌を遂げることができました。中体連だけでなく、いろんな環境との連携が今は不可欠であり、この全中という大会は、小・中・高一貫指導の登龍門だと思っています。今後もこの大会が中学生の夢・目標として素晴らしい大会として続きますよう心よりお祈り申し上げます。



東海ブロック



平成８年第 26 回大府大会選手宣誓
大府中　早川　悟さん　大府北中　大矢和美さん



平成３年第 21 回熊本大会　大府中入場行進（飯村順一様より）



昭和 62 年第 17 回春日井大会　開催県大府西中団体選手

東海ブロックのあゆみ



東海ブロック長　坂野　和久

全国中学校バドミントン大会開催40周年記念にあたり、これまでの東海ブロックのあゆみを振り返ってみた。

東海ブロックでは、前進となる大会を含め、過去に5回の全国中学生バドミントン大会を実施している。昭和47年第2回全国中学校バドミントン大会が名古屋市で開催された。これに続いて、昭和53年第8回大会を名古屋市、昭和62年第17回大会を春日井市、平成8年第26回大会を大府市、平成17年第35回大会を岐阜市で行うことができた。

中体連の正式種目となって以降の大会で、東海ブロック代表校ならびに選手は、3位入賞ならびにベスト8の記録を数回記録している。その中で、東海ブロック開催となった第26回の大府大会において、男子シングルスで愛知県石尾台中学校の稲垣翔吾選手（現名古屋経済大学市邨高校職員）、男子ダブルスで三重県小俣中学校の山崎・谷口組がともに準優勝を収めた。東海ブロック初の決勝進出を果たせたこともあり、開催ブロックとして大きな喜びであったと記録されている。それ以降も、川越町立川越中学校出身の小椋久美子（SANYO）をはじめ、後藤　愛、奥　幸菜（NTT東日本）、野尻野匡世、打田しづか（日本ユニシス）ら多くの選手が全中で入賞を果たし、現在も日本リーグを中心に活躍している。そして、平成19年福島県大会において、大府市立大府南中学校（監督　鈴木宏一）が男子団体戦で東海ブロック初の団体優勝を納めた。

東海ブロック大会は昭和54年より始まった。この年に、全中出場がブロック制となり、第1回の東海ブロック大会が愛知県で実施された。これ以降、各県持ち回りで現在もブロック大会が実施されている。

第2回大会は、静岡県で開催され、地元の伊東南中学校が男女とも優勝を収め、全国へ出場を果たしている。伊東南中学校は、男子団体戦で第2回大会から第6回大会まで5大会連続優勝と輝かしい成績を収めている。女子団体戦では、第3回大会は三重県小俣中学校、第4回大会は淑徳中学校と続く。この大会では、愛知淑徳中学校が女子団体、女子単、女子複の全種目で優勝を果たした。また、全国大会でも団体5位入賞、女子複で3位入賞を果たす素晴らしい成績を上げた。その後、第5回大会から第9回大会まで愛知県大府市立大府西中学校が5大会連続優勝を収めている。

平成2年より、団体戦でブロック2校の出場が認められた。男子団体で、三重県津市立小俣中学校が平成3年から平成13年まで連続出場を果たした。女子では、平成2年から平成8年まで三重県津市立小俣中学校、三重県南郊中学校が全中出場権を続けて獲得している。この結果から、男女とも三重県が、ジュニアから一貫した強化指導により、東海ブロックをリードしてきた様子が伺える。

昭和57年第4回大会から個人戦が始まり、ブロック1位選手が、昭和62年より、ブロック2位までの選手が全中出場の機会を得られることとなった。平成6年より、個人シングルスで3位まで出場資格が得られるようになった。

男子個人シングルスでは、静岡県伊東南中片山卓哉選手、岐阜県笠松中　尾藤伸治選手、愛知石尾台中　稲垣翔吾選手、三重県久居中西川夏樹選手、三重県川越中　駒田直也選手、

愛知県朝日中　藤田康史選手らが全国でも優れた成績を残している。女子シングルスでも全国上位に入る実力をもっている選手が多数あらわれてきた。特に、平成10年以降の女子選手は冒頭にもあげた小椋選手を筆頭に高い実力をもった選手同士が高いレベルで競い合った。平成15年以降、女子シングルスでは小学生から高い実績を有する愛知県選手が上位を占め、平成21年まで全中出場権を独占している。

男子ダブルス・女子ダブルスでは、ともに全国ベスト8の壁を越えられる選手は少なく、他地区との実力の差を感じる結果が残されている。男子では、愛知県大府西中学校の選手が昭和58年から平成1年にかけて上位を占めていたが、この種目でも小俣中学校を中心に三重県選手の活躍が光る。特に、平成3年から平成12年まで、三重県が全中出場権を独占した。女子複では、昭和57年から平成1年まで愛知県が上位を占めているが、それ以降は平成18年まで三重県、岐阜県の選手が上位を占めている。特に、平成9年から平成14年まですべて岐阜県の選手が出場権を得ている。

これら個人戦の結果から、各県の選手強化の方針や、小学生で実績を挙げた選手がその力を伸ばし、中学校でも実績をあげている様子が伺える。また、地域をあげてジュニア育成に力を入れて、指導者の努力と特色が強く表れていることを感じる。10年以上にわたり、継続的に選手強化に携わってこられた指導者の方々のご尽力に支えられていると強く感じる所である。

平成8年に、大府市で全国中学生バドミントン大会が実施されたことを記念して、翌平成9年に第1回大府オープンバドミントン大会が実施された。大府市は、東海ブロックの中でもジュニア育成に力を入れている地域であり、市を挙げてバドミントンの強化と普及に協力をいただいている。また、行政の強いバックアップにより実施されている大会であることがこの大会の特色である。この大会は、毎年5月上旬に、東海ブロック上位2チームと大府市の4中学校で実施される団体戦形式の大会である。ブロック大会の前哨戦として位置づけられた大会を通して、各県の有力選手同士がお互いの力量を向上させる場となっている。また、平成22年度から、東海ブロックから北信越ブロックへと参加校を募る大会にしたいという希望も出ており、より有力選手が集まり、競い合える場となればと期待をしている。

残念なこと、他のブロックが、数々のオープン大会を企画し、選手強化ならびにバドミントンの普及につとめているが、東海ブロックは大府オープン以外に、ブロックの選手同士が交流、参加できるオープン大会を開催する動きをしてこなかった。東海ブロック全体で他の強豪ブロックに追いつく競技力を身につけるとともに、私たち指導者の意識を「全国出場」から「全国で勝ち抜く」という意識に高めていくためにもオープン大会の開催は不可欠なことと考えている。平成22年の9月に愛知県大府市でJOC大会、平成24年の3月にも同じく愛知県大府市で第12回全日本中学生バドミントン選手権大会が開催される。そして、平成26年8月には静岡県で全日本中学生バドミントン大会が開催される予定である。これら全国大会を契機に、全国のバドミントンに携わる方々に東海ブロックの取り組みを知っていただくとともに、選手が高い実力を身につけ、上位入賞を目標に互いに高め合っていければと強く願っている。

静岡県中体連バドミントン競技の歴史



静岡県専門部委員長　深澤　聡

静岡県中体連でバドミントン競技が正式種目になったのは、昭和57年からである。今年度までで合計28回、中体連県大会が開催されたことになる。それ以前は東海大会出場選手の選考会として大会は行われていたようであるが、そちらについては資料がないため、今回は割愛させて頂いた。

第1回となる昭和57年の団体戦は男子が4校、女子が11校の参加であった。現在は男子10校、女子22校まで増加している。個人戦においても競技人口は増加を続けている。特に各地区大会がなくなり、支部ブロック大会から直接県大会に出場するようになった平成10年以降は参加校数、地区予選大会からの参加選手数とも増加している。近年になり少子化の影響もあってか、選手数の伸びは鈍くなってきてはいるが、確実にバドミントン競技を行う環境のすそ野は広がっていると感じられる。

バドミントンが正式種目になった当時は、伊東地区の学校が上位を占めており、特に男子は伊東南中が正式種目になる前の昭和54年から11年連続団体戦優勝という輝かしい成績を残している。女子も第1回から第5回までは伊東南中と伊東北中が優勝を分け合っている。第6回大会は静岡地区の梅ヶ島中が初優勝したが、翌年から伊東南中が6連覇しており、昭和の終わりから平成の始めにかけては、男女とも伊東南中を中心とした伊東地区の学校の独断場であった。

平成5年に富士根南中が男女アベックで初優勝してからは、富士根南中を中心とした富士宮地区の学校が台頭し、富士宮二中、富士宮四中、富士根南中の三校がそれぞれ優勝を飾るようになった。特に女子は平成9年から11年連続して富士宮地区の学校が優勝を飾っている。これ以降、県大会団体戦は、富士宮地区対伊東地区に何年かに一度静岡が割り込んでくる様相で、現在に至っている。

第1回から今年度までの男女団体戦優勝校、シングルス、ダブルス各優勝選手は以下の通りである。

団体戦

		男子	女子
1	S57	伊東南中	伊東南中
2	S58	伊東南中	伊東南中
3	S59	伊東南中	伊東北中
4	S60	伊東南中	伊東北中
5	S61	伊東南中	伊東南中
6	S62	伊東南中	梅ヶ島中
7	S63	伊東南中	伊東南中
8	H 1	伊東南中	伊東南中
9	H 2	門野中	伊東南中
10	H 3	伊東南中	伊東南中
11	H 4	伊東南中	伊東南中
12	H 5	富士根南中	富士根南中
13	H 6	富士宮二中	梅ヶ島中
14	H 7	富士根南中	富士根南中
15	H 8	伊東南中	大河内中
16	H 9	富士根南中	富士根南中
17	H10	富士宮二中	富士根南中
18	H11	井川中	富士根南中
19	H12	門野中	富士根南中
20	H13	門野中	富士根南中
21	H14	富士根南中	富士宮四中
22	H15	富士根南中	富士根南中
23	H16	門野中	富士宮四中
24	H17	門野中	富士宮四中
25	H18	伊東南中	富士宮四中
26	H19	富士宮四中	富士宮四中
27	H20	富士宮四中	伊東南中
28	H21	富士宮四中	富士根南中

シングルスの歴代優勝選手

		男子	女子
1	S57	住吉（伊東南）	伊代野（伊東南）
2	S58	小川（伊東南）	高橋（伊東南）
3	S59	山田（伊東南）	星野（伊東北）
4	S60	岩沢（伊東南）	中村（伊東北）
5	S61	片山（伊東南）	中村（伊東北）
6	S62	入澤（伊東北）	市川（梅ヶ島）
7	S63	増田（伊東南）	
8	H 1	大川（門野）	松永（伊東南）
9	H 2	大塚（門野）	神山（富士根南）
10	H 3	鈴木（門野）	望月（梅ヶ島）
11	H 4	奈良（伊東南）	志村友（梅ヶ島）
12	H 5	向井（富士宮四）	河島（富士根南）
13	H 6	佐野（富士宮二）	青山（静岡東）
14	H 7	河島（富士根南）	渡辺（伊東南）
15	H 8	佐野（富士宮二）	木下（富士根南）
16	H 9	新郷　太知（富士根南）	杉谷　淳美（富士根南）
17	H10	尾崎　弘一（伊東南）	杉谷　淳美（富士根南）
18	H11	高嶋　裕一（伊東南）	杉谷　淳美（富士根南）
19	H12	小牧　弘季（富士根北）	金森　裕子（富士根北）
20	H13	岩渕　智紀（富士根南）	佐野　悠（富士宮二）
21	H14	藤澤　生拓（門野）	村松　彩乃（富士宮一）
22	H15	小野　拓也（富士根南）	松岡　由紀子（大富士）
23	H16	岩城　弘知（門野）	松岡千香子（大富士）
24	H17	村松　将豪（富士宮一）	望月　歩音（富士宮四）
25	H18	米山　修平（鷹岡）	望月　有寿（富士宮一）
26	H19	井口　卓也（鷹岡）	橿淵 かれら（御殿場西）
27	H20	樋口　翔太（富士宮三）	桂巻 久美乃（富士宮一）
28	H21	田中　航平（熱海泉）	太田川 真希（富士宮四）

ダブルスの歴代優勝選手

		男子	女子
1	S57	日吉・山本（伊東南）	森田・西村（伊東南）
2	S58	原・高橋（伊東南）	石橋・西島（伊東南）
3	S59	鈴木・岩崎（伊東南）	土屋・伊東（伊東北）
4	S60	永田・櫛田（伊東南）	佐藤・下河辺（服織）
5	S61	桜井・久保田（伊東南）	伊豆沢・山本（伊東南）
6	S62	大沢・村上（伊東南）	望月・鈴木（梅ヶ島）
7	S63	石井・伊代野（伊東南）	小川・佐藤（伊東南）
8	H 1	鈴木・後藤（門野）	長田・小野（伊東南）
9	H 2	石井・西田（伊東南）	内田・渡辺（伊東南）
10	H 3	早坂・福田（伊東南）	大田・松永（伊東南）
11	H 4	河合・渡辺（伊東南）	藤ヶ森・相磯（富士根南）
12	H 5	富田・芦沢（富士根南）	遠藤・八橋（富士根南）
13	H 6	山本・鳥井（富士宮二）	大形・佐野（富士根南）
14	H 7	斉藤・塚本（富士根南）	勝山・稲葉（富士根南）
15	H 8	軒村・佐々木（伊東南）	深沢・栗原（伊東南）
16	H 9	市村・齋藤（門野）	小川・平石（富士根南）
17	H10	藤原・市村（門野）	遠藤・塩澤（富士根南）
18	H11	佐野・木内（富士宮二）	平石・関口（富士根南）
19	H12	勝又・高橋（門野）	尾崎・増田（門野）
20	H13	安田・荒川（門野）	向井・増田（門野）
21	H14	柏木・小野（富士根南）	五味・山田（富士宮四）
22	H15	小川・瀬戸（門野）	小牧・塩澤（富士根南）
23	H16	村松・稲葉（伊東南）	望月・望月（富士宮四）
24	H17	大竹・荒栄（門野）	川村・佐野（富士宮四）
25	H18	中野・惟村（富士根南）	稲葉・後藤（富士宮四）
26	H19	寺田・惟村（富士根南）	後藤・太田川（富士宮四）
27	H20	小林・田原（富士宮四）	鈴木・大川（伊東南）
28	H21	小川・大場（大井川）	中村・大畑（大井川）

岐阜のあゆみ40周年



岐阜県専門部委員長　白藤　逸利

平成21年度、バドミントン部あるいは地域のクラブで活動している学校は、男子では41校、女子では51校となっている。部活としては入部するのは女子生徒が多い部活動であったが、岐阜県では、平成17年度全国中学校総合体育大会・バドミントン競技が東海ブロックで開催されるのをきっかけに県の代表を目指して男子部員が増加していった。これまでの選手の育成は、1991年頃には高校生と中学生が合同で強化合宿を通して行われていた。また、1995年（平成7年）には、選手強化の一環としてウイニングプラン事業が始まり、県中体連に予算が組まれた。県のトップレベルの選手による強化合宿や遠征が行われ、選手の育成が行われた。また、この頃は高校生と合同練習できる機会もあり、一つ上のスピードや技術を体験することができた。その結果、東海中学校総合体育大会バドミントン競技での活躍が見られ、全国での活躍も徐々に見られるようになってきた。この頃活躍した岐阜県の選手には、現在も日本リーグの女子シングルスで活躍している後藤選手がいた。

平成17年度全国中学校総合体育大会・バドミントン競技が東海ブロックで開催された。それに向けてのウイニングプラン等による強化練習は進み、全国大会では女子団体で池田中学校がベスト8、女子ダブルスで遠藤紗葉・小窪千香子（池田中学校）がベスト8、男子シングルスで黒田匠馬（笠松中学校）がベスト8に入った。強化練習の結果、好成績を残すことができた。

岐阜県の中学校の部活の様子は、専門的な技術を指導できる教師が少ない中、指導できる教師のいる学校や地域で指導できるコーチのいる学校の選手強化が進んでいた。岐阜県のバドミントン部では、これまで岐阜地区や西濃地区を中心にして有力選手が育ってきた。しかし、最近はクラブチームの活動も一層広がっていく様子が見られ、東濃地区や飛騨地区など、様々な地区から有力選手が育ってきているし、これからも有力選手が様々な地区から現れてくると考えられる。地域のスポーツクラブを活動母体とする選手も増えていることもあり、今まで以上に地域の力を取り入れた活動環境を整えられるであろう。また、今後、選手がより高いレベルでプレーのできる協力体勢を整え、援助をしていくとともに、より競技力の向上を図る機会を設けていく必要があると考えたい。

また、有力選手を育てるだけでなく、広くバドミントンを普及するために、各市町で合同練習会を行い、技術指導や競技経験の少ない指導者への指導者講習を拡充していくことが大切である。バドミントンを学びたい、より高い技術を身につけたいという要求に応じて、県協会との協力体制も整えるなどの対応も必要であると考える。平成17年度に、県教委主催のウイニングプラン事業が廃止。中学生の強化費はジュニアグロウアップ作戦事業に組み込まれた。これにより、選手強化は岐阜県バドミントン協会を中心に行われるようになった。中体連との連携を行う中で強化を進めなければならないと考える。

課題は多いが、バドミントン競技のレベルとそれに取り組む選手たちが充実した活動ができるよう今後とも努力を続けていきたい。

岐阜県中学校体育連盟バドミントン競技の沿革

1971年（昭和46年）
・バドミントン競技（団体）が全国中学生大会に追加され、開催された。

1980年（昭和55年）
・バドミントン競技（個人）が全国中学生大会に追加され、開催された。

1981年（昭和56年）
・第3回東海地区中学校体育大会にバドミントン競技を追加して、岐阜県で開催した。

1984年（昭和59年）
・岐阜県でジュニア強化対策発足。指導者講習会、各部強化合宿が行われる。

1985年（昭和60年）
・第7回東海大会を岐阜県で開催した。（前14種目）

1995年（平成7年）
・選手強化の一環としてウイニングプラン事業が始まり、県中体連に予算が組まれた。

1997年（平成9年）
・第19回東海中学校総合体育大会が岐阜県で開催された。

2001年（平成13年）
・第23回東海中学校総合体育大会が岐阜県で開催された。

2005年（平成17年）
・平成17年度全国中学校総合体育大会・バドミントン競技が東海ブロックで開催された。
・県教委主催のウイニングプラン事業が廃止。中学生の強化費はジュニアグロウアップ作戦事業に組み込まれた。

2008年（平成20年）
・バドミントン男子が8チーム制から16チーム制へと出場制限が拡大された。

愛知のあゆみ 40 周年



愛知県専門部委員長　坂野　和久

愛知県は、全国大会上位を目指して競技力向上をはかっている。中体連、県協会が協力して強化活動を行う現在の様子に至るまでにいくつかの段階を経てきた。様々な試行錯誤が行われ、協力体制が整えられていく中で、平成 19 年の全中福島県大会において、大府市立大府南中学校が団体優勝を果たした。この成果は、大府南中学校の指導者の力と、それに至るまでのジュニア指導者の努力、ならびに県協会の協力のもと、選手強化に携わった多くの方々の成果であるといえる。

選手強化を大きく分けるポイントとなったのが平成 6 年度のわかしゃち国体である。国体以前は、中体連が主体となり、全中開催などポイントとなる大会前に単発的に強化活動を行ってきた。特に、正式種目となった後、開催ブロック初の大会となった第 17 回の春日井大会を目標に、中・高・実業団が協力して強化に取り組んだ記録が残っている。その活動を含めて、昭和から平成前期まで全中出場を目標に各中学校、各市町単位で強化活動を行ってきた。

わかしゃち国体の強化にあわせて、第 26 回全中大府大会の選手強化が行われた。その成果として愛知県選手としては初めて、春日井市立石尾台中学校の稲垣翔吾選手が準優勝を果たした。あわせて、地元大府市の山口・早川組が 5 位入賞を果たし、地元大会を盛り上げた。それ以降も選手強化を継続して行おうとするが、使用球の違いや実業団、学生連盟、高校生、小学生と他の年齢集団とどのように協力していくかについて、中体連と県協会が協議を行っていく中で、選手強化が実施をされない時期があった記録も残っている。

平成 12 年度に全日本中学生バドミントン選手権大会が実施されることをきっかけに、中体連と県協会が協力体制を確立し、選手強化を行うことを決めた。あわせて、平成 15 年度に愛知県で全日中選手権大会にあわせて、選手強化活動が現在の形に決まった。それ以降は、全中上位進出を目標におき、選手、所属団体、協会指導者で協力をしていく体制が確立されつつある。

愛知県中体連の 40 年の歩みを振り返ってみると、昭和 42 年に初めての記録が残されている。昭和 42 年に中学校専門部が発足した。初代の部長には私立東海中学校の伊沢忠男氏が就任した。その年に、第 1 回中学校大会（団体戦）が開催された。その大会の参加校は男女とも 3 校のみであった。昭和 46 年に全中の前身である第 1 回全国中学校選抜大会が開催され、東海中学校と愛知淑徳中学校が参加をしている。県内でのバドミントンも普及し、昭和 50 年より、個人戦が、昭和 51 年より新人戦が始まった。

昭和 54 年から全国大会への出場がブロック制となったことをうけ、県の上位 2 位までが東海ブロック大会へ出場をしている。当時の記録を見てみると 1 回戦を勝ち抜くことができず、全国への道はほど遠かったという感想が残っていた。

昭和 57 年から、正式種目となったことを受け第 1 回愛知県総合体育大会バドミントン競技が行われた。団体優勝は男子が半田市立亀崎中学校、女子が大府市立大府西中学校であった。この年の東海ブロック大会において、県 2 位で出場した愛知淑徳中学校は団体、個人単、個人複の全種目に優勝を果たし、第 12 回全国中学

校選抜大会（新潟市）において、団体5位、個人複3位入賞という素晴らしい成績をあげている。女子団体戦では、昭和58年から昭和63年まで女子団体において大府西中学校（監督　清水光夫）が東海ブロック大会5年連続団体優勝を果たし、全国大会への出場を果たしている。

昭和60年以前は、男女とも県総合体育大会への予選はなく、フリー参加であったが、女子参加校の増加にともないこの年より女子は地区予選を実施することとなった。

昭和62年に第17回春日井大会において、男女団体で大府西中学校が5位入賞、男子複で大府西中学校日野・坂野組、女子複で大府西中学校原・近藤組が5位入賞を果たしている。先にも触れたが、中学生の選手強化の始まりであり、十分に成果が見られた活動であった。

平成元年に入り、バドミントン部のある学校も増え、男子は29校、女子は61校という規模になった。平成2年度より、男子の地区予選が始まった。平成7年の大府大会で成果を得るまで、東海ブロックは勝ち抜けるが、全国上位に食い込むことはできず、強化の活動を模索する時期であったという感想が残っている。

地域バドミントンに力を入れている大府市の行政から強いバックアップをうけ、平成8年に全中開催を記念して、東海ブロックの選手が集まる大会として第1回大府オープンバドミントン大会が開催された。平成10年に大府オープン予選として位置づけされる第1回愛知県中学校バドミントン大会（団体戦）が開催され、東海ブロックの強豪を相手に勝ち抜こうとする意識を高めていくこととなった。

選手強化の形が整い、有力なジュニア選手が中学生となった平成16年から平成20年の5年間、東海ブロック個人戦で、愛知県選手が上位を占めている。平成15年旭川大会で大府南中学校が女子団体戦5位、平成16年茨城大会において大府南中学校の野尻野匡世選手が女子単で準優勝を果たした。あわせて、男子複で名古屋経済大学市邨中学校の深尾・浅井組、女子複で名古屋経済大学市邨中学校の樋渡・丹下組が5位入賞を果たした。平成19年の福島大会で、大府市立大府南中学校が男子団体で優勝、大府南中学校の山口・山本組が男子複初の3位入賞を果たした。平成20年福井大会では、男子単で東浦町立東浦中学校の林　昂宏選手、女子単で大府市立大府北中学校の篠谷菜留選手が3位入賞を果たした。

平成21年度、バドミントン部がある学校は男子で22校、女子で37校、選手も男子741名、女子1644名となっており、今後も増加していくと予想される。また、クラブチームの活動も一層広がっていく様子が見られ、様々な地区から有力選手が現れてくると考えられる。総合型地域スポーツクラブを活動母体とする選手も増えていることもあり、地域の力を取り入れた活動環境を整える必要もある。今後も、有力選手を有するクラブチームと協力する体勢を整え、援助をしていくとともに、より競技力の向上を図る機会を設けていきたい。

また、広くバドミントンを普及するために、各市町で行われている合同練習会での技術指導や競技経験の少ない指導者への指導者講習を拡充していくことが急務である。バドミントンを学びたい、より高い技術を身につけたいという要求も高く、県協会から指導員の派遣を要請するなど対応をとりたい。

課題は多いが、まだまだ発展できる可能性があるだけにバドミントン競技のレベルとそれに取り組む選手たちが充実した活動ができるよう今後とも努力を続けていきたい。

日頃のご指導と熱意に感謝を・・

三重県専門委員　福井　義淳

中体連の三重県中学校バドミントン大会は本年度で37回を迎え、全国中学校バドミントン大会の歴史とともに歩んできたとも言える。

第25回川崎市の大会において、小俣町立小俣中学校が中川隆文監督のもと、男子のダブルスで山田隆一・松本紘二のペアが3位に入賞した。翌年の第26回大阪市の大会において、同校の同監督のもと、男子のダブルスで山崎真一郎・谷口斉のペアが準優勝を果たした。翌年の第27回の新居浜市の大会において、同校の同監督のもと、男子のダブルスで磯部泰輝・槙野貴行のペアが3位に入賞し、3年連続で男子のダブルスにおいて入賞を果たしている。

翌年の第28回の仙台市の大会において、川越市立川越中学校が瀧嶋透監督のもと、女子のシングルスで小椋久美子が3位に入賞した。

その後の小椋久美子選手は大阪の四天王寺高校に進学され、2001年に全国高校選抜大会でシングルス2位、2002年にはドイツジュニア、オランダジュニアでも2位となり、国際大会でも結果を残されている。同年4月には三洋電気に入社され、全日本総合シングルス優勝。さらに潮田玲子選手との出会いを経て、2004·2005年、全日本総合ダブルス・全日本社会人ダブルス2連覇。2005年、デンマークオープンダブルス優勝、北京オリンピック出場といった数々の結果を残され、三重県の星（スター・誇り・あこがれ）として、小椋選手の活躍は各選手に夢と希望を与え続けてくれている。

素晴らしい選手及びチームを育ててくださいました学校並びに指導者の方々に日頃のご指導と熱意に深く感謝いたします。

しかしながら、現在では上記の選手を育てられた監督がこの業界には見えず、この選手を知っている指導者も年々少なくなり、新たな指導者（教諭）との入れ替わりが激しいのが現状であり、課題にもなっている。

それでも、その後も第36回大会を除き、全国中学校バドミントン大会に何らかの種目において参加できている。そのなかで今年度の第39回長崎市の大会において、伊勢市立小俣中学校が濱田一光監督のもと、男子のシングルスで西本拳太が3位に入賞を果たし、今後の活躍が期待されている。

本大会はバドミントンに親しむ中学生にとってあこがれであり、中学生スポーツ最大の大会として、多くの人々に夢と感動を与えている。そのなかで、今回の彼の活躍は三重県のバドミントン振興にとっても大変喜ばしいことである。

彼の言葉は今まで支えてくださった全ての人に感謝する気持ちの大切さと、バドミントンをすることが楽しくて夢中でシャトルを追いかける、あきらめず上手くなりたいという気持ちで続けてきたことが大事だったのではないかということを教えてくれている。

心身ともに大きな成長を遂げる時期にある中学生が、仲間と協力してスポーツ活動に取り組むことは、健全な心と体を育む上でも大変意義深いことであり、勉強と両立しながらスポーツ活動に一生懸命取り組んでいることは、今後の人生においてかけがえのない財産にもなると信じている。

三重県は競技力の向上を図るために、県協会の協力のもと、年間2回の合宿・強化練習会・指導者講習会を実施し、ヨネックススポーツ、

自分で勝ちとった銅メダル

2009年夏、僕にとって最高の思い出となる出来事がありました。それは、全国中学校バドミントン大会で、銅メダルを取れたということです。僕はこの夏、この大会のためだけといっていいほど、夏休み一度も休まず練習しました。自分の机に向かって勉強した時間よりも、体育館にいた時間の方が、だんぜん長く感じました。それが、良い結果となって出てきたので、僕は少し満足です。

僕は、この大会に出場するのは二回目ということで、いやな緊張感もなく、リラックスして試合に臨めたことが良かったと思います。しかし、銅メダルを取れたことは、それだけじゃないと僕は思っています。毎日、辛い練習に耐え、自分で自分を作り上げてきた成果だと思います。

僕は今まで、二度の挫折を経験しました。一度目は、全小の時に膝のケガで3ヶ月バドミントンができず、小学校最後の大会で結果が出せずに悔しい思いをしました。二度目は、中二の時に右肘のケガで約8ヶ月、右手でラケットを振ることができず、毎日トレーニングやダッシュなどをして復帰後のための基礎体力作りに励みました。いつも前向きに頑張ってきましたが、いつ治るかわからないケガとの闘いは辛く、時時落ち込むことがありました。そんな時に僕を支えてくださった皆さんに感謝しています。本当にありがとうございます。これからも練習を重ね、これで満足せず、一歩一歩世界のトップへと近づいていきたいと思います。皆さんも最初からあきらめず、自分の力を信じて頑張ってください。

〈三重県中体連『あゆみ』より〉

ミヤタスポーツ、ミズノスポーツといった営業事業部の方々に来て頂き、よりレベルの高い技術練習、基礎基本練習、大会に向けての課題・心構え等さまざまな面で指導して頂いている。

また、高校生を相手に練習に励んだり、積極的に他県への遠征を行い所属中学校の枠を越えての強化練習会にも取り組んでいる。さらに愛知県の大府市で平成8年に開催された大府オープンバドミントン大会（団体戦）に参加することにより、東海ブロックの有力校同士で競い合うことで県大会への意識を高めるとともに、全国大会出場に向けての励みとなっている。

近年、バドミントン競技は田児選手、坂本・池田選手、末綱・前田選手、小椋・潮田選手等の国際大会での活躍により国民の関心を集めるとともに、競技者人口も大変多くなってきているなか、地域のバドミントンサークル指導者の努力、県協会の協力、地域の方々、保護者の皆様のご支援に感謝するとともに、バドミントン競技のレベルとそれに取り組む選手たちが充実した活動ができるよう今後とも努力を続けていきたい。

『生徒のエネルギーが感動のフィナーレへ！』



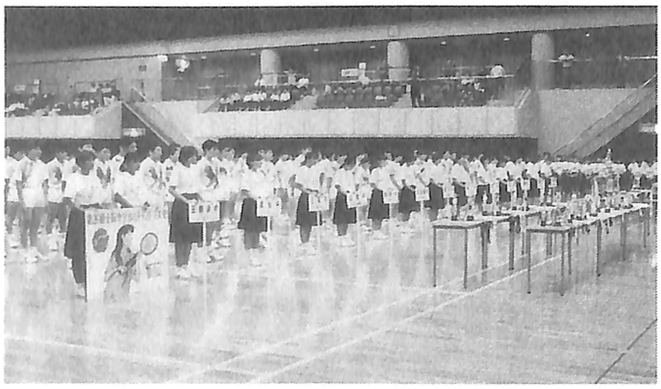
元 東海ブロック長　飯村　順一

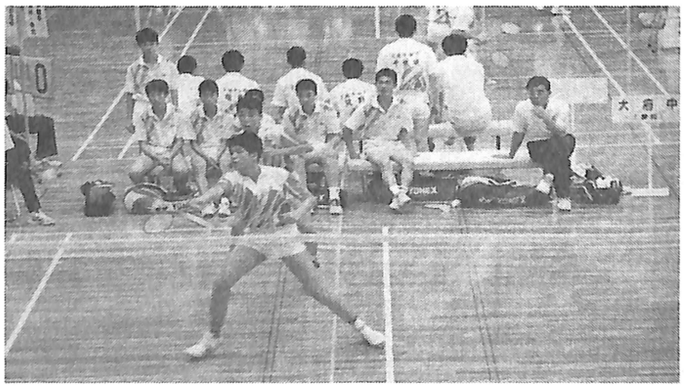
愛知国体バドミントン競技の開催を大府市は間近に控えていた当時、第26回全国中学校体育大会大府市実行委員会を平成6年度に大府市長を会長として発足しました。事務局長は東海ブロック長の清水光夫先生で、平成6・7年度担当しました。わたくしは、事務局次長（6・7年度）として、そして平成8年度は事務局長として大府中勤務から大府市民体育館勤務へと変わっていきました。

実行委員会では、大府市内の中学生をこの大会にいかにかかわらせていくか、選手に満足のできる大会にしていくかが課題としてあがっていました。大会スローガン・シンボルマークは、平成8年度に中学生となっている大府市内8小学校の5・6年生と中学生に募集をしました。その結果、大会スローガンは小学生が考えた「シャトルに夢のせ　みんなでとばせ　健康都市の大府の空へ」に、また、同様にシンボルマークも小学生に決定しました。大会ポスターは、中学生の作品を美術の先生に手直しをしていただき作成しました。

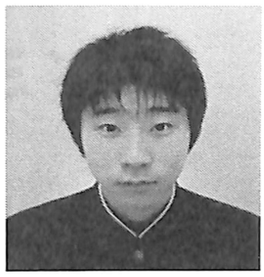
実行委員会で大きな課題となったのが、当日の中学生が披露するアトラクションついてです。幸いにも中学校の体育の先生が世界ダンス大会に参加しているという噂を聞きつけお願いをしました。本格的な練習は夏休み入って始まり、特に生徒は自分の部活動練習後の午後であったので、苦労が多かったようです。大府市民体育館でも何回かリハーサルを行い、当日は見事な演技を披露してくれました。

どこの大会も同様ですが、競技はバドミントン部員が、そして広報・接待などを担当するのは一般の生徒です。この大会に参加した123校、433名の選手に満足が得られるのかは、この生徒達の姿勢でした。夏の暑さに光る汗、その働く姿に当時の教育長も感動し、報いてあげたいと感想を漏らしました。そして、大会終了時、駐車場に作った特大テントで中学生と役員約250名が、ケーキとジュースで乾杯をして喜び分かち合いました。大会運営はもちろん、男子単（稲垣翔吾選手）のファイナリストや監督としてベスト8（男子複）の入賞したことも大きな喜びです。しかし、裏方で大会を支えた生徒達の活躍によって、感動のフィナーレへと導いてくれたことが、回想の一番でした。





自分を変えた全国大会



富士宮市立富士宮第四中学校　河合　俊弥

僕は今、中学三年生。人生最初の大きな岐路である「受験」を目の前に、はっきりとした目標を持ち勉強を続けています。こんな充実した日々を送ることができているのも、約一年半前に中体連の全国大会に出場することができたからかもしれません。

二年前の僕は、朝起きて学校へ行き、授業が終わると体育館へ急ぐ。部活が終わると、夕飯を食べ、休む暇もなく夜の練習に行く。こんな毎日を送っていました。練習ばかりの日々でしたが、多くの仲間に恵まれ、苦しみ以上に楽しさを感じる時間だったように思います。そんな僕に転機が訪れたのは、二年生の夏でした。三年生の先輩方と一緒に、団体メンバーとして中体連大会に出場することになったのです。先輩達に迷惑をかけまいと、今まで以上に練習に熱が入りました。地区大会、県大会と進むにつれて一つ一つのプレーに集中することも意識できるようになっていきまいした。

そして、福井での全国大会の日を迎えたのです。今でも忘れられない開会式。生まれて初めて大きな舞台に立っているのだと実感しました。そんな期待とは裏腹に、次の日行われた試合は散々な内容でした。いつもとは違うコートの感触、自信にあふれた顔でプレーする選手達。あまりにも違いすぎる雰囲気に完全に飲まれていました。

夏が終わり三年生が引退したのだと感じ始めたころ、僕には徐々にくやしさが込み上げてきました。緊張から実力が出せなかったという後悔、一勝もすることができなかったという無念さ、何より全国のレベルの高さを知り自分の未熟さ甘さを痛感したのです。「どうしても勝ちたい、それには今のままでは絶対に駄目だ。」そう思うようになったのもこのころからです。僕にはあと一年しか残されていませんでした。たった一年、限界という言葉を忘れどんどん自分自身へのハードルを上げて練習しました。

僕の最後の夏は東海大会でした。全国まであと一歩のところで悔し涙を流しました。

そして今、受験生です。今までにない集中力で勉強をしています。それは「高校に進学してバドミントンを続ける。もっともっとうまくなる。」という目標があるからです。全国大会出場という経験を通して、自分がいかにちっぽけな存在であるかを知りました。上には上がいて、追いつきさらに追い越すためには自分で限界など決めてはいけないことを学びました。だから僕は勉強をしています。文武両道という自分の信念を貫くためにも、とにかくコツコツと続けようと思っています。この先、どんな壁にぶつかったとしても、今の挑戦する気持ちを忘れることなく、上を目指して生きていきたいと思います。

バドミントンとの繋がり

名古屋経済大学市邨高等学校　稲垣　翔吾

小学校４年生で初めてウッドラケット（木製のラケット）を握り本格的にバドミントンを始めました。バドミントンをはじめた当初は県内の大会では何度か優勝していましたが、全国大会には一度も出場した経験がなく、全国小学校大会の存在すら当時は知りませんでした。中学校に入学してからは宮原裕信先生に本当に熱心に指導していただき中学２年生で初めて全国中学校大会に出場することができました。結果はベスト８でしたが、上位選手との技術の差を肌で感じました。このときから「全国大会で勝ちたい、活躍したい」という思いが強くなり、練習が終わってから毎晩のように両親が録画してくれた試合のビデオを見るようになりました。第26回の全国中学校大会は地元開催ということで県の強化練習などたくさんの方々に指導していただき、準優勝という好成績を残すことができました。愛知県の方々にも本当に喜んでいただきました。

全国中学大会で好成績を残すことができJOC（ジュニアオリンピックカップ）大会に出場した際、当時の高校のトップであった舛田圭太選手、大束忠司を初めて目にし、衝撃を受けました。高校は憧れもあり滋賀県の比叡山高校へ進学しました。高校２年生ではバドミントン人生最大の「挫折」を経験しました。インターハイ団体戦でのことですが、ベスト８がかかった試合で札幌第一高校１年生の早坂幸平選手にファイナルで負けてしまいました。先輩方が賭けていた最後のインターハイを自分のせいで終わらせてしまったという申し訳ない気持ちと、期待に答えられなかった自分に対する不甲斐なさは今でも忘れられません。その後は、自分の甘さや驕りと向き合い全国選抜大会ダブルス、JOC（ジュニアオリンピックカップ）大会シングルスにおいて２つのタイトルを獲る事ができました。これも「挫折」を経験することができたおかげだと振り返ることができます。高校時代はジュニアナショナルチームにも選出され、様々な海外遠征に参加させて頂き貴重な経験もさせていただきました。

現比叡山高校監督の藤上良信先生が教えてくださった「対戦してくれる相手がいて初めて試合が成り立つ。そういった相手への感謝・尊敬の念を込めて試合をしなさい」この言葉は一生忘れられません。このような中・高校時代をすごした中で、指導者・コーチ・学校・チームメイト・協会・親など様々な人たちの支えがあってはじめてバドミントンができるということを学びました。

大学は早稲田大学に進学し選手としてプレーするとともに希望していた教職免許を取得し、平成16年に名古屋経済大学市邨高等学校に採用されました。今は指導者として日々勉強を重ねています。中学・高校・大学とすばらしい指導者に出逢い・学んだことを生徒にはそのまま伝えたいと考えています。また愛知県のレベルアップのために全力で頑張りたいと思います。

岐阜県開催全国中学校体育大会

岐阜市立岐北中学校　加納　張巨

2005年の岐阜県で開催された全国中学校体育大会について、いろんなことが思い出されます。

私は、全国中学校体育大会に裏方として参加するのではなく、監督として選手を連れて行きたいと考えていました。とくに、この年は、自分の働いている県で開催されると聞きましたから。また、選手（部員）たちにも一生の思い出になるのではないかと思いました。

この全国中学校体育大会岐阜県大会の開催される一年前に本校に赴任してきました。そのとき、部活動の部員の数が多かったことを覚えています。約100人近くいました。その部員たちの中に練習参加する子もいれば、名前だけで参加しない子もいました。そのすべての部員の「バドミントンに対する意識」から変えていかないといけないことを感じました。しかし、部員たちには、今までの練習のやり方があり、新しいやり方をしようとも思わなかった感じがしました。そのときの練習内容は、ランニングは15分ぐらいで、その後は基礎打ちだったと思います。部員たちは、「勝ちたい思いがあるけど、なかなか勝てない」と「バドミントンが好き」という2つの気持ちがあったことを覚えています。その2つの気持ちがあったので、「バドミントンを頑張っていた」みたいです。それから、部員たちは、「バドミントンをやって勝ちたい」という気持ちが少しずつ出てきました。そして、自分たちから「勝てる練習がしたい・・・」と話したので、練習内容を少しずつ変えていきました。

最初は、体力がなかったので、平日の練習はランニングを重視して行い、フットワークも練習のできる場所で毎日行いました。休日の練習では、フットワーク・シャトルの打ち方などを行いました。それから2･3ヶ月で、試合を行っても疲れが出ることなく続けられるようになり、試合らしくなったと思います。それで、1年目は終わってしまいました。

赴任2年目は、全国中学校体育大会岐阜県大会の開催の年です。

前年から取り組んできた練習も浸透して、どの部員も一生懸命に行うようになりました。その甲斐があり、部員たちも練習試合などで勝てるようになり、さらに一生懸命に練習を行いました。ただ、相手が自分より強いと分かると実力が半分以下になり、何のために練習してきたか分からないぐらいでした。部員たちは、そんなつもりではないかも知れませんが、精神的な部分が弱いことが分かりました。その部分を「何とかしたい」と考えたのですが、精神的な部分はなかなか強くさせることはできません。ですが、顧問としては、練習をより厳しくして「練習では負けないぞ」という気持ちをつくることでした。そのために、練習内容をさらに見直しました。また、他校の練習に参加させていただき、練習の中で培うことしかできませんでした。その結果、多少ですが精神的な部分でも強くなれた感じがしました。

その頃の部員たちは、自分たちから練習を行うようになりました。練習時間が、2時間しかありませんでしたので、その始まる30分前にきて、ランニングをしてストレッチまで行っていましたこの姿から、「試合で勝ちたい」という意気込みがさらに伝わるようになりました。

その結果、中体連岐阜市大会では、男女とも団体戦・個人戦シングルスで優勝を、ダブルスでは、男子は優勝、女子は準優勝をすることができました。自分たちから、厳しい練習をしてきたから、とれたんだと思います。

その後は、中体連地区大会や県大会向けて、今まで以上に練習に取り組みました。

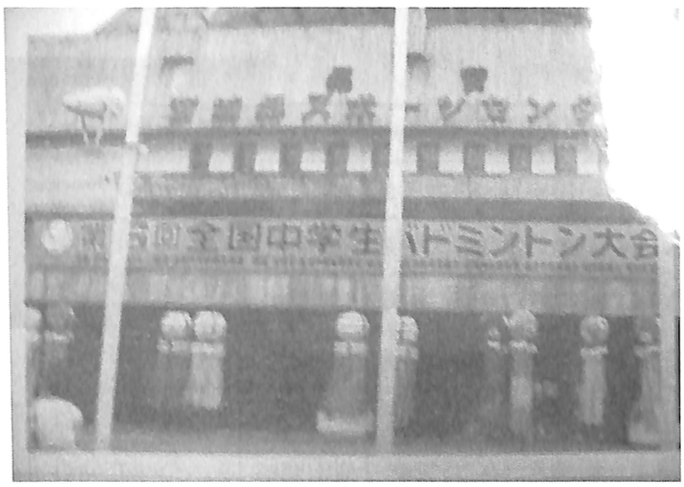
本校から、岐阜県で開催された全国中学校体育大会に参加した部員がいます。また、岐阜県大会では、準決勝で接戦ながらも、ファイナルゲームで逆転をして、19点まで取り、「あと2点」で敗退した選手もいます。このとき「最後の最後まで試合はどうなるか分からないこと」を知りました。ここが、精神的に弱い部分だったと思います。

この教訓を生かし、選手たちには、「最後の最後まであきらめないこと」と「勝つまで勝ったと思わないこと」を話しています。

これからも、全国中学校体育大会に参加できる選手の育成に取り組んでいきたいと思います。

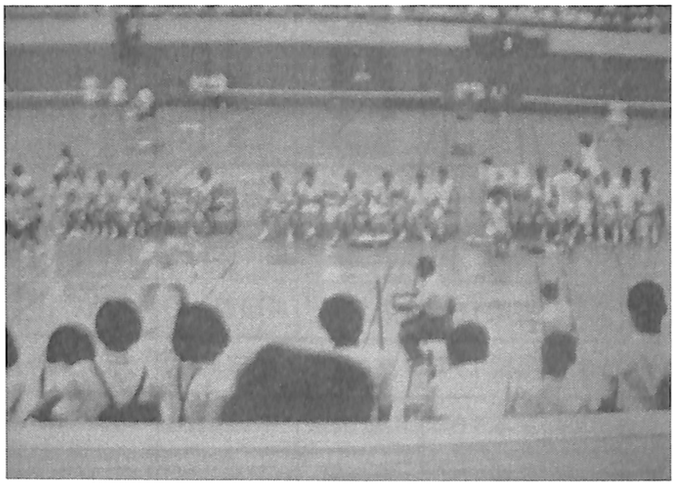


近畿ブロック















近畿ブロックの歩み（近畿大会の記録）



近畿ブロック長　水野　洋一

年度		開催地	優勝チーム					
			男子			女子		
			団体	単	複	団体	単	複
2009	平成21年	兵庫県	日吉（滋）	常山（滋）	三津川・河崎（滋）	園田学園（兵）	杉野（兵）	柏原・宇都宮（兵）
2008	平成20年	奈良県	瓜破西（大）	佐々木（大）	河合・佐々木（大）	樟蔭東（大）	窓場（京）	樋口・宮原（大）
2007	平成19年	大阪府	瓜破西（大）	竹内（大）	河合・佐々木（大）	樟蔭東（大）	阪口（大）	木村・木村（滋）
2006	平成18年	滋賀県	瓜破西（大）	大滝（大）	中辻・村岸（滋）	日吉（滋）	浦谷（滋）	生駒・真鍋（大）
2005	平成17年	京都府	若草（奈）	矢部（滋）	豊・門元（兵）	樟蔭東（大）	佐々木（大）	吉村・福万（大）
2004	平成16年	和歌山県	宝殿（兵）	村上（滋）	宇野・矢部（滋）	日吉（滋）	垣岩（滋）	村上・阪本（滋）
2003	平成15年	奈良県	四條畷学園（大）	樋口（大）	森澤・三崎（滋）	瀬田北（滋）	土井（大）	竹内・深尾（大）
2002	平成14年	兵庫県	守山北（滋）	岩崎（奈）	杉本・森田（奈）	日吉（滋）	恵良（大）	前田・前田（滋）
2001	平成13年	滋賀県	四條畷学園（大）	早川（滋）	森本・阪本（滋）	日吉（滋）	松尾（大）	杉本・村上（滋）
2000	平成12年	大阪府	日吉（滋）	数野（滋）	早川・多谷（滋）	日吉（滋）	松尾（大）	橋本・佐谷（大）
1999	平成11年	京都府	日吉（滋）	山口（滋）	吉田・多谷（滋）	日吉（滋）	今別府（奈）	三条・裏川（滋）
1998	平成10年	奈良県	大三輪（奈）	森澤（滋）	松尾・新開（大）	日吉（滋）	今別府（奈）	早川・多谷（滋）
1997	平成9年	和歌山県	日吉（滋）	諸多（奈）	小西・西浦（奈）	日吉（滋）	澤（滋）	早川・川島（滋）
1996	平成8年	兵庫県	平岡（兵）	橋本（大）	東村・清水（兵）	日吉（滋）	吉岡（大）	澤・川島（滋）
1995	平成7年	滋賀県	瓜破西（大）	橋本（大）	瀧上・永谷（大）	四條畷学園（大）	安城（大）	中江・三原（滋）
1994	平成6年	大阪府	瓜破西（大）	仲尾（大）	福川・永谷（大）	四條畷学園（大）	安城（大）	谷嶋・小畑（大）
1993	平成5年	京都府	四條畷学園（大）	向（滋）	宇治・森本（大）	日吉（滋）	吉岡（大）	木下・中（奈）
1992	平成4年	和歌山県	四條畷学園（大）	古賀（奈）	島影・川口（大）	四條畷学園（大）	市橋（大）	水上・吉岡（大）
1991	平成3年	奈良県	四條畷学園（大）	奥井（大）	百田・尾山（滋）	四條畷学園（大）	市橋（大）	渡辺・足高（奈）
1990	平成2年	兵庫県	四條畷学園（大）	北川（大）	上野・外山（兵）	四條畷学園（大）	水井（大）	川口・市橋（大）
1989	平成元年	滋賀県	四條畷学園（大）	岸田（大）	有田・斉藤（大）	四條畷学園（大）	水井（大）	信田・川口（大）
1988	昭和63年	大阪府	西陵（京）	河村（奈）	林田・小谷（奈）	四條畷学園（大）	松田（大）	杉田・渡（大）
1987	昭和62年	京都府	堅下北（大）	河村（奈）	堀江・平野（滋）	草津（滋）	玉村（大）	東田・中俣（滋）

1986	昭和61年	和歌山県	四條畷学園(大)	小河原(大)	安藤・行松(滋)	四條畷学園(大)	水井(大)	西田・国分(滋)
1985	昭和60年	奈良県	堅下北(大)	中橋(奈)	田代・三宅(兵)	四條畷学園(大)	岩田(大)	吉田・三浦(兵)
1984	昭和59年	兵庫県	皇子山(滋)	鈴木(滋)	俣野・川村(滋)	四條畷学園(大)	利川(大)	北川・三ツ川(大)
1983	昭和58年	滋賀県	洛星(京)	三角(京)	丸山・大西(兵)	中部(兵)	金井(大)	福林・松田(大)
1982	昭和57年	大阪府	皇子山(滋)	早戸(大)	森山・白浜(大)	四條畷学園(大)	伊藤(兵)	王・尾亀(兵)
1981	昭和56年	京都府	住吉(兵)	江藤(大)		四條畷学園(大)	新木(大)	和泉・今村(大)
1980	昭和55年	和歌山県	春日(奈)	見市(大)		四條畷学園(大)	原田(大)	荒井・末房(大)
1979	昭和54年	奈良県	三笠(奈)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1978	昭和53年	兵庫県	南部(滋)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1977	昭和52年	滋賀県	四條畷学園(大)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1976	昭和51年	大阪府		※	※		※	※
1975	昭和50年	京都府		※	※		※	※
1974	昭和49年	和歌山県		※	※		※	※
1973	昭和48年	奈良県		※	※	立花(兵)	※	※
1972	昭和47年	兵庫県	交野一(大)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1971	昭和46年	滋賀県		※	※		※	※
1970	昭和45年	大阪府	四條畷学園(大)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1969	昭和44年	京都府		※	※		※	※
1968	昭和43年	和歌山県	東住吉(大)	※	※	花乃井(大)	※	※
1967	昭和42年	奈良県		※	※		※	※
1966	昭和41年	兵庫県		※	※		※	※
1965	昭和40年	滋賀県		※	※		※	※
1964	昭和39年	大阪府		※	※		※	※
1963	昭和38年	京都府		※	※		※	※
1962	昭和37年	和歌山県		※	※		※	※
1961	昭和36年	奈良県		※	※		※	※
1960	昭和35年	兵庫県		※	※		※	※
1959	昭和34年	滋賀県		※	※		※	※
1958	昭和33年	大阪府		※	※		※	※
1957	昭和32年	京都府		※	※		※	※
1956	昭和31年			※	※		※	※
1955	昭和30年			※	※		※	※

近畿勢の活躍



元近畿ブロック長　今荘　茂

全国大会には、コーチ・監督・ブロック長として第８回の名古屋の大会から参加してきました。当時は都道府県対抗の試合で、第10回の熊本大会から学校対抗になり個人戦も始まりました。その後大会は、奈良市、新潟市、新庄市、大府市、登別市、真岡市、春日井市、盛岡市、山口市、坂出市、熊本市、高岡市で開催され、各会場とも熱戦が繰り広げられてきました。

第23回　大津市　（滋賀県）

滋賀県で初めての全国大会開催。選手強化や実行委員会の仕事などで大忙し。体育館に始めて冷房を入れるため、ナイロンシャトルが風の影響を受けないように何度も調整。この大会から個人戦出場枠が増え、運営も一工夫。四條畷学園（大阪）、地元滋賀県が団体・個人でベスト4、川口（大阪）も３位。

２位：向　裕樹（滋賀・田上）

３位：四條畷学園（大阪）　真野（滋賀）　日吉（滋賀）　川口馨士（大阪・四條畷学園）　勝嶋梨絵（滋賀・日吉）

第24回　旭川市　（北海道）

気温が低くて大変すごしやすかった。ラーメンや寿司を食べちょっとした旅行。帰りは北海道を楽しんで帰りました。男子団体は瓜破西（大阪）が２位。男子ダブルス永谷・福川組（大阪）が優勝。仲尾（大阪）が２位。女子団体では四條畷学園（大阪）が優勝。

優勝：永谷和也・福川和也（大阪・瓜破西）　四條畷学園（谷嶋ゆき子・小幡真由美・弘法堂いつ子・速水永子・吉川志津香・上田多希子・阪口実都）

２位：瓜破西（佐々木秀夫・松下文雄・恵良哲哉・齋藤　篤・福川和也・永谷和也・橋本悠司）　仲尾修一（大阪・四條畷学園）

第25回　川崎市　（神奈川県）

とにかく大きな体育館で、中央にアストロビジョンがあり決勝戦が放映。練習会場も隣にあり、この体育館も大きかった。男子は団体・個人ともベスト４に残れず。女子の瓜破西（大阪）が団体・シングルスで２位、四條畷学園（大阪）が団体３位、個人では速水（大阪）、上田（滋賀）が３位。

２位：瓜破西（松尾由貴・安城美華・椋井かおり・元木千恵・羽場世依子・恵良　恵・森　亜樹）　安城美華（大阪・瓜破西）

３位：四條畷学園（大阪）　速水永子（四條畷学園・大阪）　上田絵美（滋賀・彦根西）

第26回　大府市　（愛知県）

駅からランニングにちょうどいい距離に体育館があり走っているチームも。近畿勢は男女団体・個人ともベスト４には残れず。

第27回　新居浜市（愛媛県）

体育館内が大変暑かった。試合の途中換気タイムがあり何とか試合ができた。男子シングルスで諸田（奈良）が３位、女子団体は日吉（滋賀）が２位、シングルスは澤（滋賀）が２位、吉岡（大阪）が３位。

２位：日吉（川島　彩・澤　憂妃・多谷郁恵・早川由希子・高倉美香・裏川千智・三条幸菜）　澤　憂妃（滋賀・日吉）

３位：諸田大輔（奈良・若草）　吉岡久美子（大阪・四條畷学園）

第28回　仙台市　（宮城県）

男子は団体・個人ともベスト４に残れず。女子ダブルス早川・多谷組（滋賀）が優勝、目秦・古田組（奈良）が３位。

優勝：早川由希子・多谷郁恵（滋賀・日吉）

３位：目秦香菜・古田景子（奈良・榛原）

第29回　福井市（福井県）

男子は日吉（滋賀）が大活躍。団体は２位、個人は山口（滋賀）が優勝、辻田・早川組（滋賀）が優勝、吉田・多谷組（滋賀）が２位。女子は今別府（奈良）が２位、目秦・伊藤組（奈良）、

広瀬（兵庫）が3位。
優勝：山口公洋（滋賀・日吉）　辻田嘉章・早川賢一（滋賀・日吉）
2位：日吉（山口公洋・吉田康範・杉田幸平・数野健太・辻田嘉章・多谷公志・早川賢一）　吉田康範・多谷公志（滋賀・日吉）　今別府靖代（奈良・片塩）
3位：広瀬栄理子（兵庫・中谷）　目秦香菜・伊藤麻子（奈良・榛原）

第30回　熊本市（熊本県）

日吉（滋賀）の男子が団体優勝、シングルス優勝、ダブルス2位とがんばった年。
優勝：日吉（数野健太・多谷公志・市川よう彦・愛知祐作・吉川浩二・早川賢一・松本和也）　数野健太（滋賀・日吉）
2位：多谷公志・早川賢一（滋賀・日吉）

第31回　広島市（広島県）

広島市の中心街にある大きな体育館。天井が高く慣れるまで大変。四條畷学園（大阪）、日吉（滋賀）が団体優勝、垣岩（滋賀）もシングル優勝。松尾（大阪）、村上・杉本組（滋賀）は3位。
優勝：四條畷学園（喜多勝人・犬山陽介・安田敬之・銭谷　翔・巽　太志・呉本勝章・横井和也）　日吉（鳥元里夏・垣岩真未・杉本依子・村上翔子・甲斐あづさ・田中美穂子・三崎奈美）
3位：松尾静香（大阪・瓜破西）　村上翔子・杉本依子（滋賀・日吉）

第32回　大津市（滋賀県）

1993年以来2度目の大津市。近畿勢は団体・個人ともベスト4に残れず。地元は大会運営をがんばりました。このとき、平成23年に3度目の全国大会を開催するとは誰一人思っていませんでした。

第33回　旭川市（北海道）

1994年以来2度目の旭川市。外は涼しかったが体育館内は熱戦。男子では埼玉栄が3冠に輝く。団体は男女ともベスト4に残れなかったが、竹内・深尾組（大阪）が2位、銭谷・巽組（大阪）が3位。
2位：竹内由佳利・深尾友里（大阪・樟蔭東）
3位：銭谷　翔・巽　太志（大阪・四條畷学園）

第34回　土浦市（茨城県）

男子は団体・個人ともベスト4に残れず。しかし、女子は日吉（滋賀）が団体・シングルス優勝。津村（大阪）が3位。
優勝：垣岩令佳（滋賀・日吉）　日吉（三津川清子・垣岩令佳・金児真衣・村上陽子・阪本由衣・上田洋子・上芝恵理）
3位：津村優衣（大阪・三陵）

第35回　岐阜市（岐阜県）

聖ウルスラ学院英智中が女子3冠に輝く。団体は樟蔭東（大阪）が3位、個人は佐々木（大阪）が2位、矢部（滋賀）、東野（大阪）、吉村・福万組が3位。
2位：佐々木彩（大阪・樟蔭東）
3位：矢部拓也（滋賀・田上）　東野良美（大阪・瓜破西）　福万尚子・吉村柚香（大阪・樟蔭東）

第36回　徳島市（徳島県）

地元徳島中学校が団体・シングルスとも優勝。男子は惜敗したが、樟蔭東（大阪）が団体3位、福万（大阪）が2位。
2位：福万尚子（大阪・樟蔭東）

第37回　須賀川市（福島県）

朝夕がとても涼しく快適。団体は瓜破西（大阪）、日吉（滋賀）が2位、個人は竹内（大阪）が優勝、阪口（大阪）が2位、浦谷（滋賀）が3位。
優勝：竹内宏気（大阪・大正）
2位：瓜破西（名田康平・佐々木崇・河合勇飛・佐々木健斗・金田京大）　日吉（浦谷夏未・安居里彩・玉木沙也華・木村仁葉・木村友都・高倉咲子・三宅彩加）　阪口智郁（大阪・樟蔭東）
3位：浦谷夏未（滋賀・日吉）

第38回　福井市（福井県）

福井市は全国大会2回目。男子は埼玉栄が3冠に輝く。男子は瓜破西（大阪）が3位、男女ダブルスが2位。
2位：河合勇飛・佐々木健斗（大阪・瓜破西）　樋口帆渚実・宮原　唯（大阪・樟蔭東）

第39回　長崎市（長崎県）

新型インフルエンザが全国的に大流行。大会会場や練習会場、宿舎でも常にマスク着用と消毒。移動は100円でどこまでも行ける路面電車。団体は男女ともベスト4に残れず。個人では、三津川・河崎組（滋賀）が優勝。
優勝：三津川剛史・河崎駿輔（滋賀・日吉）

京都府中学校体育連盟
バドミントン専門部



京都府専門部委員長　水野　洋一

1. あゆみ

京都府中学校体育連盟の前半は、京都府下の中学校やクラブ活動が十分な活動をしていなかったため京都市中学校体育連盟が担ってきた。新制中学校発足直後の昭和22年に結成され、バドミントン専門部の創設は遅れること10年、嶋啓晴先生、幸堀俊雄先生を中心としてなされたことに始まる。春季総合体育大会・夏季選手権大会・秋季新人大会を開催。

昭和30年代後半から40年代前半にかけて設置校も徐々に増加し、男子は10－12校、女子は20数校が参加するようになり、京都府総合体育大会も開催されるようになった。しかし、当初は会場不足、指導者不足などの苦労は絶えなかった。

昭和48年度より各種大会の試合形式の整理を順次行い、自由参加であった府下の学校も山城・口丹・中丹・丹後のブロック毎の出場枠における参加となった。

2. 組織

現在、京都府中学校体育連盟の専門部として、男子22校、女子53校が加盟している。

所属しているブロックは、京都市、山城、口丹、中丹の4つ。

歴代部長と委員長は、次の通り。

部長		委員長	
年代	氏名	年代	氏名
昭和54年	佐藤直一	昭和32年～33年	嶋　啓晴
昭和55年	吉岡勝美	昭和34年～37年	幸堀俊雄
昭和56年～58年	中村　裕	昭和38年～47年	竹原保男
昭和59年	酒井昭夫	昭和48年～49年	坂崎康雄
昭和60年～61年	竹原保男	昭和50年～60年	飴田純一
昭和62年～63年	辻　禮三	昭和61年～63年	中平繁則
平成元年～2年	掘場康延	平成元年～5年	山本仁士
平成3年	中川高一	平成6年～9年	大野泰永
平成4年～9年	飯田俊二	平成10年～21年	水野洋一
平成10年～12年	永井眞理		
平成13年～15年	八木信之		
平成16年～19年	笹井　昭		
平成20年～21年	山添　泰		

3. 過去の団体戦の成績

		男子団体				女子団体			
回	年	優勝	2位	3位		優勝	2位	3位	
62	2009	洛星	蜂ケ岡	泉ヶ丘	木幡	長岡二	木幡	蜂ケ岡	西京高附
61	2008	木幡	嵯峨	長岡三	大原野	長岡二	長岡三	蜂ケ岡	西京極
60	2007	嵯峨	木幡	長岡	花園	長岡三	培良	長岡四	西陵
59	2006	洛星	嵯峨	由良川	西賀茂	長岡三	西京高附	蜂ヶ岡	松尾
58	2005	蜂ケ岡	洛星	泉ヶ丘	精華西	蜂ケ岡	松尾	木幡	広野
57	2004	双ケ丘	洛星	嵯峨	西賀茂	松尾	長岡三	蜂ケ岡	西京極
56	2003	洛星	大原野	蜂ケ岡	長岡二	長岡二	松尾	西賀茂	長岡三
55	2002	長岡四	洛星	蜂ケ岡	双ケ丘	長岡二	同志社	北宇治	松尾
54	2001	洛星	蜂ケ岡	長岡二	大原野	長岡二	長岡	松尾	西陵
53	2000	長岡二	洛星	大原野	長岡四	長岡二	大原野	北宇治	桂
52	1999	洛星	大原野	加茂川	西賀茂	長岡二	大原野	桂	同志社
51	1998	洛星	長岡三	蜂ケ岡	加茂川	長岡二	同志社	広野	大宅
50	1997	長岡三	洛星	西賀茂	加茂川	西賀茂	広野	桂	長岡
49	1996	長岡三	洛星	西賀茂	蜂ケ岡	松尾	西賀茂	長岡	同志社
48	1995	長岡三	西賀茂	長岡四	洛星	長岡二	蜂ケ岡	同志社	西賀茂
47	1994	蜂ケ岡	西賀茂	西京極	洛星	長岡二	西賀茂	栗陵	家政学
46	1993	西京極	西賀茂	長岡三	洛星	西賀茂	桂川	加茂川	同志社
45	1992	西賀茂	洛星	長岡二	西京極	長岡	加茂川	蜂ケ岡	桂川
44	1991	西賀茂	洛星	西陵	西京極	桂川	加茂川	蜂ケ岡	西賀茂
43	1990	西陵	洛星	蜂ケ岡	西賀茂	桂川	加茂川	長岡三	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ
42	1989	洛星	西陵	蜂ケ岡	西賀茂	桂川	加茂川	長岡三	家政学
41	1988	西陵	洛星	蜂ケ岡	同志社	勧修	加茂川	長岡三	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ
40	1987	洛星	西陵	嵯峨	同志社	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ	蜂ケ岡	勧修	同志社
39	1986	蜂ケ岡	洛星	太秦	西陵	梅津	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ	長岡三	同志社
38	1985	洛星	同志社	太秦	西陵	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ	洛南	長岡三	小栗栖
37	1984	洛星	同志社	太秦	蜂ケ岡	桂	梅津	精華	同志社
36	1983	洛星	同志社	加茂川	西陵	梅津	西陵	桂	同志社
35	1982	洛星	同志社	岡崎	嵯峨	梅津	同志社	桂	小栗栖
34	1981	洛星	同志社	梅逕	太秦	梅津	同志社	修学院	伏見
33	1980	洛星	同志社	岡崎	嵯峨	同志社	梅津	京都女	小栗栖
32	1979	洛星	同志社	岡崎	蜂ケ岡	梅津	同志社	平安女	小栗栖
31	1978	洛星	蜂ケ岡	岡崎	同志社	桂	同志社	岡崎	洛南
30	1977	洛星	同志社	梅逕	蜂ケ岡	桂	岡崎	伏見	西陵
29	1976	蜂ケ岡	附桃山	北宇治	同志社	同志社	蜂ケ岡	洛南	桂
28	1975	洛星	同志社	梅逕	蜂ケ岡	桂	ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ	岡崎	同志社
27	1974	洛星	加茂川	岡崎	花背第	桂	蜂ケ岡	岡崎	加茂川
26	1973	蜂ケ岡	洛星	岡崎	嘉楽	伏見	加茂川	岡崎	洛南
25	1972	洛星	嵯峨	岡崎	蜂ケ岡	桂	蜂ケ岡	平安女	嵯峨

大阪中体連バドミントン部の歩み



大阪中体連バドミントン部　専門委員長　東條　安彦

大阪中体連バドミントン部の創設は、昭和32年に設立されました。それから、53年間の年月を経て現在に至りました。この53年間を3期に分けて大阪中体連バドミントン部の歩みを振りかえっていきたいと思います。

①第1期（昭和32年～昭和55年頃）創設期・基礎期

昭和32年に設立された本部ですが、創立当初は、約男女合わせて16校の加盟校から成立しましたが、河口尚男先生や出口健次先生などの方々のご努力の結果、加盟校数も増えていきました。その中で全国大会が開催されるようになり、大阪の中学生のバドミントンの技術レベルも格段に向上していきました。そのレベル向上に大きな役割を果たされ全国大会第1回目の出場監督となった方は渡辺真規子先生と杉田忠邦先生でした。

②第2期（昭和55年頃～平成10年頃）発展期

この時期は、大阪府の中学生の技術が大いに発展し、創設期以上に全国的に活躍した時期でした。この時期の前半は、四條畷学園が中心となって各校が力をしのぎ合った時期でした。四條畷学園が全国大会で活躍する中で、全国出場を果たしたのが、男子では、交野勢の中学校で、女子では、豊津西中（地元開催）、摂津一中でした。また、昭和58年の大阪府大会女子決勝で、常勝、四條畷学園を旭陽中が破り近畿大会に出場する活躍もありました（両校共、近畿大会に出場）。この時期の半ばから後半になると、瓜破西中が台頭し、男女共、四條畷学園と瓜破西中が、その中心的な存在になりました。この両校は、大阪の核になり他の中学校の目標校の存在にもなりました。この両校をご指導されたのが、杉田忠邦先生と仲尾信一先生（四條畷学園中）と野口照夫先生と岩田信之先生（瓜破西中）でした。また、専門委員長として、佐貫裕彦先生のご活躍もあり大いに大会が盛り上がった時期でした。この両校で何回も大阪大会の決勝を繰り広げ、近畿大会でも対戦し、さらに全国大会に出場し、たいへん活躍しました。勿論、この2強時代の時にもこ2強の一角を破り、近畿大会へ出場した学校、男子では、交野市の中学や女子では、船場中や北豊島中などの活躍もありました。

③第3期（平成11年頃～平成21年）円熟期（現在）

この10年間は、やはり社会体育分野で小学生の時から始めた生徒や中学生になっても社会体育クラブチームに通っている生徒の増加とその活躍が顕著になったことです。その選手が全国の頂点に立ったことは、記憶に新しいところです。このように、この10年間は、社会体育分野の選手の活躍が目立つ中で、男子で、四條畷学園中（仲尾信一先生）が全国制覇を果たしたり、女子では、樟蔭東中学（川上隆庸先生・木村寛先生）が、大阪で8連覇を成し遂げ近畿大会でも数度の優勝を飾り、全国大会でも何度もベスト4に入る活躍をされました。現在の大阪府の中体連バドミントン部の加盟校は、男子67校、女子245校で、加盟生徒数は、男子656名、女子8061名です。

④思い出

最後に、大阪府の中学校でバドミントン部で練習を行い、卒業後、オリンピックや全英・世界選手権大会及び全日本総合や全日本社会人大会で出場（オリンピック）や優勝などの好成績をあげられた選手のみなさんを紹介して終わりたいと思います。男子では、江藤選手・川口選手・仲尾選手（以上四條畷学園中）、女子では、西尾、秋本選手、徳田選手、高田選手、植野選手、鴻原選手、岩田選手、水井（妃）選手、水井（泰）選手、（以上四條畷学園中）、大田選手、山本（静）選手、松尾選手（以上瓜破西中）、金井選手（鶴橋中）の方々がおられます。これからの大阪府出身の選手が先輩の方以上の活躍を心から応援して、大阪中体連バドミントン部の歩みを終わります。

大阪府中学校バドミントン選手権大会　10年間（平成12年度~21年度）記録

男子の部					女子の部				
平成12年度	優勝		準優勝		平成12年度	優勝		準優勝	
団体	四條畷学園中学校		大阪市立瓜破西中学		団体	四條畷学園中学校		枚方市立渚西中学校	
ダブルス	伊藤、大滝	瓜破西中	山本、山崎	中宮中	ダブルス	中川、安田	四条畷学園	松本、橋本	四条畷学園
シングルス	守屋	高野台中	犬山	四條畷学園	シングルス	林	瓜破西中	銭谷	四條畷学園
平成13年度	優勝		準優勝		平成13年度	優勝		準優勝	
団体	四條畷学園中学校		高槻市立五領中学校		団体	大阪市立瓜破西中学		枚方市立渚西中学校	
ダブルス	大佛、大滝	瓜破西中	安田、銭谷	四條畷学園	ダブルス	山崎、木本	瓜破西中	東野、恵良	瓜破西中
シングルス	犬山	四條畷学園	喜多	四條畷学園	シングルス	松尾	瓜破西中	吉川	瓜破西中
平成14年度	優勝		準優勝		平成14年度	優勝		準優勝	
団体	四條畷学園中学校		吹田市立片山中学校		団体	樟蔭東中学校		摂津市立第一中学校	
ダブルス	銭谷、巽	四條畷学園	金子、松井	片山中	ダブルス	富永、竹内	樟蔭東中	藤村、深尾	樟蔭東中
シングルス	大滝	瓜破西中	川上	亀井中	シングルス	恵良	瓜破西中	吉川	瓜破西中
平成15年度	優勝		準優勝		平成15年度	優勝		準優勝	
団体	四條畷学園中学校		吹田市立片山中学校		団体	樟蔭東中学校		大阪市立友渕中学校	
ダブルス	銭谷、巽	四條畷学園	真浦、藤井	交野一中	ダブルス	深尾、竹内	樟蔭東中	池原、佐々木	樟蔭東中
シングルス	樋口	美加の台中	綿引	交野一中	シングルス	津村	三陵中	土井	西陵中
平成16年度	優勝		準優勝		平成16年度	優勝		準優勝	
団体	高槻市立芝谷中学校		大阪市立淀中学校		団体	樟蔭東中学校		四條畷市立四條畷南中学校	
ダブルス	徳永、高橋	芝谷中	船谷、西岡	吹田六中	ダブルス	濱野、吉村	樟蔭東中	福万、生駒	樟蔭東中
シングルス	大滝	瓜破西中	東野	瓜破西中	シングルス	土井	西陵中	津村	三陵中
平成17年度	優勝		準優勝		平成17年度	優勝		準優勝	
団体	交野市立第三中学校		大阪市立淀中学校		団体	樟蔭東中学校		大阪市立瓜破西中学	
ダブルス	神谷、島田	柏原中	児玉翔、児玉智	高野台中	ダブルス	吉村、福万	樟蔭東中	生駒、真鍋	樟蔭東中
シングルス	松田	谷川中	大滝	瓜破西中	シングルス	佐々木	樟蔭東中	東野	瓜破西中
平成18年度	優勝		準優勝		平成18年度	優勝		準優勝	
団体	大阪市立瓜破西中学		吹田市立高野台中学校		団体	樟蔭東中学校		四條畷市立田原中学	
ダブルス	佐々木健、河合	瓜破西中	児玉智、児玉拓	高野台中	ダブルス	生駒、真鍋	樟蔭東中	桝田、萬本	樟蔭東中
シングルス	大滝	瓜破西中	竹内	八尾大正中	シングルス	福万	樟蔭東中	阪口	樟蔭東中
平成19年度	優勝		準優勝		平成19年度	優勝		準優勝	
団体	大阪市立瓜破西中学		吹田市立第一中学校		団体	樟蔭東中学校		大阪市立瓜破西中学	
ダブルス	佐々木健、河合	瓜破西中	中岡、遠竹	交野一中	ダブルス	川崎、宮原	樟蔭東中	前田、萬本	樟蔭東中
シングルス	竹内	八尾大正中	佐々木崇	瓜破西中	シングルス	阪口	樟蔭東中	樫山	茨木東中
平成20年度	優勝		準優勝		平成20年度	優勝		準優勝	
団体	大阪市立瓜破西中学		守口市立第一中学校		団体	樟蔭東中学校		四條畷学園中学校	
ダブルス	佐々木健、河合	瓜破西中	河野、和田	交野三中	ダブルス	樋口、宮原	樟蔭東中	川崎、前田	樟蔭東中
シングルス	佐々木崇	瓜破西中	松本	瓜破西中	シングルス	木戸	瓜破西中	名田	樟蔭東中
平成21年度	優勝		準優勝		平成21年度	優勝		準優勝	
団体	交野市立第三中学校		守口第一中学校		団体	樟蔭東中学校		佐井寺中	
ダブルス	松島、常石	交野三中	山埜、荒川	交野三中	ダブルス	木戸地、酒谷	樟蔭東中	森本、宮原	樟蔭東中
シングルス	松本	志紀中	西川	盾津東	シングルス	木戸	瓜破西中	名田	樟蔭東中

兵庫県大会の歴史や中体連バドミントン専門部の歩み



神戸市立楠中学校　中原　幸人

1. 昭和39年～昭和52年

S39年に兵庫県中体連主催の第一回総合体育大会が開催された。松蔭女学院体育館を会場として神戸地区のみの参加であった。翌年は阪神地区が参加し、兵庫県のバドミントン界をこの2地区が牽引していくことになる。

男子は第10回大会まで住吉中と鷹取中が2強を誇った。とりわけ住吉は男子において第1回大会の優勝校であり、これまで団体戦だけで7回の優勝を含む3位以内入賞24回の伝統校である。また、三田学園は常に兵庫県の強豪であり続け、兵庫県のトップチームに君臨している。当時は全国大会に選抜チームで出場しており、兵庫県も強豪の一角であった。愛知県で開催された第2回全国大会において、ベスト8と健闘した。翌年第3回全国大会（於：栃木県）では3位入賞を果たし、S52年には三田学園がベスト8に輝いた。

親和中の3連覇で始まった女子は、第4回から15回まで立花中が12回連続優勝を果たす。この時期の女子は高校での活躍が多く記録されている。S43年優勝の桝谷（立花中）は尼崎西高校からインターハイベスト8。S45年優勝の桜井（立花中）は市立尼崎高校からインターハイ3位。S47年優勝の佐藤（立花中）は園田学園の雑賀とダブルスを組み全国2位になった。

2. 昭和53年～昭和63年

この10年はこれまでの諸先輩方の努力が実を結び、兵庫県バドミントン部が次第に成熟してきた時期であるといえる。大きな成長のきっかけはS54年に神戸市立中央体育館で行われた第9回全国中学生大会であった。そして、その成果もまた大きなものであった。まず組織作りがなされた。当時、神戸、阪神主体に30余校であったものが、神戸、阪神、丹有、東播、西播、但馬まで最大60校余りに拡大したのは、この時期の各地区の協力のたまものである。また、各校顧問の協力体制が作られ、連帯感が高まり、県を挙げての強化体制が着実に実った。東播地区が力を付けてきたのも丁度この頃であった。東播地区の歴史はS49年の加古川大会に始まる。当時、浜の宮中を中心に用具も環境も人材も何も無いところから、小石を積むように基礎を築き、合同練習を重ね、実力を付け、やがて男子は平岡中、宝殿中。女子は中部中などの強豪校が出現することになった。

男子は立花中が3連覇を成し遂げた。その後、住吉中、広陵中、平岡中、宝殿中、尼崎啓明中、立花中などが高いレベルで争い群雄割拠の様を呈した。その中でS58年に宝殿中が東播地区悲願の初優勝を三冠と合わせて達成した。近畿大会ではS56年に住吉中の団体優勝。S59年の広陵中の準優勝と素晴らしい記録が残されている。個人シングルスではS56年の中川（塚口中）、S63年の藤井（宝殿中）の準優勝。ダブルスではS58年の丸山･大西（宝殿中）の準優勝。S60年の田代・三宅（尼崎啓明中）の優勝、中田・陣内（平岡中）の準優勝が挙げられる。S55年優勝の佐藤（立花中）は近畿大会こそ3位であったが、市立尼崎高校でインターハイシングルス3位、国体3位の成績を上げ、松本（日新中）と組んだダブルスでも全日本ジュニア3位と気を吐いた。

女子では中部中が彗星のごとく現れた。S54年に立花中の連勝を止めた後、S58年からS63年まで6度の優勝を果たしている。

近畿や全国で勝つためにはジュニアの育成が必要であることをいち早く見抜き導入した、合理的な頭脳と強腕のチームであった。近畿大会においてS58年団体優勝。S59年、61年準優勝。個人ではシングルスでS58年増子、S59年中釜が準優勝し、ダブルスではS60年に吉田・三浦が優勝している。全国大会でもS58年にベスト8に輝き、S60年の吉田・三浦は3位を勝ち取った。

一方、阪神地区では園田学園が豊富な練習量と、強い精神力を誇りS55年に団体初優勝。個人ではS55年のダブルスで小林・川端の近畿大会準優勝、S57年の王・尾亀の優勝が特筆される。S61年の小泉は近畿3位ながら、全国3位と健闘した。

この10年間の出来事として、試合球が水鳥から合成球へ移行し団体戦の形式が2複1単へという変化があった。

3. 平成元年～平成10年

H元年以降の10年間は伸び悩みの時期であった。ジュニアからの一貫指導が定着した全国や近畿の強

豪に対して、中学からバドミントンを始めることの多い兵庫県の選手は、必然的に苦しい戦いを強いられることになった。

男子においては、団体で10年連続で東播地区同士の決勝が行われている。東播地区のレベルアップというより、他地区が団体戦を組みにくい状況であるということが大きい。幸いに東播地区は生徒に恵まれ、さらに熱意ある指導者が互いに研鑽を積みながら切磋琢磨しているため、近畿大会でそれなりの成績を残すことが出来た。中でもH6年、8年平岡中の準優勝、優勝。H9年の平岡南中の準優勝は、低迷の重苦しさを吹き飛ばす快挙であった。個人ではH2年の上野・外山（山手中）H8年の清水・東村（平岡中）の優勝。H9年の福島・上原（宝殿中）が準優勝。特にダブルスでの好成績が目立つ。

女子も東播地区の台頭が目に付く。とりわけ岩部（平岡南中）は県のシングルスを初めて連覇した選手になった。園田学園に進学し、大山と組んでダブルスで近畿を制覇した。中部中も緻密で粘り強い練習と、固い守備で団体の全国大会出場を果たした。

H7年1月17日、阪神・淡路大震災という未曾有の被害に遭った神戸地区ではあるが、男子は住吉中・楠中を中心にようやく立ち直り、H9年の県総体を成功させた。女子は親和中を中心に力を付けてきた。さらにこの時期の園田学園の充実ぶりは目覚ましいものがある。5年間で3回の団体優勝。個人でも青木・福本の全国出場（H8年）など。阪神・淡路大震災で体育館が使用できない状態で、顧問の先生方の並々ならぬご苦労を思うと、その活躍ぶりには拍手を送りたい。また、阪神の新しい風、常陽中の頑張りも素晴らしい。この時期但馬地区では豊岡南中が頑張っていた。平成8年には宝塚で近畿大会を開催することができた。阪神地区を中心に全県体制で行われ、平岡中が男子団体と男子ダブルスで優勝を飾った。

平成10年から兵庫国体へ向けた選手発掘と育成を兼ねて、ジュニアスポーツ教室を県協会主催として、小体連、高体連と共同で行った。その中で育った一人が廣瀬（中谷中）であった。

4. 平成11年～平成21年

生徒数の減少で中学校のクラブ活動は停滞状態となった。バドミントン競技もこの例に漏れず、中学校のクラブ数はかなり減少し、県大会の常連校が姿を消すこととなった。

その代わり、ジュニアからの選手が活躍するようになった。特に、ここ数年シングルスでの活躍が目立つ。

男子では、宝殿中の大躍進があった。団体は8回、ダブルスも9回県優勝を果たした。特にH16年は近畿大会で団体優勝し、全国大会に出場した。シングルスでは河田が準優勝、ダブルスでは植原・石原が準優勝、坂本・坂本が3位と近畿大会でも活躍し、近畿3位の中山（安室中）と共に全国大会に駒を進めた。団体で6年連続全国大会に出場しており、全国大会の常連となった。この時期の選手は兵庫国体の代表選手となっている。

女子は園田学園の躍進が続く。団体優勝が6回、特にダブルスでの活躍が目立ち、H11年から5連覇している。また、男子の活躍で名高い宝殿中が女子にも力を入れ始め、ここ11年間、団体で3勝している。H18年はダブルスでも樋口・伊勢の優勝、武田・松田の準優勝を果たした。

シングルスはジュニアからの選手が強く、県大会を制覇している。その中で、廣瀬（H11）、横関（H14）、小高、山本（H17）、漆崎（H19）は近畿大会を突破し、全国大会に出場した。特に廣瀬は全国3位になり、青森山田高に進学。そこでも大活躍、インターハイで上位進出、卒業後、三洋電機に入り、日本代表として北京オリンピックに出場。3回戦まで駒を進め、トップ選手として大活躍している。

他の選手も兵庫県代表として、国体をはじめ多くの大会に出場、活躍している。H18年の兵庫国体では、少年女子史上54年振りとなるベスト4に進出を果たし、バドミントン競技で天皇杯8位・皇后杯3位の栄冠に貢献した。

H21年の近畿大会は兵庫県宝塚市で開催され女子は園田学園が団体、シングルス（杉野）ダブルス（柏原・宇都宮組）の三冠を達成し、男子はダブルスで中嶋・吉本（山手中）が準優勝、宮丸兄弟（兵庫中）が三位に入り全国大会に駒を進めた。

歴史を振り返ると、数々の栄光に彩られているが、現状を考えると決して明るい材料ばかりではない。少子化現象は更に広がり指導者の確保もままならない。バドミントン協会の登録数も減り続けている。（H18年から久しぶりに登録数が増加し始めた）。地域のジュニア選手が増加しているものの、中学校のクラブ数は減少しているだ。また、H12年から試合球が水鳥に再び変更され、いっそうの技術力が要求される時代となり、指導力がより問われるようになってきた。ジュニアからの一貫した育成と高校・大学などの受け皿の問題もある。兵庫国体での成功に甘えることなく、山積みの課題を一つ一つ解決していかなければならない。兵庫県にはバドミントン部を持つ学校はまだまだ少ないが、学校の枠を超えるなどの改革が実現すれば、ジュニア育ちの選手が活躍できる日も来ると思う。

こんな困難な時代であるからこそ、私たちもまた団結して前進していくことが必要と思われる

奈良県中体連バドミントン部の歩み



葛城市立白鳳中学校　山田　雅三

創成期のバドミントン専門部は、吉岡哲専門委員長を中心に男女の大会が開催され、今日に至っている。当初、試合は若草中・三笠中・春日中・女子大附属中・正強学園中・郡山中などを会場とし、男女合計約100名の選手が参加する試合規模だった。

県内各校より選抜方式をとる形の全国大会が始まった頃、県代表男子チームは毎年上位入賞し、第2回大会（昭和47年）では初優勝を果たした。女子チームも同大会で準優勝するなど、活躍がみられた。

奈良国体（昭和59年）へ向けての体制づくりを兼ねて第11回全国大会（昭和56年）が奈良県で開催されることになった。コンピュータもなく、電動タイプを駆使しての要項やスコアシートの作成、美術教師の手作り看板、業者でなく先生方で弁当の手配等、まさしく手作りの大会だった。不十分な組織と少ないスタッフで、数多くのハプニングが起こり、多大な労苦があったが、県協会、高体連、各ブロック長さん方などの協力のおかげでなんとかやりきることができ、その後の組織の確立という意味でも大きな大会となった。

奈良県では、夏の県総合体育大会のほかに平成22年度で57回目を迎える新人大会、県協会との共催で行われる選手権大会（56回）、県協会主催の春季大会（60回）が古くからの伝統をもつ。また、奈良国体をきっかけとしてその前後に、県協会主催によるサマーカーニバル大会（28回）、冬のフェスティバル大会（30回）が始まり、中学生の底辺拡大と協会登録者の増加に大きな役割を果たしてきた。ふだん試合に出られない生徒たちができるだけ参加できるようにと、初期には半面シングルスがおこなわれていた。現在では、夏冬とも数多くのブロックを作り、ブロックごとに3位まで表彰。夏については各校20数名まで（2年生は全員参加可）、冬についてはダブルスのみで参加制限なし（ただし、同年の県レベルの大会ベスト4入賞者は参加できない）とし、1ゲームマッチでおこなっている。多くの生徒に賞状をもらえるチャンスがあり、中体連の生徒がほぼ全員参加する活気ある大会になっている。

以前は、県北部の学校にほぼ限られていたが、現在では中南部の学校にまで加盟校が増えてきた。特に、女子については学校数、登録生徒数ともに増加し、多い状態を維持しているが、近年、男子についてはかなり減少している。夏の県総合体育大会の団体戦は、以前は各郡市の予選を経た代表校のみの出場となり、予選に敗退した学校の生徒は6月で部活動を引退しなければならなかったが、平成17年度より全県オープン化となり、すべての学校が最後の夏の大会にチームとして参加できるようになり、熱戦を繰り広げている。

奈良県の中体連専門部は、小さな組織だが、アットホームな雰囲気をもち、諸大会や近畿大会等の運営などがあると大変協力的な先生方の集まりである。近年、ジュニアチームの選手が各大会の上位を占め、底辺の拡大と同時に、全体のレベルアップのための方策も模索中であ

る。また、全国大会においても、学校対抗形式になって以来、個人戦をのぞいて顕著な活躍はなく、協会とも連携した競技力向上のための取り組みが必要である。

奈良県総合体育大会優勝校一覧			
回	年	男	女
第 3 回	昭和 27 年	郡山	郡山
第 4 回	昭和 28 年	郡山	郡山
第 5 回	昭和 29 年	天理	郡山
第 6 回	昭和 30 年	若草	天理
第 7 回	昭和 31 年	天理	郡山
第 8 回	昭和 32 年	天理	天理
第 9 回	昭和 33 年	若草	天理
第 10 回	昭和 34 年	郡山	天理
第 11 回	昭和 35 年	若草	春日
第 12 回	昭和 36 年	若草	郡山
第 13 回	昭和 37 年	春日	天理
第 14 回	昭和 38 年	若草	天理
第 15 回	昭和 39 年	若草	郡山
第 16 回	昭和 40 年	天理	郡山南
第 17 回	昭和 41 年	郡山南	郡山南
第 18 回	昭和 42 年	正強	郡山南
第 19 回	昭和 43 年	郡山南	田原本
第 20 回	昭和 44 年	安堵	郡山南
第 21 回	昭和 45 年	安堵	都南
第 22 回	昭和 46 年	正強	春日
第 23 回	昭和 47 年	正強	田原本
第 24 回	昭和 48 年	安堵	天理北
第 25 回	昭和 49 年	郡山	郡山
第 26 回	昭和 50 年	郡山	郡山
第 27 回	昭和 51 年	郡山	帝塚山
第 28 回	昭和 52 年	正強	帝塚山
第 29 回	昭和 53 年	郡山	富雄
第 30 回	昭和 54 年	三笠	三笠
第 31 回	昭和 55 年	春日	三笠
第 32 回	昭和 56 年	春日	三笠
第 33 回	昭和 57 年	郡山西	高田
第 34 回	昭和 58 年	郡山西	高田
第 35 回	昭和 59 年	富雄南	高田
第 36 回	昭和 60 年	二名	高田
第 37 回	昭和 61 年	二名	富雄南
第 38 回	昭和 62 年	郡山西	富雄南
第 39 回	昭和 63 年	登美ケ丘北	富雄南

奈良県総合体育大会優勝校一覧			
回	年	男	女
第 40 回	平成 元年	春日	若草
第 41 回	平成 2 年	郡山南	高田西
第 42 回	平成 3 年	正強	高田西
第 43 回	平成 4 年	若草	高田西
第 44 回	平成 5 年	登美ケ丘北	若草
第 45 回	平成 6 年	春日	片塩
第 46 回	平成 7 年	春日	高田西
第 47 回	平成 8 年	春日	榛原
第 48 回	平成 9 年	大三輪	榛原
第 49 回	平成 10 年	大三輪	榛原
第 50 回	平成 11 年	平城	榛原
第 51 回	平成 12 年	平城	高田西
第 52 回	平成 13 年	郡山南	高田西
第 53 回	平成 14 年	春日	白橿
第 54 回	平成 15 年	春日	白橿
第 55 回	平成 16 年	若草	白橿
第 56 回	平成 17 年	若草	榛原
第 57 回	平成 18 年	郡山	大三輪
第 58 回	平成 19 年	郡山	白鳳
第 59 回	平成 20 年	郡山	大三輪
第 60 回	平成 21 年	若草	桜井

歴代専門委員長	
昭和 27 年度～昭和 38 年度	吉岡　哲
昭和 39 年度	伊東和彦
昭和 40 年度～昭和 42 年度	木村　寛
昭和 43 年度～昭和 44 年度	上田耕作
昭和 45 年度	木島敬博
昭和 46 年度～昭和 48 年度	谷口　章
昭和 49 年度～昭和 50 年度	吉村輝彦
昭和 51 年度～昭和 52 年度	松井堯一
昭和 53 年度～昭和 54 年度	服部　明
昭和 55 年度～昭和 56 年度	中川仁志
昭和 57 年度～昭和 61 年度	榊　章
昭和 62 年度～平成 11 年度	茶谷正美
平成 12 年度～平成 15 年度	嘉生　寛
平成 16 年度～	山田雅三

和歌山県中学校体育連盟専門部の始まり



和歌山県中学校体育連盟バドミントン競技部専門委員長
和歌山県有田郡湯浅町立湯浅中学校教諭　三原　清和

和歌山県中学校体育連盟バドミントン専門部の歴史は浅く、17年しか経っていません。専門部発足の切っ掛けは、私が有田郡広川町の耐久中学校へ赴任してバドミントン部を創部した昭和60年からのことであります。翌年、有田市の箕島中学校にも創部され、昭和61年4月有田地方中学校体育連盟に県内初のバドミントン競技専門部が設けられ、垣内淳先生に専門委員長をしていただき活動を開始しました。

和歌山県中学校体育連盟は、伊都・那賀・和歌山市・海南・有田・日高・西牟婁・東牟婁の8地方の中学校体育連盟が集まっており、3地方以上に競技部がないと県専門部を設けられないという規定でした。

そのため、和歌山県中学校体育連盟にはバドミントン競技専門部はなく、もちろんバドミントン県大会もなかったので、近畿中学校総合体育大会への県予選は有田地方が中心となり和歌山県内の社会体育等で行っている九度山クラブ・岩出スポーツ少年団・新宮スポーツ少年団等の中学生にも連絡をとり学校長の許可を得て、4・5校の中学校から選手が参加して予選会を行うといった様子でした。また、近畿中学校総合体育大会における他府県との連絡も、和歌山県中学校体育連盟より有田地方専門部に依頼され、県代表として近畿専門委員長会議にも参加させていただきました。

平成2年には、湯浅町の湯浅中学校に転任2年目でバドミントン部が創部され、有田地方では箕島中学校・湯浅中学校・耐久中学校の3校で競い合えるようになりましたが、県予選会では小学生から始めている社会体育の選手にはなかなか勝てず、悔しい思いをしました。しかし、学校教育の中でもバドミントン競技を普及させたい、子ども達にバドミントンの楽しさを味わって欲しいという思いで取り組んできました。

同じ様な思いをもった先生方が各地方にもおられ、小口正先生のご努力で伊都地方の河根中学校に、平瀬博俊先生のご努力で東牟婁地方の那智中学校にそれぞれバドミントン部が創部されました。これで、やっと3地方の中学校にバドミントン部が設置されたので、平成4年4月に和歌山県中学校体育連盟バドミントン競技専門部が設けられることになりました。

その後、那賀地方の岩出中学校にも佐々木朝幸先生のご努力でバドミントン部ができ、社会体育でバドミントン競技の盛んな地方の子ども達の活躍の場となりました。

和歌山県専門部委員長を垣内淳先生に代わり、平成6年からは小口正先生、平成9年には佐々木朝幸先生が努めて下さり、和歌山県のバドミントン競技発展にご尽力下さいました。

現在、バドミントン部が設けられている学校は、伊都地方の河根中学校、那賀地方の岩出中学校、和歌山市の近畿大学附属高等学校・中学校、向陽中学校、有田地方の箕島中学校、湯浅中学校、耐久中学校、日高地方の由良中学校、東牟婁地方の那智中学校、城南中学校、緑丘中学校の6地方11校になりました。また、校長の承認をいただいて出場する選手も増え、約10校の参加があるので、県大会は20校程度の参加で実施しています。

このように、平成4年に和歌山県中学校体育連盟バドミントン競技専門部が設置されてから17年、参加校は約5倍になりました。これは、

先生方のご努力はもちろん、小学生からの選手育成が進み、各地でジュニアクラブが発足し活動していることや小・中学生の連携が一番の原動力ではないかと考えられます。

しかし、これまでに近畿中学校総合体育大会で入賞し、全国大会に出場した選手はごく数名しかおらず、ほとんどの選手は近畿中学校総合体育大会1・2回戦で敗退するといった現状であり、バドミントンレベルの低さを痛感させられています。バドミントンレベルの向上については、中学生だけではなく、小学生の育成や技術向上などにも協力しながら活動していかなければならないと考えております。

まだまだ中学校の部数・人数共に少なく、バドミントン競技の普及に努めると共に、中学校バドミントン部の活性化並びに選手の強化育成を目標に、専門部を上げて取り組んでいく必要があると考えております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

全国大会に第１回から参加して



元　大阪府守口市、交野市等教員、校長
京都府宇治市バドミントン協会副会長　水井　良平

昭和46年８月に全国中学生体育大会としていろんな種目が行われ、この年に全国中学生バドミントン大会の第一歩を踏み出した。

これまでは中学生の大会は近畿大会（昭和46年は第20回）が一番大きな大会であった。大阪もこの全国大会に出場しようと選手の選考を行った。近畿大会は学校対抗（２複、３単）であったが、この大会は近畿大会より先に行われ、都道府県別対抗団体戦（１複、２単）で選手は６人まで登録できた。この時、私は大阪府北河内郡交野町立中学校（現交野市立第一中学校）のバドミントン部の顧問で、近畿大会には何度か大阪府代表として出場（男子）を果していた。

大阪府も選手団（男女）を組んで第１回大会（東京体育館）に挑んだ。私は男子を引率したが、１回戦で長崎に惜敗した。第２回（愛知県体育館　名古屋市）も男子を引率し、今度はベスト８まで勝ち進んだが、準々決勝で福井県に惜敗した。その後も第８回まで毎年引率をして参加していた。第６回（宮城県スポーツセンター　仙台市）では女子の引率であったが、準優勝した。その時の優勝は滋賀県であった。準優勝の銀メダルは記念として大切に保管してあります。

全国規模の大会は中学生達にとっては大きな目標となった。この大会を経験した中学生達の中からたくさんの選手が全日本の大会等で活躍しているはずです。何事にも挑戦しようとする意欲を養うことができた実りある40年の大会の歴史を讃えたいと思います。

一流選手は、プレー以外も当然一流



京都府バドミントン協会強化委員　京都府職員　杉本　吉男

全国中学校体育連盟バドミントン部創立50周年　おめでとうございます。

また、3月に京都府宇治市、城陽市で行われました全日本中学生バドミントン選手権大会においては、関係者の方々に大変お世話になり有難うございました。

私がバドミントンと出会ったのは、30年ほど前になります。

当時、バドミントンというものがどんなものかはまったく分からず、お正月にする「羽根突き」くらいのものだと思っていました。

バドミントンを始めたきっかけは、中学の時にバドミントン部に入っていた同級生とジャンケンで負けた事から始まりました。

私のかよっていた大阪の四条畷学園は、当時では珍く、小・中・高・大の一貫バドミントン教育を行っており、全国でもトップレベルの学校で全日本チャンピオンが多数生まれるほどの学校でした。そんな強豪クラブとは知らず入部する羽目になってしまった私は、上下関係の厳しさや、きつい練習から「にげる・さぼる」事ばかりしていたので、当然試合では勝てるはずもなく、1回戦敗退というすばらしい経験もしましたし、一生懸命練習もしていなかったので負けても「悔しい！」とも思いませんでした。

私が1年生で、3年生が引退していなくなった時に『中学校でバドミントンするのも丁度あと2年で終わりか。よし！悔いの無いように頑張ろう。』と思いました。

それから私のバドミントンに取り組む姿勢が変わってゆき、『勝つ』ことを意識するようになりました。とにかく勝つためには、「粘る」・「あきらめない」事が大事であると感じ、コート内でのスピード、持続性、各ショットの質を高める練習を何回も何回も繰り返し行いました。逆転負けをした時は先生からものすごく怒られましたし、逆転勝ちをした時はほめられました。

そして、3年生になったころ、高校生インターハイ3冠だった北田スミ子さん（現：芝さん）とほぼ互角に戦えるようになり、北田さんとの接戦になる試合が楽しくて自分から試合を申し込んだりもしながら毎日のようにシングルスをしたような気がします。

夏、神戸市において中学生最後の『全国中学生バドミントン大会』が開催されました。

競技は都道府県対抗戦で、1複2単の団体戦形式で行われ、私も大阪府代表チームのシングルスで出場し、全勝して見事に『優勝！』することができました。

バドミントンが近年ではオリンピック種目になり、ポピュラーになったことでスイミングや野球、サッカークラブのようなジュニアバドミントンクラブなどもできて小学生のころからオリンピック選手を目指しバドミントンを始める子供達も増えており、全国の中学校の競技レベルはかなり向上していることは喜ばしい事だと思いますが、逆に怪我や故障等によりプレーが出来なくる選手も多くなっていることも事実です。

一流選手は、プレー以外の「あいさつ」「行動」「返事」「マナー」等の生活態度も当然一流でなくてはならないと私は思っています。そのためにはクラブ活動は大切であり、その中で培ったものは、人として、プレイヤーとして必ずプラスになるものです。

そのためには、全国中学校体育連盟バドミントン部として「一流選手、チーム」の育成により一層取り組んで頂き、将来のオリンピック金メダリストが日本から誕生することを願っています。

全国２連覇を達成

中学生の皆さんへ　ー夢を叶える為に、努力を惜しまないでー



1977年世界選手権優勝、全英オープン優勝　1975年、76年全日本総合優勝
現在　ミズノ株式会社：所属　植野　恵美子

全国中学校バドミントン大会開催40周年おめでとうございます。

忘れかけていた記憶を拾い集めて文字にしてみます。40年前の中学２年生の時、第１回（当時は団体戦のみ）が行われました。当時の私は強い選手でなく、大阪の予選突破は難関で、確かシングルスの上位からレギュラー４名・補欠２名の選出でした。全国大会が行われると知ってから、行きたくて行きたく無性に行きたかったのを覚えています。しかし、頑張って練習したのに予選直前で急性盲腸の手術。目先真っ暗になったけど、父親譲りの私は挑戦する気持ちがあれば、可能性はいくらでもあると思い、それを自ら実現しました。

本番の全国大会では、まるで夢を見ている様な気分で嬉しいんだけれど、心臓が張り裂けそうなくらいドキドキして、手足が震え、そこから逃げ出したいとでも思うような緊張感でいっぱいでした。しかし、この頃から勝つことを人より強くこだわっていたかもしれません。第１回大会で１位になりたいと・・。

当時、シングルスでは敵なしだった３年生の瀬野選手がいたので、私はダブルスを絶対に落としてはいけないという思いで頑張った結果、優勝出来ました。監督の杉田先生はじめ皆で日本一を大喜びしました。さて、次の年の３年生の時、２連勝を期待される中、１年前の優勝したい気持ちから、優勝しなくてはならないというプレッシャーを初めて感じました。前年度優勝すれば、次の年は２連覇するぞという欲が出るのは当たり前で、まわりもそれを期待しているのをひしひしと感じました。今度は自分が主役、絶対負けたくない。その為の練習はイバラの道でした。

毎日の練習を通じて、辛くてももう少し、もう少しと頑張っていく中で、体力が養われました。そして、褒めてもらったり、自分でも満足したり、注意されたり、ガッカリしたり、仲間を思いやって協力したり、仲間と競争したりしながら、健全な精神が培われました。

何が嫌だったかと言うと、何カ月も続く毎日6kmのランニング！！走っている最中に色々な事を考え、頑張らなきゃと自分に言い聞かせ、スピードがアップしていき、ラスト１周は必ずダッシュしました。そんな私に神様からのご褒美で、２連覇を達成し、勝つ喜びを知りました。

今、頑張っている中学生の皆さんへ、夢を叶える為に、努力を惜しまないで欲しい。願う事の全てが上手くいくとは思わないけれど、大切な事はあきらめないこと！失敗を恐れず、強い信念で挑戦し続け、その延長上に誇りや自信があります。不安を自信に変える為には、しっかりとした練習やトレーニングをこなす事です。これだけやれたんだから、私は大丈夫と本番で思える準備です。

強いから勝てるのではなく、勝ちたいから強くなるのです！

最後に中学生バドミントンの普及と発展の為に日本中学校体育連盟バドミントン部のご活躍をお祈り申し上げます。

中国ブロック



全国準優勝　男子団体連島中（第 32 回 於 :H10 年大津）
左から 4 人目 単優勝 佐伯祐行選手



女子団体 3 位の表彰を受ける広瀬、原田選手
（第 1 回全国中学生大会 於：S46 年東京）



備前中 右上は内田監督（第 13 回 於 :S58 年新庄）
右下は単 3 位の西林昭子選手



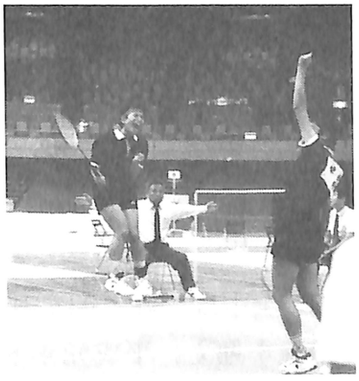
会場を後にする神居古潭中（於：H 元年山口県スポーツセンター）
メダルを首に掛けているのは、複優勝の増茂、中山選手



第 3 回中国大会団体優勝・美保中、鳥取県勢として初優勝
下右から 3 人目、五丁監督（於：S57 年大東）



城山北中団体男女アベック 3 位、（第 31 回 於：H13 年広島）
下左から 3・4 人目、複 2 位の霜山、大田選手 右上は髙木監督



飛び上がって喜びを表現、複優勝
岡・西組（第 31 回 於:H13 年広島）



ブロック長の先生（第 19 回 於：H 元年山口）



団体 3 位の表彰を受ける大東中
（第 13 回中国大会 於：H4 年大東）

築き、受け継がれる伝統
《中国ブロック》



中国ブロック長　岡山県中体連バドミントン部理事長　中須賀　祥雅

◆中国中学校選手権大会の誕生

昭和 46（1971）年度、第１回全国中学生選手権大会（混成チームによる都道府県対抗の団体戦）が東京で開催されたことに刺激されて、同年、中国中学生交換試合が国体中国ブロック大会に合わせて開催された。（1 複 2 単の団体戦）その後全国的に中学校の大会の在り方が大きく変わる中で、中国交換大会は昭和 54（1979）年度の第９回大会を最後に廃止となった。昭和 55（1980）年度から、「全国中学校選手権大会中国地区予選会兼中国中学校選手権大会」を開催することに発展して現在に至っている。

記念すべき第１回大会は、岡山県が主管し、昭和 55 年８月１～２日に実施された。当時の中国地区は、島根県が団体戦１チームのみの参加であったりなど、全国的に見て普及途上であった。

◆昭和 46 年度～昭和 58 年度

昭和46年度、第1回全国中学生選手権大会（東京）において、岡山県女子チームが見事３位に輝く。学校対抗戦となって初の表彰台にあがったのは、昭和 55（熊本大会）年度、女子ダブルス３位の中川史子・山川奈緒組（岡山・白石中）で、昭和 58（新庄大会）年度には、西林昭子（岡山・備前中）選手が女子シングルスで銅メダルを獲得した。

◆昭和 59 年度～平成６年度

中国大会を勝ち抜いた選手たちは、その力を全国で試すのであるが、全国の壁は厚く、長い間中国ブロック代表の足跡を残すまでには、至らなかった。しかし、平成２年度の坂出大会において、記念すべき第一歩を刻むことができた。西大寺中（岡山）が健闘、学校対抗戦になって初の女子団体３位を獲得したのである。

◆平成７年度～現在

この時期は、ジュニアクラブで育った選手が台頭して、中国小学生大会や全国小学生大会で上位の戦績を残していた。その選手たちが中学生になり、部活動指導とジュニアクラブ指導の両面から選手を鍛え、岡山県や広島県を中心に、全国レベルの選手を多数輩出した時代である。

平成 10 年度以降、彗星のように出現した連島中（岡山）や古豪の城山北中（広島）の大活躍は、全国から一躍注目される存在となった。現在は、亀崎中（広島）、倉敷福田中（岡山）や大東中、松徳学院中（島根）等が全国の舞台で活躍している。（戦績については、各県のあゆみ参照）

今後も、クラブ指導者と部活動指導者がお互いの立場を理解し、補っていく体制作り（一貫指導システム）を構築し、「心・技・体」特に心の充実した選手の育成に力を注いでもらいたい。

◆２つの全国大会

○　第 19 回全国中学校選手権大会（於：山口県スポーツ文化センター）

中国ブロックで初めての全中は、緑に囲まれた美しい会場に全国の精鋭を迎え、平成元年８月 23 日開会され、盛会の内に 26 日無事終了し

た。その結果、男子団体で須々万中、女子シングルスで村田みつえ（串中）選手がそれぞれベスト８に進出し、地元開催に華を添えた。「忙しい思いはしましたが、バドミントンが何よりも好きな全国の方々や県内の皆さんと、楽しく話ができて本当に幸せであったなぁと実感しています」（元山口県中体連バドミントン専門委員長　尾上忠）

○　第31回全国中学校選手権大会（於：広島県立総合体育館）

２度目の全国大会は、平成13年度広島市で開催され、団体戦で男女共ベスト４（ともに城山北中）、女子ダブルス準優勝（城山北中、霜山・大田組）という輝かしい成績を残してくれた。

「大会運営面においても、大会役員の皆様から、高い評価を頂くことができ、これもみな、競技運営に携わってくださいました多くの方々のご尽力・ご協力・ご支援によるものと、心より感謝申し上げます」（元広島県中体連バドミントン専門委員長　川上満彦）

◆終わりに・・・

平成５年から県中体連専門部理事長を引き継いで、早いもので17年が経過した。バドミントンを通して、人との出会い、交流（夜の部を含む）を深めることで多くのことを学び、成長することができた。これからも、人との「つながり」と人への「感謝」を大切にして、倉敷全中「がんばります！」



山口全中プログラム表紙



広島全中プログラム表紙

中国中学校選手権大会①　学校対抗栄光の跡［優勝校一覧］

回	年度	開催地	男子	女子	回	年度	開催地	男子	女子
1	S. 55	岡山	倉敷西	白石	16	H. 7	岡山	倉敷福田	西大寺
2	S. 56	米子	倉敷福田	白石	17	H. 8	鳥取	山南	鴻南
3	S. 57	大東	白石	美保	18	H. 9	松江	連島	城山北
4	S. 58	下関	白石	備前	19	H. 10	下関	連島	連島
5	S. 59	福山	総社西	備前	20	H. 11	広島	連島	連島
6	S. 60	岡山	白石	瀬野川	21	H. 12	岡山	連島	連島
7	S. 61	米子	芳泉	岡北	22	H. 13	米子	城山北	城山北
8	S. 62	大東	浅江	瀬野川	23	H. 14	松江	連島	祇園
9	S. 63	下関	倉敷東	美保	24	H. 15	山口	亀崎	連島
10	H. 1	広島	須々万	城山北	25	H. 16	広島	亀崎	翠町
11	H. 2	岡山	垢田	西大寺	26	H. 17	倉敷	亀崎	翠町
12	H. 3	米子	岡北	岡北	27	H. 18	鳥取	亀崎	亀崎
13	H. 4	大東	末武	岡北	28	H. 19	鹿島	亀崎	亀崎
14	H. 5	山口	瀬野川	岡北	29	H. 20	山口	大東	亀崎
15	H. 6	広島	城山北	西大寺	30	H. 21	倉敷	倉敷福田	倉敷福田

中国中学校選手権大会②　個人戦　栄光の跡［単・複優勝者一覧］　〈2009（平成21）現在〉

回	男子単	学校	男子複	学校	女子単	学校	女子複	学校
1	沖　貞雄	須々万	松原・高橋	須々万	天野紀三子	白石	山川・中川	白石
2	今東　健	西大寺	梶尾圭・梶尾治	倉敷福田	日下三和子	上南	天野紀・天野伊	白石
3	田中　信幸	須々万	河野・広谷	須々万	藤原　玲子	瀬戸	小見山・西原	白石
4	田内　正彦	須々万	天野・豊島	白石	西林　昭子	備前	紀井・小坂	備前
5	金子　義信	川中	古屋野・千々松	倉敷福田	渡部　美香	美保	山川明・桑原	白石
6	平尾　昌也	備前	中川・天野	白石	渡部　美香	美保	山川恵・原田	白石
7	中井　康博	芳泉	福山・石井	芳泉	桑村　幸子	瀬野川	中丸・片山	岡北
8	石丸　直人	大栄	秋元・山東	須々万	小林　泰子	城南	瀬戸・前野	城南
9	仁井　昌志	岡北	永山・清水	岡北	住矢　美幸	岡北	安田・門脇	美保
10	甲　直也	上南	睦田・森広	須々万	村田みつえ	串	明神・森繁	岡北
11	赤松　茂	岡北	金山・波田	垢田	住矢　直美	岡北	長門・神宝	西大寺
12	増田　敏雄	末武	楢原・三宅	岡北	蔦　悠子	城山北	須々木・浜田	岡北
13	増田　敏雄	末武	岸・加藤	城山北	加藤　美香	岡北	次田・佐藤	山南
14	米川　真司	下松	石田・長嶺	末武	田井　優希	児島	小林・加藤	岡北
15	橋村　竜彦	倉敷福田	尾崎・宗田	山南	重村　泉	戸坂	加藤・浜田	岡北
16	橋村　竜彦	倉敷福田	尾崎・宗田	山南	井山　美里	西大寺	森永・川田	鴻南
17	平田　雄己	総社西	宮崎・木村	美保	守屋　仁美	倉敷第一	三輪・大西	大殿
18	西峯　大輔	倉敷福田	竹川・松本	城山北	田中　理美	城山北	堀江・安村	城山北
19	佐伯　浩一	連島	永井・麻生	連島	三木彩恵子	山陽女	岡野・岡本	連島
20	有田　祐佑	江波	中尾・　堀	連島	川下　彩香	大野	浅原・藤原	連島
21	田村　潤	連島	中尾・　堀	連島	川下　彩香	大野	浅原・黒田	連島
22	田村　潤	連島	三宅・石井	連島	新藤　綾	祇園	霜山・大田	城山北
23	佐伯　祐行	連島	三宅・石井	連島	新藤　綾	祇園	普津澤・入江	連島
24	大田　圭祐	亀崎	猫本・北島	亀崎	川田　茉依	井原	藤川・中尾	連島
25	定清　大祐	西大寺	北島・岩見	亀崎	影山　尚香	亀崎	岡本・実光	連島
26	逢澤　良亮	連島	野々村・小山	大東	平山　佑香	亀崎	米元陽・米元小	翠町
27	逢澤　良亮	連島	中井・城野	亀崎	植木実璃奈	連島	山田・神中成	亀崎
28	弘中　雅己	亀崎	佐々木・白川	亀崎	下田菜都美	和庄	須安・福澤	亀崎
29	山﨑　大嗣	大東	谷本・丸山	亀崎	濱崎　真衣	松徳学院	神中美・国本	亀崎
30	福田　卓郎	倉敷福田	武井・岡本	倉敷福田	加藤　美幸	倉敷福田	小山・八幡垣	大東

＊　平成元年度は山口全中開催、平成13年度は広島全中開催、平成22年度は倉敷全中開催予定。

＊　全国優勝は、連島男子団体（H 10 年度 於：仙台）、佐伯祐行（連島）男子単（H 13 年度 於：大津）、中井翔太・城野雄太（亀崎）男子複（H 18 年度 於：徳島）の３回

鳥取県中体連バドミントン専門部のあゆみ

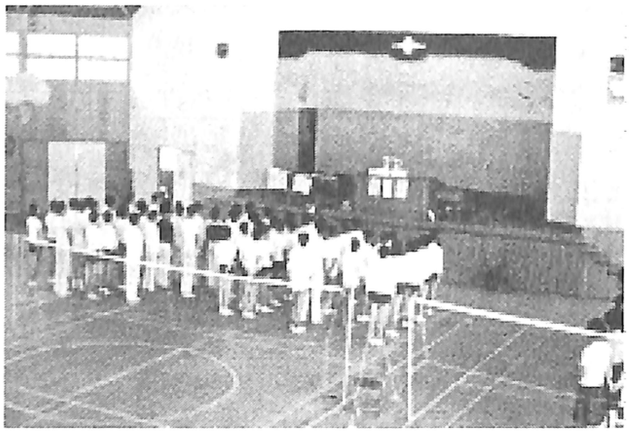


（福生中学校）
鳥取県中学校体育連盟　バドミントン専門部委員長　田貝　太樹也

1966年（昭和41年）、「新しい競技」「未普及の競技」と言われながらも、県バドミントン協会の常任理事であった林田博之教諭（鳥西中）、米田哲己教諭（境二中）、浜部寿教諭（邑法一中）の尽力により、中体連に専門部ができた。これによって、選手育成に力を入れることとなった。その年の6月5日に、記念すべき第1回鳥取県中学校バドミントン選手権大会が、米子一中（現　東山中）で開催された。参加校は、男女とも5校（男子＝岩美中・鳥西中・鳥南中・境一中・境二中、女子＝岩美中・邑法一中・鳥西中・境一中・境二中）で、ハンディキャップゲームのリーグ戦が行われた。技術も未熟でルールも十分に理解していない選手もいたが、白熱した試合が行われた。

1972年（昭和47年）の大会には、参加校も男子7校、女子8校になり、個人戦のダブルスも行われるようになった。1974年（昭和49年）までは、松本泰広教諭の指導により、男子は境港第二中学校の団体優勝5回、女子は境港第一中学校の団体8連覇など、素晴しい成績をあげた。その間、邑法第一中学校の女子団体準優勝5回、大成中学校の女子複優勝などの活躍もみられた。また、参加校もだんだん多くなり、東伯郡（北冥中）、八頭郡（佐治中）からの出場もあった。

1975年（昭和50年）からは、鳥取県中学校総合体育大会（以下県中総体）として開催され、1977年（昭和52年）から1979年（昭和54年）は、シングルス、ダブルスのみの試合を行い、県一を目指して競い合った。西元一道教諭が指導した境港第一中学校、岸信隆機教諭が指導した境



港第二中学校の好成績が続いたが、各校の実力はかなり接近しており、男子では後藤ヶ丘中学校、鳥取西中学校、鳥取北中学校の上位入賞も見られた。女子においては、美保中学校、加茂中学校、後藤ヶ丘中学校、青谷中学校、鳥取西中学校、岩美中学校の実力もかなり向上し、各大会において上位入賞はもちろんのこと、優勝にも名を連ねるようになった。

1980年（昭和55年）からは、全国中学校バドミントン大会（以下全国大会）がブロック代表制になったことにともなって、中国中学生バドミントン交歓大会が、中国中学校バドミントン選手権大会（以下中国大会）にかわった。県中総体がその予選を兼ねたため期日も2日間になり、選手たちは、技術だけでなくマナーでも素晴しい試合を見せるようになった。県中総体に変わってからの10年間で、五丁弘子教諭の指導により美保中学校が、男子では団体5回、複6回、単3回優勝、女子でも団体5回、複6回、単6回の優勝と圧倒的な成果を残している。

第１回中国大会（岡山）では、男子団体で境港第二中学校が準優勝、男子単でも浜田一也（境一中）が準優勝という結果を残した。中国大会に出場した選手は、上位入賞する好成績を残すものの、全国大会への出場権を獲得するまでには至らなかった。

1982年（昭和57年）第３回中国大会（大東）で、美保中学校が女子団体で優勝し、初めて全国の舞台を踏んだのを皮切りに、1984年（昭和59)･1985年(60年)には渡部美香(美保中)が、女子単２連覇、1987年（昭和62年）には石丸直人（大栄中）が男子単優勝と素晴しい成績を残し、全国の舞台で活躍した。さらに、1988年（昭和63年）第９回中国大会（下関）においては、山下幸夫教諭率いる美保中女子が団体優勝、複で安田祥子・門脇あゆみ組優勝、さらに複２位、単３位とすばらしい成績を残した。その後も、美保中学校の選手を中心に中国大会で好成績を残し、全国大会に出場した。

1996年（平成８年）第17回中国大会（鳥取）で宮崎篤・木村裕二組（美保中）が男子複で優勝したのを最後に鳥取県勢は全国大会から遠ざかった。その間、小中高の一貫した指導体制を構築し、選手育成に尽力してきたものの、思うように結果の残せない時期が長く続いた。2008年（平成20年）第29回の中国大会（山口）では村尾圭太（河北中）が男子単で準優勝し、鳥取県勢として12年ぶりに全国大会に出場した。また､山本理香(桜ヶ丘中)が女子単で入賞した。続く第30回の中国大会(岡山)では西田亜美奈･三橋久瑠美（桜ヶ丘中）が女子複で入賞の好成績を残した。

参加校６校からスタートした本県中体連バドミントン専門部も32校、800名を超える生徒が加盟する大きな団体となった。ここに至るまでには、多くの先生方の並々ならぬ努力があったことを決して忘れてはならない。当初より中学校のバドミントンの普及強化に多大なご協力ご支援いただいた方々に感謝申し上げるとともに、今後ともジュニアクラブ・小学生連盟・中体連・高体連・協会と連携を図りながら、より一層の競技力の向上に努めていきたい。

○ 歴代理事長（平成２１年度現在）

代	氏名	在任期間	代	氏名	在任期間
初	林田　博之	S４１年度～S４３年度	８	岸信　隆機	S５９年度～S６３年度
２	米田　哲巳	S４４年度	９	築谷　浩明	H元年度
３	手島　　晃	S４５年度	１０	佐々木　治	H２年度～H１３年度
４	福本　国愛	S４６年度～S４９年度	１１	中尾　尊洋	H１４年度
５	庄司　　毅	S５０年度～S５１年度	１２	山根　秀敏	H１５年度～H１９年度
６	福本　国愛	S５２年度～S５６年度	１３	田貝太樹也	H２０年度～現在
７	庄司　　毅	S５７年度～S５８年度			

～全国大会への道のり～



島根県バドミントン専門委員長　野津　弘

昭和55年より中国中学校バドミントン選手権大会が開催され、本県からも選手を派遣することになった。しかし、第1回中国大会（岡山）では、他県選手とのレベル差を痛感した結果となった。昭和56年に第2回中国大会（鳥取）が開催されることが決定したのにともない、県中体連で次の事項が確認された。第1回島根県大会を大原郡大東町（現雲南市大東町）で開催する。この大会に参加しなければ中国大会への参加資格を認めない。他の部に所属している生徒で、参加を希望する者又はその競技にすぐれている者がいる場合、その参加方法についての特別の配慮を要請する。これらのことを受けて、第1回島根県中学校バドミントン大会が昭和56年、大東町民体育館（現雲南市大東公園市民体育館）で開催された。参加選手は男子12名・女子11名の計23名であった。そして、第2回中国大会には、団体戦に大東中、個人戦シングルスに2名、ダブルスに2組が出場した。これ以降県大会は大東町で開催されることになる。第3回中国大会は島根県で開催され、昭和57年に大東町民体育館で中国各県より約200名の選手を迎えて開かれた。女子団体で大東中が1ポイントの勝利点をあげ、男女のシングルス、女子ダブルスでそれぞれ1勝の勝利を収めた。昭和58年には県中体連専門部にバドミントン部が加えられたが、その年の第3回県大会から昭和61年の第6回県大会まで、参加校は県内唯一、バドミントン部のある大東中のみであった。そうしたなかで、昭和59年と昭和60年の県大会で男子シングルス2連覇を成し遂げた大東中の勝部賢治選手が、昭和60年の第6回中国大会（岡山）で第3位に入賞することができた。このことは、バドミントン専門部をはじめ中学生選手にとってもこの上ない喜びであり、明るい展望をもたらすものであった。その後、昭和62年の第7回県大会から大会参加校並びに参加選手数が年を追って増えていったが、中国大会での島根県選手の成績結果をみると、団体戦では予選リーグ敗退、個人戦では1回戦を突破できるかどうかといった状態が続いた。しかし、平成4年の第13回中国大会（島根）では、昭和55年の第1回大会以来、島根県代表初の男子団体3位入賞を大東中が成し遂げ、昭和60年以来の入賞に再び明るい展望が開けたのである。平成9年の第18回中国大会（島根）で、宍道中が男子団体3位に入賞し、県代表としては5年ぶり2校目となった。平成11年・12年の第20・21回中国大会（広島・岡山）では、大東中が男子団体で2年連続3位入賞、平成13年の第22回中国大会（鳥取）には女子団体で島根県代表初、平成14年の第23回中国大会（島根）で2年連続して3位に入賞する活躍を見せた。個人戦においては、中国大会では初戦突破が難しい状況がつづいていたが、平成8年の第17回中国大会（鳥取）で大東中の栗加奈子選手・森脇理絵選手が女子ダブルス3位となり、島根県女子代表で初入賞を成し遂げた。そして、平成10年の第19回中国大会（山口）では男子シングルスで大東中の栗佑貴選手が準優勝に輝き、中国大会を突破し、島根県代表として初の全国大会出場を果たした。翌年の中国大会には、男子ダブルスで3位入賞1組、平成14年の中国大会でも男女ダブルスで、各1組

が3位に入賞した。このように、島根県代表が中国大会で3位以内に入賞する活躍を見せるようになってきた。

また、県内中学校では大東中にしか部活動がないといった状況のなか、平成14年度に県中体連において外部指導者規定が設けられ、選手の強化育成に県バド協会ジュニア連盟と中体連専門部の連携がより強まった。大東中をはじめ、部活動のない学校の選手の競技力向上とバドミントン競技の普及につながり、県全体のレベルは向上していったのである。平成15年の第24回中国大会（山口）では、男子団体で松江一中が2位となり、島根県代表初となる団体での全国大会出場を果たした。他にも、大東中が男子団体、男子ダブルス、女子ダブルスでそれぞれ3位に入賞している。平成16年の第25回中国大会（広島）以降、3位入賞はもとより、全国大会出場を常に果たすようになっていった。平成16年の中国大会（広島）では、松江一中が男子団体で2位となり2年連続の全国大会出場を果たし、大東中男子団体も3位に入賞した。個人戦でも男子ダブルス1組、シングルスでは男女1名それぞれ3位に入賞している。平成17年の第26回中国大会（岡山）では、大東中の野々村聡選手・小山恭平選手が男子ダブルスで島根県代表初となる中国大会優勝を成し遂げ、大東中男子団体と松徳学院中女子団体が3位に、男女ダブルスでも1組ずつ3位入賞を果たしている。続く平成18年の第27回中国大会（鳥取）では、女子ダブルスで松徳学院中の安部葉月選手・玄行由未選手が2位となり、女子として島根県代表初となる全国大会出場を果たした。他に、松江一中男子団体と松徳学院中女子団体が、女子ダブルス1組が3位に入賞している。平成19年の島根県で開催された第28回中国大会においては、男女あわせて6種目中5種目において、全国大会の出場権を得ることができた。男子団体で松江一中が3年ぶり3回目、松徳学院中が女子団体では島根県代表初となる全国大会出場を成し遂げた。個人戦でも、シングルスで松江一中の福原忠宣選手、松徳学院中の濱崎真衣選手が、ダブルスでも松徳学院中の玄行由未選手・笹谷理恵選手がそれぞれ2位という活躍を見せ、全国大会出場を果たした。平成20年の第29回中国大会（山口）では、中国大会に島根県が参加して以来、ついに全種目全国大会出場を達成した。男子団体で大東中が、男子シングルスで大東中の山崎大嗣選手、女子シングルスで松徳学院中の濱崎真衣選手がそれぞれ島根県代表初となる中国大会優勝を成し遂げた。濱崎選手は2年連続の全国大会出場となった。女子団体では松徳学院中が2位となり2年連続の全国大会出場を、個人戦ダブルスで大東中の野々村亮広選手・和久利楓選手、森山美咲選手・小山朋恵選手が男女そろって2位となり、全国大会出場を果たした。平成21年の第30回中国大会（岡山）では、大東中の小山朋恵選手・八幡垣聖奈選手が女子ダブルスでは島根県代表初となる優勝を、男子シングルスでは松徳学院中の新田祥基選手が2位、大東中の細田慎二選手が3位に入賞し、それぞれ全国大会出場を果たした。他に男子団体で大東中と松徳学院中が、男子ダブルス1組がそれぞれ3位に入賞した。このように中国大会では常に上位を狙い、全国大会へ出場できるまでにはなってきた。しかし、平成20年の全国大会（福井）において男子団体で大東中がベスト8に、平成21年の全国大会（長崎）では男子シングルスで細田慎二選手（大東中）がベスト16、これが島根県選手の最高位である。全国大会上位入賞への道のりはまだ遠いが、これまでの歩みを振り返ってみたとき、ここまでこれたことを考えれば、決してたどり着けないものではないと確信している。

専門部のあゆみ



岡山市立上道中学校
岡山県中学校体育連盟　バドミントン専門部理事長　中須賀　祥雅

（1）第１期〈草創期〉

昭和37年（1962年）、岡山で第17回国民体育大会が開催された頃から、関係者の間で、バドミントンも中学校から本格的に実施しないと、県のレベル向上は望めないという意見が高まった。そして、県中体連に専門部を作ろうという機運の中で、懸命の取り組みが行われた。

当時、倉敷福田中学校におられた渡辺弘美先生が中心となって、倉敷地区での活動が始まり、次第に普及発展した。以後県中体連本部には機会ある毎に働きかけ、専門部結成の努力が続けられた。

そして昭和41（1966年）年度から、バドミントンも専門部として認められることとなり、同年4月26日から正式な専門部として、実質的な活動が始まった。

昭和42年（1967年）2月、記念すべき「第1回岡山県中学校バドミントン選手権大会」が開催され、男女合わせて約80名の選手が参加して、個人戦のみが実施された。当初は、男子の倉敷福田、女子の山陽女子など、早くから部活動を始めていた中学校の活躍が目立っていた。



（第１回全国中学生大会 岡山県チーム入場行進 於：S46年東京）

（2）第２期〈普及の時代〉

第2期の特徴として、年々参加校が増え、県の競技レベルも次第に高くなった。専門部の活動も軌道に乗り、特に男子の山本先生率いる円城中や女子の宮本先生率いる白石中などの過疎地域ともいえる小規模校の大活躍が目立った。その他に、総社西中や瀬戸中も目覚ましい活躍の後がある。一方、倉敷地区の各学校が、毎年のように相変わらずの強さを発揮して、頑張った時代でもあった。

その頃、県中体連バドミントン部は組織的にも安定期を迎え、第1回の中国中学校選手権大会を開催するなど、中国地区においては早くからイニシアチブをとってきた。その中心が柳本堯敏先生であり、それを支えるメンバーとして、横田佳紀、小橋勝広、内田稔、小田和文等の各先生が現在の基盤作りに貢献された。

（3）第３期〈競技力向上の時代〉

この時期に活躍されたのが、岡北の岡本次郎先生である。先生は、部活動を学校教育の一貫としてとらえ競技力向上のみならず、マナーの徹底など、精神面にも力を注がれた。

その情熱あふれる指導の成果は、県総体4連勝、中国大会女子3連覇、全国大会9年連続出場（団体5位2回、個人5位2回）などの実績として残っている。

第3期の後半には、平成2年度の全国大会において、岡山県2度目の女子団体3位入賞を果たした西大寺中や、倉敷地区のジュニアクラブで小学生から鍛えられた選手などのように、学校部活動以外で育った選手が台頭してきた。全国的にも社会体育の中で育った選手が



（西大寺中女子団体３位 右上は渡辺監督 於：H元年坂出）

全国大会の上位を占めるようになって数年が経過している。岡山県としても、中体連という立場からの部活動指導者とジュニアクラブ指導者が選手のために、心を開いて連携し、競技力を向上させ、より強力なパワーを生み出すことができれば、岡山県から全国大会での上位入賞、そして全国優勝も可能になってくると思われる。これが第４期の課題であった。

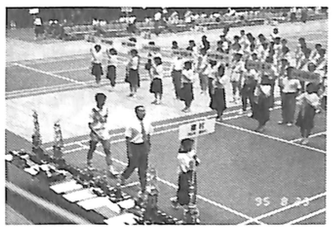
（4）第４期〈飛躍の時代〉

第４期は「飛躍の時代」である。この平成７年度（1995年）からの活躍は大変めざましく、全国に「岡山勢、強し！」と言わしめた結果となっている。川崎大会で橋村竜彦選手（倉敷福田中）が男子シングルスで岡山県初の準優勝を遂げたのを皮切りに、平成９年度（1997年）、新居浜大会で西峯大輔選手（倉敷福田中）が男子シングルスで３位と続いた。

そして翌年、平成10年度（1998年）、仙台大会で畑健二先生率いる連島中が男子団体で岡山県勢初の全国優勝（中国ブロック初）を達成。男子シングルスでも佐伯浩一選手（連島中）が準優勝。畑先生は徹底した厳しい指導で選手を統率、食事面等も管理し、全国大会２回目の出場での優勝は見事というほかない。以下連島中の全国大会での戦績を列記しておく。

平成11年度（1999年）、福井大会は男子団体で連島中が３位、男子ダブルスの中尾祐介・堀眞人組（連島中）が３位に入賞する。平成12（2000）年度の熊本大会では、大会使用シャトルがいままでのナイロンシャトルから水鳥球に変更になった年でもあり、男子団体で連島中が３位、平成13年度（2001年）、広島大会は男子シングルスで田村潤選手（連島中）が３位と活躍した。

平成14年度（2002年）、大津大会では２度目の男子団体で全国優勝を目指したが、埼玉栄中に惜敗し、準優勝。男子シングルスで佐伯祐行選手（連島中）が個人戦で岡山県勢として、初の優勝を成し遂げる。



（単２位橋村選手と中須賀監督
於:H7年川崎）

平成17年度（2005年）、岐阜大会は男子団体で連島中が３位、平成18年度（2006年）、徳島大会は男子シングルスの逢澤良亮選手（連島中）が準優勝を飾った。平成21年度（2009年）、長崎大会では、倉敷福田中が、男子団体で岡山県勢として、７年ぶりの準優勝を達成した。

今後も教育活動の一環として優れた人格の持ち主を育て、高体連につなげるため、そして全国大会で勝つためにジュニアクラブ、小学生連盟、高体連、県協会と連携を取りながら、一貫した指導体制を構築することに重点をおいて、中体連専門部の発展につなげたい。

来年の平成22年度（2010年）は、いよいよ第40回全国中学校バドミントン大会が倉敷市で開催される。ハード面（施設・設備）では、他の開催地に比べて弱い部分があるので、ホスピタリティ「もてなしの心」をキーワードにスタッフ一致団結して大会運営にあたりたい。

最後になりましたが、40周年の記念誌発刊にあたり、全国中学校体育連盟バドミントン競技部の益々の発展と来年度の倉敷全中の成功を祈念して、筆を置きます。

○　県中体連バドミントン部歴代部長・理事長（平成21年度現在）

部長			部長		
代	氏名	在任期間	代	氏名	在任期間
初	藤田　勝	S41年度	14	原　昭	H６年度～H７年度
2	水谷　靖	S42年度～S44年度	15	谷口　正美	H８年度～H10年度
3	荒川　大倫	S45年度～S46年度	16	河原井一之	H11年度～H15年度
4	岡崎　猛	S47年度～S48年度	17	廣本　勝裕	H16年度～H18年度
5	原　武男	S49年度～S51年度	18	荒尾　真一	H19年度～H20年度
6	大倉　容	S52年度～S53年度	19	吉田　俊之	H21年度～
7	平田　信夫	S54年度～S56年度	理事長		
8	市川　俊介	S57年度～S58年度	代	氏名	在任期間
9	武村　肇	S59年度～S60年度	初	渡辺　弘美	S41年度～S44年度
10	溝口　廣	S61年度～S63年度	2	柳本　堯敏	S45年度～S60年度
11	西野　雅三	H元年度～H２年度	3	小田　和文	S61年度～H４年度
12	木村　要子	H３年度～H４年度	4	中須賀祥雅	H５年度～現在
13	杉岡　順平	H５年度			

広島県中体連
バドミントンのあゆみ

広島県専門委員長　樽本　裕二



◆バドミントン専門委員会の設立

昭和55年『第1回広島県中学校バドミントン選手権大会』を開催。これが広島県の専門委員会の設立である。初代委員長は、広島安芸中の広瀬強先生が就任された。

当時は、バドミントンコートが3面しかとれない中学校の体育館で行うほど規模の小さいものであった。バドミントンに精通した教員はいなく、競技も指導も行ったことがない指導者のもとで広島県の中体連のバドミントンがスタートした。

第1回大会の団体優勝校は、男子が安芸中、女子が培遠中であった。当時は、福山市がバドミントンの中心でありその他の地区はあまり盛んではなかった。競技力は現在に比べて低く、中国選手権大会に出場してもなかなか勝つことはできなかった。

◆昭和56年～昭和63年

昭和58年より二代目委員長として那須且則先生（瀬野川）が就任された。熱心に指導される教員も増え、競技力も次第に向上し、それにつれてバドミントン部のある学校も増え、大会の規模も大きくなりつつあった。

昭和59年第5回中国選手権大会を福山市で開催。

昭和60年第6回中国選手権大会で、広島県勢として初めて瀬野川中が女子団体で優勝をした。この頃から広島県の選手が中国選手権大会で活躍できるようになってきた。翌年の第7回大会では、桑村（瀬野川）が女子シングルス優勝、さらに第8回大会では、女子団体優勝瀬野川中、2位城南中、女子シングルス優勝小林（城南）、2位佐藤（瀬野川）、女子ダブルス優勝瀬戸・前野組（城南）、2位山本・佐藤組（瀬野川）と上位を独占した。

女子は中国選手権大会で常に上位をねらえるようにはなったが、男子はまだまだ力不足であった。また全国大会で通用する力はまだなかった。

昭和62年より三代目委員長として高木義仁先生（城南）が就任された。

◆平成元年～平成6年

平成元年広島市において第10回中国選手権大会を開催。ここで男子シングルスで清水（瀬野川）が2位になり、男子で初めて全国大会に出場した。女子団体で城山北中が優勝。第12回大会で女子シングルス蔦（城山北）が優勝、第13回大会で男子ダブルスで岸・加藤（城山北）が優勝。この頃から男子が全国大会に出場できる力がついてきた。

第14回大会で瀬野川東中が男子団体で優勝、翌年の第15回広島大会では城山北中が男子団体で優勝した。また、重村（戸坂）が女子シングルスで優勝した。

平成5年より四代目委員長として川上満彦先生（亀崎）が就任された。

◆平成7年～平成12年

この頃の広島県は男女ともに城山北中・亀崎中の活躍が目立った。また、それと同時に小学生の頃からバドミントンを本格的に行ってきた選手、いわゆるジュニアの選手が活躍し始め、県内大会もジュニアの選手が上位を占めるようになった。男子の団体は第16回大会から21回の大会まで6年連続2位。女子は第18回大会で団体1位城山北中、2位亀崎中。シングルスは田中（城山北）が優勝。ダブルスは堀江・安村組（城山北）が優勝、2位が橋本・里川組（亀崎）と上位を独占した。第20回の広島大会では男子シングルスで3位まで独占することがで

きた。優勝有田（江波）、2位酒井（城山北）、3位伊東（亀崎）である。女子シングルスの川下（大野）も優勝している。川下は翌年も優勝している。

平成11年の福井での全国大会で広島県で初めて酒井が男子シングルスにおいて3位に入賞した。この頃活躍した有田や酒井が現在日本リーグの選手として頑張っている。

◆平成13年

平成13年は広島で全国大会を行った記念となる年である。準備段階では本当に開催できるのかなと思いながら、多くの先生方の協力とすばらしい会場で無事開催することができた。予選である中国選手権で男女とも城山北中が大逆転でアベック優勝。女子ダブルスも霜山・大田組（城山北）が優勝し、女子シングルスでは新藤（祇園）が優勝した。

全国大会当日は会場である広島県立総合体育館が大いに盛り上がりをみせた。それは城山北中が男女で団体ベスト4に入り、女子ダブルスで霜山・大田組が決勝に進んだからだ。決勝はその大会の最後の試合となり、広い会場のなかで皆がその試合に注目した。試合はもつれファイナルゲームのセッティングになりあと少しのところで負けてしまった。しかし会場内の観客、スタッフがシャトルを目で追いかけ一喜一憂するという光景を見たとき広島で全国大会を行ってよかったと実感した。

◆平成14年～

平成14年より現在の委員長である樽本（江波）が就任。

平成14年からは城山北中以外の学校の活躍が見られるようになった。中国選手権で男子は団体で2位亀崎中、3位翠町中。シングルスで2位川下（翠町）、3位大田（亀崎）。ダブルスで2位富田・大迫組、3位新路・猫本（ともに亀崎）。女子では団体1位祇園中、2位翠町中。シングルスで1位新藤、2位前田（翠町）、3位落合（鈴峯）。このように新しく活躍する学校が増え、この後全国大会でも上位に名を連ねるようになる。

中国選手権では男子団体を平成15年～19年まで亀崎中が5連覇。女子団体は平成16・17年翠町中が2連覇。翌年の18・19年は亀崎中が2連覇を果たす。男子シングルスでは15年大田が優勝で2位川下。19年弘中（亀崎）が優勝。男子ダブルスでは15年猫本・北島組、16年は北島・岩見組、18年は中井・城野組、19年は佐々木・白川組、20年は谷本・丸山組が優勝している（すべて亀崎）。女子シングルスは16年影山（亀崎）、17年平山（亀崎）、19年下田（和庄）が優勝。女子ダブルスは17年米元・米元組（翠町）、18年山田・神中組（亀崎）、19年須安・福澤組（亀崎）、20年神中・国本組（亀崎）と広島県勢が連覇している。特に平成19年の大会は全種目広島県の選手が優勝とすばらしい成績を収めた。

全国大会で特筆すべきは平成18年の中井・城野組の男子ダブルス優勝ある。この年の男子団体でも亀崎中は2位になっている。

15年に男子団体2位、16年に男子団体3位、17年に北島・中井組が男子ダブルス2位に入賞している。（いずれも亀崎中）

女子ダブルスでは17年米元・米元組が2位、翌年は山田・神中組が同じく2位になっている。20年の大会では亀崎中が広島全中以来の男女団体ベスト4となった。

また平成13年より始まった全国中学生バドミントン選手権では16年（愛知）で2位、18年（青森）で優勝、19年（福井）で3位と好成績を収めることができた。

今、この時期に活躍した選手が高校、大学、社会人の大会で頑張って活躍している。

広島県中体連バドミントンの30年を中国選手権の戦績を中心に振り返って見たが、改めて多くの先生方や協会の方々にお世話になったということを感じた。ゼロからのスタートで何もわからずがむしゃらに練習した時期。ある程度力をつけ、更に上を目指した時期。ジュニアの選手が増え、技術的に大きく向上した時期。全国で上位を目指して頑張った時期。その都度いろいろな問題に直面しながらも多くの先生方の協力で乗り越えてきた。これからも広島県のバドミントンの発展に力を注いでいきたいと思います。

専門部の歩み



山口県中学校体育連盟　バドミントン専門部委員長　加藤　高広

Ⅰ　バドミントン部の誕生

山口県で中学校初のバドミントン部の誕生は、昭和35年の下関市立日新中学校であった。創部には山口大学女子の主将であった中尾（旧姓佐藤）教諭が携わった。

昭和37年には、翌年に控えた山口国体への参加のため、津守・尾上の両教諭が下関市立彦島中学校に転勤となりバドミントン部が創部され、昭和38年には渡辺教諭も加わった。その後、3名の教諭が市内を転勤しながらバドミントン部を創部していき、下関市の選手が中国中学生交歓会や全国選抜大会へと参加した。

Ⅱ　県体への参加

日新中・彦島中・安岡中・玄洋中の4校に部が出来た頃、下関市中体連に加入したが、県体種目にバドミントン競技がなかったため、当然県体への参加は不可能であった。県中体連には何度も働きかけをしたが、県体種目にするためには最低4支部の参加が必要であるという返事であった。以後、県下にバドミントン部を創部するための努力が始まるが、練習場所・予算・指導者等の問題があり、創部に困難を極めた。

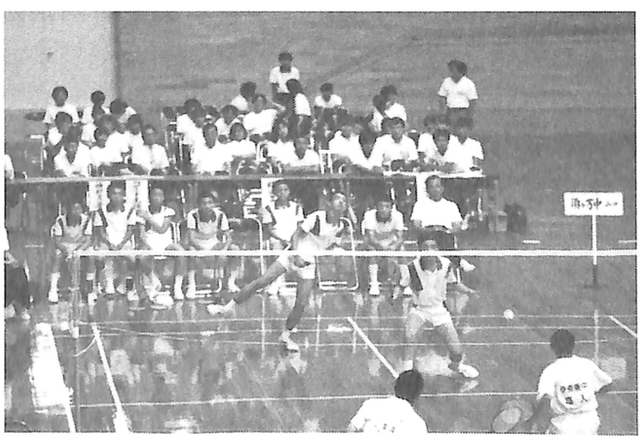
4支部がそろわない状態で20年が経過した頃、県中体連から県体種目に加えたいという話が突然に舞い込んできた。そして、昭和55年に下関・山口・徳山の3支部が参加して春季県体が開催された。

Ⅲ　競技力の向上

春季県体初参加の年に、岡山県で第1回の中国大会が開催され、須々万中男子の沖選手が単で優勝、高橋・松原組が複で優勝し、全国大会に出場した。その後、日新中・彦島中・川中中・大殿中等の選手が活躍し、中国大会でも上位を占めた。

平成元年には、山口市で全国大会が開催され、男子団体で須々万中が見事ベスト8へ勝ち進んだ。個人戦女子シングルスでも串中の村田みつえ選手がベスト8進出を果たした。

平成2年以降の中国大会では、下関支部の垢田中、山口支部の大殿中・潟上中・鴻南中・宮野中・二島中下松支部の末武中・久保中等が上位進出を果たし、全国大会へと駒を進めた学校もある。これらの成果は各中学校の情熱に満ち溢れた顧問の先生方が、より良い指導法を追求し続け、選手や関係者とともに努力と時間を費やした賜物である。



（地元全中で奮闘中の須々万中、睦田・森広組）

Ⅳ　現在の状況と今後の課題

山口県に初めてのバドミントン部が誕生してから約50年、県下には9支部43校にバドミントンの選手が在籍している。また、社会体育やジュニア連盟等の活動も盛んになっている。

誕生当時からの苦労を知る先輩方にとって、現在のバドミントン競技の発展は非常に大きな喜びであろう。

しかし、最近の中国大会では、優勝から遠ざかっており、全国大会へ出場できる選手も数少ない。「小学生からの選手育成、中学校での指導充実、高校への連携発展」と一貫した指導体制を更に強化し、競技レベルの向上を図ることが今後の課題であろう。

平成23年には、山口県で国体が開催される。

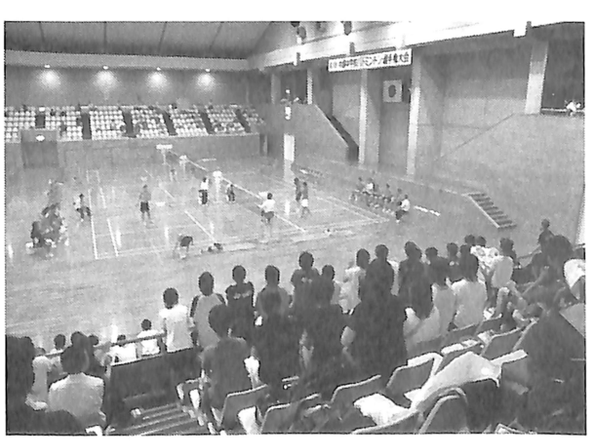


（ベンチで応援する大殿中 右は徳本監督 於：山口全中）

選手の育成や強化等に携わった数多くのバドミントン関係者の活動に感謝し、山口県選手団の活躍に期待したい。

歴代専門委員長・副専門委員長

専門委員長		副専門委員長	
氏　　名	在任期間	氏　　名	在任期間
尾上　　忠	S55年度～H4年度	津守　幸介	S55年度～S59年度
津守　真治	H 5年度～H8年度	渡辺　恒輔	S60年度～H2年度
野村　義徳	H 9年度～H18年度	河崎　健治	H 3年度～H4年度
加藤　高広	H19年度～	杉山　　覚	H 5年度
		塩谷　安宣	H 6年度～H7年度
		伊藤　宏朋	H 8年度～H10年度
		山田　文明	H11年度
		本名　裕之	H12年度～H18 年度
		林　　淳生	H19年度～





第29回中国中学校バドミントン選手権大会　　平成20年8月3日～5日
（山口県維新百年記念公園文化センター　アリーナ）

全国大会を振り返って



倉敷市立連島中学校　畑　健二

平成10年度、連島中バドミントン部は宮城県仙台市で開催された第28回全国中学校バドミントン大会に於いて、男子団体戦優勝、個人戦シングルス準優勝、個人戦ダブルスベスト8という成績を残すことができました。

私が連島中に赴任したのは平成7年の4月、バドミントン部の顧問ができると聞いたときは、本当にうれしく思いました。バドミントンとは中学生からの付き合いで、多少の経験はあるものの指導するのは初めてで、唯一やる気だけを持って体育館に行きました。

当初の悩みは、なんといっても「自分たちの力が試合で出せない」というものでした。とにかくまじめに一生懸命練習するのですが、それが試合では十分に発揮できないのです。平成9年度に全国大会に初出場を果たした時も力を出し切れず、あえなく1回戦で敗れてしまいました。その原因を考えてみると、全国大会に出場することを目標に取り組んだのでは、全国大会では勝てないということに気づきました。また、全国レベルの選手たちと練習試合を行うことの大切さを痛感しました。そこで諸先輩方がつくってこられた多くの人脈をお借りし、全国各地のオープン大会や強化合宿に参加させていただきました。

平成10年度当初、生徒たちが掲げた目標はなんと「全国制覇」。私は内心、「それは厳しいだろう」と思いながらも、生徒が決めたものなので、「やれるところまでやってみよう」という気持ちで全中まで臨みました。優勝した直後は選手全員と握手を交わしながら、感動の涙を必死でこらえていました。

部活動で大切なことは、あいさつ、礼儀、思いやりの心、感謝の気持ちだと思います。私自身、常にこれらのことを意識し指導にあたっていきたいと思います。「やる気、勝つ気」の大切さ、多くの人と接する機会、そして数々の感動を与えてくれた素晴らしい生徒たちに、感謝の気持ちで一杯です。全国中学生バドミントン大会の益々のご発展を祈念しています。

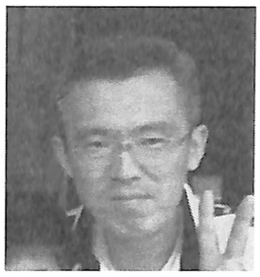


団体優勝 連島中と畑監督（第28回 H10年 於：仙台）
左から河田章宏、岡本貴幸、永井大吉、佐伯浩一
谷口賢次、麻生将豊、中尾祐介、堀眞人



（第32回 H13年 於：大津）
表彰式 単優勝　佐伯祐行選手と畑監督
2位は早崎選手（愛媛）、右は小野競技部長

全中を目指して
～多くの出会いに感謝～



山口県山口市立平川中学校　野村　義徳

昭和61年4月、私は新任として全校生徒25人という山間僻地校の佐波郡徳地町立串中学校に着任した。3年生が引退し部員数が5人となり、バレーボールができなくなった。そこで、バドミントン部を新たに設立することになり、素人の私が諸先輩の教えを請いながら指導を始めることとなった。平成元年に開催予定の山口全中に向けて選手強化に携わることとなり、幸運にも県内外の優秀な指導者の方々と出会い、その指導を仰ぐことができた。

そして、女子シングルスの部で村田みつえ選手が中国大会初優勝を飾り、ブロック代表として念願の全中出場を果たした。結果はベスト8で、惜しくもベスト4入賞は逃したが、地元の代表として立派な戦いぶりであった。この素晴らしい選手との出会い、多くの指導者の方々との出会いが、私のバドミントンの指導者としてのスタートである。

次に着任したのは、一転して大規模校である山口市立鴻南中学校であった。当時バドミントン部は朝しか体育館を使えない状態であり、それから地域の公民館や小学校などを訪ね歩き、体育館を確保しながらのジプシー生活が始まった。そして、平成4年に男子シングルスの部で長岡尚樹選手が、平成7年には女子ダブルスの部で川田弘美選手・森永裕美選手が全中出場を果たした。さらに全中の団体出場を目指して、年間1000時間以上の練習を目標にし、毎日の「朝練」・「夕練」、「土日の練習」、週2回の「夜練」と、生活の大部分をバドミントンに費やした。そしてついに平成8年中国大会で団体優勝を果たし、念願の全中団体出場が実現した。これは、山口県勢初の全中女子団体出場という快挙であった。全中では、1回戦で関東ブロック代表の蓮田南中（埼玉県）と対戦し、惜しくも1対2で敗退した。試合後、監督である私は選手を慰労することもせず、負けた敗因を怒鳴り散らしていた。なんと未熟な指導者で選手に迷惑をかけたことかと、今さらながら反省している。

私自身は、その後9年間、山口県中体連のバドミントン専門委員長や中国ブロック長を務めさせていただき、全国の多くの指導者に出会うことができた。バドミントンを通した多くの人との出会いが私を育て成長させてくれたと思う。選手や応援してくださった保護者、地域の方々、各指導者の方々に心から感謝したい。



開会式で選手宣誓をする村田選手（山口全中）

2001年（広島）全国中学校バドミントン大会を振り返って



広島市中学校バドミントン専門委員会　川上　満彦

当時、中国ブロックで2001年の全国大会を実施するにあたり、広島県内では陸上･バレー･水泳の３競技が内定していました。しかしながら、鳥取県が新設した屋内プールを使用して水泳競技を開催する事が急きょ決まり、広島県内実施競技の再選定が行なわれ、その結果水泳に代わってバドミントン競技を実施する事が決定したという経緯がありました。

バドミントン競技が決定した背景には、那須且則先生（かつての専門委員長）の『広島でアジア大会を開催したので、審判や大会会場に関しては問題ない。今回の全国大会の開催をきっかけにして、選手強化を図り広島県のレベルを上げよう！』という熱い思いが広島県中体連本部に伝わり、広島市でのバドミントン競技開催が決まりました。

いざ開催が決定した段階で最大の課題が、大会運営費の不足分を確保する事でした。広島県バドミントン協会からの援助金（10万）が少ないので、広告収入や県中体連からの大会援助費、さらにバドミントン専門委員会として“全国大会用の事前Ｔシャツ”の販売（約1200枚）等で、何とか大会運営費の不足分を補った記憶が、今でも鮮明に残っています。本音で言えば、大会運営面での苦労よりも、連日連夜にわたる、Ｔシャツ販売等によるお金集めに苦労しました。

大会の競技運営面に関しては、前年度の全国大会（熊本大会）の視察により、地元の関係者の皆様方より多くのノウハウをいただき、とてもスムーズな運営ができたと思います。また、補助員（線審）に関しては、地元高校のバドミントン部の顧問の先生方に協力していただき、高校生に審判資格を取得してもらうことで、大きなクレームもなく無事に終了する事ができました。

選手強化に関しては、高木　義仁（当時：城山北中）先生のもと、同校の男女部員を中心として選手強化を行ないました。結局、男女とも団体３位、個人戦の女子ダブルス２位という輝かしい成果を残すことができました。これ以後、全国大会での広島県勢の躍進が見られ始め、全国大会開催前に思い巡らせていた目標が、かなりの部分達成されたように思えます。しかしながらその反面、中学校のトップ選手が県内の高校を避け、県外の有名高校に進学する現象が本格化する先駆けともなりました。

せっかく県協会の強化費を投入して強化したトップ選手が、県外に流出して県内の高校にほとんど進学してくれないという、皮肉な結果が本格化し始めたのも、2001年度の全国大会からでした。

ともかく、広島市での全国大会開催は、色々な課題が残ったものの意義ある大会であり、新しい時代の始まり（黎明期）であったと思います。今後2019年の中国ブロックでの全中開催の際には、広島県のバドミントンの発展のためにも、ぜひとも広島県で二度目の全国大会を開催していただき、さらに広島県のレベルアップを図ってもらいたいと願っております。

今後広島県のバドミントン競技をさらに伸ばしていくためには、中学生全員が県協会に登録することによって県協会の財務力を少しでも強固にし、小・中・高が連携しあってジュニア選手を県内で育成していくことが不可欠です。さらに、若い指導者の育成と指導力の向上、中・長期にわたる明確な強化計画の立案、トップ選手だけに限らない幅広い選手強化と普及を行うことが大切だと考えます。また、中学校の指導者（顧問）が部活動の重要性を再認識し、もっと積極的に県協会の活動に参加・協力していただけることを切に望んでおります。

全国中学校バドミントン大会の想い出



島根県松徳学院中学校　富山　敦司

この度は全国中学校バドミントン大会が40回の記念大会を迎えられるに当たり記念誌の原稿を書く機会を与えていただきとても感謝いたします。

私が赴任したと同時に本校のバドミントン部が創部し、全中出場を目指し努力の毎日であった。全中の想い出というよりも全中に出場するのが大変なので、初めて団体出場を果たした年（第37回平成19年度・須賀川大会）などは、生徒より監督である自分自身のほうが緊張し試合の内容などはあまり覚えていない。それでも1回戦を勝ちベスト16という結果であった。

2度目の出場では、濱崎真衣というエースの出来がすべてで中国地区を勝ちあがった時もすべて同じオーダーで挑んだ。全中の本番の試合でも今までこれで勝ちあがったのだからこのオーダーで勝負だと思っていたが、試合になるとはエース濱崎の足が重く調子が上がらない。あっけなく0－2で敗退。ミーティングは自分が放心状態で何を話したかわからない。生徒の顔を見ると出てくるのは怒りばかりなので試合後は会場から出て近くの公園で時間を過ごした。何も分からず無欲で挑んだときは勝ち、指導者が意気込んで向かったときには負け、全国大会の恐ろしさと自分自身の指導力のなさ、洞察力のなさを改めて実感した。そのときには「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」の言葉が身にしみて感じられた。

ただ、全中に出場できること自体が栄誉で誇るべきことであるので全中の雰囲気と先端のバドミントン競技を感じることで次の指導の糧としていきたい。だから高校につなげるため「結果がすべてではない」と言いたいところだが、「負けて良い試合は無い」となってしまう。

今まで全国色々な場所へ遠征しそこでさまざまな指導者の方と出会い、指導者としての自分を成長させていただいたことに感謝したい。

また島根県はバドミントン部が少なく、全中は夢であったが、この田舎でがんばるという気概をもちこれからも全中を目標にがんばっていきたいと考えている。



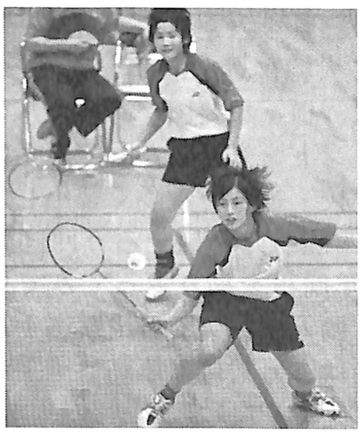
第28回中国大会・表彰式の様子（H19年度 於：鹿島）



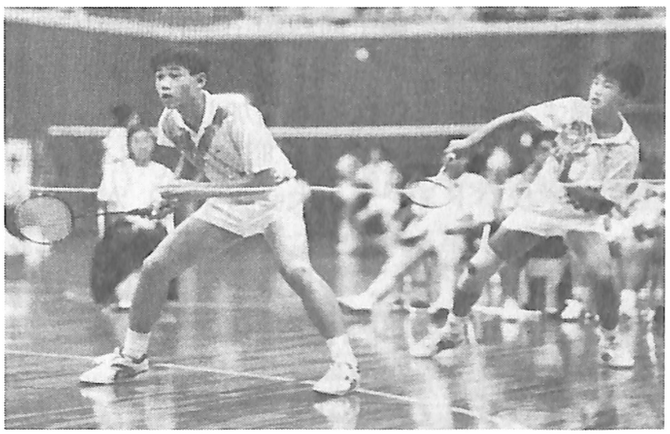
四国ブロック



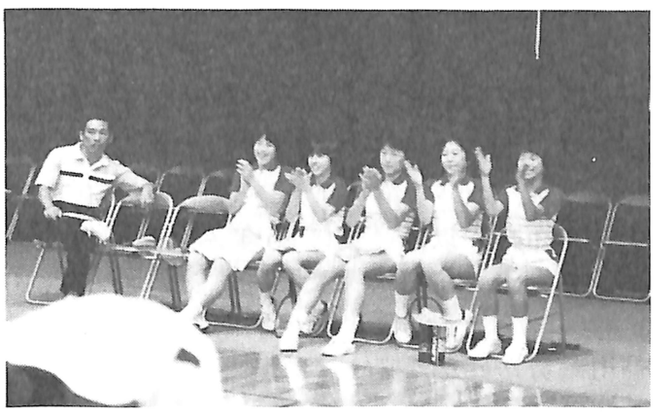

平成 13 年に徳島県勢初の女子団体を制した徳島中学校の選手（徳島新聞社提供）



平成 20 年女子団体３位入賞の春野中学校（高知新聞社提供）



高知県で開催された平成６年四国大会（選手は高知県南海中学校）
（高知新聞社提供）



第 12 回全国中学校選抜バドミントン大会
昭和 57 年 8 月 25 日～ 27 日　新潟市体育館（香川県提供）



第 13 回全国中学校選抜バドミントン大会
昭和 58 年 8 月 20 日～ 22 日　新庄市体育館（香川県提供）



昭和 63 年 8 月 19 日～ 22 日（香川県提供）

四国ブロックのあゆみ



四国ブロック長　高知市立南海中学校　永原　潤一

1．四国中学校総体の歴史

昭和38年に四国中体連が発足し、陸上競技一種目で始まった第1回四国中学校総合体育大会（香川県開催）だったが、それから10数年を経過するうちに競技数も増加した。

バドミントン競技でも、昭和46年に第1回全国中学校バドミントン大会（東京）が開催され、同大会が第10回熊本大会から学校対抗戦になることなどから、香川県を中心にして次第にバドミントンを四国中学総体の開催競技に加えようという機運が高まった。

このような中で、四国でも専門部立ち上げが急がれ、昭和52年に四国中体連にバドミントン専門部が組織され、第15回四国中学総体育（香川大会）から開催競技にバドミントンが加えられた。

第1回大会の会場は、高松市立桜町中学校体育館（香川県）で、団体戦は、参加体制の整わなかった愛媛県を除き、三県総当たりでリーグ戦を闘った。初めての四国王座を掛けて白熱した試合が繰り広げられ、四国ブロックの中学校バドミントンの歴史がここにスタートした。栄えある第1回四国中学総体王座の栄冠は、男子団体は潮江中学校（高知県）、女子団体は紫雲中学校（香川県）に輝き、歴史にその名を刻んだ。個人戦は、各県よりシングルス2名、ダブルス1ペアが参加してトーナメント形式で行った。

第4回四国大会（昭和55年）愛媛県開催から、四国四県が出そろい名実ともに四国の中学校チャンピオンを決めるにふさわしい大会へと進化する。この頃から、四国内では香川県選手団の実力が抜きんでるようになり、香川県代表が四国大会を席捲する時代が始まっていく。第6回四国大会（昭和57年）から、団体戦が現行制度と同じ2複1単の形に変更されて複重視の傾向が強くなったが、いち早く対応した香川県の実力が益々増すことになる。また、香川県では、他の三県を大きく上回るペースで競技者が増加して大幅に選手層が厚くなっていった。このように、様々な要因があったものの、香川県はバドミントン先進県として、全国を舞台に活躍する学校・選手を数多く輩出していく。昭和55年の四国四県が出そろう四国大会になってから10年間程を振り返ってみても、男女ともに団体、個人単、複で香川県選手以外が四国を制したのは、男女複で徳島県選手が一度ずつだけだった。それだけに、当時の指導者たちは、他の三県がレベルアップし、四県が互角に戦える四国大会になることを切に願って研鑽を積んだ。

その願いが結果になるには、元号が平成に変わってもまだ10年が必要だったが、第22回大会（平成10年）で男子団体の川東中学校（愛媛県）が、ついに第2回大会を制した土佐中学校（高知県）以来、実に20年ぶりに香川県代表校を抑えて優勝を果たした。それからの10年間は再び、玉藻中学校（香川）の連覇を含む香川県勢が四国を制したが、第32回大会（平成20年）川内中学校（愛媛）、第33回大会（平成21年）中萩中学校（愛媛）と愛媛県代表校が連覇した。しかし、男子団体で四国を制したのは、香川県代表校以外は未だ計5校だけである。

女子でも、昭和55年から平成4年までの13連覇を含む18度の優勝を果たした香川第一中学校を筆頭とする香川県勢が優勝を重ねてきたが、男子に遅れること3年目の平成13年に徳島中学校（徳島）が初優勝を挙げて平成18年まで6連覇を成し遂げ、平成21年には中萩中

学校（愛媛）が愛媛県勢初優勝を飾った。

このように、近年では各県の実力が拮抗するようになってきたが、男子団体の徳島県、女子団体の高知県は未だに四国を制することができず、当時の指導者が切に願った「四国四県の実力均衡」の夢は、未だ志半ばで我々に引き継がれている。

次に、四国大会の歴代団体優勝校で顕著な成績を残した学校を記しておく。

男子では香川第一中学校（香川）が、昭和63年から平成3年までの4連覇を含む、9回の優勝で歴代1位、同2位は昭和57年から昭和61年までの5連覇を成し遂げた一宮中学校（香川）、同じく2連覇1度を含む玉藻中学校（香川）が5回の優勝を飾っている。男子は上位3校いずれも香川県代表校である。

女子では、前述の昭和55年からの13連覇を含む18回の優勝を果たした香川第一中学校（香川県）がダントツの歴代優勝回数を誇り、平成4年には四国中体連から特別表彰された。次に、6連覇を含む徳島中学校（徳島）の7回、玉藻中学校（香川）の3回が後を追っている。

2. 全国中学校バドミントン大会で活躍する四国勢

女子単で中川冨美子選手（一宮中学校・香川県）が準優勝、同複で平井美代子、田中美幸選手（香川第一中学校・香川）が同じく準優勝、女子団体で香川第一中学校（香川）が第3位に入賞した昭和55年の第10回大会（熊本）が四国勢の初入賞となった。その後、四国勢は香川県や徳島県を中心に全国で大活躍し、団体、個人ともに多くの入賞者を出したが、頁数が制約されているので団体戦の特筆すべき結果だけを紹介する。

男子団体では、地元で開催された第20回大会（坂出）において、香川第一中学校（香川）が初優勝、勝賀中学校（香川）が準優勝し、全国大会決勝で開催県対決を実現した。

第23回大会（大津）～第25回大会（川崎）までは香川第一中学校（香川）が3連覇を達成し、特に第25回大会（川崎）では、玉藻中（香川）が準優勝し2回目の全国大会決勝での同県対決となった。

女子団体では、第16回大会（真岡）～第17回大会（春日井）において香川第一中学校（香川）が全国初優勝から2連覇を達成、第23回大会（大津）では、玉藻中（香川）が初優勝、第25回大会（川崎）～第26回大会（大府）では、香川第一中学校（香川）が2回目の2連覇を達成した。第32回大会（大津）では、太田中学校（香川）が初優勝して香川県勢3校目の全国覇者となったが、準優勝は前年第31回大会（広島）でも準優勝した徳島中学校（徳島）で、四国勢同士の決勝対決となった。第36回大会（徳島）では地元の徳島中学校が念願の初優勝を果たし、第31回大会（広島）から準優勝3回、3位2回と連年の入賞を果たしながら、悔しい想いをしてきた雪辱を晴らした。

また、第25回大会（川崎）では香川第一中学校（香川）が男女アベック優勝の偉業を成し遂げたことも記しておきたい。

3. 終わりに

四国ブロックでは、平成2年に第20回大会（坂出）、平成9年の第27回大会（新居浜）、平成18年の第36回大会（徳島）と合計3回の全国中学校バドミントン大会を開催した。それぞれの大会で四国の温かい人情とおもてなしの心で、各県の選手、監督らをお迎えして日本中体連バドミントン競技の発展に貢献できたことは私たちの誇りである。これからも「四国はひとつ」の精神で、選手の競技力向上とバドミントン界、日本中体連の発展のために頑張っていきたいと思う。



第23回全国中学校バドミントン大会
女子団体優勝

徳島県中学校体育連盟 バドミントン専門部の歩み



八万中学校教諭　大阪　真智子

1．創成期

徳島県中学校体育連盟の専門部にバドミントン競技が加えられることになったのが、昭和38年である。当時の徳島県総合体育大会の参加校数は、徳島市内5校、徳島市外の2校の計7校からの出発であった。

2　発展期　Ⅰ（昭和40年代）

この時期、競技力も向上し、優秀な選手も続々と生まれた。

昭和46年に第1回全国中学校バドミントン大会が開催され、男子チームが3回戦まで勝ち進んだ。

3　発展期　Ⅱ　（昭和50年代）

昭和52年の四国中学校総合体育大会からバドミントン競技の加入が認められ、第1回大会が香川県で開催された。

「香川に追いつけ、追い越せ!」と立ち上がった先生方は並々ならぬ努力を積み重ね、徳島県の中学校バドミントンの競技力向上に全力を尽くした。

4　発展期　Ⅲ（昭和60年代・平成元年～平成12年）

昭和62年から長年にわたって、県内では無敵といわれる徳島中学校女子の黄金時代となる。

まず、徳島中学校の中山佐知子が平成元年、四国大会で香川勢を抑え優勝（女子単）。念願の全国大会（山口市）に出場し、全中大会でも5位入賞を果たすことができた。その後、実業団（ヤマハを経てベスト電器）で活躍した。バドミントンで実業団に就職した選手1号となった。

平成3年、4年の2年間に育った選手たちは城東高校へと進学し、後に徳島県を代表する国体選手として活躍した。

平成9年には、愛媛県新居浜市で全中大会が行われた。

5　充実期　（平成13年～20年）

この時期は、まさにジュニア強化が花を開き、徳島中学校女子団体が四国大会6連覇を果たし、団体・個人ともに各全中大会で華々しい活躍ぶりであった。また、平成18年には徳島市立体育館で全中大会が開催された。結果、団体・個人単の2冠全国制覇という輝かしい結果を残すことができた。

平成13年、徳島県初の全中大会（広島大会）団体準優勝を成し遂げた。また、個人戦では麻植（聖ウルスラ高・立命館大学）・大阪（聖ウルスラ高・現関西学院大学）組（複）の5位入賞が徳島県内を騒がせた。



平成13年度第31回全国中学校バドミントン大会　平成13年8月20日～23日 広島県広島市にて　10-21

平成14年には、またしても全中大会（大津大会）団体準優勝、個人（単）大阪の5位。この年の四国大会は徳島市立体育館で行われ、相生中学校が予選リーグの団体戦で香川・愛媛の強豪校に競り勝つなど、すばらしいチーム力を見せた。個人戦では、井上・小川（新田高校・立命館大学）

組はみごと四国大会個人（複）準優勝という好成績を残した。



0－34 第32回 全国中学校バドミントン大会 2002年8月19～22日 大津市民会館・滋賀県立体育館

平成15年、北海道旭川で行われた全中大会で、3年連続団体戦準優勝という結果を残した。大阪あやが個人（単）で全国優勝を果たし、仁木純子（城東高校・現愛媛大学）・西紗由美（現愛媛大学）の個人（複）は5位入賞と健闘した。



平成15年度第33回全国中学校バドミントン大会 平成15年8月18日～21日 北海道・旭川大雪アリーナ



13 第34回 全国中学校バドミントン大会 平成16年8月22～25日 上浦町民会館・青少年文化体育会館



第36回全国中学校バドミントン大会 H18.8.17～20 於 徳島市立体育

平成20年、インターハイで団体・単・複の3冠という輝かしい徳島県初の快挙を為し得たのは松友美佐紀（聖ウルスラ高校　現日本ユニシス　日本ナショナルチーム）である。

平成18年は徳島市立体育館での全中大会であり集大成であった。徳島中学校女子の選手たちは、みごと団体で全国の頂点に立つことができた。松友が単で圧勝し、神原靖奈（聖ウルスラ高校　現日本福祉大学）・水口愛梨（城東高校　現百十四銀行）組で念願の優勝を決めた。個人でも松友（単）の優勝。（複）神原・水口組は第5位。徳島県2人目の単優勝、団体悲願の全国制覇を果たした。松友はインターハイトップ校の聖ウルスラ学院英智高校に進学し、1年から主力選手となり、数々の大会に常に上位を保ち、活躍している。平成20年度インターハイでは、3冠を達成した。（団体・個人単・複）。平成21年度インターハイでは惜しくも準優勝（個人単）となったが、12月に開催された第63回全日本総合バドミントン選手権大会では、高校生としては6年ぶりに個人単で4強入りを成し遂げた。高校卒業後は、日本ユニシスに入社し、2012年のロンドンオリンピックでは、メダルを獲得することを期待したい。

平成20年には、徳島中学校の藤本陽奈（単）をはじめ、國安涼可・山本桜子（複）、金森望（単）らが四国大会で3冠を果たし、全中大会（福島）に出場。

平成21年には、同じく徳島中学校の、金森望（四国大会優勝（単））、塚本祥子、久田佳奈、金澤加奈、四宮詩織で四国第2代表として全中大会（長崎）に出場。

今後は、更に中学生の育成に携わる熱心な指導者が育ち、バドミントン競技の向上に繋がることを期待したい。

香川県大会の歴史や中体連バドミントン専門部の歩み



香川県中体連バドミントン専門部長　地下　雄二

39回に及ぶ全中大会の中で香川県勢の活躍には特筆すべきものがある。第16回、17回大会での香川第一中学校の女子団体連覇や第20回大会の男子団体における香川第一中学校と勝賀中学校による香川県同士の決勝戦、第23回大会の男子の香川第一中学校と女子の玉藻中学校による香川県勢のアベック優勝、第23回から25回大会での香川第一中学校の男子団体3連覇など団体や個人で香川県は輝かしい実績を残してきている。特に香川第一中学校は、男子団体と女子団体でそれぞれ4回頂点に立っており、学校対抗となった第10回大会から21回連続出場するなど全国にその名をとどろかせた。このように全国で活躍する学校があるからこそ、そのチーム追いつき、追い越すことを目標に熱心な練習を重ねるチームが増えていく中で、香川県のバドミントンレベルは上がっていったと言えよう。

しかし、総体が始まったころの香川県の様子はどうであったのだろうか。県大会の歴史を振り返っていく中で、第1回から第6回までの総体は郡市対抗戦で行われていたことが分かった。昭和35年の記録を見ると、「選手の素質ですが、技術的には向上してきたけれども、量的には少しも普及が見うけられない淋しさが見られた。体育館は続々と建設されつつあるのに、バドミントンがクラブ活動に取り入れられない原因のひとつにシャトルコック（羽根）が高価で傷みやすいことがいえる。何らかの方法で解決したい。」と書かれていた。つまり、指導者も少なかった当時は、なかなか部活動として認めてもらえず練習もあまりできていない状況であることがうかがい知ることができる。そのような状況から、熱心な指導者のもと質・量ともに充実した練習を積み重ねることによって、全国大会でも勝ち上がれるレベルにまで達することができた。



現状はというと、現在も全国大会で活躍する選手はいるが、数年前と違って力のある選手がいろいろな学校に散らばって在籍しているため、学校単位で強化することが難しくなってきている。そこで、どのように競技力の向上を図っていけばよいかを競技部で検討し、多方面からの協力をいただきながら強化を進めている。香川県内のバドミントン部員は現在約1700名が在籍し、学年や競技を始めた年齢の差等によりレベルの差が大きく、小学校からジュニアでバドミントンをしている選手と中学校から部活でバドミントンをはじめた選手とは大きな力の差がある。バドミントン競技部として力のある選手の更なるレベルアップを図るのか、それとも中学校からはじめた選手も含めた全体の選手のレベルアップを図るのかということが問題になっていた。そこで、競技部で話し合った結果、

どちらの強化も大切であると考え、少ない競技部のスタッフではあるが分担して両方の強化練習を行っている。選抜強化練習では、社会人・高校生・中学生・小学生それぞれのトップレベルの選手が集まり合同で練習を行っている。中学生にとっては、社会人や高校生と対戦できたり、レベルの高いプレーを間近で見ることができたりするので、意識や目標を高く持って練習することにつながっていると思われる。指導者もそれぞれの団体から来られているので指導者の交流につながっている。そして、小学生から高校生までの一貫した指導をすることが可能になり、高校での成長ぶりを伺うことができる。また、全中学校を対象とした強化練習は、東讃と西讃の2つのブロックに分け、フットワークやトレーニングなど基本的な練習を中心に行っている。

このようにそれぞれの強化練習では、香川県バドミントン協会の全面的なバックアップ、各高等学校バドミントン部の惜しみない協力、その他多くの関係者のおかげで充実したものができており、深く感謝している。これからもバドミントン王国香川の復活を目指し、競技部がひとつとなって一層の普及と技術の向上を目指したい。

☆　香川県大会の歴代優勝校（団体のみ）

年　度	総体	総体男子団体	総体女子団体	新人	新人男子団体	新人女子団体
S36	1	高松市	善通寺市仲多度郡			
37	2	高松市	善通寺市仲多度郡			
38	3	高松市	善通寺市仲多度郡			
39	4	善通寺市仲多度郡	善通寺市仲多度郡	1	勝　賀	善通寺東
40	5	高松市	善通寺市仲多度郡	2	善通寺西	善通寺東
41	6	善通寺市仲多度郡	善通寺市仲多度郡	3	津　田	善通寺西
42	7	津　田	屋　島	4	勝　賀	
43	8	桜　町	善通寺東	5	勝　賀	
44	9	勝　賀	善通寺東	6	桜　町	詫　間
45	10	勝　賀	詫　間	7	勝　賀	善通寺東
46	11	紫　雲	高　瀬	8	勝　賀	善通寺東
47	12	勝　賀	琴　平	9	山　田	粟　島
48	13	勝　賀	勝　賀	10		善通寺西
49	14	勝　賀	善通寺西	11		勝　賀
50	15	勝　賀	詫　間	12	勝　賀	詫　間
51	16	紫　雲	詫　間	13	男　木	紫　雲
52	17	紫　雲	紫　雲	14	桜　町	桜　町
53	18	桜　町	勝　賀	15	勝　賀	香川第一
54	19	勝　賀	勝　賀	16	一　宮	香川第一
55	20	勝　賀	香川第一	17	一　宮	勝　賀
56	21	勝　賀	香川第一	18	一　宮	香川第一
57	22	一　宮	香川第一	19	一　宮	香川第一
58	23	一　宮	香川第一	20	一　宮	香川第一
59	24	一　宮	香川第一	21	香川第一	香川第一
60	25	一　宮	香川第一	22	勝　賀	香川第一
61	26	一　宮	香川第一	23	一　宮	香川第一
62	27	国分寺	香川第一	24	香川第一	香川第一
63	28	香川第一	香川第一	25	香川第一	香川第一
H元	29	香川第一	香川第一	26	勝　賀	香川第一
2	30	香川第一	香川第一	27	香川第一	香川第一
3	31	香川第一	香川第一	28	香川第一	玉　藻
4	32	玉　藻	香川第一	29	玉　藻	玉　藻
5	33	玉　藻	玉　藻	30	玉　藻	玉　藻
6	34	香川第一	香川第一	31	玉　藻	香川第一
7	35	香川第一	香川第一	32	玉　藻	香川第一
8	36	香川第一	香川第一	33	玉　藻	玉　藻
9	37	玉　藻	香川第一	34	太　田	玉　藻
10	38	玉　藻	玉　藻	35	太　田	香川第一
11	39	太　田	香川第一	36	香川第一	香川第一
12	40	香川第一	香川第一	37	木　太	玉　藻
13	41	木　太	玉　藻	38	玉　藻	太　田
14	42	木　太	太　田	39	綾　南	香川第一
15	43	玉　藻	香川第一	40	香川第一	玉　藻
16	44	玉　藻	玉　藻	41	木　太	桜　町
17	45	玉　藻	桜　町	42	綾　南	木　太
18	46	綾　南	玉　藻	43	木　太	玉　藻
19	47	木　太	木　太	44	玉　藻	三野津
20	48	玉　藻	綾　南	45	香　東	綾　南
21	49	勝　賀	綾　南	46	木　太	玉　藻

※第1～6回の総体は郡市対抗戦で行われていた。
※第4・5回の女子および第11・12回の男子の新人優勝校は記録がないため不明

高知県中体連バドミントン専門部の歩み



高知県中連盟バドミントン専門部長　高知市立南海中学校　永原　潤一

1．黎明期（昭和 52 年～平成元年ころ）

高知県中体連にバドミントン専門部が組織され、高知県中学校総合体育大会で初めてバドミントン競技が開催されたのは、今から 32 年前の昭和 52 年の第 31 回大会だった。

それまでは、高知県バドミントン協会が県総合選手権に中学校の部をつくって中学生を参加させたり、中学校団体選手権大会などを開催して大会実績を残しながら、中体連への加盟を模索していた。そんな中、昭和 52 年に四国中体連にバドミントン専門部が組織される機運が高まり、同年から四国中学校総合体育大会でバドミントン競技が開催されることになった。それに伴い県中体連に加盟し、専門部のあゆみが始まることになった。

第 1 回（バドミントンが初めて開催された昭和 52 年を便宜上こう表記した）四国総体は、愛媛を除く 3 県が参加して香川県で行われ、男子団体で潮江中学校が見事に初代四国中学校チャンピオンに輝くという栄冠を手に入れた。そして、徳島県開催の第 2 回四国総体でも土佐中学校が男子団体で高知県勢 2 連覇という偉業を成し遂げた。



平成 5 年に女子団体で初優勝した清和女子中学校
高知新聞社提供

昭和 52 年当時の県総体の参加校は男女合わせてもわずか 6 校で、土佐中学校体育館で開催される小規模のものだった。この黎明期の専門部を支え、初代専門部長として高知県の中学校バドミントン界を育てていただいたのは、当時愛宕中学校に勤務されていた門田茂穂先生、県総体 13 連覇を含む 19 回優勝を誇った土佐女子中学校監督の門脇道夫先生（2 代目専門部長）である。門田先生が 4 年間、門脇先生が 9 年間専門部長を務められたこの計 13 年間で専門部の基礎が形作られた。

発足後 10 有年を経て、専門部加盟校が徐々に伸び、県総体出場校も男女合わせて 20 校近くに増加した。この頃は、平成元年に高知県で開催された高校総体に向けて、県バドミントン協会を中心に、中学生の選手強化に力を入れていた。その中で、元年総体で男子単ベスト 16 入りを果たした高知西高校の梶原選手（愛宕中出身）や、同年の国体少年男子で 5 位入賞メンバーの大石、橋詰選手（愛宕中）山崎選手（西部中）らが中学校でも活躍した。そして、愛宕中学校は公立で初の県総体連覇という輝かしい成績を収めた。

2．発展期（平成 2 年～平成 10 年ころ）

専門部長として、門脇先生の後を継がれた川添雅代先生（3 代目専門部長）は、土佐女子高時代に四国高校選手権で同校の完全制覇に貢献し、小村　彰先生（4 代目専門部長）は土佐中学校で第 2 回四国総体団体優勝のメンバーだったよう

に、平成に入るころを前後して、徐々にバドミントン競技で活躍した選手が指導者になってくる。

また、5代目専門部長を務めた永原潤一（当時城西中）や岡村力先生（7代目の専門部長）のように、専門でないが熱心な指導者が増え、後に県総体女子団体で5回優勝を成し遂げた清和女子中学校の須賀誠先生や同男子団体で小川中学校を率いて初優勝し、吾北中学校で3連覇を成し遂げ計4回の優勝を飾った小島義雄先生など専門外でも優秀な成績を残す指導者が出てきた。

その上、先述した橋詰選手（愛宕中出身）や昭和60年の県総体で男子単を制した川添周三先生（介良中出身・6代目専門部長）らが、教員となって地元へ帰ってくるなど指導者が充実していった。

平成2年には女子団体で清和女子中が土佐女子中の14連覇を阻んで初優勝、平成4年には一宮中学校が男子団体で公立3校目の栄冠を手にするなど、男女とも混戦模様となった。それまでは、私立の土佐、高知学芸、土佐女子といった限られた学校しか優勝できなかったことを考えると、競技人口の拡大と指導者の充実が県全体の競技レベルアップにつながることになった。

3. 飛躍期（平成10年～現在）

この頃から、ジュニア（小学生）からバドミントンを経験し、中学校進学後も活躍する選手が増加した。これは、平成14年に開催された高知国体へ向けて県バドミントン協会がジュニア育成に力を注いだ成果でもあったが、県内各地に熱心なジュニア指導が増えたことも要因である。このような中、ジュニアから育ってきた選手が、四国や全国で活躍するようになってきた。四国総体においても、平成10年には浜渦・小川選手（田野中）が女子複で優勝、平成12年には、影山・松田選手（土佐女子）が女子複で準優勝、平成15年には川崎・田内選手（伊野南中）が男子複で準優勝、平成18年には岡村選手（春野中）が男子単で準優勝、矢部選手（城西中）が女子単で3位入賞し、平成21年には森岡選手（春野中）が女子単で準優勝したように、全中に出場できる選手が増えてきた。



平成15年に女子団体で初優勝した城西中学校

高知新聞社提供

全国大会でも、平成14年開催の高知国体では、ジュニア・中学校からの選手強化が身を結んで今橋選手（清和女子中出身）、松田選手（土佐女子中出身）らを中心とした少年女子の部が5位入賞という輝かしい成績を収めたのを始め、平成18年には、前述の岡村（春野中）・矢部選手（城西中）らを中心とした高知県代表チームが第7回全日本中学校都道府県バドミントン選手権大会でベスト16へ進出した。また、全中でも平成15年に川崎・田内選手（伊野南中）が男子複でベスト16、翌々年の平成18年には岡村選手（春野中）が男子単でベスト16など、徐々に全国大会で活躍できる選手が生まれつつある。

4. まとめ

32年間の歴史を振り返ると、四国総体2連覇の輝かしい栄冠でスタートした県勢の競技成績は、近年向上してきたとは言えまだまだ低迷している。これからの目標は、団体戦での高知県勢四国制覇である。男子はすでに30年間遠退いているし、女子は未だ一度も栄冠に手が届いていない。

この目標を達成するには、一層の指導者の努力だけでなく、専門部としての支援が不可欠である。これからも県全体で力を合わせて、近いうちに目標を達成すると決意を記して筆を置く。

『世界に翔ばたく選手の育成』を合言葉に！

愛媛県中体連バドミントン専門部　委員長　坂本　利夫

1　バドミントン専門部の歩み

愛媛県に中体連バドミントン専門部が発足したのは昭和58年度で、今年でやっと27年目が過ぎようとしている。初めて全中に出場したのは、平成元年の山口大会であり、それまでに6年の歳月が流れている。平成元年は、それまでマイナーなイメージが強かった県内バドミントン専門部にとっても、まさに新しい時代の幕明けであった。それ以後、ほぼ毎年のように全中に選手を送り込んではいるが、なかなか結果が出せないでいる。

昭和58年に専門部が発足した当時から、隣には既に全中大会常連で実績をあげている香川県がいた。平成2年度の坂出大会や平成5年度の大津大会・平成7年度の川崎大会と香川県勢同士が国体決勝を競うなど、常に全中大会上位に顔を出していた。四国大会を勝ち抜くことの難しさを実感し、何度も悔しい思いをしたものである。「香川県に追いつき、追い越せ。」がいつしか口癖のようになっていた。

しかし、当初は赤子と大人程あったかと思える実力差も、関係各位の努力もあって少しずつではあるが確実に縮まってきたように思う。近年力をつけてきた徳島県や高知県とともに、「四国は一つ。」と言えるようになってきたことがその象徴ではないだろうか。

2　選手強化に向けた取組

愛媛県協会の尽力もあって、中学生主体の大会が充実してきている。4月の中学生団体大会



を皮切りに、夏休み中の全日本ジュニア予選や1月の都道府県対抗予選・12月の学年別ランク別大会があり、2月には県内中学生選手権大会も実施している。それ以外にも、社会人とともに出られる大会があり、各市協会においても中学生が参加できる大会について配慮をいただいている。

また、中体連以外の小学生連盟や高体連・社会人の枠を取り払い、それぞれのトップ選手を集めた強化練習会を計画して定期的に実施している。小学生の相手を中･高生が行ったり、中･高生のスパーリングパートナーを大学生や社会人が引き受けたりして、縦のつながりを保つとともに互いの良い刺激となっている。

中体連としては、四国4県が持ち回りで冬休み前後に合同練習会を実施して技能を高め合っている。また、丸亀オープンや徳島オープン・新居浜オープン等に互いに参加し合って競うとともに、四国以外の近年の有力チームとの交流にも努めている。県内においても上位クラスの選抜選手を土日を利用して集めている。日常の

チーム練習とは異なる刺激を定期的に与えることによって向上心を維持させている。

3　愛媛県出身の有力選手

中学生時代を愛媛県で過ごし、バドミントンの基礎を学び、バドミントンの面白さと素晴らしさに触れた選手は数え切れない。高校・大学とプレーヤーを続け、社会人となった今でもシャトルに親しむ者は多いだろう。

その中でも、全中やインハイ・インカレ等を経由し、現在も日本リーグで活躍している６名の選手を紹介しておきたい。（敬称略）

＜男子＞
○山田　和司　（日本ユニシス）
○早埼　修平　（日立情報通信エンジニアリング）
＜女子＞
○関谷　真由　（三洋電機）
○井上　春奈　（七十七銀行　H22 年度入社予定）
○合田　侑希　（北都銀行）
○安藤　朋恵　（百十四銀行）

中体連においても、平成９年度の新居浜大会を１つの区切りとして、更なる向上を追求している。上記の６選手は、いずれも新居浜大会以後の充実しつつある環境の中で育っていったともいえる。そしてまた、彼らの存在が現在の中学生達の大きな励みであり、目標ともなっている。

ただ、中学校現場においては部活動の指導者不足という厳しい現実がある。バドミントンに関しては尚更であり、専門的な指導のできる教員は限られている。また、小学生の時からラケットを持っていった者と、中学生になってから始めた者との差は顕著で、３年間では埋め難いものがある。そのため、やる気をもって始めた者が意気消沈してしまう例も少なくない。

これらの課題を解決するために、指導者の養成と技術の向上が必要である。そしてランク別の大会や練習会の機会を増やし、きめ細やかな指導で選手に対処していくことが肝要となる。

決して単調な道ではなく速い歩みではない。一歩一歩踏みしめて、着実に前進するような地道な活動を続けていきたい。愛媛から世界に羽ばたく選手が現われる日がそう遠くはないということを信じて･･･。

4　取組の成果と今後の課題

小学生連盟やクラブチームの充実もあって、年々バドミントン人口は増加しており、その裾野も確実に広がってきている。また、平成 28 年度の愛媛国体を目指してスポーツ振興に向けた県民の注目も集まってきている。県協会サイドでも、全日本シニアや全小大会を積極的に開催したり、日本リーグを誘致してレベルの高いプレーを観戦できる機会を設けたりして、意識を高めている。



「夢求め！四国で輝く風となれ！」徳島大会



元四国ブロック長　元徳島県専門部委員長　生田　泰之

「バドミントンって楽しいなあ！」社会人になり趣味で始めたバドミントン。ある日「全中（徳島大会）開催が決まりました。頼みます。」「えー、誰が！まさか！ありゃー！」と心の叫び。今でも、その当時の驚きは私の脳裏に焼きついている。徳島県専門部委員長としても力量不足な私は、さらに四国ブロック長の委嘱を受け、業務につくこととなった。初めて参加した全中北海道大会につづいて茨城大会。役員と同時に視察を兼ねていたにもかかわらず、私の認識不足のため十分に情報を得られないまま終わってしまった。そして、岐阜大会。この大会が最後の視察チャンス。何とか視察人数をそろえ、業務内容を分担して現地へ。みんなが初めての役割に戸惑う。そんな時、不安を軽減させてくれたのが競技部長の小野先生や、日本各地から来られた各ブロック長の皆さん。無知な私たちに心優しく接し、的確なアドバイスをくださった。おかげさまで視察業務も楽しく念入りに取り組めた。そして、いよいよ本格的に準備が始まった。本県では、協会の西野会長をはじめ、郡市の専門部委員長の皆様などに多大なご協力をいただきながら、大会役員の協力依頼、業務必携の作成、競技会場の使用方法など、工夫に工夫を重ね取り組んでいった。そんな時、本県からの全中出場校、出場選手が決定した。このことも一層やる気を引き立たす大きな要因になった。地元開催の本大会で、日本の頂点を目指し、今年こそはと日夜バドミントンに打ち込んできた選手、コーチ、監督の皆さんの努力を知っていたからで、奮闘を期待せずにはいられなかった。そうしてなんとか当日を迎え、開式通告、選手入場、ファンファーレ、開会宣言と開会式が進行していった。そして、強豪揃いの熱い戦いが始まった。特にうれしかったのは、見事本県選手団の全国制覇が実現したことである。「やったー」「ついにやったぞー」。本県すべての関係者が全身に鳥肌を立て、言葉に表せないほどの感動を覚えた瞬間であった。すべての競技が終了し、閉会式へと向かう。本当に、素晴らしい記念すべき大会にすることができたとみんなで喜んだ。閉会式が終わり、何人もの人が握手をしてくれた。「お疲れさん！」私にとっては何よりもうれしい言葉であった。十分に役目を果たせたかどうかわからないが、無事に大会を終えられたのは、県内外のいろいろな人たちの支えがあったからこそだと感謝している。特に、単優勝の松友選手には世界に飛躍し、ますますの活躍を期待したい。終わりになりましたが、本大会の開催にあたり、多大のご支援、ご協力をいただいた皆様方にもう一度深く感謝申しあげます。

全中男子シングルス　優勝へのチャレンジ
2002年早崎修平選手のピリオダイゼーション

愛媛県新居浜市立中萩中学校　西原　隆

平成14年度第32回全国中学校大会（滋賀大会）男子シングルスで、本県の早崎修平選手が準優勝という記録を残した。これは、他の有力都道府県から見れば取るに足らない戦績であろう。しかし、当時中体連バドミントン専門部が四国内で最も遅れて始まり、現在でも県下に十数校しかない本県勢としては大きな成果であり、周囲に大きな勇気を与えた出来事であった。

ここでは、早崎選手の支援指導に当たっていた立場から当時の取組や今後の課題を探りたい。

特に早崎選手の中学2年生・2001年9月から全国大会の2002年8月までの一年間の取組をトレーニングの期分け（ピリオダイゼーション）から振り返る。

1　2001年12月～2002年2月　一般的準備期

①　スライスド・ショットの習得
②　リアコート・フォアコート局面の技術向上
③　上記の技術のパターン、ノック練習
④　フットワーク、ステップ等20～30分

①は、シャトルへのコンタクト時にスライスをかけることを重視した。これは、現在世界ランカーのヒッティングにおいて多くの場面でスライスがかけられていることに注目。

今後、この技術が神経系の発達の著しい時期に習得されていなければ、世界で戦える選手になり得ないと判断し実施した。

②については、ネット周辺での攻防が現在男子シングルスの主流となっており、高いデセプション技術の習得が必須事項となっている。このことを鑑み実施した。

2　2002年3月～4月　専門準備期

①　スライスド・ショットの習得
②　クロスリターン技術の向上
③　デセプション技術の向上
④　デセプション技術向上を図るパターン練習
⑤　技術課題を持った簡易練習
⑥　ジャンピングロープ（二重跳び）100×5セット
⑦　フットワーク、ステップ等20～30分

②は一般的準備期を受け、よりコート全体の幅を利用するためクロス打球の練習に注力した。また、この時期に③、④を実施することでラリーの中で有効なデセプションが行えることを目指した。また、この技術が試合で生かせるよう、早崎選手とも相談し具体的な課題を持って簡易練習を行った。

3　2002年5月～6月　前試合期

①　ヘアピン等フォアコートでの技術向上
②　ハイバックハンドの技術向上
③　デセプション技術向上を図るパターン練習
④　2対1等でのスピード向上
⑤　戦術的な課題を持ったゲーム、マッチ
⑥　ノックでのスピード持久力向上20球×10セット
⑦　W（ワーク）20秒　R（休息）10秒ノック×6～10セット

②のハイバックについては、この時期技術的に未熟な状態であったため、リアコート奥からスライスショットも可能な技術習得を目指した。また、戦術的及びスピード向上を図るため④の練習比率をかなり多くした。

他には、ノックにおいての技術向上を受け、スピード持久力向上をめざし⑥、⑦を実施した。特に⑦は水泳競技のデータを生かし、耐乳酸性・ＡＴ値の向上を目指した。

4　2002年7月～8月　試合期

①　ヘアピン等フォアコートでの技術向上
②　戦術的な課題を持ったゲーム、マッチ
③　4～5マッチの実施
④　2対1等でのスピード向上と維持
⑤　ノックでのスピード持久力向上20球×15セット
⑥　W（ワーク）20秒　R（休息）10秒ノック×8～12セット

目標であった、全中男子シングルス優勝を目指しピーキングを行った。特にフォアコートでの技術が他選手より優れていたため、より優位さを得るためスピン系のヘアピン習得を図った。また、早崎選手自身が明確な戦術を持ってマッチを遂行できるよう常にミーティングを心がけた。フィジカル面では前試合期を受け⑤、⑥を更に漸進性の原則のもと強度をアップした。

後に早崎選手は⑦が非常にきつかったと述懐している。

5　今後の課題

全中の結果は、準優勝であった。課題としては、常時充分なスパーリング相手が用意できなかったこと。テスト等で期分けの形成が困難さを生じたこと等があげられる。

最近、早崎選手に「当時の取組で最もよかったことは？」との問いかけに、「それぞれの局面でのショットの出し方、選択の考え方、発想方法を学べれたこと」とのことであった。タウヒック・ヒダヤット選手に憧れを持ち世界を目指したことも大きな動機づけであったと思われる。

2010年度ナショナルＡ入りをした早崎選手の今後の活躍を祈念し、今後の選手育成の参考と課題として、更なる精進を重ねたい。

第 33 回北海道旭川大会



高知県立高知南中学校　岡村　力

飛行機を乗り継ぎ慣れない県外への移動中、上空から見た北海道旭川の広大な風景に感動を覚えたことを 20 年近く経った今でも鮮明に記憶に残っています。

広大な風景に感動をすると共に「よくここまで来れたなぁ･･･」という思いも強くあったことを覚えています。当時の四国ブロックは香川県勢全盛の時代で男子単 1 位代表には現ユニシス監督中西選手もおり、全中団体決勝も同然のごとく香川県勢同士の争いになりました。現在ではジュニアの育成が進んできた高知県も当時はごく限られたチームのみの活動でした。前田選手も小学校時代の競技経験はなく、いわゆる“初心者”からの入部でした。

彼が入部してきたときの南海中学校バドミントン部は創部 2 年目でありながらもすでに県内では男子では団体、単複のタイトルは全て取れるレベルにはありました。創部一年目の 1 年生の選手が当時の高知県では珍しい“ジュニア経験者”であったことと素晴らしい運動能力に恵まれた選手が多かった事。そして、競技者としては、バドミントン経験はありましたがいわゆる“バドミントン愛好者”的なレベルで指導者としては未経験な私でしたが、当時高知県高体連専門委員長であり高知県立高知西校等学校バドミントン部顧問の谷岡敏男先生（現高知県バドミントン協会副会長）と合同練習をしていただき、インターハイ、国体でベスト 8 での入賞の手腕を持つ谷岡先生の練習を見せていただき、様々な助言を頂き、その後忠実にその練習を続けて創部 1 年目から花開いた状態での 2 年目の入部でした。初心者の前田選手でしたが、県内上位を占めている上級生との厳しい練習、まじめな性格、そして恵まれた身体能力で一気にその素質を開花させ、2 年生の秋の大会からは単複共に県内 NO1 選手に成長してくれました。

そして中学 3 年生の県総体で優勝をし、四国ブロック予選を抜けて全中出場となりました。

「個人シングルス単出場南海中学校 3 年生前田誠一」書いてしまえばそれまでですが高知県勢としては男子では二人目の全中出場。しかも当時の激戦の四国ブロック予選を抜けての出場となれば否が応でも期待は高まっていました。先に行われる団体戦を見学しながら、「あの選手はすごい！」「あの選手なら勝てるな！」と話しながら気持ちを高めていき迎えた個人単での初戦。「勝ち負けにこだわらず一点でも多く点を取ろう！それも無理なら一回でも多くラリーをしよう！とにかくぶつかっていこう！」とハッパをかけて試合に向かいました。声を出し、必死にラリーを続ける前田選手でしたが、開会式でのあいさつのひと言「選手のみなさん、激戦のブロック予選を突破してこの場に来れた事に敬意を表します」が頭をよぎりました。まさにその通りで相手の選手も同様にブロック予選を突破してきた選手です。前田選手の調子は決して悪くないがどうしても取れないショット、普段なら決まる場面の羽が相手に取られていく場面が徐々に増えていき無念のストレート負けでした。敗戦は残念のひと言に尽きますがその出場、そのがんばりは当時四国他県に大きく出遅れていた高知県勢の励みとなり近年の活躍に繋がりました。第 33 回北海道旭川大会は私にとって思い出でもありますが今も活力の原動力となっております。



（写真は会場前で撮影しました）

団体女子初優勝男子準優勝 アベック優勝逃す



高松市立玉藻中学校　校長　鈴木　俊彦

これが、平成５年度、滋賀県大津市で行われた全国中学校体育大会バドミントン競技における玉藻中の成績でした。男子優勝も同県勢であり当時の香川県中学校バドミントンのレベルの高さが伺えるものでした。本校にとってはこのことは一概にビギナーズラックではなく、この大会を前後し20年連続全中大会出場という実力校となっていった記念すべき大会でした。この大会以来、15年ぶりに奇遇にも玉藻中学校に校長として赴任したことを機会に、私が関係した当時の六年間を振り返ってみたいと思います。

当時の私は､中体連の事務局を担当しており、理事長として仕事をこなしていく中で、立場上自分の顧問するバドミントン部を、ある程度県内運動部活動のモデルとして育てようとしました。その中での最初の取り組みはジュニアクラブとの連携でした。当時は校内に部外者が入ることの混乱への懸念と、クラブチームの勝利至上主義への反発もありましたが、県内の小学生バドミントンクラブを統括する組織の会長をする方が玉藻中学校の校区のチームのコーチをしていただいていたこともあり、学校とクラブがうまく役割分担できたことが全中制覇の一番の要因であったと思っています。

平成５年に東四国国体が開催されたことも追い風となりました。県外遠征や、強化練習、県外チームを招聘した大会などが、県から補助をいただいて比較的保護者の負担が少なく実施することができました。香川県選抜チームを編成し、全中までには全国の有力選手と一度は対戦しようと、関東・北陸・九州等に遠征し、５月の連休には坂出ジュニアオープン（現在は丸亀市で開催）を開催しました。さらに、平成５年度インターハイで優勝した高松商業高校男子が全中直前の強化合宿で相手をしてくれました。この合宿でインターハイチャンピオンから１セットを取れたことがずいぶん生徒には自信になったと思っています。また、全中１週間前にエアコンもない体育館のステージで寝て、高校生や一般の選手に朝から晩まで相手をしてもらい、極限まで追い込む合宿を実施したのもこの頃からです。

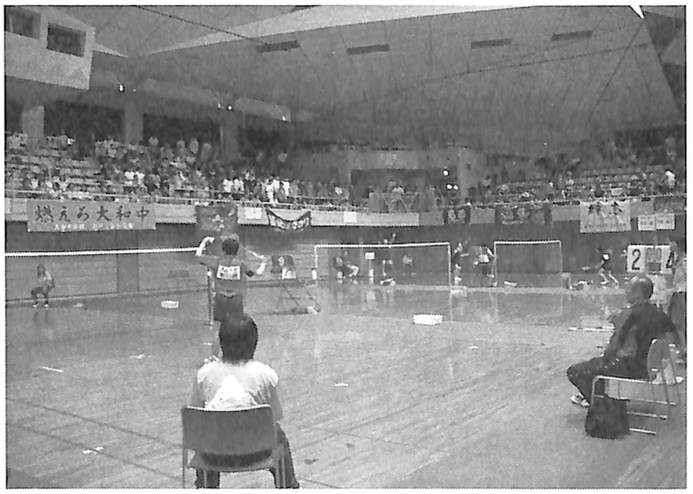
私はバドミントンは素人でしたが、多くの人たちを組織として子どもたちの指導に当たってもらう、そのコーディネーターとしては当時の中体連の経験が生かせたと思っています。今、香川県中学校バドミントンは四国の他県と拮抗しています。何とか往年の力を復活させたいと考えています。そのためにも様々なノウハウが結集できたらと考えています。





九州ブロック




燃える大和中



九州中学校体育連盟
バドミントン競技の歩み



九州中学校体育連盟バドミントン競技専門委員長　片岡　直茂

全国中学校バドミントン大会が第40回の記念大会を開催することに、九州ブロックを代表してお祝いの言葉を申し上げたいと思います。今までの長きにわたり、バドミントン競技の発展とジュニア層の育成にご尽力いただいた諸先輩方、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

九州ブロックとバドミントン競技のつながりを見たときに、どうしても避けて通れないこととして、やはりオリンピック選手の輩出が上げられます。1992年のバルセロナオリンピックで正式種目として採用された時から、熊本県出身の本山秀昭さん、陣内貴美子さん、松尾知美さんらが出場し活躍されました。記憶に新しいところでは、2008年の北京オリンピックでは、実に出場10名中5名の九州出身選手が日本代表として活躍してくれました。特にスエマエこと、末綱（大分県）・前田（鹿児島県）ペアはベスト4進出、大東選手（長崎県）は舛田選手とのペアで、潮田選手（福岡県）は小椋選手とのペアで、いずれもベスト8に入賞するという素晴らしい結果を残しています。2年後に控えているロンドンオリンピックに向けては、イケシオこと池田選手と潮田選手はいずれも福岡県出身で、出場を目指して現在活躍中です。今後も、素晴らしい先輩方に追いつけ追い越せで、九州からオリンピック選手が出てくることを期待しているところです。

次に、九州出身選手の全国中学校バドミントン大会における軌跡を見ようと思います。初めて九州勢が本大会において上位進出したのは、第4回大会においての熊本県女子チームでした。それから学校対抗になる前の第9回大会までの間に熊本県は男子優勝3回準優勝1回、女子優勝4回準優勝1回のすばらしい成績を収めました。その後、学校対抗戦と個人戦という現在の大会方式に変わった直後の第10回大会においても、女子においては全種目において優勝、男子はダブルスで熊本県勢が決勝で顔を合わせるという好成績でした。熊本県勢は、以降も全国大会で上位進出を何度も重ね、「強い九州」の礎をつくってくれました。

熊本県勢以外の活躍としては、第18回大会の男子シングルスにおいて福岡県岡垣中の満石選手の優勝。第20回大会では男子ダブルスにおいて佐賀県山内中の樋渡･多久島ペアが優勝。第23回大会の男子シングルスにおいて長崎県大浦中の大東忠選手が優勝を飾りました。その後も、第25回大会男子シングルス優勝、大東真也選手、同じく女子シングルス優勝の松尾美穂子選手。第27回大会女子シングルス優勝の松田友美選手。第28回大会男子シングルス優勝の佐村正和選手。同じく女子シングルス優勝の潮田玲子選手。第29回大会では男子団体において岡垣中が優勝と熊本県勢以外でも「強い九州」という印象が感じられた。九州勢としては第32回大会で女子シングルス優勝の藤井選手を最後に九州勢の優勝はないという状況である。

現在では各県でいろいろな強化策がたてられ実行されている。九州の中学生では、2月に各県の選抜チームが集まり九州中学生オープンが行われ、3月の全日本中学生の前に良き腕試しの場となっている。今年度は長崎県島原市での

開催を予定している。

実は私も幼いころから父親の影響でバドミントンを始めた。厳しい父の教えに何度もやめようと思ったこともあったが、大会で活躍する選手や強い父の姿に憧れ強くなりたいと思うようになった。小学校では九州大会で優勝することができたが全国大会までは行われていなかったと記憶している。中学校で初めて全国大会があるので楽しみでしかたなかった。毎日学校の部活動と、父の社会体育のクラブチームで練習していた。2年生と3年生で2度全中に出場することができた。全中優勝が目標だったが最後は2位で終わった。全国中学校大会というのは私の中では小さい頃の良き思い出となっている。全国大会を夢みていたからこそ頑張れたとも感じている。教職に就き、今度は監督として2度引率することができた。そして長崎全中では運営の事務局長として務めさせていただいた。憧れての全国大会を様々な角度から経験することができ運命的なものを感じた。これからもこの大会は多くのジュニア選手たちの目標として多くのジュニア層に夢を与える場であってほしいと願う。また、九州の選手たちの活躍に期待したい。

福岡県中体連バドミントン競技部の歩み



福岡県専門部委員長　坂本　哲

全国中学校バドミントン大会開催40周年おめでとうございます。40年という長い歴史の中、諸先輩方の努力のおかげで今日の全国中学校バドミントン大会があることに深く敬意を表します。

さて、福岡県の県中学生大会は、1971（昭和46）年8月の日本バドミントン協会主催第1回全国中学生大会を受けて、その翌年の1972年に県協会主催で始まりました。同年、第1回九州中学生大会も長崎県で開催され、第2回全国中学生大会とともに、福岡県からも選抜チームで選手団を派遣しました。その後、県中学生大会は県協会主催で10年間続きましたが、1980（昭和55）年から県中体連の正式種目として採用され、中学校大会になりました。同時に、九州・全国大会も中体連主催に変更され、この年から選抜チームではなく、単独校出場となりました。この間の、県協会主催の10年間と中体連主催へ移行後の12年間の計22年間、県大会開催に尽力され、福岡県中体連バドミントン専門部の礎をつくった初代専門部長 村尾 隆先生の功績は非常に大きなものでした。

県全体で男女あわせて150人ぐらいの参加しかなかった福岡県の第1回大会でしたが、現在、登録生徒数は、男子1056名、女子2526名にまで増加しています。学校数も、今年度は、男子112校、女子149校になりました。県大会も第8回大会までは、地区大会を行わず、即県大会でしたが、その後は、生徒数・学校数の増加に伴い、福岡県を、福岡市・北九州市・筑後・筑豊・京築・筑前の6地区に分け、地区大会を開き、その大会の上位の学校・個人（福岡市・北九州市・筑後は4、筑豊・筑前は3、京築は2の合計20チーム）を地区の代表として、県大会を開催するようになりました。現在では、京築を除き、地区大会ベスト4（京築は2位まで）を地区代表として、各地区からの合計22校の代表を集め、県大会を行っています。種目も、第1回大会から第8回大会までは、男子シングルス、男子ダブルス、女子シングルス、女子ダブルスの4種目でした。県代表選手団も、県大会のシングルスの優勝者と準優勝者、ダブルスの優勝ペアで福岡県の代表選手団を編成していました。第9回大会からは、これに男子団体、女子団体



の２種目が加わり、６種目で大会を開催するようになり、県大会上位の学校・個人が九州大会や全国大会に参加するようになりました。

ここで、本県代表の戦績ですが、全国大会での団体戦入賞は、男子で第４回県選抜チーム（３位）、第29回岡垣中（優勝）、第30回岡垣中（３位）、第35回高須中（準優勝）の４回、女子で第17回岡垣中（３位）、第39回九州国際大学付属中（３位）の２回です。また、シングルスでの入賞は、北京オリンピックのときは女子ダブルスで「オグシオ」、現在はミックスダブルスで「イケシオ」の愛称でお馴染みの潮田 玲子（新津中・第28回）と満石　忠博（岡垣中・第18回）の２回の優勝を含め、準優勝３回、３位３回の計７回です。ダブルスの入賞は、準優勝１回、３位３回の計４回です。戦績を見ると、前半の低迷期に比べ、第20回大会以降の入賞が明らかに多くなっています。この傾向は九州大会でも顕著です。例えば、九州大会男子団体優勝は、ここ12年間で７回の優勝を飾っていますが、それ以前は２回しかありません。特に、ここ２・３年は、福岡県同士の決勝戦というのが、必ず何かの種目かで見られるようになりました。また、第31回九州大会では、男子シングルスでベスト４を福岡県が独占したことも記憶に鮮烈に残っています。今後も、中高一貫で指導を行っている九州国際大学付属中学校を中心に、各校でしのぎを削り、更なる競技力の向上を期待しているところです。

ところで、バドミントン競技では、この10年間に中体連大会で２度の大きな変革がありました。１つは平成12年度からシャトルがナイロン球から水鳥球に変更されたことです。これについては、福岡県では、「水鳥球にすると、費用がかさみ、登録校の減少につながるのではないか。現在活動している学校での活動も費用の面から制限される。今はトップの育成というより、まだ裾野を広げる時期ではないか。」という意見が多数を占めていました。福岡県の意向とは反対の方向で水鳥球の導入が決まりましたが、各校の工夫と努力で、県全体としては、登録校の減少もなく、乗り切ることができました。もう１つは平成19年度からのラリーポイント制の導入です。この導入は、バドミントンの試合の展開そのものを大きく変える大変大きな変革でした。ミスが多い選手は勝ち上がれなくなり、１球に対する精神的プレッシャーも増します。技術面とともに、メンタル面の強化が更に必要になったわけです。県中体連専門部としても、毎年１回の指導者講習会を、２回に増やし、ゲームの進行の仕方やルールの変更点、部活に於ける指導上の留意点など、現場の顧問の先生に周知徹底できるように対応していきました。



最後に、福岡県専門部として、大きな２つの課題があります。第一に、バドミントン専門の顧問の先生が県全体としても少ないという指導者不足の問題です。外部指導者の問題も含めて、日々の子供たちの活動が少しでも充実したものになるように、克服していきたい課題です。また、福岡県は小学校からバドミントンが盛んなので、地域のジュニアチームと部活動をどのように連携させていくか、選手のマナー面の指導も含めて、大きな課題が残されています。他の面でも、専門部の課題はまだまだ多くありますが、１つ１つ解決し、日々の部活動と福岡県の中体連大会が今後、更に充実できますよう、専門部長として、精一杯の努力をしていきたいと思います。

祝　全国中学校バドミントン大会開催40周年



佐賀県中体連バドミントン専門部委員長　中野　勝則

全国中学校バドミントン大会の開催40周年、誠におめでとうございます。

本誌編集の過程で、長年にわたってバドミントン競技に携る関係者のお話を伺い、いろいろな資料に目を通す機会を得ましたが、関係者の皆様のご苦労はいかばかりかと拝察申し上げます。

佐賀県中体連バドミントン競技が昭和55年に競技種目となり、同年には「第9回九州中学校バドミントン大会」が佐賀県で開催され、この年から佐賀県中学校体育連盟バドミントン専門部が発足しました。それ以前は、佐賀県バドミントン協会主催の大会で社会体育として運営されていました。

佐賀県のバドミントン競技人口も最初のころは多くはありませんでしたが、近年では増加しております。このことは、中体連関係者はもとより、佐賀県バドミントン協会をはじめ高体連バドミントン競技、選手の皆様等のご尽力の賜物であり、バドミントン競技にかける情熱と郷土愛に心より敬意を表するものであります。

昭和61年度藤津郡嬉野町での開催が「第7回佐賀県中体連バドミントン大会」であり、これまでの各大会は、佐賀県中体連・中体連バドミントン専門部・佐賀県バドミントン協会・市郡バドミントン協会などの協力と援助で大会は運営されてきています。また、佐賀県バドミントン協会では、佐賀県中学生の競技力向上を目指して、昭和53年度から「第7回九州中学生バドミントン大会」から佐賀県中学生選抜チームと個人を出場させ、競技力の向上に努めてきました。さらに、より一層の競技力向上を目指し、昭和59年度からは中学生バドミントン競技新人大会が、昭和60年度からは中学校生徒バドミントン競技学年別大会が、県協会の主催で開催されるようになりました。と同時に、小学校・中学校から高校まで一貫した競技力向上を目指し、小・中学生合同のジュニア選手権も昭和60年度より始まりました。

最近の九州大会では、平成20年度男子団体3位（大和中）男子シングルス3位（大和中）女子団体3位（肥前中）、平成21年度男子団体優勝（七山中）女子ダブルス準優勝（肥前中）という成果を挙げています。そして、県内の各種大会においても、中学生の競技力が向上してきています。これも、佐賀県バドミントン協会等の皆様のご協力の成果だと思い、心より感謝しています。

私が、最近よく感じることは、バドミントン競技を通して、素晴らしい方々と出会えたことで多くのことを得ることができて本当に良かったということです。中学生にも、素晴らしい友達や指導者と出会って、自らを向上させて欲しいと思っています。そしてその出会いを通じて素晴らしい中学生をめざして欲しいものです。

今後、佐賀県中体連バドミントン競技専門部は、佐賀県バドミントン協会や教育関係機関のご協力とご援助を仰ぎながら、指導普及と育成に努めるとともに、競技力の向上にもより一層、力を入れていきたいと思います。

佐賀県中体連バドミントン競技専門部（役員）

		専門委員長	所　属	協会中学部会長	協会中学部事務局
1980	S55	春野　壇	昭栄中	雪竹美善	雪竹美善
1981	S56	藤瀬豊彦	牛津中	〃	〃
1982	S57	江上義人	川副中	〃	〃
1983	S58	〃	〃	〃	〃
1984	S59	栗原平八	牛津中	〃	〃
1985	S60	江上義人	川副中	〃	〃
1986	S61	小柳一郎	鳥栖中	〃	〃
1987	S62	〃	〃	〃	〃
1988	S63	元村久美子	牛津中	〃	〃
1989	H1	吉田俊明	山内中	〃	〃
1990	H2	〃	〃	〃	〃
1991	H3	〃	〃	〃	〃
1992	H4	〃	〃	〃	〃
1993	H5	〃	〃	〃	〃
1994	H6	大島茂人	鳥栖中	〃	〃
1995	H7	井手久美子	大和中	〃	〃
1996	H8	森　昭彦	加唐中	〃	〃
1997	H9	岩上佳保里	昭栄中	〃	〃
1998	H10	中原貴博	大和中	〃	〃
1999	H11	山口浩二	高島中	〃	〃
2000	H12	〃	〃	〃	〃
2001	H13	坂井信雄	唐津一中	〃	〃
2002	H14	〃	〃	〃	〃
2003	H15	鍋島元春	大和中	〃	鍋島元春
2004	H16	〃	〃	〃	〃
2005	H17	〃	〃	〃	〃
2006	H18	〃	〃	〃	〃
2007	H19	〃	〃	〃	〃
2008	H20	〃	〃	〃	〃
2009	H21	中野勝則	武雄青陵中	〃	〃（教育センター）

栄光の記録

		九州大会	全　中	全中出場（数値は九州大会順位）	全中結果（3位以内）
1999	H11	長崎	福井	七山中（男子団②）	
2000	H12	佐賀	熊本	七山中（男子D①）	
2001	H13	沖縄	広島		
2002	H14	福岡（北九州）	滋賀	七山中（男子団③D③）	
2003	H15	大分（別府）	北海道（旭川）	鍋島中（男子S③）、成章中（男子S①）	
2004	H16	鹿児島（吹上）	茨城（土浦）	成章中（男子S②）、唐一中（男子団②D①）	武下利一③（成章中）
2005	H17	熊本	岐阜	唐一中（男子S①）、有浦中（女子S②）	
2006	H18	宮崎	徳島	唐一中（男子S③）、七山中（男子D②）、唐五中（女子S③）	
2007	H19	長崎（佐世保）	福島（須賀川）	大和中（男子団③）、唐五中（女子S②）、肥前中（女子D③）	
2008	H20	佐賀	福井	大和中（男子団③S③）、肥前中（女子団③）	
2009	H21	沖縄	長崎	七山中（男子団①）、肥前中（女子D②）	

全中出場回数（2010・3現在）
山内中8回、七山中7回、大和中5回、肥前中4回
唐一中3回、田代中2回、成章中2回、唐五中2回
鍋島中1回、牛津中1回、小城中1回、有浦中1回

熊本県大会の歴史・熊本県中体連の歩み

熊本県中体連バドミントン競技専門部長　日野本　充



昭和46年、東京都において第1回全国中学校バドミントン大会が開催された。熊本県は第1回大会から今まで欠けることなく毎回出場している。

当時の伊藤基記県協会理事長の「種をまき苗を育てよ」の提唱を受け、野々口清介、高濱道雄、葦原健身、長野寛、広瀬邦昭等の好指導者を輩出し、ジュニアの基礎を作った。そしてついに、第5回東京大会で男女アベック優勝を成し遂げた。以後、男子団体三連勝や女子団体四連勝などすばらしい成績を上げた。

第1回大会から第9回大会までは都道府県選抜チームの対抗戦形式のみであったが、第10回大会から中体連大会の正式種目として採用され、学校対抗形式となり男女個人戦単複も始まった。ここから、当時楠中の長野寛教諭を中心に熊本県中体連と県バドミントン協会と一致協力しての選手強化や大会運営がスタートした。昭和50年代後半から、畠山篤教諭（当時西山中）も加わり、平成に入るまでの10年間を畠山・長野体制で、各都道府県がジュニア層の強化を図り競技力がアップした中、数多くの強化練習会や大会を企画運営し、県中体連の基礎を確固たるものに築き上げた。

それまで、県中体連専門部長が県協会中学部会長を兼務していたが、堺圭一専門部長の2年目から協会の中学部会長を上村秀章が、その後、三次圭介、木下修二へと、県中体連専門部長は岡村猛嗣から日野本充へと引き継がれていった。

第10大会は熊本市で開催。この大会で女子では信愛女学院中が三冠の偉業を達成。男子も三次英昭・野中伸一郎組が優勝、松川稔巳・福田洋介組が準優勝、川本英明が準優勝するなど好成績を収めた。その後、県内では男子の桜山中が昭和56年から県団体三連覇。二度の全国制覇を成し遂げている。女子では京陵中が全盛期を迎える。宮村愛子は、第15回・第16回全国大会と単2連覇。2年連続で京陵中松本理恵との同県決勝を制した。京陵中学校はこれまで3回の全国制覇を成し遂げている。さらに昭和50年代から西村伸明教諭率いる岱明中や東町中、楠中、西山中、出水中等の台頭もあり、上位入賞も続くこととなった。なかでも、男子の岱明中学校は、昭和60年からの県3連覇。平成元年から県7連覇。県中体連32回中15回の団体優勝を誇る。また、第15回全国大会では全国制覇を達成し、個人でも第15回大会の高村誠也、第17回の本田和裕、前田尚史・池端和政、第28回の大賀将裕・小山貴広が優勝するなど全国の強豪校として君臨してきた。

平成10年代から驚異的な力を誇っているのが女子の鏡中である。平成14年からこれまで県女子団体8連覇中。第38回全国大会では、全国団体準優勝に輝いている。近年、市町村合併により、旧八代郡や八代市などのように強豪校ひしめく地域では熊本県中体連大会に出場すること自体が難しい。全国クラスのチームや選手が郡市大会でしのぎを削る。

過去のオリンピックにも出場し、熊本県中体連でも活躍した熊本県出身の選手が数多くいる。

1992年バルセロナ大会

本山秀昭・陣内貴美子・松尾知美

1996 年アトランタ大会

宮村愛子・宮村亜貴子・松尾知美・阪本雅子

2000 年シドニー大会

松田治子・永峰弘子

一方、他都道府県も「熊本方式を見習え」とジュニア層の強化を始めたため、徐々に優勝回数も減っている。小中高の一貫指導と一口に言うが、公立の学校が中心の熊本県ではなかなか難しいところもある。公立学校の場合は指導者の異動や退職等により強豪校が弱くなることも少なくない。その点、私立校の一貫指導体制や他地域からの生徒勧誘など他都道府県の状況を考えると不利な面もある。

このような状況下にあって、熊本県としては今後どのような方策をとり強化を図るか一考を要する時期に来ている。

第 10 回、第 21 回、第 30 回と過去三度の全国中学校バドミントン大会を熊本県で開催運営し成功を収めたことで、組織の結束力もさらに強まり、組織としても高まっている。

熊本県ではジュニア層の指導に取り組んで四十数年になるが、過去好成績を収めた中学生選手が卒業後、高校や大学で選手として活躍し、また社会人となっても選手としてばかりでなく指導者としてもがんばっている者が多い。このことからも若年層の指導育成がいかに大事なことであり、熊本県バドミントン界の将来を左右するものであるかはっきりしている。

最近になって、熊本県県中体連の人材・役割を含めた組織等も充実してきたことは喜ばしいことである。また、学校体育以外でも、地域総合型スポーツクラブでジュニア層の育成にあたる指導者が増えてきたことにも感謝したい。



平成 19 年　第 38 回大会で全国準優勝した鏡中学校

長崎県中学校体育連盟
バドミントン競技の歩み

長崎県中学校体育連盟バドミントン競技専門委員長　片岡　直茂



全国中学校バドミントン大会が開催されて40回目を迎えたと聞き、これまでにご苦労された関係諸先輩方に深く感謝し、お礼を申し上げます。本当にご苦労さまでした。

また、昨年度第39回目の全国中学校バドミントン大会がここ長崎市で開催された喜びと、関係者の方々のご協力とご尽力に感謝いたします。

前年度の大会の視察の折には、開催県の福井県の先生方に温かく迎えていただき、忙しい中でもわかりやすい説明に長崎県の視察メンバーも来年の全国大会へ不安と同時に手応えをつかむことができました。県中体連や市中体連の先生方とも連携しながら、まず、組織造りに入りました。長崎市内のバドミントン部の顧問の先生方のご協力をいただきながら、役員の配置に検討を重ねました。バドミントンの顧問の先生方の中にはバドミントンの経験が全くない先生方もいらっしゃり正直不安な面もありましたが、できることがあればと皆さんのお力をおかりすることができました。そんな中で、組織の中心となる各部署の主任を決定し依頼する際には快く引き受けて下さる先生方で大変心強く感じました。大会全般に関わった本部進行主任、西浦上中学校の川添先生（現長崎市専門委員長）。記録部主任、琴海中学校、山本先生。会場部主任、土井首中学校、浦先生。オーダー交換部主任、淵中学校、末弘先生。オーロラビジョン主任、橘中学校、北野先生。審判部主任、山里中学校、西先生。式典部長、緑が丘中学校、馬場先生。受付・接待部、主任、三重中学校、堀江先生。という心強い主任の先生方と毎日あでもないこうでもないと模索しながら準備に入りました。毎日めまぐるしい忙しさの中にも笑いがあり、楽しみながら運営に携わることができたのも多くの方々の温かい協力だと感じました。

大会当日、本部の進行では予定通りの時間で案内放送・オーロラ・選手集合所・オーダー交換所とのやりとりを上手くこなし、ほぼ定時に試合を行うことができました。地区の大会でいつも進行を行っているメンバーの強みだと感じました。特に、オーロラビジョンを進行に活用することで、放送では聞き逃した場合でも集合所に遅れないように配慮し、試合進行をスムーズに行うと同時に駐車場や結果の連絡にも活用することができました。数回にわたる打合せとリハーサルを行い本大会でも十分な活躍でした。

接待部は主任唯一の女性で細かいところに配慮を感じました。オーダー交換所ではしっかりと確認しながら団体戦のみではあったものの、手際よく進められたと思います。

大会も終盤に近づくと終わってしまうのかという寂しささえもこみ上げてくるものがありました。今大会の為にご尽力をいただいた本当に多くの方々に感謝すると同時に多くの選手の思い出として残ってくれることと、また、今大会が多くの子供達の目標として成長してくれることができれば、携わった先生方の本望だと思います。全国の中学生のバドミントンを志す選手達の夢舞台として今後も発展してくれることを期待します。本当にありがとうございました。

さて、ここで長崎県のバドミントン事情を振

り返ってみようと思います。平成に入って全国大会での長崎県の活躍ぶりは大東忠選手（長崎市立大浦中学校）、大東真也選手（長崎市立大浦中学校）、松尾美穂子選手（長崎市立東長崎中学校）松田友美選手、（長崎市立東長崎中学校）、左村正和選手（琴海町立《現：長崎市立》琴海中学校）がそれぞれ男女シングルスで優勝を成し遂げています。団体戦においても、平成8年に東長崎中学校女子の準優勝を最高に、平成6年と平成7年には、大浦中学校男子と東長崎中学校女子が3位に入る好成績を収めています。ここ数年間は全国大会の出場権を獲得することが非常に難しく、全国大会の出場権を獲得するのはここ5年間はひとつにとどまっているのが現状です。平成26年度には、2巡目の長崎国体を開催する予定です。その成功に向けても、ぜひ、全国の場で活躍できるような選手の育成に取り組んでいきたいと思います。

九州内に目を移すと、以前、長崎県は九州内でトップレベルの位置にありました。昭和後期に入ると熊本県の独壇場となり、長崎県にとっては残念な結果が続きました。ところが「平成」に入り強い長崎県の復活が見られ出しました。特に平成7年の九州大会では、男子団体戦で優勝と3位、女子団体戦で優勝と第3位というすばらしい結果を残すことができました。また、個人戦シングルスでは、大浦中学校の大東真也君と東長崎中学校の松尾美穂子さんが男女アベック優勝、女子ダブルスでも東長崎中学校の坂井・松田組が優勝を勝ち得ました。さらにシングルスの2人は、先述の通り全国大会でもアベック優勝し、強い長崎県を全国に知らしめることになりました。なお、大東忠君はご存じの通り、一昨年の北京オリンピックに出場し、見事ベスト8に進出することができました。現在では、ベスト8までは、いくつかの種目で進出することができるものの、全国まであと一歩のところで悔し涙を飲んでいます。強化事業を生かした今後の飛躍に期待しています。

また、長崎県を代表する矢上小・東長崎中を長年にわたり指導された宮本光雄コーチが、今年1月他界され、長崎県のバドミントン界に暗いニュースが流れました。現在も東長崎中学校は長崎県中学校総合体育大会バドミントン競技女子団体において21連覇を継続しており、偉業がどこまで続くのかに注目が集まっています。

現在、長崎県中学校体育連盟バドミントン競技部は県協会と協力しながら、様々な強化事業を企画しています。例えば、長崎県中学生バドミントン新人セカンド大会（新人大会に出場を逃した各郡市のベスト8の選手が集まる大会）やチャレンジカップ（県新人大会やセカンド大会の出場の権利を獲得できなかった選手）を開催し、中間層や初心者クラスの強化を図っています。また、郡市対抗交流会を実施し、郡市レベルでの強化にも取り組んでいます。セカンド大会に出場し好成績を残すことが、次年度の長崎県中総体出場への意欲高揚につながり、チャレンジカップで勝つことが、試合で勝つ喜びを感じることにつながるといった確かな成果が見られています。底辺層から上位層まで、様々な企画や強化事業で選手育成を図り、「バドミントン発祥の地・長崎」の今後の活躍を切に期待しています。

大分県中体連バドミントン専門部の歩み

日田市立北部中学校
大分県中体連バドミントン競技専門部長　岩下　太郎



1．歴代専門部長について

年度	部長氏名	勤務校	年度	部長氏名	勤務校
58	佐藤　紘一	日田市立南部中	8	武石　剛	日田市立三隈中
59	佐藤　紘一	日田市立南部中	9	武石　剛	日田市立三隈中
60	佐藤　紘一	日田市立南部中	10	武石　剛	日田市立三隈中
61	佐藤　紘一	日田市立南部中	11	梶原　英幸	日田市立三隈中
62	佐藤　紘一	日田市立南部中	12	梶原　英幸	日田市立三隈中
63	佐藤　紘一	日田市立南部中	13	梶原　英幸	日田市立三隈中
1	佐藤　紘一	天瀬町立東渓中	14	渕　公一	大分市立判田中
2	佐藤　紘一	天瀬町立東渓中	15	渕　公一	大分市立判田中
3	佐藤　紘一	天瀬町立東渓中	16	御鱗　角治	大分市立稙田東中
4	佐藤　紘一	天瀬町立東渓中	17	御鱗　角治	大分市立稙田東中
5	佐藤　紘一	天瀬町立東渓中	18	山川　秀幸	大分市立南大分中
6	佐藤　紘一	天瀬町立東渓中	19	岩下　太郎	日田市立戸山中
7	大戸　純一	大野町立大野中	20	岩下　太郎	日田市立戸山中

2．あゆみと現状

バドミントン専門部は、昭和55年、当時から盛んであった日田市中体連からの熱意あふれる申請を受け、県中学校総体の正式種目として認可され、以来年の年月を経た。この間、創始者としての石田正威氏、また12年間の長きに渡り部長を務められた佐藤紘一氏の尽力には、甚だしいものがある。

県中体連参加部・部員数は、まだまだ他種目に比べると少ないが、オリンピック正式種目としての採用以来、5回目に至っており、2008年北京五輪では、日本女子ダブルスで日本人史上初のベスト4入りを果たした、「スエマエ」こと末綱聡子（城東中出身）・前田美順組の活躍で人気急上昇中のスポーツとなっている。本年度の県新人戦には、新しく宇佐市からの個人戦参加もみられ、裾野を広げている。

昨年度、部活動設置数は男子27・女子33、部員数も男子169・女子436名となり、中でも大分市・別府市・日田市・豊後大野市・佐伯市・臼杵市・速見郡を中心にバドミントン協会や社会体育の地道でしかも熱意ある協力のもとに発展を続けている。また、県中体連バドミントン部の成績も目覚しい成果を挙げてきており、九州大会では男子団体入賞7回・女子団体5回・男子個人6回・女子個人5回、また全国では平成8年度に後藤あゆみ選手（別府市立鶴見台中学校）が見事全国優勝の快挙を成し遂げている。

また、有力チームとしては、一村一スポーツにバドミントンを揚げている日田市が三隈中学校・東部中学校を中心に発足以来、根強い力を持ち続けており、近年では大分市の城東中学校や判田中学校、豊後大野市の三重中学校、速見郡の日出中学校など社会体育での活動を背景に力を見せ始めている。

3．栄光の記録

●九州中学校バドミントン競技大会

男子団体戦	第17回（昭和63年）	第3位	三隈中学校
	第20回（平成3年）	第3位	三隈中学校
	第23回（平成6年）	第3位	三隈中学校
女子団体戦	第13回（昭和59年）	第2位	稙田東中学校
	第14回（昭和60年）	第3位	明野中学校
	第20回（平成3年）	第3位	三隈中学校
	第33回（平成16年）	第3位	鶴見台中学校
	第34回（平成17年）	第2位	日田東部中学校
男子個人戦	第12回（昭和58年）	第3位	石井　政行（三隈中）
	第17回（昭和63年）	第3位	原田・新川　組（三隈中）
	第18回（平成1年）	第3位	長嶋・沢熊　組（三隈中）
	第23回（平成6年）	第3位	蒲池　　誠（三隈中）
女子個人戦	第25回（平成8年）	第3位	後藤あゆみ（鶴見台）
	第33回（平成16年）	第3位	升巴　七都希（上野ヶ丘）
	第33回（平成16年）	第3位	今井・河津　組（日田東部）
	第34回（平成17年）	第3位	今井・河津　組（日田東部）
	第35回（平成18年）	第3位	石松・小ヶ内　組（三隈中）
	第40回（平成21年）	第2位	櫻木・仁田坂　組（三隈中）

●全国中学校バドミントン大会出場

第14回（昭和59年）	女子団体	稙田東中学校		
第15回（昭和60年）	女子団体	明野中学校		
第18回（昭和63年）	男子団体	三隈中学校		
第21回（平成3年）	男子団体	三隈中学校	女子団体	三隈中学校
第24回（平成6年）	男子個人	蒲池　誠（三隈）		
第26回（平成8年）	女子個人	後藤あゆみ（鶴見台）　優勝		
第34回（平成16年）	女子個人	升巴　七都希（上野ヶ丘）		
第35回（平成16年）	女子個人	今井　瞳・河津あゆみ　組（日田東部）		
第40回（平成21年）	男子個人	櫻木健太郎・仁田坂浩貴　組（三隈）		

4．今後の課題

県中体連バドミントン部の発足もさることながら、現段階でも社会体育における指導者やコーチによる尽力が大きい。日田市の宮原氏・楢原氏、大分市の島田氏、別府市の宗野氏、近藤氏、臼杵市の木部氏らの長きに渡っての指導の功績は大きい。近年では、豊後大野市の佐藤氏、佐伯市の佐保氏･小野氏、大分市の一丸氏･高木氏・末光氏・後藤氏、速見郡の中山氏らの功績も大きい。

県中体連バドミントン部の課題の大きなものの一つに、部活動指導者（教諭）の中に専門競技経験者がほとんどいないことがあげられる。このため社会体育などの指導者やコーチの熱望から中体連参加という場合も多く、学校によっては指導者不足の折から数年で部活動指導者が替わり、練習会場の確保もままならない学校が多いことが挙げられる。これは、バドミントン競技自体の歴史が浅いことが大きく関係し、教諭の中に学生時代の競技経験者が増えていないことに起因しているとも考えられる。高校・大学の競技経験者が増えている現状もあるので、指導者（教諭）としての増員も願っていきたいところである。

最後に、県中体連バドミントンの競技人口の増加を喜びながら、個々人の競技力のレベルアップとルールとしての知識、マナーや人間性の向上、指導者の指導力の向上を期待したい。

宮崎県バドミントン競技専門部



バドミントン競技専門委員長　小野　将道

沿革

バドミントン競技専門部発足からの経過

バドミントン競技専門部は、昭和52年に松井信（当時：木花中学校）先生を専門委員長とし、2名の委員、計3名で発足した。その後競技人口の増加にともない平成9年から9名になり、現在にいたっている。

競技人口の変遷

中体連加盟当時は、競技人口も少なく、部数もわずかであった。その後小学校の競技人口の増加、特にスポーツ少年団による指導が功を奏し年々増加の一途を辿る。現在男子361名女子819名の計1180名である。平成15年前後を境に登録人数は横ばい状態を維持している。

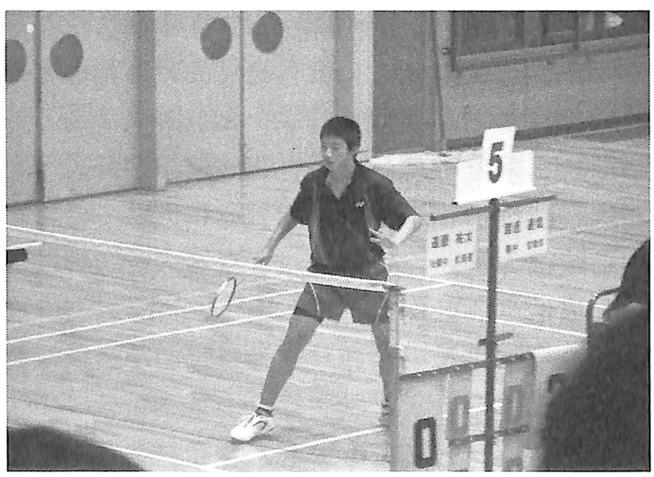
大会の歴史

県専門部発足当初は参加数も少なく宮崎市立宮崎西中学校体育館（6面）での開催であった。当時団体戦ではA・Bチームの参加が認められていたが参加校の増加に伴い学校単位参加、地区代表参加へと移り、現在は地区予選の団体出場校数によって団体戦及び個人戦の参加数を決める比例代表制が導入されている。会場は、その後清武町民体育館（9面）となり、現在は高鍋町総合体育館（12面）を使用している。

強豪チームの変遷

女子はスポーツ少年団を中心にジュニア層の育成の進む宮崎市に強豪校が集中していた。特に宮崎西中学校・住吉中学校による連覇の時代が平成10年前後まで続く。その後西都市立妻中学校や宮崎市立青島中学校、延岡市立岡富中学校、高鍋町立高鍋西中学校など郡部の中学校からも県を制覇する選手が現れるようになる。男子は、年によって優勝チームが異なっていくが、宮崎市立青島中学校の全国3位、宮崎市立宮崎西中学校の九州1位、高千穂町立向山中学校九州3位、日向市立財光寺中学校九州3位などの実績は特出している。

また、近年では、平成17年度から県協会が主体となってスタートした「MBA JP5事業」などの小中高一貫した指導体制の確立により個人戦においても全国で上位に入賞する選手を輩出できるようになってきている。特に平成18年度には妻中学校の渡辺達哉（男子シングルス）、宮崎西中学校の定宗隆一郎／田中光組（男子ダブルス）が九州を制し、ともに全国3位入賞を果たした。



全国大会ベスト4　渡邊達哉

歴代専門委員長一覧

年　度	委　員　長	所　属
昭和 52 年度	松井　信	木　花
昭和 53 年度	松井　信	門　川
昭和 54 年度	松井　信	門　川
昭和 55 年度	松井　信	門　川
昭和 56 年度	松井　信	門　川
昭和 57 年度	松井　信	門　川
昭和 58 年度	松井　信	財光寺
昭和 59 年度	松井　信	財光寺
昭和 60 年度	松井　信	財光寺
昭和 61 年度	松井　信	財光寺
昭和 62 年度	徳村光郎	久　峰
昭和 63 年度	徳村光郎	久　峰
平成元年度	徳村光郎	久　峰
平成 2 年度	藤森茂次	赤江東
平成 3 年度	藤森茂次	赤江東
平成 4 年度	田中　稔	財光寺
平成 5 年度	田中　稔	財光寺
平成 6 年度	田中　稔	財光寺
平成 7 年度	田中　稔	財光寺
平成 8 年度	種子田保	富　島
平成 9 年度	種子田保	日　向
平成 10 年度	種子田保	日　向
平成 11 年度	種子田保	日　向
平成 12 年度	種子田保	日　向
平成 13 年度	種子田保	日　向
平成 14 年度	種子田保	日　向
平成 15 年度	岩切勝彦	宮崎西
平成 16 年度	岩切勝彦	宮崎西
平成 17 年度	岩切勝彦	宮崎西
平成 18 年度	岩切勝彦	宮崎西
平成 19 年度	小野将道	都　農
平成 20 年度	小野将道	都　農
平成 21 年度	小野将道	都　農

栄光の記録・九州大会編（優勝）

＜優勝＞

・H9　青島中（男子団体）
　　全国大会 3 位（愛媛県・新居浜）
・H18 宮崎西中（男子団体）
・H18 渡邊達哉（妻）
　　全国大会 3 位（徳島県・徳島市）
・H18 田中光／定宗（宮崎西）
　　全国大会 3 位（徳島県・徳島市）
・H19 藤田悠祐（高鍋東）

栄光の記録・九州大会編（2 位～ベスト 4）

＜ 2 位＞

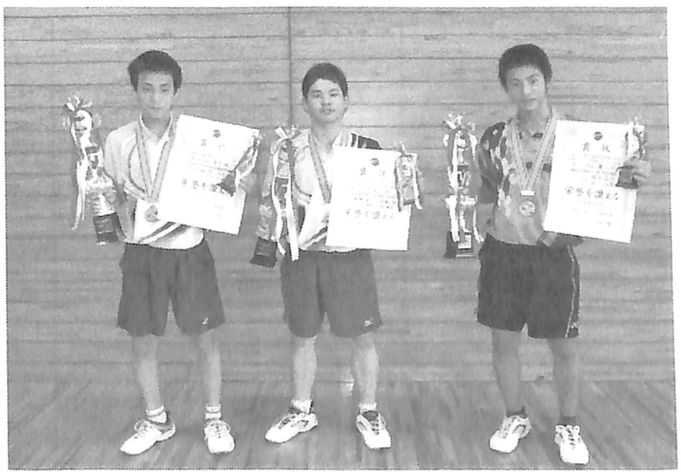
・S62　宮崎西中（女子団体）
・H6　武田和也（青島）
・H10　服部麻衣（宮崎）
・H18　藤田悠佑（高鍋東）

＜ 3 位入賞＞

男子団体・S62　向山中　・H3、H21　妻
・H6　青島　・H19　宮崎西
女子団体・S57、58、59、H2　住吉
・S60、61　宮崎西
・H9　青島中　・H5　三股中
男子個人・H56　小松（住吉）
・H5　三谷／川上（日向）
・H7　橋本／浜砂（妻）
・H17　渡邊（妻）
・H19　小林／高橋（宮崎西）
女子個人・S59　池上（大淀）
・H10　日高／小八重（大淀）
・H16、H17　阿萬／前之園（宮崎）

現在の宮崎県のバドミントン部

宮崎　宮崎西　大淀　大宮　檍　赤江　木花
青島　住吉　生目　大塚　赤江東　生目台　清武　佐土原　田野　本庄　八代　木脇　綾　市木　南郷（南）　妻ヶ丘　夏尾　三股　高崎　飯野　妻　高鍋東　高鍋西　都農　銀鏡　上新田　日向　富島　財光寺　門川　北川　熊野江　恒富　延岡南　東海　岡富　五ヶ瀬中等
（校外部活動も含む）



平成 18 年度全国大会ベスト 4 入りを果たした 3 名
左：定宗　中：田中　右：渡部

鹿児島県中体連バドミントン専門部の歩み



鹿児島県中体連バドミントン専門部委員長　榊　辰弘

1　鹿児島県中体連バドミントン専門部の発足

鹿児島県のバドミントン協会の歴史は、他県に比べるとそれ程長いものではない。本県のバドミントン協会主催の県大会で、一番歴史の長い大会が毎年１月に行われる「総合選手権大会」で今年で第55回を迎える。これを本県のバドミントン協会の歴史とみてよい。

発足当時は少なかった競技人口も、「全日本実業団大会」（昭和46年開催）、「国民体育大会」（昭和47年開催）、さらに「全校高校総体」（昭和57年開催）などの全国大会を経て、徐々に競技人口が増えてきた。併せて、県を12地区に分けて開催される「県民体育大会」は地区対抗で開催されるが、各地区の協会が底辺拡大のために中高生の競技力向上を図り、力を注ぎだしたことも本県の競技人口を増やす最大の要因となっている。

さて、前述の全国高校総体が本県で開催された頃、中体連主催の九州大会を鹿児島でも開催するという話が出てきた。それまでも協会主催の大会結果などを参考にして中体連主催の九州大会に参加はしていたが、いざ開催するとなると県大会すら開催していない本県にとって、大会の運営や、受け入れ態勢など簡単にいくものではなかった。そこで、昭和59年度に正式に鹿児島県中体連バドミントン専門部を立ち上げることになり、今に至る。今年度の県大会が26回目になる。

2　本県選手の活躍

①　県大会の様子

・記念すべき第１回大会（昭和59年）の入賞者は下表のとおりである。

		1　位	2　位	3　位	3　位
団　体	男子	谷山北	黒神	和田	
	女子	南	坂元	吉野	
シングルス	男子	伊沢（谷山北）	植木（谷山北）	宮下（黒神）	浜崎（鹿附属）
	女子	瀬之口（南）	尾畑（吉野）	峯苫（吉野）	山元（南）
ダブルス	男子	石塚・図師（黒神）	前鶴・立林（谷山北）	脇元・上酔尾（谷山北）	徳留・田中（谷山北）
	女子	岡山・岡村（南）	豊・上原（緑丘）	岡村・大園（南）	柳田・嶺山（桜丘）

・県大会26年間の中での団体戦の連勝記録

＊　男子　黒神中学校　（第2回～7回）6連覇

＊　女子　桜丘中学校　（第13回～17回）5連覇

＊　女子　皇徳寺中学校　（第18回～26回）9連覇中（現在）

この中には、現在も本県バドミントン界で活躍している選手や、日本リーグのメンバーとして活躍した選手、日本代表として国際大会やオリンピックで活躍中の選手もいる。そして、何よりも頼もしいのは、指導者として本県の後輩たちの育成に携わっている選手が多くいるということである。このようなことは、本県バドミントン界にとって、大きな財産となっている。

②　九州大会の様子

ここ10年間で、「九州大会に出場することを目指す」という本県選手の目標が、「全国大会に出場することを目指す」という目標に変わってきた。平成11年の九州大会の団体戦で男女ともに4位に入賞したが、全国大会の切符こそ逃したものの、これをきっかけに本県選手たちの中に、「頑張れば、全国大会にも出場できる」という目標ができ、さらに上を目指し始めた。

このとき大きな影響を受けた選手が、北京オリンピックで活躍した前田美順選手である。平成12年の九州大会で4位に入賞し、全国大会に出場した。彼女の全国大会出場やその後の活躍が、後輩達の9年連続全国大会出場という実績につながった。特に、平成16年度（第33回）の中体連九州大会で鹿児島市立皇徳寺中学校が、38年にわたる中体連九州大会の歴史の中で初の男女アベック優勝という快挙を成し遂げた。

このような先輩たちの活躍は、間違いなく本県の現在の中学生に「自分たちにもできる」という目標を与え、さらに、中学校の顧問や、コーチも含めた多くの指導者が元気をもらったことは言うまでもない。

3　最後に

小学校でバドミントンをしても中学校に部活がないために他のスポーツを選択していった生徒が多かった時代に、中体連バドミントン専門部の設立は大きな転機を迎えることになった。「つながった」と言うのが本県バドミントン協会の役員たちの安堵の声であった。中学校の部活動の顧問の中には、専門家でない指導者も多いが、外部コーチや保護者、先輩たち、地区のバドミントン愛好家などと連携をとりながら試行錯誤しながら指導をされている先生たちも多い。そのような先生たちの情熱に感謝している。

沖縄県中体連バドミントン専門部の歩み



うるま市立　あげな中学校
沖縄県中体連バドミントン専門部委員長　比嘉　敏雅

全国中学校バドミントン大会開催40周年の節目の年を迎え、本県バドミントン競技に携わる方々と共に心からお祝い申し上げます。

本県では、1981年（昭和56）、バドミントン専門部設立時に初代の専門部長宮里美沙子先生がご尽力なされ、以来、城間明先生（2代目）、宮城清英先生（3代目）、玉城健蔵先生（4代目）、原田利明先生（5代目）へと引き継がれ、29年間に渡り、バドミントン競技を支え、また、競技力向上に対して、模索し探求なされ、さらに、健全な生徒育成を目指し情熱を持ち、力を注がれてきたおかげで、今日の活発な諸活動が行えるようになりました。

さて、県全域の部員数は十年前の1,500人に比べ、現在は倍近くの約3,000人を超え、年々増加の傾向にある現状です。また、競技力においても県制覇を幾度なく成し遂げている島尻地区勢の学校に対し、平成11年度県大会にて、中頭地区勢として、初の男子団体（桑江中学校）優勝を飾り、平成　13年度同大会にて初の女子団体優勝（山内中学校）を手に入れ、それ以降、島尻地区と中頭地区を中心に交流・強化試合を通じ、お互い切磋琢磨し合いながらレベルを上げ、個人においても八重山地区や離島勢の選手の活躍が目立つようになりました。特に、この十数年、部活動で励まれた顧問の先生方のご指導とともに、サークル活動や協会の強化指導（小中高連携）が活性化し、ジュニア選手育成のおかげもあって、九州や全国に通用する選手が育成され、これまでにない飛躍的な活躍が光ります。

平成11度九州大会（長崎）にて、県勢初の女子シングルスで仲間愛（当時三和中）が九州大会3位。平成12年度同大会（佐賀）で、男子個人戦ダブルスで島袋剛・幸地寛ペア（当時桑江中）が準優勝で全国大会へ出場を果たし、ベスト8の快挙。平成18年度九州大会（宮崎）、女子個人シングルスで上村麻衣（当時首里中）がついに県勢悲願の九州制覇を果たし、2年連続で全国大会へ出場をするなど、確実な力がついてきました。団体戦においても平成18年度、宮城中学校男子が1997年以来11年ぶり九州大会3位で全国大会へ県勢初の出場を果たし、同大会にて高嶺中学校女子が3位に入賞。また、平成20年度九州大会（佐賀）では、越来中学校女子が2年ぶりに3位の好成績をあげ、これまでの各学校での部活動の取り組みに顧問の先生方が尽力された成果だとも思います。

今後の課題として、

1. 九州・全国大会で活躍する選手育成
   ①心身ともに鍛え調和のとれた選手育成
   ②他県への遠征・派遣などの場づくり
   ③各学校での部活動の活性化
2. 顧問の指導力向上
   ①意識の高揚
   ②協会主催などの研修へ積極的な参加
3. 連携と協力
   ①各学校や各地区、協会などと連携を深め、選手育成を図る

これまでの現状を見つめ、今後の課題を踏まえ、選手のさらなる活躍のために、多方面からの協力を仰ぎながら、競技力の向上を含む生徒

の健全な育成を目指し、最善を尽くす努力を選手と共に取り組んでいきたいと思います。

表１　主な沖縄県専門部の歩みと実績

回数	大会年度 開催地区	専門部のあゆみ	九州・全国大会の実績
1	1981年 那覇地区	・県、那覇地区設立 ・県大会はｵｰﾌﾟﾝ大会	
3	1983年 那覇地区	・島尻地区設立	
4	1984年 那覇地区	・九州大会沖縄開催	石峯善隆（真和志中学校）九州大会3位
6	1986年 中頭地区		金城勉（三和中学校）、九州大会優勝、全国大会3位
7	1987年 宮古地区	・県大会初の宮古開催	大里中学校（男子）九州大会3位
11	1991年 島尻地区	・団体戦決勝ﾘｰｸﾞ制開始 ・中頭地区設立	
13	1993年 島尻地区	・九州大会沖縄開催	
15	1995年 八重山地区	・県大会初の 八重山開催	
16	1996年 国頭地区	・団体戦出場数を 変更（島尻地区）	
17	1997年 島尻地区		西崎中学校（男子）九州大会3位
19	1999年 国頭地区		仲間愛（三和中学校）九州大会3位、全国大会へ
20	2000年 宮古地区		島袋剛・幸地寛（桑江中）九州大会準優勝、全国大会ベスト8
21	2001年 那覇地区	・九州大会沖縄開催	
25	2005年 国頭地区		上村麻衣（首里中学校）九州大会3位、全国大会へ
26	2006年 宮古地区		・宮城中学校（男子）九州大会3位、県勢初の全国大会出場　・高嶺中学校（女子）九州大会3位上村麻衣（首里中学校）　九州大会優勝、全国大会へ
27	2007年 島尻地区	・ルール改正に伴い、 ﾗﾘｰﾎﾟｲﾝﾄ制を導入	
28	2008年 那覇地区	・団体戦出場数を 変更	越来中学校（女子）九州大会3位
29	2009年 那覇地区	九州大会沖縄開催	

全国中学校バドミントン大会開催40周年に寄せて



熊本県バドミントン協会中学部　部長　岡村　猛嗣

全国中学校バドミントン大会開催40周年を心よりお慶び申し上げます。また、このような節目となる「40周年記念誌」の発刊に際し、原稿を書くという機会を与えていただいたことを大変嬉しく思います。

さて、全国中学校バドミントン大会が40周年を迎えるまでには、言葉では言い尽くせないほどのご苦労あるいはご努力があったことと思います。そしてそれらの積み重ねが今日の各都道府県中体連をつくりあげ、日常の学校生活の重要な役割を果たしていると思います。

中でも、中体連大会は中学生にとって最も重要な大会の一つと言えます。学校内の選抜から始まり、各地区大会、県大会、各ブロック大会を勝ち抜いて、やっと全国大会（以下、「全中」）に出場することができます。この全中に出場した中学生にとっては一生の思い出になります。その素晴らしい大会を最大の目標として中学生はバドミントンを毎日頑張っていると言っても過言ではないでしょう。全中の存在自体が選手の強化・育成いわば競技力の向上につながる重要な役割を果たしていると確信しています。

ところで、私自身バドミントンの指導者として十数年になりますが、熊本県での全中開催の折りには総務委員の一人として携わることができました。その後、熊本県中体連のバドミントン競技専門部長を仰せつかる中で、九州ブロック長として全中の北海道ブロック大会（旭川市）と関東ブロック大会（茨城県土浦市）を経験させてもらいました。どちらも素晴らしい大会でした。選手たちにはぜひとも全中を経験させたいし、私自身も経験したい大会だと改めて感じることができました。また、大会を通して他県の先生方と情報を交換し、杯を交わしながら交流を深めることができたことは私の人生の中でも大きな財産の一つだと言えます。現在は、県協会の中学部長としてバドミントンに携わっています。大会毎に運営の手伝いや選手強化のための練習会に参加していますが、毎年、誰が全中に出場するのか、楽しみにしているところです。

最後になりましたが、これまでの諸先輩方の熱い思いとご苦労・ご努力に感謝するとともに、全国中学校バドミントン大会のこれからの益々のご発展を心よりお祈りして、あいさつと致します。

全国中学校大会から学んだこと



（前　九州ブロック長・佐賀県専門委員長）
（前　佐賀市立大和中学校バドミントン部顧問）
佐賀県教育センター　鍋島　元春

佐賀県の中体連バドミントン専門部が出来、平成21年度で30年を迎えた。過去、バドミントン経験者が専門委員になったことがなく、他の部活動の顧問をしていた中、県協会に依頼されて、県中体連バドミントン専門委員になって現在9年目になる。翌年、バドミントン部がある大和町立大和中学校（市町村合併前）に異動し、バドミントン部顧問となった。平成15年度からは、県専門委員長と県協会中学生部事務局を兼任するようになった。幸い、毎年九州大会に参加させて頂き、より人とのつながりと視野が広がった。そして、九州が大切にしてきたことも改めて確認できた。

大和中学校の生徒には迷惑を掛けっぱなしであった。特にブロック長をしていた平成19年は、佐賀インターハイもあり、高校関係に出かけることも多かった。インターハイの準決・決勝等の審判もさせていただいたが、中学校の練習に参加する時間が制限された。しかし、子どもたちの努力の結果、10年ぶりに九州大会を突破し、全中へ団体戦で出場できた。顧問として初めて参加した全国大会は最高であった。翌年はブロック大会を佐賀で開催したため、自分は運営に完全にはまらざるを得なかった。しかし、当時の校長（当時日本中体連副会長）から、「バドの全中であいさつをするので絶対全中に出場するように」とのプレッシャーをかけられていたが、生徒の努力の甲斐あって連続で全中団体出場ができ、3月末定年退職の際「幸せだった」と言葉を頂いた。

平成19・20年度は、ブロック長をさせて頂いた。佐賀県をまとめるだけではいけないと考え、「九州は一つ」の原点に戻ろうということを常に提案していった。その中には、今まで九州ブロックが大切にしてきた「心」の部分も含まれる。「各選手は、学校の代表なんだ」というものであり、コート内外で求められるものである。「九州ブロックで切磋琢磨して、まとまる！」このことを教えてくれたのは、意外にも関東の選手団の応援風景からであった。

現在、勤務している教育センターは大和中学校校区内にあり、大和中の生徒とのふれあいもある。この地域は以前からバドミントンが盛んな地域でもあった。ジュニアチームも強く、中学校も頑張らないとということで努力してきた。そして、育った選手が地元に戻って次世代を育てるという地域になるようこれからも支援をしていきたい。

私のスタート



日本体育大学　大東　忠司

私は小学１年の頃から両親の勧めでバドミントンを始め、24年間バドミントン選手として生活をしてきました。その24年の間に国際試合も含めたくさんの試合をしてきましたが、そのたくさんの大会一つ一つに様々な思い出があります。この全国中学校バドミントン大会はその思い出の大会の中でも私を最も成長させてくれた大会だったと思います。

私が小学生の頃、バドミントン大会で全国大会というものがありませんでした。九州大会までしかなく、私は九州大会では優勝していたので全国という名のつく大会にすごく憧れていました。中学に入学して全国中学校バドミントン大会がある事を知りました。全国大会にすごく憧れていたのでその大会があるという事を嬉しく思ったと同時に憧れだった全国大会に出場し、そして優勝するという事が目標になりました。

中学１、２年生の頃は、市や県の大会では優勝し、九州ブロック大会に出場する事はできるのですが、そのブロック大会で負けてしまい、目標の全国中学校バドミントン大会になかなか出場する事が出来ませんでした。全国大会にも出場できないので優勝という言葉にはほど遠かったのですが、全国大会に出場するチャンスが残り１回しかないと考えた時に今のままでいいのか、全国大会に出場して優勝するためにはどうしたらいいのかを私は必死に考えるようになりました。そして、その時に自分で出した考えを練習や普段の生活にも取り入れ、目標達成に向けてより一層練習に励みました。

全国大会出場に向けて頑張った甲斐があったのか、３年の最後の市、県、九州ブロック大会と優勝する事ができ、念願の全国中学校バドミントン大会に出場する事ができました。全国大会に出場できた事はすごく嬉しかったのですが、まだ自分の中では満足のいってない所がありました。それはまだ目標を達成していないからです。目標は全国大会優勝。この全国中学校バドミントン大会で優勝するまでは「まだまだこれからが戦いだ」と自分に言い聞かせていました。そして、全国中学校バドミントン大会で優勝する事が出来ました。

私はこの大会に優勝した事でたくさんの事を学びました。勝つという事の喜び、目標を達成した時の嬉しさ。まずは目標を掲げる事が大事だという事。そしてその目標に向けて必死に努力をする事の大切さ。努力をすれば目標は達成できるという事。しかし、これらの事は自分１人では成し遂げる事が出来なくて、周りの人の応援、仲間の励まし、そして家族の助けが必要だという事を知りました。私は全国中学校バドミントン大会でたくさんの事を学び、成長させてもらいました。24年間バドミントンを続けてこれたのもこの時に学べた事が大きかったと思います。私にとってはこの大会で優勝してからがバドミントン生活のスタートだったように思います。

現在私は大学で指導をしています。指導をしていく選手にこの大会で学べた大事な事を伝えていきたいと思います。

栄光の記録
全国大会出場校一覧

栄光の記録

第１回　東京都（1971）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	滋賀県	西堀 錬仁 井上 初雄	西村 金治　淵水 正和 小野 洋　丸岡 俊治 平尾 光彦　広瀬 克備	福井県	岡本 政幸	長谷川博幸　西片 将 増田勝三　坂口輝男 吉沢 豊一　藤井政治	奈良県 富山県
女子	団体	大阪府	渡辺貞規子 杉田忠邦	瀬野清美　山本邦子 山下美穂子　植野恵美子 広瀬順子　秋本美津子	新潟県	遠藤武也 後藤和子	道端恵美子　落合陽子 藤田美智子　前田恵美 池田信子　落田典子	岡山県 富山県

第２回　名古屋市（1972）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	奈良県	木村 寛 上田耕作	春井善雄　岡田和夫 堀切健美　小倉久和 吉岡伸浩　平山公洋	石川県	森川 徹 高田一郎	牧野 裕　西川慎一 大門利昭　岡田常雄 酒井直人　山下敦明	福井県 熊本県
女子	団体	大阪府	杉田忠邦 佐藤陽子	植野恵美子　河本裕子 秋本美津子　北村寿弥子 山本邦子　石川好子	奈良県	木島敏博 里見多聞	岩井史子　奥谷尋子 中西利子　西川由賀里 吉谷育子　桐山綾子	滋賀県 東京都

第３回　宇都宮市（1973）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	滋賀県	森田紀朗 木村孝英	寺元 昇　山之上 徹 山田力男　山岡潤秀 北橋 進　西山博司	栃木県	塚原紀子 杉山すみ子	猪瀬博明　佐通 茂 水野谷厚　舟生芳男 飴 泰　山口浩一	奈良県 兵庫県
女子	団体	滋賀県	飯田照男 中川朋子	小西紀代美　岡本久子 川嶋 泉　柴田貞弓 黒岩正子　三上孝子	東京都	平田登志郎 池田昌道	徳永順子　加藤幸子寺 水野ふみ子　島由紀子長 流 加代子　谷川桂子	新潟県 福井県

第４回　東京都（1974）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	滋賀県	藤原健二 森田紀朗	西山博司　西岡宏 矢部忠司　山田和樹 吉田繁喜　宇野恒和	福井県	岡本政幸 富田則子	上田政弘　海道昌孝 玉村琢二　大阪哲朗 前川勇一　武田幸一	奈良県 富山県
女子	団体	大阪府	杉田忠邦 渡辺貞規子	河村茂美　平 久美子 阿部俊子　陳 福輝金 馬場恭子　子 房子	熊本県	野々口清介 広瀬邦照	野中弘美　高松久仁子 相良裕美　原口忠子 中村美世子　河内まゆみ	福井県 富山県

第５回　東京都（1975）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	熊本県	長野 寛 本石幸一	本石俊徳　甲斐秀俊生 興梠圧蔵　鎌ヶ迫一幸 酒井正彦　三次圭介	滋賀県	高橋茂 徳谷正	滝川正　岩坂一弥 桑野至　中川靖司 宮本弘　保科正浩	奈良県 埼玉県
女子	団体	熊本県	野々口清介 山本錠人	高松久仁子　相良裕美 原口忠子　高塚彰子 川添安代　松末嘉代子	北海道	褐田鉄美 西田幹彦	小塚理世　柳沼尚代 児玉和美　佐藤朱美 中村悦子　高松みどり	大阪府 福井県

第６回　仙台市（1976）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	熊本県	長野 寛 加藤泰憲	権藤浩二　三次圭介 原口好弘　村上英介 村岡泰彦　井上哲也	栃木県	斉藤信 上弥充雄	馬場良浩　高橋安則 尾田史明　赤羽利幸 小野口正　坂本幸夫	宮城県 奈良県
女子	団体	滋賀県	飯田照男 久保明雄	西村三千代　岩見洋子 宵山勇美　倉見安世 高嶋敏子　畑野恵理子	大阪府	杉田忠邦 水井良平	北田スミ子　植田日出子 松田全代　田中ひをる 大関恵美子　山口典子	熊本県 埼玉県

第７回　伊勢市（1977）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	熊本県	芦原健身 長野寛	高木裕二　松川和裕 井上哲章　丸山隆 堺圭一　本石大介	栃木県	塚原紀子 水沼宏	大島正志　鈴木純一 大堀円　猪瀬和己 石下稔　上野洋二	神奈川県 埼玉県
女子	団体	熊本県	野々口清介 中田秀夫	高倉和子　志水さとみ 松永百代子　陣内貴美子 松本美佐子　中村由美	北海道	褐田鉄美 西森幹彦	高橋とみ　西岡孝子 佐藤啓子　松山早苗 藤永由香　佐々木久江	滋賀県 香川県

第８回　名古屋市（1978）

種目		優勝 都道府県	監督名 マネジャー名	選手名	準優勝 都道府県	監督名 マネジャー名	選手名	三位 都道府県
男子	団体	神奈川県	須田兼三郎 鹿内利保	杉山文則　上床宣孝 豊田裕　平野渉中 奈良秀行　村泉	熊本県	長野寛 今村孝利	伊東幸男　山口浩二 福田和幸　田中幸男 東俊郎　三次英弥	栃木県 埼玉県
女子	団体	熊本県	野々口清介 芦原健身	鹿内貴美子　井村由美 橋口洞子　森山弘尚子 一村由美　高嘉	神奈川県	須田兼三郎 鹿内利保	金子直枝　大竹真紀子 松岡紀子　熊沢加代子 大宮弘枝　屋代利子	大阪府 埼玉県

第９回　神戸市（1979）

種目		優勝 都道府県	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県
男子	団体	大阪府	出口 健次 中田 守	前川 正則　福田 誠 杉本 吉男　村上 勲 見市 昌弘　鶴岡 真吾	茨城県	神立 昌文 小島 一夫	江原 均　大輪 敬広 朝倉 学　武藤 義教 森 昭博　城尾 宣幸	栃木県 新潟県
女子	団体	熊本県	芦原 健身 後藤 早苗	森山 弘美　上村 美香 高峯 尚子　大島 みどり 三由 純子　平井 真由美	大阪府	杉田 忠邦 北村 寿弥子	松田 太嘉子　石井 美治 押切 美喜　鴻上 春美	埼玉県 神奈川県

第１０回　熊本市（1980）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	東京都 調布市立第四中	福山 松良	福田 昭典 瀬木 啓之 本川 伸逸 谷 竜次 正岡 幹夫 藤沢 哲	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤 勝	猪俣 祐二 藤咲 勇一 大島 博昭 長内 裕一 杉浦 雅之 中島 次郎	静岡県 伊東市立南中 福井県 福井市立成和中	
男子	単	大阪府 四條畷学園中	杉田 忠邦	見市 昌弘	熊本県 八代市立第三中	北村 栄一郎	川本 英明	埼玉県 越谷市立栄進中 大阪府 四條畷学園中	藤咲 勇一 福田 誠
男子	複	熊本県 玉名市立玉陵中	新居 健	三次 英昭 野中 伸一郎	熊本県 熊本市立桜山中	増田 市子	松川 稔巳 福田 洋介	茨城県 阿見町立朝日中 茨城県 阿見町立朝日中	山ノ内正和 中村 雅俊 川井 健司 小野 恭哲
女子	団体	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子 春美	上村 美香 東山 薫 平井 真由美 青木 きよみ 山田 美紀 佐藤 由美子	大阪府 四條畷学園中	杉田 忠邦	鴻原 春美 末冨 政美 新木 貴子 原田 いずみ 荒井 桂子 市川 綾	埼玉県 川口市立芝中 香川県 香川町立香川第一中	
女子	単	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子 春美	上村 美香	香川県 高松市立一宮中	笹村 恵子	中川 富美子	大阪府 四條畷学園中 大阪府 四條畷学園中	原田いずみ 鴻原 春美
女子	複	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子 春美	青木 きよみ 平井 真由美	香川県 香川町立 香川第一中	新 建二	平井 美代子 田中 美幸	栃木県 今市市立今市中 岡山県 笠岡市立白石中	須藤千代子 細井 礼子 中川 史子 山川 奈緒

第１１回　奈良市（1981）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	熊本県 熊本市立桜山中	増田 市子	藤木 俊夫 鶴田 直行 林 謙一 山下 豊彦 阿久根哲也 藤村 春文	北海道 滝川市立江陵中	若松 重義	佐藤 広志 佐藤 智雄 中居 靖人 中川 豊明 西 学 松浦 良紀	埼玉県 越谷市立栄進中 神奈川県 横浜市立戸塚中	
男子	単	熊本県 熊本市立桜山中	増田 市子	林 謙一	東京都 北区神谷中	杉村 克之	黒沢 武	青森県 大鰐町立大鰐中 大阪府 四條畷学園中	一戸 英樹 江藤 裕樹
男子	複	熊本県 熊本市立桜山中	増田 市子	鶴田 直行 山下 豊彦	埼玉県 鳩ヶ谷市立里中	峰岸 早苗	松元 功一	福井県 福井市立成和中 栃木県 今市市立今市中	坂田 智洋 芦井 隆俊 柴田 直美 石川 勉
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田 忠邦	新木 貴子 和泉 昌子 片岡 明子 市川 綾 今村 薫 馬場 環	熊本県 熊本市立出水中	吉島 哲哉	高田 美和 林 幸枝 本田 淳子 米津 ゆかり 潤水 美 米岡 有紀子	埼玉県 越谷市立栄進中 香川県 香川町立香川第一中	
女子	単	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子 春美	平井 真由美	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤 勝	今井 裕子	北海道 上砂川町立上砂川中 茨城県 明野町立明野中	徳永由美子 須藤 早苗
女子	複	埼玉県 鳩ヶ谷市立里中	峰岸 早苗	今野 裕子 佐々木優美子	熊本県 熊本市立出水中	吉島 哲哉	米津 ゆかり 林 幸枝	大阪府 四條畷学園中 北海道 上砂川町立上砂川中	和泉 昌子 今村 薫 高橋 可奈 藤原 利江

第１２回　新潟市（1982）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督・マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督・マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名・選手	
男子	団体	福井県 福井市光陽中	江岸　徹	佐藤　輝行 田水木　清幹 中野林　鍬勝宏 高竹　武夫	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	石橋　隆幸 村大澤水山　寛樹裕浩一	神奈川県 横浜市立戸塚中	
								大阪府 四條畷学園中	
	単	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	石橋　隆	熊本県 長州町立長州中	高木英俊郎	浜北　和彦	東京都 立川市立立川第八中	加藤　政裕
								大阪府 四條畷学園中	早戸　敬雄
	複	埼玉県 戸田市立戸田中	永田　正彦	生井沢　勝美 立本　敬人	福井県 福井市光陽中	江岸　徹	堤　清忠 田中　幹男	茨城県 石岡市立石岡中	小室　浩之 綿川　剛
								東京都 東大和市立東大和一中	平野　治 渡辺　信正
女子	団体	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	子子子子子子 田野人人本 宇荘機人人本 関小木本坂松 京八か　優理悦留	熊本県 菊池市立菊池南中	西村　亮子	代智里子 紀美子 中田安宅河 原代須村勇津 美世子紗子子子 真岡奈 理	神奈川県 横浜市立戸塚中	
								新潟県 新潟市立関屋中	
	単	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	木庄野かおる	熊本県 菊池市立菊池北中	緒方　美保子	田島　志乃	熊本県 熊本信愛女学院中	佐藤由美子
								神奈川県 横浜市立戸塚中	牧畑　早佳
	複	香川県 香川町立 香川第一中	新　建二	山本　知美 塩田　美佐子	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	岡井　裕子 和田　陽子	新潟県 新潟市立関屋中	小池由扶子 藤井　裕絵
								愛知県 愛知淑徳中	六伊東　由平香恵

第１３回　新庄市（1983）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督・マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督・マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名・選手	
男子	団体	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	紙谷　隆志 久住　猛 小本本津村　永久男也 小敬中　冨大	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	大島　吉田　男一 和田村　剛孝 大木山　義治 杉島井　直恒　朗一	埼玉県 戸田市立戸田中	
								埼玉県 越谷市立栄進中	
	単	京都府 ヴィアトール 学園洛星中	上杉　光弥	三角　典生	栃木県 今市市立今市中	斉藤　康明	大堀　均	北海道 旭川市立嵐中	三船　昌晴
								熊本県 熊本市立出水中	畑野　宏幸
	複	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	紙谷　隆志 久住　猛	北海道 滝川市立江陵中	若松　里義	谷口　久永 林　秀行	新潟県 燕市立燕中	梅田　毅 田中　忠夫
								茨城県 阿見市立阿見中	結束之内　雄二 滋
女子	団体	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	愛子み美江子草 塚本城人ズ保積 平松原坂大関穂 慶恩と直典裕千 ひ	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	美子内 代美角津田 紀夏奈子恵子香 沢辺　美都加美 西渡林　田下泉畑 和	茨城県 石岡市立石岡中	
								北海道 上砂川町立上砂川中	
	単	熊本県 熊本市立帯山中	吉田三恵子	松尾　知美	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁	三上　明子	茨城県 明野町立明野中	松本　啓子
								岡山県 倉敷市立倉敷中	西林　昭子
	複	熊本県 菊池市立菊池南中	西村　亮子	安達　優子 毛利　千秋	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	西沢　紀代美 林　美希	千葉県 長柄町立昭栄中	村上　文江子 行方　紀子
								滋賀県 草津市立草津中	田中　美和子 川村　祐子

第１４回　大府市（1984）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督・マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督・マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名・選手	
男子	団体	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	基隆一 本井畑口根野 岡石大田岡小須 英昭誠英昭隆弘 一意勝裕弘	栃木県 小山市立 小山第二中	大根田康子	秋津　玲治 斉藤　佳晴 吉佐汗大田 治朗郎郎幸 玲佳美恵忠一匡 津藤藤藤藤藤 中	富山県 上市町立上市中	
								北海道 滝川市立江陵中	
	単	奈良県 奈良市立二名中	山口　純子	中橋　一晃	熊本県 岱明町立岱明中	高牟　彰子	高村　誠也	石川県 宇ノ気町立宇ノ気中	小池田　基
								滋賀県 大津市立皇子山中	飴木草麻生
	複	栃木県 小山市立 小山第二中	大根田康子	秋津　玲治 斉藤　佳晴	青森県 弘前市立 弘前第一中	上野　四郎	小野　武 山本　秀樹	埼玉県 越谷市立栄進中	石井　隆 大畑　昭一
								石川県 七塚町立狗北台中	大塚　貴康 田丸　裕一
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	子子子子子子子 川ツ川 北利三南岡西荒 実貴貴愛恵則 里里田井	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁	秋子子子子子 智紀加 井浦泉田々中光 乳三和原佐田道 美美由千盛	埼玉県 越谷市立栄進中	
								熊本県 熊本市立京陵中	
	単	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	幸　匡子	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁	乳井　智秋	大阪府 四條畷学園中	利川　貴子
								熊本県 熊本市立京陵中	戸泉和加子
	複	熊本県 熊本市立楠中	長野　寛	江良　智子 工藤　雅代	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	北川　実子 三ツ川　貴子	茨城県 石岡市立石岡中	塚沢　昌子代 鬼沢　絹
								大阪府 大阪市立旭陽中	前田　貴代美 山下　香

第１５回　登別市（1985）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名
男子	団体	熊本県 岱明町立岱明中	高峯彰子 江口英二	高村誠也 中村敏丸上 西春牛路 也司 八時憶也宏	富山県 上市町立上市中	高島由順	明史 原田 原田 一	北海道 旭川市立江陵中	
								埼玉県 越谷市立栄進中	
	単	熊本県 岱明町立岱明中	高峯彰子	高村誠也	北海道 陸別町立陸別中	根岸邦昌	岡山匡	奈良県 奈良市立二名中	中橋一晃
								青森県 弘前市立弘前第一中	工藤康智
	複	青森県 弘前市立 弘前第一中	山内時治	加藤正明 今昌仁	茨城県 明野町立明野中	神立昌文	竹内井文哲 物規夫	青森県 弘前市立弘前第一中	大谷知昌 佐々木正文
								熊本県 岱明町立岱明中	西村健時 隅介
女子	団体	熊本県 熊本市立京陵中	今村孝利 後藤利子	田桜子 岡木本原田 金林吉高松小本 理美 菊理康朗 思子子市代子	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤勝 海野かおり	津川井 船迫加西白山 佳 ゆみちき 子ナナりきげ思	大阪府 四條畷学園中	
								栃木県 宇都宮市立鬼怒中	
	単	熊本県 熊本市立西原中	坂為清	宮村愛子	熊本県 熊本市立京陵中	今村孝利 吉岡徳子	松本理思	山梨県 甲府市立甲府北中	日原恵美子
								北海道 室蘭市立東明中	三上直子
	複	熊本県 菊池市立 菊池南中	荻原一光 堀井尚美	中原敬子 甲斐美和	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤勝 山内賢春	船津佳子 加門ゆかり	北海道 陸別市立陸別中	倉嶋絵理子 吉田中範子
								兵庫県 加古川市立中部中	吉田悦子 三浦亜紀子

第１６回　真岡市（1986）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名
男子	団体	石川県 七塚町立河北台中	森川徹 池上公之	花北井谷野瀬村 芳幸史晃 秀淳一郎 嶋隆勲	神奈川県 横浜市立金沢中	後藤秀晴 藤井康友	橋鈴木野田 本 昭 貴 大透浪弘	大阪府 四條畷学園中	
							根松高 本田森 翠 敦	滋賀県 大津市立堅田中	
	単	大阪府 四條畷学園中	仲尾信一	小河原崇	栃木県 宇都宮市立旭中	黒川雄才	磯部和弘	北海道 旭川市立広陵中	古川英樹
								沖縄県 糸満市立三和中	金城勉
	複	石川県 宇ノ気町立 宇ノ気中	野川徹	藤島浩司 藤森隆	茨城県 明野町立明野中	神立昌文	中島祐二 飯泉哲也	北海道 旭川市立広陵中	末村利彦 佐藤昌伸
								熊本県 岱明町立岱明中	田上圭志 本田和裕
女子	団体	香川県 香川町立 香川第一中	新建二 長尾文代	重田磯田長谷箱 六古米廻村小吉 澄幸 紀理 由恵 佳佳 子代子子美子実	栃木県 宇都宮市立 鬼怒中	神長倡夫 堀田恵美	島小柳佐笹 岡松田木々木 千陵晃紀洋 恵保弘 悟子代子子美	大阪府 四條畷学園中	
								熊本県 熊本市立西山中	
	単	熊本県 熊本市立京陵中	今村孝利	宮村愛子	熊本県 熊本市立京陵中	今村孝利	松本理思	大阪府 四條畷学園中	水井妃佐子
								兵庫県 園田学園中	小泉友紀
	複	熊本県 熊本市立西山中	畠山篤	松田治子 阪本雅子	栃木県 宇都宮市立 鬼怒中	神長倡夫	小松隆子 鈴木洋子	青森県 弘前市立弘前第一中	瀧江圭美 尾嶋由美
								熊本県 熊本市立楠中	松本真子 緒方貴子

第１７回　春日井市（1987）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名
男子	団体	石川県 高松町立高松中	浅野外志 金津貢禎	金竹大 津中多野田 新留 外 勲 欣司郎広朗 次孝喜 柴西森	東京都 田無市立 田無第一中	田嶋隆 三浦猛	松柳川野朝後後 野川嶋口田藤藤 貝正武 琢高 一紀志 勇仁広	青森県 弘前市立弘前第一中	
								栃木県 宇都宮市立旭中	
	単	熊本県 岱明町立岱明中	中村浩史	本田和裕	熊本県 熊本市立京陵中	今村孝利	岡部英郎	北海道 旭川市立神居古潭中	馬木貴之
								埼玉県 越谷市立栄進中	関根靖則
	複	熊本県 岱明町立岱明中	中村浩史	前田尚史 池嶋和政	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋仁	山口英二 福士誠	東京都 田無市立田無第一中	野口勉 朝田勇
								大阪府 柏原市立堅下北中	喜多喜 福地貴司
女子	団体	香川県 香川町立 香川第一中	新建二 長尾文代	木角 平大 祥美 ゆ 亜 利 子和み香段 河 奈津美	青森県 弘前市立 弘前第一中	和島秀美 福士亜紀子	花藤本工岡 田 佳朋由 真 馬田谷 鳳子子美 麻智 美子子	福岡県 岡垣町立岡垣中	
								埼玉県 越谷市立栄進中	
	単	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦	玉村由紀	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦	松田洋子	青森県 弘前市立弘前第一中	米谷真智子
								熊本県 熊本市立西山中	阪本雅子
	複	熊本県 熊本市立京陵中	今村孝利	後藤利子 渡辺真由美	香川県 香川町立 香川第一中	新建二	棚澤ゆみ 大角美和	熊本県 熊本信愛女学院中	川添美奈 宇野香織
								熊本県 菊池市立菊池北中	足達和泉子 坂本佳明子

第１８回　盛岡市（1988）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名	三位 選手名
男子	団体	東京都 田無市立 田無第一中	田嶋　隆 長谷川英慶	野口起之 田嶋雅幸 浦元博 上福雄	大阪府 四條畷学園中	仲尾信一 杉田忠邦	川田浩二 中藤敏史 有田浩史	青森県 弘前市立弘前第一中	沢田崇文
	単	福岡県 岡垣町立岡垣中	山本義充	潤石忠博	千葉県 千葉市立山王中	福本順	太田慎二	熊本県 芦北町立芦北中	福田茂
	複	東京都 田無市立 田無第一中	田嶋　隆	茂野博起 山浦元樹	石川県 美川町立美川中	水内浩	石本明男 本田暁錦	奈良県 奈良市立二名中	林田崇 小谷昭利
								茨城県 阿見町立阿見中	吉岡秀樹 沼尻裕昭
女子	団体	宮城県 聖ウルスラ学院中	片桐　勉 小野寺裕美	橋本淳子 高橋坂香子 林田加代 山下裕美 千葉ゆみ	栃木県 宇都宮市立 鬼怒中	神長信夫 古橋安紀子	大久保弘美 斉藤忍 村田麻里子 上川忠菊 長谷川枝	大阪府 四條畷学園中	
								香川県 香川町立香川第一中	
	単	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁	米谷真智子	宮城県 聖ウルスラ学院中	片桐　勉	橋本淳子	大阪府 四條畷学園中	水井泰子
								熊本県 熊本市立錦ヶ丘中	福島千里
	複	香川県 香川町立 香川第一中	新　建二	冨田美津枝 村瀬香	富山県 富山市立芝園中	陰山陽子	河口奈緒美 下村絵里	栃木県 宇都宮市立鬼怒中	大久保弘美 斉藤忍
								大阪府 四條畷学園中	渡由紀 杉田錦子

第１９回　山口市（1989）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名	三位 選手名
男子	団体	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁 時苗　淳	戸祭　潤 伊東宏一 木下亜公 三舘世貴 時工藤浩 佐山藤治	茨城県 伊奈町立 伊奈東中	国井徹 大久保和人	島竹内瑞敬 成小倉美 堀口純 須藤勝 鈴木文 高橋止	大阪府 四條畷学園中	
								香川県 香川町立香川第一中	
	単	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁 時苗　淳	戸祭　潤	長崎県 大村市立玖島中	川添誠	片岡直茂	茨城県 伊奈町立伊奈東中	成島瑞恵
								千葉県 習志野市立第三中	福間豪
	複	大阪府 四條畷学園中	仲尾信一 杉田忠邦	有田浩史 斎藤俊	佐賀県 山内町立山内中	吉田俊明 田崎秀和	大宅正樹 山下新郎	青森県 弘前市立弘前第一中	時苗亮 鈴木宏章
								埼玉県 川口市立北中	笛内将人 五十嵐豊明
女子	団体	熊本県 熊本市立京陵中	西原慶児 東　里英	村串貴子 岡野亜美 浦添美保 田明美 宮大谷原幸恵 松川浦子	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦 仲尾信一	田多田貴子 口井側香 橋川水澄 市側美紀	宮城県 聖ウルスラ学院中	
								東京都 立川市立立川第八中	
	単	青森県 弘前市立 弘前第一中	和島秀美 加藤弘幸	米谷真智子	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦 仲尾信一	水井泰子	熊本県 熊本市立京陵中	宮村亜貴子
								東京都 杉並区立大宮中	小杉朋子
	複	北海道 旭川市立 神居古潭中	中村光生 笠井殷明	増茂孝枝 中山智香子	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦 仲尾信一	信田富貴 川口桐香	宮城県 聖ウルスラ学院中	山田裕美子 佐竹朋子
								宮城県 聖ウルスラ学院中	岡加代子 貴田泉

第２０回　坂出市（1990）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名	三位 選手名
男子	団体	香川県 香川町立 香川第一中	新　建二 北川幸子	樹文助隆介明 北保川上谷 直毅大和祐俊裕 河久吉村林純瀬	香川県 高松市立勝賀中	石川貴義 十河聖司	元利紀之 佐藤久設雅睦也 本田哲 山前和香西 石田部誠	茨城県 石下町立石下中	
								茨城県 阿見町立阿見中	
	単	茨城県 石下町立石下中	上家　治 比毛英幸	荒井孝	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋仁 川口竜美	山口将治	大阪府 四條畷学園中	北川明
								北海道 登別市札内中	井野嘉久
	複	佐賀県 山内町立山内中	吉田俊明	樋渡順也 多久島誠	佐賀県 山内町立山内中	吉田俊明	山下大介 山口智一	茨城県 阿見町立阿見中	矢部正博 斎藤豊
								香川県 香川町立香川第一中	久保敬文 村上和隆
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦 仲尾信一	井口保子 泰岡田美紀代 水川澄美加理 中市鬼市	東京都 立川市立 立川第八中	渡辺重己 尾方ますみ	西木場美紀 一戸和田麦子 松坂下嵐亜紀子 五米田奈加子 中窟田嶋	宮城県 聖ウルスラ学院中	
								岡山県 岡山市立西大寺中	
	単	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦 仲尾信一	水井泰子	熊本県 熊本市立東町中	田原幹資	坂本美千穂	熊本県 熊本市立京陵中	原野美紀
								石川県 七塚市立河北台中	樫井宏子
	複	北海道 旭川市立 神居古潭中	中村光生 笠井殷明	増茂孝枝 中山智香子	大阪府 四條畷学園中	杉田忠邦 仲尾信一	川口桐香 市橋美紀	栃木県 宇都宮市立鬼怒中	樹田明子 鈴木恵
								宮城県 聖ウルスラ学院中	貴田泉 太田裕子

第２１回　熊本市（1991）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 / 選手
男子	団体	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁 工藤　真澄	山口　将治 時苗　淳 加藤　弘幸 皿田　和大 山内　晃 船竹　輔太	熊本県 岱明町立岱明中	眞田　靖英 栃野　由貴	田上　尚修 田崎　誠一郎 池内　修治 田上　良征 古庄　隆	富山県 上市町立上市中 香川県 香川町立香川第一中
男子	単	北海道 旭川市立 神居古瀬中	中村　光生 斉藤　裕子	一宮　孝一	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁 工藤　真澄	山口　将治	岡森県 弘前市立弘前第一中　皿田　淳 富山県 高岡市立志貴野中　紙谷　仁士
男子	複	青森県 弘前市立 弘前第一中	高屋　仁 工藤　真澄	時苗　淳 加藤　弘幸	熊本県 岱明町立岱明中	眞田　靖英 栃野　由貴	田上　尚修	栃木県 小山市立小山城南中　下島　洋樹 香川県 香川町立香川第一中　瀬野　裕明
女子	団体	大阪府 四条畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	市川　美紀 横山　知恵 小林　加奈 本間　美久	富山県 富山市立奥田中	金子　俊哉 佐竹　陸太	山本　未来 加山　知恵 池米　里美	熊本県 熊本市立東町中 熊本県 熊本市立京陵中
女子	単	東京都 立川市立 立川第八中	渡辺　重己 中川　史子	米倉　加奈子	佐賀県 鳥栖市立田代中	豊田　博司	田中　美保	栃木県 宇都宮市立陽北中　野津沢暁子 香川県 香川町立香川第一中　庄子　絵美
女子	複	香川県 香川町立 香川第一中	新　理二 高木　由佳里	中山　真理子 徳永　郁子	熊本県 熊本市立京陵中	山本　奈子 富田　久美子	洲鎌　靖子 東　登子	茨城県 石岡市立国府中　高木　恵理子 宮城県 聖ウルスラ学院中　本田　裕子

第２２回　高岡市（1992）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 / 選手
男子	団体	茨城県 石下町立石下中	斉藤　修一 和田　英昭	石林　洋弘 光利　裕二 稲小大小笠原　渡辺	栃木県 宇都宮市立旭中	櫛渕　正一 武田　二郎	青田　孝英 山崎　浩和 林原　修治	青森県 弘前市立弘前第一中 埼玉県 川島町立川島中
男子	単	北海道 旭川市立 神居古瀬中	斉藤　裕子	馬木　智一	埼玉県 浦和市立岸中	長瀬　俊一 谷口　和佳	中村　憲直	茨城県 石下町立石下中　小林　利弘 石川県 金沢市立医王山中　堰坂　渉
男子	複	富山県 上市町立上市中	土肥　克雄 吉田　弘治	酒井　大輔 久保　浩之	栃木県 宇都宮市立旭中	櫛渕　正一 野口　直彦	青木　孝徳 山田　浩史	茨城県 石下町立石下中　櫛石　光洋 熊本県 八代市立第二中　川嶋　大造
女子	団体	熊本県 熊本市立京陵中	西原　憲児 渡辺　直美	東洲本里美 鎌田田村井尻 登喜恵愛ゆ和 里子利美子 美 古田	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一 石川　拓司	水市北吉柳川谷 上楠田岡本辺嶋 大理百四 久仁 ゆき	富山県 富山市立奥田中 富山県 高岡市立南星中
女子	単	宮城県 聖ウルスラ学院中	片桐　勉 安孫子　千絵	太田　裕子	福岡県 福岡市立城南中	高田　俊哉 永石　理美	大田　久美	栃木県 宇都宮市立旭中　関本　祥子 大阪府 四條畷学園中　市橋　理恵
女子	複	富山県 富山市立奥田中	金子　俊哉 小槻　晃子	加藤真知子 山田　育子	熊本県 熊本市立京陵中	西原　憲児 渡辺　直美	東　美登里 洲鎌　靖子	熊本県 熊本市立京陵中　本田　愛美 熊本県 熊本市立東町中　秋月　理沙 片山希美子

第２３回　大津市（1993）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 / 選手
男子	団体	香川県 香川町立 香川第一中	新　理二 上原　延幸	樹生　照介 里華　勝博 藤池大祐中久安	香川県 高松市立玉藻中	久保　賢吾 前原　亮裕	熊福谷　尚雅義 田川山田谷　信明奈 長鎌東　建知雅　志樹	大阪府 四條畷学園中 滋賀県 大津市立真野中
男子	単	長崎県 長崎市立大浦中	山口　孝子	大東　忠司	滋賀県 大津市田上中	村上　隆三	向　裕樹	石川県 金沢市立成生中　舛田　圭太 大阪府 四條畷学園中　川口　智士
男子	複	香川県 高松市立玉藻中	久保　賢吾	熊田　尚彦 鎌田　和樹	岡森県 弘前市立 弘前第一中	田中　宏明	藤田　貞人 川口　英春	埼玉県 川島町立西中　福富　明宏 茨城県 阿見町立朝日中　佐藤　大輔
女子	団体	香川県 高松市立玉藻中	鈴木　俊彦 園井　伯里	生 田本山井田 弱石杉岡米海佐 掲ち知美佳瞳行 藤 子子代子代 真	熊本県 熊本市立東町中	松田正二郎 池田　聡子	仲永村児 原嶋玉代山妻 千弘奈加奈友 田酒甲 香子子子香 祥思明日	滋賀県 大津市立日吉中 茨城県 石岡市立国府中
女子	単	熊本県 八代市立第四中	吉永　政義	一美　ゆかり	茨城県 石岡市立国府中	国井　徹	井川　里美	滋賀県 大津市立日吉中　勝嶋　梨絵 熊本県 八代市立第四中　嶋田　友紀
女子	複	茨城県 石岡市立国府中	国井　徹	森　陽子 仲田　智美	熊本県 岱明町立岱明中	眞田　晴美	中川麻衣子 翔田　奈美	熊本県 八代市立第三中　山窪　智美 松蒲 香川県 香川町立香川第一中　徳永由佳子重 高末

第２４回　旭川市（1994）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名	三位 選手名
男子	団体	香川県 香川町立香川第一中	宮本　浩 富田　健太	保西比賀貴田田 久中小安平前槇	大阪府 大阪市立成中	岩田　信之 柴田　哲夫	木下　秀文 良原　雅也 川谷　和裕 本橋　和悠	宮城県 多賀城市立第二中	藤介上原志博志 和貴文正
								石川県 高松町立高松中	大司
	単	香川県 香川町立香川第一中	宮本　浩	中西　洋介	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一	仲尾　修一	北海道 旭川市立豊里中	上田　大輔
								北海道 苫小牧市立第四中	三上　祐司
	複	大阪府 四條畷学園中	岩田　信之	永谷　和也 福川　和也	宮城県 多賀城市立第二中	遠山　勝治	我妻　克彦 松井　洋太	香川県 高松市立玉藻中	東　雅樹 前原　亮裕
								東京都 国分寺市立第四中	平 佐々木恭公人
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一 増田　佐知子	子子子子子子子 谷小弘き由ツ永里 川鴫畑宝水川田口 上坂	北海道 旭川市立広陵中	中村　光生 小城　好永	子子美子子乃子 黒澤東野鏡塚北 石尾坂宮宅大上	熊本県 菊水町立菊水中	
								長崎県 長崎市立東長崎中	
	単	熊本県 菊水町立菊水中	三次　圭介	正木　真澄	石川県 金沢市立西南部中	寺西　誠子	岩路　史	福岡県 北九州市立城南中	森　かおり
								東京都 立川市立立川第八中	久家あすか
	複	宮城県 聖ウルスラ学院中	酒井　正彦	西城　真理子 斎藤　奈緒	香川県 高松市立玉藻中	地下　雄二	米田　佳代 佐藤　行代	北海道 旭川市立忠和中	山 遠
								熊本県 熊本市立西山中	福 福

第２５回　川崎市（1995）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名	三位 選手名
男子	団体	香川県 香川町立香川第一中	林　淳生 新　建二	関真田田井竹 和貴止健作一 安立槇前高藤佐	香川県 高松市立玉藻中	久保　賢吾 白浜　哲次	原野川山宮田 前大松岡二多田	岩手県 石川県 田鍋浜町立田鍋浜中	佐佐佐 藤藤藤
								長崎県 長崎市立大浦中	
	単	長崎県 長崎市立大浦中	山口　孝子	大東　真也	岡山県 倉敷市立福田中	中須賀祥雅	楊村　竜彦	石川県 田鍋浜町立田鍋浜中	酒井　忠相
								石川県 金沢市立北鳴中	荒谷　徳靖
	複	石川県 田鍋浜町立田鍋浜中	鍋田　建治	大畠　隆史 山下　淳	香川県 高松市立玉藻中	久保　賢吾	前原　亮裕 二宮　和敏	三重県 小俣町立小俣中	山田 松本
								熊本県 岱明町立岱明中	末 香
女子	団体	香川県 香川町立香川第一中	松本ともみ 新　建二	明子香里代美春 城川賀口田井井 戸黒小浜岸瀬原	大阪府 大阪市立成中	神谷　績	由美お千依恵樹 松安福元弱思森 屋城井木嶋良	大阪府 四條畷学園中	量 子
								長崎県 長崎市立東長崎中	
	単	長崎県 長崎市立東長崎中	飯田　豊子	松尾　美翔子	大阪府 大阪市立成中	神谷　績	安城　美華	大阪府 四條畷学園中	速水　永子
								滋賀県 彦根市立西中	上田　絵美
	複	埼玉県 鳩ヶ谷市立八幡木中	渡辺　暄	八木田　仁美 大熊　倫子	香川県 香川町立香川第一中	松本ともみ	戸城　千明 黒川加奈子	茨城県 石岡市立国府中	森 渡辺
								香川県 香川町立香川第一中	浜口 岸田

第２６回　大府市（1996）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名	三位 選手名
男子	団体	石川県 田鍋浜町立田鍋浜中	観田　健治 上野　茂	廣瀬下尾田井口 山原田井口 長柴寺谷林 雅浮典明航 士 史	石川県 高松町立高松中	香林　直明 藤嶋　和俊	井田田森北野畑 大生拓和大博 川堀金 輔哲也 裕 太	北海道 旭川市立広陵中	
								香川県 高松市立玉藻中	
	単	香川県 香川町立香川第一中	大西　利昭	前田　丈博	愛知県 春日井市立石尾台中	中岡　智英	稲垣　翔悟	東京都 文京区立文林中	下川　裕一
								北海道 旭川市立広陵中	楊本　暁人
	複	石川県 田鍋浜町立田鍋浜中	観田　健治	廣瀬　雅士 長尾　昌典	三重県 小俣町立小俣中	中川　隆文	山嶋　真一郎 谷口　斉	熊本県 合志町立合志中	衛 山
								石川県 高松町立高松中	堀田　平 金田　洋拓也
女子	団体	香川県 香川町立香川第一中	松本ともみ 新　建二	里代ひ子子子子 口田井井 浜原西澤八丸 有祐久依智 麻	長崎県 長崎市立東長崎中	飯田　豊子 宮本　光雄	尾村田上野井 松島松治佐坂 能社梨美	富山県 高岡市立南星中	
								石川県 美川町立美川中	
	単	大分県 別府市立鶴見台中	三浦　徹雄	俊藤あゆみ	宮城県 仙台市立大沢中	鈴木　伸明	寺本　悦子	福岡県 北九州市立南曽根中	田邊　理恵
								富山県 富山市立婦川中	大下　詩織
	複	香川県 香川町立香川第一中	松本ともみ	浜口　有里 岸田　鈴代	東京都 町田市立成瀬台中	金子　佳子	吉野奈津子 町　美佳	東京都 日本橋女学院中	土 依
								福岡県 北九州市立千代中	田ノ上永利子 石井　奈緒

第２７回　新居浜市（1997）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・選手・学校名	
男子	団体	栃木県 宇都宮市立旭中	野間　司 村岡　敏也	会沢　真之介 沢野　有悠 関口　貴久 会関　志斉 五十嵐　斉	北海道 旭川市立広陵中	中村　光生 大塔　雅裕	早坂　幸甲 加藤川台二高大 洋健祐弘男舒 裕甲二西岡郎	宮城県 宮城市立青葉中	
								広島県 広島町立飯島中	
	単	東京都 小平市立上水中	福長　憲光	佐藤　翔治	北海道 上磯町立上磯中	部司　京子	佐々木　瑚	岡山県 倉敷市立福田中	西森　大輔
								奈良県 奈良市立若草中	諸多　大輔
	複	栃木県 宇都宮市立旭中	野間　司	会沢　真之介 関野　有起	北海道 旭川市立広陵中	中村　光生	早坂　幸甲 川島　健一	神奈川県 津久井町立串川中	関口　貴久夫 会沢　真之輔
								三重県 小俣町立小俣中	関野　有悠 五十嵐　斉行
女子	団体	富山県 高岡市立南星中	新田　公代 村野　仁美	幸希香代吉子美 美美美美奈祐万 村岡川井本川松 田吉小今江谷近	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三 山本　知佳	川島　彩紀子 渡邊　千幸 川谷川栄 島加子幸 渡邊早多岡三	香川県 香川町立香川第一中	
								熊本県 熊本市立北部中	
	単	長崎県 長崎市立東長崎中	井手　大統	松田　友美	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	渡邊　晏紀	埼玉県 川島町立西中	広岡まり香
								大阪府 四條畷学園中	吉岡久美子
	複	熊本県 熊本市立東町中	鶴田　智春	志賀　仁恵 大道　美紀	熊本県 熊本市立北部中	畠山　隆	戸泉　貞甲 黒木　裕佳	富山県 高岡市立成美中	吉岡　美希 小川　美香
								茨城県 石岡市立城南中	高塚野　真優 草歩

第２８回　仙台市（1998）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・選手・学校名	
男子	団体	岡山県 倉敷市立連島中	畑　健二 谷口　賢次	一吉岡晃幸人介 浩大谷伊貴眞祐 伯井生田本尾 佐永麻河岡雄中	東京都 東大和市立第四中	渡辺　英俊 松山　謙悟	史人内戸紀志樹 敦留間岡仁 間本賀怒塚鳴形 比松佐洋林山	石川県 田鶴浜町立田鶴浜中	
								茨城県 阿見町立阿見中	
	単	長崎県 琴海町立琴海中	小川　健吾	左村　正和	岡山県 倉敷市立連島中	畑　健二	佐伯　浩一	埼玉県 鳩ヶ谷市立里中	佐藤　孝一
								北海道 旭川市立豊里中	長原　克博
	複	熊本県 岱明町立岱明中	佐藤　有美	大賀　将裕 小山　貴広	東京都 東大和市立第四中	渡辺　英俊	坂　敦史 比留間　望人	福岡県 岡垣町立岡垣中	斉藤　篤史 梅木　亮介
								石川県 金沢市立高岡中	岩内田　佐雅之彦
女子	団体	埼玉県 川島町立西中	名倉　康弘 萩原　智里	香美里子子子菜 岡綾立下熊池田 吉原新 広佐小宮大小岩	茨城県 石岡市立国府中	成井　嘉男 松下　高輝	佳子紀美貴子 野水村　引水谷川 高渕木森綿渕長	宮城県 聖ウルスラ学院中	
								熊本県 鏡町立鏡中	
	単	福岡県 苅田町立新津中	市木　良子	潮田　玲子	埼玉県 川島町立西中	名倉　康弘	広岡まり香	埼玉県 川島町立西中	岩田　新菜
								三重県 川越市立川越中	小椋久美子
	複	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	早川由希子 多谷　郁恵	熊本県 八代市立第一中	高嶋　宏幸	金建　有香 西村　奈央	宮城県 聖ウルスラ学院中	佐野志緒梨子 金上
								奈良県 橿原町立橿原中	目黒田　香緒子 菜

第２９回　福井市（1999）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・選手・学校名	
男子	団体	福岡県 岡垣町立岡垣中	高嶋　靖浩 末次　竜則	一介也治貴雄 雄裕一知吹久 小池小秋岡福松 渡田木武村島本	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三 村上　翔子	洋節貴中太志一 公康憲幸健公岡 山吉辻杉数多阜 口田田野谷川	岡山県 倉敷市立連島中	
								茨城県 阿見町立阿見中	
	単	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	山口　公洋	福岡県 岡垣町立岡垣中	高嶋　靖浩	小澤　薗	埼玉県 鳩ヶ谷市立里中	星野　文彦
								広島県 広島市立城山北中	酒井　宏治
	複	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	辻田　嘉章 早川　賢一	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	吉田　康範 多谷　公志	岡山県 倉敷市立連島中	中尾　祐介 堀　貴人
								石川県 金沢市立尾坐中	宮村田　順也 一哉
女子	団体	埼玉県 川島町立西中	名倉　康弘 加賀和　道也	子香美菜子子和 由新里思未佑岡美 池田田木々田川藤 小宮吉尾倉知斉	茨城県 石岡市立国府中	成井　嘉男 松下　高輝	子貴美子梨里子 水引　陽悠絵貴千津 渡綾高渕木長大 村谷川塚奈友	宮城県 聖ウルスラ学院中	
								長崎県 長崎市立東長崎中	
	単	埼玉県 川島町立西中	名倉　康弘	岩田　新菜	奈良県 大和高田市立片塩中	西嶋　健司	今別府　靖代	兵庫県 中谷中	広瀬栄理子
								埼玉県 川島町立西中	小池　由子
	複	茨城県 石岡市立国府中	成井　嘉男	清水　陽子 塙引　悠貴	山口県 宇部市立厚狭中	永下　政之	青山　早希 木村　綾	奈良県 橿原町立橿原中	目黒　香麻子 伊藤
								宮城県 聖ウルスラ学院中	田島　朝美 平山　優

第３０回　熊本市（2000）

種目		優勝			準優勝			三位	
		都道府県・学校名	監督名（マネージャー名）	選手名	都道府県・学校名	監督名（マネージャー名）	選手名	都道府県・学校名（選手）	
男子	団体	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三 市川　勇樹	數野　健太 野谷川川知川本 多吉彦一作一也 數多市吉彦章松	茨城県 阿見町立阿見中	松井　洋 田村　豊	形田島村井修山 宗像高木糸飯背 克明博明忍太士 俊俊康成　新鎮	岡山県 倉敷市立連島中 福岡県 岡垣町立岡垣中	
	単	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	數野　健太	東京都 日野市立三沢中	熊沢　直孝	宵山　天将	熊本県 菊陽町立武蔵ヶ丘	古財　和輝
								石川県 金沢市立犀生中	宮村　順也
	複	茨城県 阿見町立阿見中	松井　洋	黒田　俊明 高島　康博	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	多谷　公志 早川　賢一	熊本県 岱明町立岱明中	吉谷本　賢雄三
								栃木県 宇都宮市立旭中	湯原　賢仁哉 福井　辰
女子	団体	宮城県 聖ウルスラ学院中	常田　貴裕 田所　光男	尾平古加小佐水 関山山藤林木間田彩加 岡鴨菜明由奈 美優咲子衣真奈	石川県 美川町立美川中	山岸　直子 松田　新二郎	木梨御本中松浜 村木前田村岳中 咲春香十博由麻亜 絵花田裕美智子	熊本県 鏡町立鏡中	
								熊本県 岱明町立岱明中	
	単	熊本県 球磨村立球磨中	原田ゆかり	吉村　征美	静岡県 富士宮市立 富士宮第一中	清　邦彦	村松　瑞穂	宮城県 聖ウルスラ学院中	平山　優
								石川県 金沢市立金石中	伊東　可奈
	複	熊本県 熊本市立北部中	田中　文朗	原田　夏美 坂田　舞	福岡県 岡垣町立岡垣中	安藤　幸二	小野　智子 坂本　明子	長崎県 長崎市立東長崎中	鶴田　愛美子 上野　麻
								熊本県 鏡町立鏡中	伊藤　実和子 深川友里江

第３１回　広島市（2001）

種目		優勝			準優勝			三位	
		都道府県・学校名	監督名（マネージャー名）	選手名	都道府県・学校名	監督名（マネージャー名）	選手名	都道府県・学校名（選手）	
男子	団体	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一 吉村　美紀	多山田谷 真大安 勝陽敬 人介之瑛 志晋也 本井 賀貴槙 太勝和	東京都 国分寺市立 第一中	島　朝樹 菊池由里子	藤北五井錦小小 田島女 月内木野林 生出原明裕大郎 原近雅大雄 琢二	熊本県 熊本市立北部中	
								広島県 広島市立城山北中	
	単	熊本県 八代市立第三中	和田　良子	川口　譲太郎	栃木県 宇都宮市立 宮島中	鈴木　成唯	黄倉　英	岡山県 倉敷市立連島中	田村　潤
								埼玉県 鴻ヶ谷市立里中	遠藤　大由
	複	茨城県 阿見町立阿見中	松井　洋	糸井　忍 木村　成明	福井県 福井市明倫中	西行　功	齋藤　真弘 齋藤　祐司	福井県 福井市至民中	佐々木大介 佐野村　裕介
								栃木県 宇都宮市立旭中	増渕　行興 中望　貴好
女子	団体	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三 安本　圭佑	夏未ナナ子美 里貴依翔づ純あ美奈 元岩本上妻中嶋 島堤彩村田田三	徳島県 徳島市徳島中	大阪真智子 吉田　泰造	植村住川 まさ 桂芽衣 梨香 純 麻井近中田阪木 前大仁 よ子子 子や子	宮城県 聖ウルスラ学院中	
								広島県 広島市立城山北中	
	単	滋賀県 大津市立日吉中	村上　隆三	垣岩　真未	熊本県 芦北町立湯浦中	鶴田　恵美	藤井　瑞希	北海道 札幌市立石山中	永野　陽子
								大阪府 大阪市立成西中	松尾　静香
	複	熊本県 球磨村立球磨中	前原　宏治	岡　ひとみ 西　郁美	広島県 広島市立 城山北中	高木　義仁	大田　佳奈 鎗山　智美	滋賀県 大津市立日吉中	村上　翔子 杉本　依子
								長崎県 長崎市立東長崎中	白鶴田　麻衣子 貝　理

第３２回　大津市（2002）

種目		優勝			準優勝			三位	
		都道府県・学校名	監督名（マネージャー名）	選手名	都道府県・学校名	監督名（マネージャー名）	選手名	都道府県・学校名（選手）	
男子	団体	埼玉県 埼玉栄中	名倉　康弘 大屋　貴司	鴫田木 大本佐上田松小 尻田児丸村 彰 一 拓 一勇 一 太	岡山県 倉敷市立連島中	畑　健二 小松原　健一	三石佐藤三栗来 宅井伊原鴫田吉 遠敬祐理淳 也之行人司丈住 佑	岩手県 矢巾町立矢巾中	
								福井県 福井市明倫中	
	単	岡山県 倉敷市立連島中	畑　健二	佐伯　祐行	愛媛県 新居浜市立東中	藤田　義之	早鴫　修平	石川県 金沢市立大徳中	安藤　総兵
								埼玉県 埼玉栄中	佐々木　啓
	複	埼玉県 埼玉栄中	名倉　康弘	大鴫　一彰 本田　純	福井県 福井市明倫中	西行　功	齋藤　祐司 齋藤　真弘	東京都 国分寺市立第一中	鈴木　大裕明 竹内　雅
								栃木県 宇都宮市立星が丘中	羽石　直弥平 山口　耕
女子	団体	香川県 高松市立太田中	平野　勝也 安部　純子	本渡野城山本金 岸平長大栄伝荒 美美美美信成香 貝宏亜章可都 沙沙 志	徳島県 徳島市徳島中	大阪真智子 西野　昌明	前大大仁西立来 田伏阪木　川田 香 梨早 あ 由か 紗ゆ 子希や子衣り希	栃木県 河内町立河内中	
								富山県 富山市立和合中	
	単	熊本県 芦北町立湯浦中	矢鉾　潤一郎	藤井　瑞希	福岡県 北九州市立 飛鳥中	岩嶋　幸人	椿野　恵	岐阜県 池田町立池田中	奥　幸那
								広島県 広島市立観音町中	前田　岡美
	複	石川県 小松市立御幸中	山本　真理子	水口　さゆり 南出　なつき	宮城県 聖ウルスラ学院中	常田　貴裕	伊藤　小菜美 村山　絵理花	埼玉県 越谷市立栄進中	菅原　母子 兎沢永　翔子
								福岡県 岡垣町立岡垣中	下鴫口　彩美 谷　智

第３３回　旭川市（2003）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘 大屋貴司	佐々木啓 田児賢一 丸松拓一 本田勇太 上海松小村	広島県 広島市立亀崎中	高木義仁 北島賢	大田本川本高野一 坂北若宮	茨城県 阿見町立阿見中	
								福井県 勝山市立勝山中部中	
	単	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	佐々木啓	福井県 勝山市立勝山北部中	木戸口元	松川直弘	東京都 昭島市立瑞泉中	甲野拓弥
								埼玉県 埼玉栄中	上田拓馬
	複	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	田児賢一 松丸一輝	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	海野祐樹 山崎裕太	大阪府 四条畷学園中	髙谷翔 髙谷太志
								埼玉県 埼玉栄中	小村勇太 松本岳
女子	団体	宮城県 聖ウルスラ学院中	常田貴裕 田所光男	伊藤小菜美 村山絵理花	徳島県 徳島市徳島中	大阪真智子 西野昌明	大阪あや 西井美咲	埼玉県 埼玉栄中	
								東京都 淑徳巣鴨中	
	単	徳島県 徳島市徳島中	大阪真智子	大阪あや	熊本県 芦北町立湯浦中	矢鋪清一郎	藤井瑞希	香川県 香川町立香川第一中	藤澤香織
								岐阜県 池田町立池田中	奥幸那
	複	宮城県 聖ウルスラ学院中	常田貴裕	伊藤小菜美 村山絵理花	大阪府 柏原東中	木村寛	竹内由佳利 深尾友里	熊本県 田浦町立田浦中	田嶋亜由美 山口美優
								北海道 旭川市立東明中	上田彩子 市宮ゆり恵

第３４回　土浦市（2004）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘 大屋貴司	一臣太 丸児本村 松田松小山 和裕	茨城県 阿見町立阿見中	川中俊治 田村	島口岡瀬勝 高野裕克 広邦祐	香川県 高松市立玉藻中	
								広島県 広島市立亀崎中	
	単	香川県 香川町立 香川第一中	中井敬博	三好耕二	熊本県 八代市立第三中	日野本充	園田啓悟	佐賀県 佐賀市立成章中	武下利一
								埼玉県 埼玉栄中	山崎裕太
	複	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	田児賢一 松丸一輝	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	小村勇太 松本岳	佐賀県 唐津市立第一中	扇村城寺 開間大
								茨城県 阿見町立阿見中	高野口勝 城利
女子	団体	滋賀県 大津市立日吉中	今壮茂 久世友紀	川津 三須宮井 児上本田 芝阪上 清 舎隅田 洋恵	埼玉県 越谷市立富士中	菊地覚	木森原田 佑未衣 麻 間木佑 里 希 子 子 子

第３６回　徳島市（2006）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名・選手名	
男子	団体	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘 山田 秀樹	塚本 好喜 小林 晃 真栄城生大久太 多賀谷治茂 内田部 大城和渡	広島県 広島市立亀崎中	高木 義仁 佐々木 豪史	一太太介志悠己 祐樹基宗康浩雅 村井野山藤本中 中田城井佐川弘	北海道 滝川市立明苑中 香川県 綾川町立綾南中	
男子	単	富山県 上市町立上市中	広明 保	星野 翔平	岡山県 倉敷市立連島中	池添 麻衣子	逢澤 良亮	北海道 苫小牧市立緑陵中 宮崎県 西都市立妻中	尾野 拓郎 渡邊 達哉
男子	複	広島県 広島市立亀崎中	高木 義仁	中井 翔太 城野 雄太	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘	塚本 好喜 小林 晃	北海道 滝川市立明苑中 宮崎県 宮崎市立宮崎西中	中木 広太 島谷 航平 定田中 宗隆一郎 光
女子	団体	徳島県 徳島市徳島中	大阪 真智子 西野 昌明	松神水藤山藤岡 友原口本本安 佐藤藤吉西岡涼 美 紀	宮城県 聖ウルスラ学院英智中	常田 貴裕 田所 光男	田藤鈴松野島 鳥橋伊今末脇和 史美ゆ美利恵	富山県 富山市立和合中 大阪府 柳蔭東中	楓風妙み脇奈愛
女子	単	徳島県 徳島市徳島中	大阪 真智子	松友 美佐紀	大阪府 柳蔭東中	木村 寛	福万 尚子	埼玉県 埼玉栄中 埼玉県 埼玉栄中	中村 梨沙 瀬川 桜子
女子	複	千葉県 松戸市立第六中	石橋 功	木村 園 青木 優子	広島県 広島市立亀崎中	高木 義仁	山田 真央 神中 成緒	北海道 岩見沢市立緑中 愛知県 刈谷市立刈谷東中	銀松尾 沙姫乃 與倉 くるみ 歩美

第３７回　須賀川市（2007）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名・選手名	
男子	団体	愛知県 大府市立大府南中	鈴木 宏一 浅井 真司	人気太一 茂原 本口井水崎谷谷 山山浅浦宮石田 大	大阪府 大阪市立瓜破西中	河野 博一 佐々木 忠弘	平 康 名佐河佐金 田々木 合木 々田 京 大	福井県 勝山市立勝山北部中 埼玉県 埼玉栄中	
男子	単	大阪府 八尾市立大正中	久和田 正義	竹内 宏気	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘	和田 治久	香川県 高松市立協和中 富山県 富山市立和合中	木村健太朗 山口 容正
男子	複	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘	渡部 茂太 竹内 義憲	石川県 白山市立松任中	石田 浩幸	吉森 司 星 大智	香川県 高松市立木太中 愛知県 大府市立大府南中	富 銀田 銀 山本 山口 茂人 勇気
女子	団体	宮城県 聖ウルスラ学院英智中	常田 貴裕 深瀬 潤二	奈 利 野 伊 あゆ 彩 乃	滋賀県 大津市立日吉中	今荘 茂 福井 普行	未 谷 浦 夏 沙 彩 都子加	埼玉県 埼玉栄中 福島県 富岡町立富岡第一中	
女子	単	富山県 富山市立和合中	林 敬志	高橋 沙也加	大阪府 柳蔭東中	木村 寛	阪口 智郁	滋賀県 大津市立日吉中 宮城県 聖ウルスラ学院英智中	浦谷 夏未 末松 美聡
女子	複	宮城県 聖ウルスラ学院英智中	常田 貴裕	脇野 利奈 今野 あゆみ	茨城県 石岡市立城南中	川井 均	高栖 菜摘 七谷 真穂	富山県 富山市立山室中 熊本県 八代市立鏡中	中谷 容子 中野 華梨 永田 奈加 深川 智暗

第３８回　福井市（2008）

種目		優勝 都道府県・学校名	優勝 監督名	優勝 選手名	準優勝 都道府県・学校名	準優勝 監督名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名・選手名	
男子	団体	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘 堂下 智寛	馬地 森 大豊吉千小井金 悠 常也 樹 俊代祐	福井県 勝山市立 勝山北部中	前田 宏治 伊藤 弘之	平 周 中勝田栖石城勝 村兒中井井兒 橋 帝	広島県 広島市立亀崎中 大阪府 大阪市立瓜破西中	
男子	単	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘	豊島 大地	福島県 富岡町立 富岡第一中	扇藤 亘	桃田 賢斗	北海道 旭川市立嵐山中 愛知県 東浦町立東浦中	渡部 大 林 昂宏
男子	複	埼玉県 埼玉栄中	名倉 康弘	古賀 輝 井上 拓斗	大阪府 大阪市立 瓜破西中	山本 雄大	河合 勇飛 佐々木 健斗	福島県 富岡町立 富岡第一中 埼玉県 埼玉栄中	扇佐藤 太一 俊介 千 翼 金子 祐樹
女子	団体	富山県 富山市立和合中	谷口 久代 松田 高幸	美花 麻百 奈 里 ヨ 貝 遥佐金小山吉松 野山 兒口 原田	熊本県 八代市立鏡中	松原 美枝 平田 昇	麗 星 沙 川上井浦原田田 美 音 朱 深井長白伊岡永	千葉県 西武台中 広島県 広島市立亀崎中	
女子	単	埼玉県 越谷市立富士中	村松 和雄	三木 江里子	福島県 富岡町立 富岡第一中	扇藤 亘	木村 百花	愛知県 大府市立大府北中 富山県 富山市立和合中	係谷 菜留 小兒山 彩
女子	複	福島県 富岡町立 富岡第一中	扇藤 亘	原田 なつみ 早川 紗保里	大阪府 柳蔭東中	木村 寛	樋口 帆渚実 宮原 唯	熊本県 八代市立鏡中 千葉県 西武台中	深川 里沙 井上 亜美 高野 彩 佐良 沙

第３９回　長崎市（2009）

種目		優勝			準優勝			三位	
		都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県 選手・学校名	
男子	団体	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘 大屋貴司	樹生部愛離早 拓也太朗悠修 金井宮澤丸中大 子上岡井山里関	岡山県 倉敷市立福田中	炬健二 田島拳	昭誠拓悟倍時 田井内本島宅 視武方岡大田三 佑希一侑晃	福島県 富岡町立富岡第一中	
								福井県 福井市光陽中	
	単	福島県 富岡町立富岡第一中	齋藤亘	桃田賢斗	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	井上拓斗	三重県 伊勢市立小俣中	西本季太
								埼玉県 鴻生市立川内中	髙田晃
	複	滋賀県 大津市立日吉中	渡邉雄介	三津川剛史 河崎駿輔	埼玉県 埼玉栄中	名倉康弘	中里裕貴 宮嶋航太郎	北海道 豊浦町立豊浦中	駒井紗朋 関澤勝太
								福島県 富岡町立富岡第一中	藤野琢人 原木朗
女子	団体	福島県 富岡町立富岡第一中	齋藤亘 イマムトハリ	原田なつみ 田川優来希智子 早芝大塩草由芹 澤保なゆ未妙子 妃那	宮城県 聖ウルスラ学院英智中	常田貴裕 深瀬亮二	鳥居彩乃 居志井田鳥山 小我足井田島山 紀菜萌優依佳 少瑛日智	富山県 富山市立和合中	
								福岡県 九州国際大学付属中	
	単	宮城県 聖ウルスラ学院英智中	常田貴裕	鳥居彩乃	北海道 芽室町立芽室中	渡田初地	島田きらら	福島県 富岡町立富岡第一中	里千智
								埼玉県 春日部市立武里中	渡邉あかね
	複	福島県 富岡町立富岡第一中	齋藤亘	原田なつみ 早川紗保里	宮城県 聖ウルスラ学院英智中	常田貴裕	我妻美沙紀 小池紗菜	茨城県 石岡市立城南中	山本萌李 岡田紗
								北海道 芽室町立芽室中	鎌田鳴子 大塚葵

全国大会出場校一覧

学校対抗となった第 10 回大会（昭和 55 年）より
男女団体個人を含む

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	計
北海道	本室蘭中									●	●																							2
	旭川光陽中										●																							1
	札幌西陵中									●	●	●				●																		4
	桔梗中										●	●																						2
	東川中											●											●											2
	篠路西中												●			●																		2
	永山中												●	●																				2
	豊里中												●			●	●	●		●	●													6
	忠和中												●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●						14
	日高中													●				●			●	●	●											5
	壮瞥中																					●		●	●									3
	帯広七中														●	●																		2
	新琴似中														●																			1
	旭川東陽中														●											●			●	●	●	●		6
	大麻東中														●																			1
	苫小牧啓明中														●					●		●												3
	厚岸太田中															●																		1
	苫小牧光洋中															●	●		●	●														4
	苫小牧緑陵中																												●					1
	釧路緑陵中															●	●	●																3
	苫小牧啓北中															●																		1
	富村牛中															●	●	●	●															4
	旭川東明中																●		●	●	●					●	●		●	●	●	●		10
	旭川明星中																●									●								2
	帯広一中																●			●														2
	釧路東中																●																	1
	滝川江陵中		●	●	●	●	●	●	●	●		●		●				●																11
	上砂川中			●	●	●			●	●																								5
	旭川嵐山中					●	●																			●		●			●			5
	室蘭東明中						●	●				●	●					●																5
	真駒内曙中						●																											1
	陸別中						●	●																										2
	札幌札苗中	●																																1
	幌別中							●						●	●																			3
	登別緑陽中							●																		●								2
	札幌北陽中								●																									1
	旭川広陵中								●		●	●	●		●	●	●	●	●	●		●	●			●				●				14
	砂川中								●	●				●											●									4
	芦別啓成中								●																									1
	神居古潭中									●	●	●	●	●	●					●			●											8
	札幌東栄中																	●																1
	釧路共栄中																	●																1
	札幌北都中			●																														1
	旭川中												●																					1
	西神楽中				●																													1
	札幌琴似中				●														●															2
	札幌宮の丘中																		●															1
	栗山中																		●					●										2
	苫小牧明倫中																		●	●														2
	上磯中																		●	●				●	●									4
	銭函中																		●						●	●								3
	登別札内中							●					●																					2
	札幌厚別中																			●														1
	札幌手稲中																				●			●	●		●	●		●				5
	札幌屯田中央中																				●		●											2
	蝦眉野中																				●													1
	札幌厚別北中																				●				●	●								3
	東鷹栖中																				●													1
	花川北中																				●													1
	旭川緑が丘中																				●													1
	砂原中																				●			●	●		●	●		●				6
	旭川春光台中																					●				●								2
	札幌札苗北中																					●												1
	豊浦中																					●										●		2
	森中																					●										●		2
	札幌明園中																					●	●	●										3
	札幌石山中																						●	●										2
	岩見沢東光中																									●								1
	芽室中																									●	●		●	●	●	●		6
	帯広第四中																									●	●	●						3
	釧路弥生中																									●								1
	池田中																						●											1
	島牧中																						●	●	●									3
	札幌東月寒中																						●											1
	千歳富丘中																						●											1
	朝里中																						●											1
	旭川北門中																							●		●		●			●			4
	下音更中																							●				●						2
	札幌真栄中																								●				●					2
	札幌平岡中																								●	●								2
	北広島西の里中																															●		1
	ニセコ中																															●		1
	札幌手稲東中																								●			●						2
	札幌稲積中																								●									1

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
北海道	岩見沢緑中																										●	●	●	●	●	●		6
	豊浦大岸中																										●	●						2
	札幌山鼻中																										●							1
	白井川中																										●							1
	函館大川中																										●							1
	札幌新琴似北中																										●		●					2
	豊頃中																											●						1
	小樽菁園中																											●						1
	美唄東中																										●							1
	滝川明苑中																												●					1
	札幌北白石中																												●					1
	共和中																												●					1
	小樽長橋中																												●					1
	鷹栖中																												●					1
	岩見沢光陵中																												●			●	●	3
	旭川愛宕中																													●				1
	茶路中																													●				1
	十勝清水中																													●				1
	岩見沢清園中																															●		1
	千歳北斗中																															●		1
山形	日新中		●	●	●	●	●																											5
	鶴岡一中					●		●		●	●								●					●		●									7
	鶴岡三中		●		●		●											●										●	●					6
	鶴岡四中																										●					●		2
	新庄中				●													●																2
	明倫中									●		●																						2
	大山中					●	●																											2
	米沢二中								●									●							●									3
	山形一中								●													●			●									3
	山形三中																										●	●		●		●		4
	山形四中	●																																1
	山形五中																		●		●													2
	沼台中												●																					1
	天童二中											●										●	●	●	●					●	●	●		8
	米沢三中												●							●	●													3
	酒田三中																			●														1
	西部中																						●											1
	長井南中																									●	●							2
	舟形中																							●										1
青森	弘前一中				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●		●	●		●							●			17
	弘前東中														●	●	●	●	●															5
	狼岡中				●	●																												2
	天鰐中					●																												1
	碇ケ関中				●			●																										2
	津軽中											●	●	●	●	●	●	●	●				●												9
	西目屋中																		●									●		●				3
	弘前二中																				●													1
	明徳中																						●				●			●		●		4
	青森山田中																									●	●	●	●	●				5
	南中																						●											1
秋田	五城目一中																									●								1
	城東中																									●								1
	八郎潟中																											●						1
	西仙北東中																										●							1
岩手	雫石中			●	●		●	●	●	●	●		●																					8
	外山中										●																								1
	湯口中						●	●	●	●	●																								5
	城西中																		●										●					2
	矢巾中																			●		●		●	●	●								5
	矢沢中																				●								●					2
	下小路中																				●	●												2
	黒石野中																					●												1
	小山中																						●											1
	飯岡中																							●	●									2
	土淵中																							●										1
	前沢中																								●									1
	水沢南中																													●				1
宮城	聖ウルスラ学院英智中		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		29
	袋原中							●	●			●		●	●	●	●	●			●													9
	多賀城二中										●	●	●		●	●	●		●															7
	五橋中													●									●	●										3
	東北学院中												●																●					2
	七郷中										●			●	●						●													4
	大沢中																●	●	●	●														4
	花山中																●	●			●													3
	東華中																	●																1
	塩竈二中																	●	●	●														3
	中田中																		●		●													2
	塩竈一中																		●	●	●	●	●											5
	東和中																	●	●	●	●	●		●										6
	松陵中																			●		●												2
	高砂中																			●			●											2
	玉川中																			●	●			●										3
	郡山中																					●												1
	蒲町中																						●	●										2
	西山中																									●								1
	三条中																									●								1
	沖野中																								●									1
	南中山中																										●							1
	南小泉中																											●						1
	仙台第一中																										●							1
	仙台第二中																										●	●						2
	多賀城中																												●					1
福島	裏磐梯中														●		●	●																3
	若松五中										●	●	●		●	●	●	●																7

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
福島	白河中央中																		●		●			●	●					●				5
	立子山中																			●														1
	川俣中																				●	●												2
	若松二中																					●												1
	郡山四中																						●											1
	東和中																		●				●		●	●	●		●	●	●			8
	岩江中																						●											1
	富岡第一中																												●	●	●	●		4
	郡山第五中																													●				1
栃木	今市中		●	●	●	●																												4
	真岡中		●						●																									2
	小山二中		●	●		●	●																											4
	真岡東中			●			●	●																										3
	上三川中							●	●		●		●					●																5
	鬼怒中							●	●	●	●	●	●	●					●		●		●	●						●				12
	旭中								●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●									14
	一条中								●																									1
	桑中									●				●																				2
	落合中									●			●																					2
	小山城南中													●																				1
	陽北中													●	●																			2
	泉が丘中																●																	1
	清原中																●																	1
	南河内中																					●	●											2
	上河内中																							●								●		2
	雀宮中																							●	●									2
	星が丘中																								●	●	●	●	●	●				6
	七井中																								●									1
	河内中																								●									1
	益子中																												●					1
	横川中																													●		●		2
山梨	甲府北東中								●		●																							2
	勝沼中			●			●																									●		3
埼玉	栄進中		●	●	●	●	●	●		●	●											●		●	●									11
	八幡木中		●																															1
	川口芝中		●																															1
	里中			●			●		●					●						●	●	●	●	●										9
	戸田中				●	●	●																											3
	川口北中											●	●																					2
	川島中											●	●	●	●																			4
	松伏中												●	●		●		●																4
	越谷中央中						●																											1
	東浦和中							●						●																				2
	戸田東中										●												●	●										3
	岸中														●																			1
	北陽中														●																			1
	蓮田南中														●			●	●	●	●	●								●		●		8
	川島西中															●	●	●	●	●	●	●	●	●										9
	北本東中													●			●																	2
	狭山中央中																		●															1
	武里中																			●				●				●		●	●	●		6
	在家中																				●	●												2
	喜沢中																				●													1
	久喜中																						●	●	●									3
	幸手中																						●											1
	鴻巣南中																									●								1
	富士中																									●	●	●		●	●	●		6
	埼玉栄中																							●	●	●	●	●	●	●	●	●		9
	鴻宮東中																										●							1
	久喜東中																												●					1
	伊奈学園中																												●	●				2
神奈川	今井中		●																															1
	秋葉台中		●			●																		●										3
	戸塚中			●	●																													2
	大道中					●		●																				●						3
	金沢中								●	●		●																						3
	東高津中									●																								1
	平楽中											●																						1
	大綱中													●																				1
	善行中															●	●	●	●		●													5
	つきみ野中																	●																1
	旭陵中																	●	●															2
	野川中																	●																1
	南生田中																	●																1
	南加瀬中																	●																1
	御幸中																	●																1
	串川中																		●	●		●	●	●	●			●			●			8
	末吉中																			●					●									2
	矢向中																				●													1
	大清水中																					●					●							2
	希望が丘中																										●							1
	柿生中																										●			●				2
	大庭中																														●			1
茨城	明野中		●	●	●	●	●	●	●																									7
	石岡中		●	●	●	●	●		●									●	●												●	●		10
	阿見中		●			●	●	●	●		●		●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		23
	朝日中		●												●	●	●																	4
	府中中					●																												1
	三和東中									●		●																						2
	伊奈東中										●	●																						2
	茗渓学園中										●			●													●	●						4
	藤代中										●																							1
	石下中											●	●	●	●	●	●																	6
	国府中													●	●	●	●	●		●	●	●	●				●							10
	八千代東中																									●								1
	城南中																	●	●	●						●	●	●	●	●	●	●		10
	土浦四中																										●							1
	土浦六中																										●							1

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
東京	立川八中				●	●	●		●	●	●	●	●	●			●																	10
	武蔵野四中		●						●						●																			3
	中野七中		●	●			●																											3
	日本橋女学館中														●	●	●	●	●				●		●	●			●	●				10
	大宮中								●			●																						2
	田無一中									●	●																							2
	東大和四中									●						●				●	●	●	●											6
	小平四中											●				●																		2
	立川四中														●	●																		2
	国分寺四中															●	●				●		●											4
	調布四中		●																															1
	神谷中			●																														1
	大泉西中			●																														1
	東大和一中				●																													1
	八王子二中					●																												1
	国立一中							●																										1
	御徒町中							●																										1
	本町田中							●																										1
	真光寺中								●																									1
	天沼中								●																									1
	田無二中										●																							1
	開進三中										●																							1
	聖学院中												●																					1
	文林中													●				●	●															3
	調布六中																●																	1
	昭和中																	●																1
	深川第三中																	●			●						●	●	●					5
	関中																	●																1
	小平上水中																	●	●	●	●													4
	府中八中																●																	1
	稲城第二中																		●															1
	国分寺二中																		●															1
	成瀬台中																		●															1
	打越中																				●													1
	小平三中																					●												1
	三沢中																					●	●											2
	淑徳巣鴨中																						●		●	●	●		●		●			6
	国分寺第一中																						●	●	●	●		●						5
	青梅第一中																							●										1
	青梅第三中																							●										1
	清泉中																							●		●	●							3
	小平二中																													●	●	●		3
群馬	箱田中						●																											1
	相生中								●							●				●		●			●		●	●							7
	第三中									●		●																						2
	木崎中										●																							1
	北中												●	●																				2
	大類中												●																					1
	第一中													●	●																			2
	菱中																	●						●										2
	佐野中																											●	●					2
	昭和中																					●	●											2
	強戸中																												●	●				2
	川内中																														●	●		2
千葉	六実中							●			●		●		●		●	●																6
	市川六中													●																				1
	習志野三中											●		●																				2
	四街道北中															●																		1
	山王中										●	●																						2
	松戸三中										●																							1
	松戸六中																											●	●					2
	昭栄中				●	●	●	●																										4
	市川五中					●																												1
	常磐平中			●																								●	●	●				4
	佐倉東中																●																	1
	西武台中																	●		●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●		12
	高州第一中																	●																1
	さつきが丘中																		●															1
	佐貫中																		●	●														2
	八幡中																		●															1
	聖徳大学付属中																					●												1
	柿崎東中																						●											1
	柏南部中																							●	●		●		●					4
	鎌ヶ谷五中																										●							1
	双葉中																												●					1
	薮我中																													●		●		2
新潟	関屋中		●		●																									●				3
	蒲中					●																												1
	吉田中		●																															1
	真野中			●																														1
	宮浦中							●																										1
	新津二中																			●	●			●										3
	山の下中																							●										1
	笹神中																										●			●				2
	越路中																														●			1
	小須戸中																												●		●			2

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
富山	上市中					●	●	●	●	●				●	●	●											●	●	●		●			12
	芝園中										●				●																			2
	新庄中														●																			1
	岩瀬中														●												●							2
	山室中									●			●									●				●	●		●	●		●		8
	奥田中									●			●	●	●																			4
	呉羽中																●																	1
	水橋中										●																				●	●		3
	速星中															●			●			●												3
	志貴野中														●	●																		2
	伏木中													●	●																			2
	庄西中															●																		1
	堀川中																●	●	●										●					4
	南星中																		●	●	●	●			●									5
	福野中																			●														1
	和合中																						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		10
福井	成和中	●	●				●															●												4
	光陽中		●	●	●					●																						●		5
	進明中							●										●		●														3
	勝山南部中									●	●																●	●			●	●		6
	明道中												●		●																			2
	陽明中							●																							●			2
	勝山中部中																		●		●	●			●	●								5
	明倫中																				●	●	●	●	●									5
	武生第一中																					●					●	●			●			4
	至民中																					●		●					●		●			4
	勝山北部中																					●	●		●	●		●		●	●			7
	大安寺中																					●												1
	丸岡中																													●	●			2
石川	高松中	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●	●	●															13
	宇ノ気中			●	●	●	●	●	●	●						●															●			9
	御祓中			●																														1
	医王山中				●																													1
	河北台中						●						●		●						●													4
	泉中										●																							1
	野田中										●	●																						2
	美川中										●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●					17
	金大付属中										●																							1
	港中										●																							1
	高岡中												●		●		●				●											●		5
	津幡中													●																				1
	緑中														●																			1
	浅野川中														●																			1
	鵐和中														●																			1
	犀生中															●	●	●				●	●								●	●		7
	西南部中															●	●																	2
	北鳴中																●	●																2
	鹿島中																●			●														2
	田鶴浜中																	●	●	●	●	●	●											6
	城南中																					●		●		●				●				4
	板津中																					●												1
	布水中																					●	●											2
	金石中																						●			●		●						3
	森本中																						●	●										2
	御幸中																							●	●	●								3
	大徳中																							●	●									2
	小松南部中																										●							1
	鳴和中																										●							1
	松任中																													●				1
	額中																															●		1
	内灘中																														●			1
長野	赤穂中																						●	●										2
	南木曽中																												●		●			2
	仁科台中																												●		●	●		3
愛知	大府西中					●	●	●	●	●	●	●		●	●							●	●	●										12
	愛知淑徳中			●		●	●	●		●	●	●																						6
	西部中									●	●	●																						3
	甚目寺中							●																										1
	半田中										●				●																			2
	松原中											●	●																					2
	武豊中												●																					1
	当知中											●																						1
	阿久比中										●					●																		2
	守山北中												●																					1
	大府中													●			●			●						●	●	●	●		●			8
	藤山台中														●																			1
	大府北中														●			●	●	●										●	●			6
	石尾台中																	●	●															2
	中部中															●	●																	2
	大府南中																				●		●	●	●	●	●		●	●				8
	津賀田中																					●												1
	岩成台中																							●								●		2
	久方中																								●									1
	市邨中																									●								1
	城北中																								●	●		●						3
	刈谷朝日中																										●		●					2
	依佐美中																											●	●					2
	熊野中																															●		1
	名古屋経大市邨中																										●	●	●	●	●			5

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
愛知	刈谷東中																												●	●		●		3
	乙川中																												●		●			2
	朝日中																													●				1
	東浦中																													●	●			2
	笠瀬中																													●	●			2
	若園中																														●	●		2
	栄中																														●			1
三重	小俣中		●	●	●				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●		24
	南郊中																●	●	●	●	●														5
	鳥羽東中							●		●																								2
	五十鈴中									●																								1
	橋南中					●																												1
	二見中													●																				1
	一志中															●																		1
	西笹川中																●																	1
	川越中																	●	●	●	●	●	●				●							1
	南が丘中																		●			●												7
	北浜中																							●	●			●						3
	倉田山中																									●		●						2
	久居中																									●		●		●				3
岐阜	笠松中			●					●	●	●	●	●	●		●	●	●	●						●	●	●	●						2
	大垣東中												●										●		●			●						14
	南ヶ岡中														●													●						4
	鶯沼中			●																														1
	那加中																																	1
	大垣西部中															●												●						1
	星和中															●																		1
	川島中																	●			●	●	●											1
	高富中								●																				●					5
	岐北中																																	1
	岐南中																		●	●	●	●		●				●						1
	大垣南中																		●	●				●	●				●			●		7
	大垣北中																																	4
	笠原中																															●		1
	池田中																															●		1
静岡	伊東南中		●	●	●	●	●	●	●	●		●			●					●			●	●	●	●	●			●	●		7
	伊東北中								●																		●							12
	安部川中									●																								1
	富士宮二中																		●															1
	富士根南中																			●	●	●												1
	富士根北中																					●	●		●	●								5
	門野中																						●	●										2
	富士宮一中																						●		●			●						3
	大井川中																																	2
	富士宮四中																														●			1
京都	ウィアトール洛西中		●	●	●				●		●	●																			●			1
	梅津中		●	●							●		●																					6
	西陵中											●																						2
	蜂ヶ岡中																●																	2
	長岡二中																●	●			●													2
	長岡三中																		●	●						●								7
	西城陽中																												●		●	●	●	3
	勝山中																																	1
兵庫	園田学園中		●		●				●										●						●							●		1
	住吉中			●																			●	●										1
	塚口中			●																										●		●		8
	啓明中			●	●			●		●																								1
	加古川中部中					●	●	●	●																									1
	宝殿中					●					●																							4
	広陵中						●												●				●			●	●	●	●	●				4
	平岡中							●																										10
	山手中												●				●		●															1
	陵南中											●																●						4
	平岡南中																			●												●		3
	中谷中																																	1
	松崎中																				●													1
	礒谷中																														●			2
	日新中																								●			●						1
	安室中																											●						1
	兵庫中																										●				●			2
	南中																																	1
	富士中																															●		1
大阪	四條畷学園中		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●				1
	鶴橋中				●																										●			1
	旭陽中				●	●																												23
	守口四中					●																												1
	豊津西中					●																												2
	豊中十五中					●																												1
	吹田二中					●																												1
	堅下北中						●		●	●																								1
	摂津一中							●						●																				3
	船場中								●																									2
	瓜破西中									●	●	●	●	●																				1
	国分寺中															●	●	●	●	●	●			●	●			●	●	●	●			17
	交野四中												●																					1
	高野台中											●																						1
	樟蔭東中																						●											1
	菜津中																						●		●	●	●	●	●	●	●			9
	西陵中																							●										1
	三稜中																									●	●							2
	美加の台中																									●	●							2
	谷川中																									●								1
	亀井中																											●						1
	交野三中																								●	●						●		2
	志紀中																															●		1
	緑中																															●		1
	大正中																												●	●				2

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	計
滋賀	皇子山中		●			●	●	●																●										6
	粟津中		●			●	●																	●										4
	瀬田中				●																													1
	草津中				●	●		●	●	●																						●		6
	堅田中		●						●	●						●			●															5
	高穂中						●																											1
	唐崎中							●																			●	●						3
	日吉中							●		●			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		21
	真野中												●			●	●	●						●					●					6
	田上中														●	●	●									●	●	●						6
	北大路中													●																				1
	彦根西中													●		●	●	●																4
	彦根東中																	●			●				●	●			●		●			6
	彦根南中																										●							1
	守山北中																				●	●			●									3
	彦根中央中																					●										●		2
	瀬田北中																								●	●	●							3
	中主中																								●									1
	志賀中																								●									1
	葛川中																												●	●				2
	彦根中																													●	●			2
奈良	春日中		●	●							●	●				●					●		●	●										8
	三笠中			●																														1
	郡山中			●															●										●					3
	京西中			●																														1
	高田中					●		●																										2
	正強中					●	●							●																				3
	郡山西中					●				●																								2
	二名中						●	●	●	●	●									●														6
	宮雄南中								●		●																							2
	若草中									●	●	●			●	●			●	●							●	●						9
	高田西中										●		●	●	●	●							●	●										7
	登美ヶ岡中																●																	1
	登美ヶ岡北中										●						●																	2
	平城東中											●			●																			2
	天理中												●																					1
	大三輪中																			●	●	●									●			4
	橿原中																			●	●	●			●			●		●				6
	片塩中																				●		●	●										3
	桜井東中																					●												1
	平城中																					●												1
	郡山南中																							●	●									2
	白橿中																								●		●	●						3
	大成中																														●			1
和歌山	緑丘中																		●	●					●									3
	高雄中																															●		1
	紀見東中																									●	●							2
山口	須々万中		●		●	●				●	●	●																						6
	彦島中								●																									1
	浅江中									●																								1
	鴻南中											●			●			●	●															4
	串中											●																						1
	大殿中											●	●	●					●															4
	堀中											●																						1
	垢田中												●	●																				2
	潟上中												●																					1
	末武中													●	●	●												●	●		●			6
	下松中															●																		1
	川中中						●																											1
	久保中																				●													1
	二島中																						●											1
岡山	倉敷西中		●								●		●																					3
	白石中		●	●	●	●	●	●		●																								7
	倉敷福田中			●			●										●	●	●	●									●		●	●		9
	西大寺中			●									●			●	●	●									●							6
	上南中			●								●	●																					3
	瀬戸中				●																													1
	備前中					●	●	●																								●		4
	総社西中						●												●		●													3
	芳泉中								●																									1
	岡北中								●	●	●	●	●	●	●	●	●																	9
	山陽女子中								●										●		●													3
	倉敷東中										●																							1
	倉敷第一中													●	●			●	●															4
	山南中														●		●	●	●															4
	児島中															●			●															2
	倉敷北中															●	●																	2
	上道中															●																		1
	旭東中																●																	1
	多津美中																●																	1
	岡山福田中																													●				1
	連島中																			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					10
	玉島東中																			●														1
	総社東中																			●														1
	倉敷南中																					●												1
	芳田中																								●									1
	井原中																								●	●	●							3
	金光中																													●				1
	桜が丘中																															●		1
	藤田中																													●				1
広島	瀬野川中							●	●	●		●																						4
	城南中									●																								1

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
広島	城山北中											●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●									12
	瀬野川東中															●								●									2
	戸坂中																●																1
	亀崎中																	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		14
	江波中																					●												1
	大野中																					●												1
	翠町中																						●	●	●	●	●	●	●					7
	祇園中																						●	●	●									3
	三入中																						●											1
	井口中																						●	●										2
	鈴峯女子中																								●									1
	国泰寺中																										●							1
	和庄中																													●				1
鳥取	美保中				●		●	●	●		●	●		●	●		●	●	●															11
	大栄中									●																								1
	国府中													●																				1
	河北中																														●			1
島根	松江第一中																									●	●			●				3
	大東中																				●							●			●	●		4
	松徳学院中																												●	●	●	●		4
香川	香川第一中		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●						25
	一宮中		●		●	●	●	●	●	●	●																							8
	勝賀中		●	●		●					●		●																					5
	国分寺中									●																								1
	玉藻中												●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			19
	木太中												●	●									●	●	●	●	●	●	●	●				10
	丸亀東中												●		●																			2
	桜町中													●						●								●			●			4
	坂出中														●			●																2
	屋島中																		●	●		●												3
	山田中																		●															1
	太田中																			●	●	●		●	●									5
	香大付属高松中																					●												1
	普通寺東中																									●								1
	綾南中																									●			●		●			3
	宇多津中																											●	●					2
	光洋中																							●	●									2
	高瀬のぞみが丘中																										●							1
	香東中																												●			●		2
	協和中																												●	●		●		3
	龍雲中																												●					1
	白鳥中																															●		1
	牟礼中																														●			1
徳島	徳島中											●		●	●									●	●	●	●	●	●		●	●		11
	城東中									●																			●		●			3
	相生中																								●				●					2
	藍住東中																										●	●						2
	川内中																												●					1
高知	土佐女子中													●									●											2
	南海中																●																	1
	田野中																			●	●													2
	伊野南中																										●							1
	城西中																													●				1
	春野中																													●		●		2
愛媛	泉川中											●																						1
	川東中												●	●	●	●		●	●	●	●													8
	中萩中																●	●	●	●		●		●			●	●		●		●		10
	角野中																		●	●	●	●	●											5
	川内中																					●									●			2
	新居浜北中																											●			●			2
	大生院中																									●					●	●		3
	新居浜東中																								●	●								2
	船木中																													●				1
	西条北中																															●		1
	余土中																														●			1
熊本	八代第二中		●	●								●	●	●	●			●										●	●					9
	八代第八中		●	●			●				●										●													5
	玉陵中		●																															1
	愔愛女子中		●	●	●					●		●																						5
	菊池南中		●		●	●		●																										4
	菊池北中		●	●	●					●																								4
	桜山中		●	●	●	●		●	●	●																								7
	西山中			●	●	●	●	●	●	●				●			●																	9
	出水中			●		●														●														3
	荒尾第一中				●																●													2
	長洲中				●																													1
	玉名中				●														●				●							●		●		5
	京陵中					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																	12
	岱明中					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●		●	●	●	●				●	●			19
	帯山中					●																												1
	八代第一中														●						●													2
	楠中						●		●				●																					3
	西原中						●	●																										2
	東陽中									●							●																	2
	竜南中									●					●																			2
	大矢野中										●																							1
	東町中										●	●	●	●	●	●				●			●		●			●						10
	錦ヶ丘中										●																							1
	三和中										●										●		●											3
	湯浦中											●									●			●	●	●								5
	合志中													●	●				●								●							4
	日奈久中													●					●								●	●						4
	清水中													●					●	●		●												4
	鏡中													●	●						●	●	●			●	●		●	●	●	●		12
	八代第四中															●																		1
	八代第三中								●							●	●		●				●	●			●		●						8
	菊水中																●		●			●	●											4
	佐敷中																●																	1
	坂本中																	●	●											●	●			4

都道府県名	学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	合計
		年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
		開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	新居浜	仙台	福井	熊本	広島	大津	旭川	土浦	岐阜	徳島	須賀川	福井	長崎	倉敷	
熊本	玉陵中																	●																1
	武蔵中																		●															1
	北部中																			●		●	●	●	●			●				●		7
	泗水中																				●				●									2
	田浦中																					●	●			●						●		4
	球磨中																					●	●	●										3
	旭志中																						●											1
	武蔵ヶ丘																						●											1
	玉東中																						●			●								2
	九州学院中																						●											1
	龍田中																							●										1
	井芹中																											●						1
	二岡中																							●			●							2
福岡	岡垣中		●	●						●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●		●			●			19
	岡垣東中			●																●	●											●	●		5
	福岡城南中									●					●																			2
	小倉城南中															●	●																	2
	和白中												●																					1
	横手中												●		●																			2
	瀬高中											●																						1
	三宅中													●				●																2
	中間東中																	●				●												2
	中曽根中																	●	●															2
	千代中																		●															1
	遠賀中																		●															1
	中原中																			●														1
	苅田中																			●														1
	新津中																				●			●						●				3
	飛幡中																					●		●	●									3
	板櫃中																						●		●	●								3
	那珂川南中																							●										1
	椎田中																								●	●								2
	筑紫野中																								●									1
	中央中																									●	●							2
	高須中																									●		●	●					3
	筑紫野南中																									●				●				2
	豊津中																								●									1
	中間中																										●							1
	能古中																											●						1
	中間南中																													●	●			2
	本城中																														●	●		2
	香月中																														●			1
	九州国際大学附属																														●	●		2
	香椎二中																															●		1
	那珂川中																														●			1
長崎	長崎大学付属中			●																														1
	愛中				●																													1
	玖島中											●																						1
	東長崎中												●			●	●	●	●	●		●	●	●					●		●	●		12
	大浦中															●	●	●	●															4
	長崎中														●																			1
	緑が丘中																	●																1
	琴海中																			●	●													2
	長与中																					●			●							●		3
	大村中																										●							1
	喜々津中																											●						1
	高田中																										●							1
	時津中																															●		1
	光海中																															●		1
	西諫早中																													●		●		2
佐賀	肥前中						●																							●	●	●		4
	山内中							●	●			●	●		●	●	●	●																8
	大和中											●		●						●										●	●			5
	田代中													●					●															2
	七山中																●			●		●	●		●				●			●		7
	牛津中				●																													1
	鍋島中																									●								1
	成章中																									●	●							2
	有浦中																											●						1
	小城中																	●																1
	唐津一中																										●	●	●					3
	唐津五中																												●	●				2
宮崎	宮崎西中								●																				●					2
	住吉中												●																					1
	日向中															●																		1
	青島中																●			●														2
	宮崎中																				●							●						2
	妻中																											●	●					2
	財光寺中																						●											1
	高鍋東中																												●	●				2
大分	三隈中													●			●															●		3
	植田東中						●																											1
	明野中							●																										1
	鶴見台中																		●								●							2
	城西中																●																	1
	日田市東部中																										●	●						2
	上野ヶ丘中																										●							1
鹿児島	南中												●																					1
	緑丘中																	●																1
	国分中																						●											1
	城西中																									●								1
	吉野東中																													●				1
	桜丘中																															●		1
	星徳寺中																							●	●	●	●	●	●	●				7
沖縄	三和中								●													●												2
	首里中																											●	●					2
	桑江中																						●											1
	宮城中																												●					1

編集後記

平成22年度第40回全国中学校バドミントン大会（岡山県倉敷市）が2週間後にせまる中、本記念誌が発刊できたことは大変喜ばしいことです。新年早々に始まった編集作業は思いのほか、時間とそれ相応の労力を必要とする大仕事となりました。全国9ブロック、47都道府県のすべてのブロックと専門部、そして、全国大会や地区大会等にご貢献された方々からの原稿や貴重なるお写真を提供いただいたことに深く感謝致します。また、巻頭の全中大会の写真は「バドミントン・マガジン」編集に携わっております田辺さん、鈴木さんのご厚意によるもので、改めて御礼を申し上げます。

当初、「40周年記念誌」の発刊のみの記念事業でありましたが、本年の全中大会開催県であります岡山県実行委員会のお骨折りにより、歓迎レセプションの際に記念式典を挙行する予定となっています。元競技部長の加藤　勝氏、前競技部長の佐伯一之氏の両氏には特別功労賞を、長年にわたり大会へのご支援をいただきました協賛メーカー各社へは感謝状を贈呈します。

全国的な中体連バドミントン専門部としては、初めての記念誌の発刊となります。40年という膨大な時間の中で生まれた記録をすべて網羅できたとは到底思えません。また、寄稿していただくべき大勢の皆様方がいらっしゃったに違いありません。今後、節目の年に、今回のような記念誌を継続的に発刊できることを強く希望しています。

最後に本記念誌のプロデュースを手掛けられた株式会社サンワの岩立氏には、半年を超える長丁場に本当にお世話になりました。素晴らしい記念誌が出来上がったことに感動するとともに、深く感謝致します。

www.yonex.co.jp



衝撃のスマッシュ。

世界最速スマッシュ！初速421km/h※

近年、高速化が著しいバドミントンの世界において、最速スマッシュスピードの実現を目的に開発されたフラッグシップモデル。タン・ブンホン選手（マレーシア）によるテストでは、前人未到の421km/hの初速を叩き出した！シャフトをよりスリムに、フレーム面もギリギリまで絞った、いわば体脂肪ゼロのアスリートのようなラケット。プレイヤーのポテンシャルを限界まで引き出すアークセイバーZ（ジー）-スラッシュ。
この衝撃のスマッシュを体感して欲しい。

※（株）ナックイメージテクノロジー計測値

アークセイバーZ（ジー）-スラッシュ｜ARC-ZS
¥26,250（本体価格¥25,000）　日本製

NANOSCIENCE　CS CARBON NANOTUBE

ARCSABER Z-SLASH

YONEX

発行日　平成22年7月31日

編集
発行　日本中学校体育連盟バドミントン競技部
松戸市立和名ヶ谷中学校

〒270-2232　千葉県松戸市和名ヶ谷1338番地の1
TEL　047-391-1818
FAX　047-391-8708

印刷所　株式会社　サンワ

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋2-11-8
TEL　03-3265-1816
FAX　03-3265-1847